

# ビジネスデザイン特講 1 A

## Special Seminar on Business Design 1A

『プラクティカル・マネジメント(シリーズ1)』(実践の経営1)～トップ・マネジメントからの視座～

宮下 篤志 (MIYASHITA ATSUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG191
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	全回対面
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

本特講は、『プラクティカル・マネジメント(シリーズ1)』(実践の経営1)の分野を学習します。本研究科において学ぶ各マネジメント理論を現実の経営に活かそうとする、試行学習を志す方に叶うカリキュラム構成です。

実際の企業経営の現場では、従来の常識が通用しないほど競争環境は激しく変化しており、将来の予測は十分にできないほど複雑な状態であるといつてよいでしょう。市場のグローバル化、次々に起こる技術革新、さらには DX や AI といった日常のライフスタイルにまで影響を与える環境の変化の波が襲ってきています。こうした環境下の中でトップ・マネジメントとして企業経営を行うとしたら、皆さんは何を頼りに行動しますか？ もし、このとき小さなローソクとマッチをもっていたら、そのローソクに灯された炎が足下をほのかに照らし出し、まずは一步を踏み出せます。経営理論とは小さなローソクに例えられるようなものです。いま何をすべきか、どの方向に目をやるべきかということは、理論の中に枠組みがあるので、見当がつくようになるでしょう。経営現場において、理論を持たなければ暗闇で一人刀を振り回していることにもなります。しかし、経営理論を学習したからといって、ビジネスで勝てるわけではありません。なにごとにも理論どおりに

はいきませんし、理論が照らしだす範囲には限界があります。そこで、本講座は、実践の現場で理論を応用するための考え方や焦点について学びます。その視座を企業の舵取りをする経営者、および経営層の立場に置き、各回の授業を行います。本研究科の各授業において学んだことを活かそうとする、実践学習の構成です(学習初歩者でも理解できる内容にして参ります)。

In this special course, students will study the field of "Practical Management (Series 1)" (Practical Management 1). It is a curriculum structure suitable for those who want to apply the management theory learned in this graduate school to practical management.

In actual corporate management, the competitive environment is changing so drastically that conventional common sense is no longer valid, and it can be said that the situation is so complicated that it is difficult to predict the future. Market globalization, technological innovations that occur one after another, and even a wave of environmental changes that affect our daily lifestyles such as DX and AI are hitting us.

If you were to run a business in such an environment, what would you rely on to act? You can take the first step. Management theory is like a small candle. There is a framework in the theory about what to do now and which direction to look at, so you will be able to guess. In the management field, if you do not have a theory, you will be wielding a sword alone in the dark.

However, just because you have mastered management theory does not make it a formula for winning in business. Nothing goes according to theory, and there is a limit to what the theory can illuminate. Therefore, in this course, you will learn the ideas and focus for applying the theory in practice. Each class will be held from the standpoint of the manager who steers the company and the management layer. This is a practical learning structure in which students try to make use of what they have learned in each class of this graduate school (we will make the content understandable even for beginners).

### 授業の内容 / Course Contents

授業の内容は、経営の現場マネジメントに経営理論を応用していくポイントについてテーマごとに考察していきます。また、生きた人間が構成する組織を運営するという実践面にも着目しながら、競争優位性を確保するマネジメントについて深く考えるということに焦点をおきます。特に、受講院生同士、および教員との対話を重視しながら、研究科で学ぶ経営科目と実践との繋がりを深め、理論と実践を結びつける学びの重要性について再認識する場にします。

The contents of the class will consider points for applying management theory to the field management of management for each theme. In addition, while paying attention to the practical aspect of running an organization composed of living people, we will focus on thinking deeply about management that secures a competitive advantage. In particular, while emphasizing dialogue between graduate students and faculty members, we will deepen the connection between management subjects learned in the graduate school and practice, and make it a place to reaffirm the importance of learning that links theory and practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：トップ・マネジメントが深く関与すべき 10 の責任領域(1)

2 回：トップ・マネジメントが深く関与すべき 10 の責任領域(2)

3 回：マネジメントと思考方法は深い結節  
～『ビジョナリカンパニー③衰退の法則』から～

4 回：トップ・マネジメントはストーリーを語ることから始まる

- 5回：サステナビリティ戦略を成長のドライバーにする
- 6回：渋沢栄一翁『論語の読み方』から学ぶ「思想、技、所作」からのマネジメント
- 7回：企業家はどのように考えているのか (1) -ゲストスピーカーとの対話
- 8回：企業家はどのように考えているのか (2) -ゲストスピーカーとの対話-
- 9回：リスク、資本、収益の関係性マネジメント
- 10回：企業価値を向上させるとは
- 11回：現場を活性化させる人を中心とした経営とは(1)  
～「ごっこ」で仕事をしない圧倒的当事者意識～
- 12回：現場を活性化させる人を中心とした経営とは(2)  
～未来をつくる発想と行動へのマネジメント～
- 13回：敢えて問い、対話する(1)  
「日本企業は変わりつつあるのか？」
- 14回：敢えて問い、対話する(2)  
「リーダーとしての次世代に何を引き継ぐべきか？」

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

別途、授業で指示します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発言等:100%

#### テキスト / Textbooks

猪木武徳 経済社会の学び方 中公新書 2021 9784121026590 -

ジム・コリンズ著、山岡洋一訳 ビジヨナリーカンパニー③衰退の五段階 日経 BP 2010 9784822248178

#### 参考文献 / Readings

その他の参考文献は授業で、都度、示します。

#### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

マネジメントという境界がない課題を材料としています。受講院生の皆が初学であるとの立場で学びます。授業は対話など双方向で進めますので、聞いているだけの姿勢は排除してください。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ビジネスデザイン特講 1 B

## Special Seminar on Business Design 1B

「プラクティカル・マネジメント(シリーズ 2)」(実践の経営 2)～未来へのデザイン思考を巡らす～

宮下 篤志 (MIYASHITA ATSUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG192
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面(全回)
校地：	池袋
学期：	秋学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

本特講は、『プラクティカル・マネジメント(シリーズ 2)』（実践の経営 2）～未来へのデザイン思考を巡らす～と題して、ビジネスデザイン特講 1A の続編として位置づけます。

ビジネススクールにおいて様々な経営理論を学び、研究を深めることによって、自分自身の中に意思決定の判断基準を持つことが次第にできるようになります。

しかし、どれだけ理論を学んだとしても、未来への可能性、不確実性を前にすると正解にはなりません。ビジネスの一つの目的の一つには、未来への可能性を探る活動があり、それがチャレンジとなり、世の中の役に立ち、結実としてのリターンとなります。

本授業は、時間軸を未来に据えて、その世界を形成する考え方や理論に触れ、また院生同士での対話をすることで、未来デザイン思考を学びます。また、先人の理論にも触れながら、温故知新も試みます。これらの学びを通して受講院生における物事的时间軸と空間軸が広がり、視座が高まるでしょう。

本研究科の各授業において学んだことを活かすために、試行学習を志す方に叶うカリキュラム構成です(学習初歩者でも理解できる内容にして参ります)。

This special lecture is entitled ``Practical Management (Series 2)" (Practical Management 2) ~Design Thinking for the Future~ and is positioned as a sequel to Business Design Special Lecture 1A.

By learning various management theories at business school and deepening your research, you will gradually be able to develop your own decision-making criteria.

However, no matter how much theory you learn, it will never be the right answer when faced with future possibilities and uncertainties. One of the purposes of business is to explore possibilities for the future, which becomes a challenge, serves the world, and returns as fruit.

In this class, students will learn about future design thinking by focusing on the future, touching on the ideas and theories that form that world, and engaging in dialogue between graduate students. We will also try to learn from the past and make innovations by touching on the theories of our predecessors. Through these studies, graduate students will be able to expand their temporal and spatial axes and improve their perspective.

This curriculum structure is suitable for those who wish to take part in trial learning and make use of what they have learned in each class of this graduate school (we will make the content understandable even for beginners).

### 授業の内容 / Course Contents

授業の内容は、毎回、理論に触れ(テキスト文献は必ず講読。ざっと読むだけでも可)ながら院生同士で対話をしながら学びます。古典的な理論も含まれますが、古典から未来を探る学びをします。

詳細は授業計画を参照してください。

本授業によって、研究科で学ぶ経営科目と未来への実践との繋がりを深め、理論と実践を結びつける学びの重要性について再認識する場にします。

The content of each class is learned through dialogue between graduate students while touching on theories (you can just skim through the textbooks). Although classical theory is included, students will learn to explore the future from the classics.

Please refer to the lesson plan for details.

This class will deepen the connection between the business management subjects studied at the graduate school and future practice, and provide an opportunity to reaffirm the importance of learning that connects theory and practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：何のためにビジネスをするのか

～世代によってビジネス観が違うという現実、パーパスと利益の調和～

2回：ビジネスの原点を探る

～二宮尊徳「報徳の仕法」から学ぶ～

3回：見えない未来の考え方(1)

～『2050年の世界』からの対話～

4回：見えない未来の考え方(2)

～『2050年の世界』からの対話～

5回：再考!アニマルスピリッツを根底としたビジネス観(1)

～ロバート・シラー『アニマルスピリット』からの行動経済学～

6回：再考!アニマルスピリッツを根底としたビジネス観(2)

～強気の経営者とは～

- 7回：リスクとリターン、キャピタル・アロケーション  
～マネジメントの要諦～
- 8回：AI×データ時代における人材
- 9回：経済行動と道徳感情  
～アマルティア・セン『経済学と倫理学』からの対話～
- 10回：経済的判断と道徳哲学  
～アマルティア・セン『経済学と倫理学』からの対話～
- 11回：経営者は何を考え、実践しているのか（1）～ゲストスピーカー～
- 12回：経営者は何を考え、実践しているのか（2）～ゲストスピーカー～
- 13回：総括(1)  
～鴨長明『方丈記』にみる無常の常からの経済的視座～
- 14回：総括(2)  
～未来を創る人をどう育てるか～

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

別途、授業で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発言等:100%

### テキスト / Textbooks

アマルティア・セン著、徳永澄憲他訳 経済学と倫理学 ちくま学芸文庫 2016 9784480097446 -  
ヘイミンシュ・アクレイ著、遠藤真美訳 2050年の世界 日本経済出版 2023 9784296118410 -

### 参考文献 / Readings

その他の参考文献は授業で、都度、示します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特別な経験や能力は必要ありません。院生との対話学習を行いますので、積極的に授業に参加する意志は保ってください。テキスト書籍は目を通す程度で結構ですので、ざっくりと把握しながら授業に臨んでください。

### その他 / Others

受講院生と協議しますが、対面の機会をできるだけ設定します(但し、学内の活動制限方針の準拠します)。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ビジネスデザイン特講 2 A

Special Seminar on Business Design 2A

平井 直樹 (HIRAI NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG193  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文・ビジネスプランの作成に向けた基礎的な知識・能力を身に着けることを目的とする。

The purpose of the program is to provide students with the basic knowledge and skills to prepare a master's thesis or business plan.

## 授業の内容 / Course Contents

ビジネス文書やレポート等の書き方と、論文の書き方は大きく異なります。特に修士論文となると、学術的な書き方にしっかりと従う必要が出てきます。しかし、多くのビジネスパーソンの方々はそうした訓練を受けていません。

本講義では、論文を全く書いたことのない人を主な対象と想定し（もちろん現在論文を書いている最中の人も）、論文・プランの基礎的な書き方に関して、参考になりそうな論文も事例にとりあげて説明していきます。なお、基本的には論文（リサーチ）を中心とし、ビジネスプラン（デザイン）についても補足的に取り上げます。

Writing a business document, report, etc. is very different from writing a thesis. Especially when it comes to master's theses, it is necessary to follow academic writing style closely.

However, many business people have not received such training.

In this lecture, we assume that the audience is people who have never written a thesis before, and we will explain the basics of how to write a thesis or plan.

The lecture will basically focus on thesis (research) writing, and business plan (design) writing will be covered as a supplement to the lecture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究とは何か？学術分野・科目と論文・プランの関連について
- 2 回：研究の進め方、論文やビジネスプランの構成執筆スケジュール、スケジュール管理について
- 3 回：先行研究とは何か？なぜ先行研究が重要か？
- 4 回：先行研究・資料の検討
- 5 回：論文・資料の探し方。書籍と論文の違い。代表的な学会誌等について
- 6 回：論文の読み方、資料のまとめ方
- 7 回：テーマの探し方
- 8 回：研究の背景と目的の検討
- 9 回：引用と参考文献
- 10 回：論文としての文章の書き方
- 11 回：タイトルの決め方・要約・エクゼクティブサマリ
- 12 回：Word の論文執筆の使い方(タイトルの入れ方、注釈の付け方、ページ番号の挿入など)
- 13 回：研究テーマについてまとめたものを発表
- 14 回：研究テーマについてまとめたものを発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、講義内で指示します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への貢献 (ディスカッション) :50% 最終成果物:50%

### テキスト / Textbooks

授業にて随時紹介します (PDF 資料を配布します)。

### 参考文献 / Readings

佐藤郁哉 ビジネス・リサーチ (はじめての経営学) 東洋経済新報社 2021/4/2 9784492503287

酒井聡樹 これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 共立出版 2015/4/22 9784320005952

高崎みどり 大学生のための「論文」執筆の手引き 秀和システム 2010/2/10 9784798024486

ポール.J.シルヴィア著・高橋さきの訳 できる研究者の論文生産術 どうすれば「たくさん」書けるのか 講談社 2015/4/8 9784061531536

授業にて随時紹介します。

### その他 / Others



「ビジネスデザイン特講2 A」「ビジネスデザイン特講2 B」を併せて履修することが望ましい。

「ビジネスデザイン特講2 A」だけの履修も可。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ビジネスデザイン特講 2 B

Special Seminar on Business Design 2B

平井 直樹 (HIRAI NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG194  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文・ビジネスプランの作成に向けた基礎的な知識・能力を身に着けることを目的とする。

The purpose of the program is to provide students with the basic knowledge and skills to prepare a master's thesis or business plan.

## 授業の内容 / Course Contents

ビジネス文書やレポート等の書き方と、論文の書き方は大きく異なります。特に修士論文となると、学術的な書き方にしっかりと従う必要が出てきます。しかし、多くのビジネスパーソンの皆さんはそうした訓練を受けていません。

本講義では、論文を全く書いたことのない人を主な対象と想定し（もちろん現在論文を書いている最中の人も）、論文・プランの基礎的な書き方に関して、参考になりそうな論文も事例にとりあげて説明していきます。なお、基本的には論文（リサーチ）を中心とし、ビジネスプラン（デザイン）についても、補足的に取り上げます。

Writing a business document, report, etc. is very different from writing a thesis. Especially when it comes to master's theses, it is necessary to follow academic writing style closely.

However, many business people have not received such training.

In this lecture, we assume that the audience is people who have never written a thesis before, and we will explain the basics of how to write a thesis or plan.

The lecture will basically focus on thesis (research) writing, and business plan (design) writing will be covered as a supplement to the lecture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究の問い（RQ：リサーチクエスション）の立て方・仮説の構築
- 2 回：ビジネスプランとして解決すべき課題の探し方
- 3 回：調査方法の検討
- 4 回：定量調査（アンケート調査）
- 5 回：定性調査（インタビュー）
- 6 回：分析のまとめ方・SPSS の基本
- 7 回：結果と考察の違い・書き方
- 8 回：結論への導き出し方
- 9 回：研究計画書とは
- 10 回：研究計画書の書き方、注意点
- 11 回：論文の評価と審査（口頭試問）・論文の採択
- 12 回：論文を書くということについて（全体のまとめ）
- 13 回：「研究計画書」の発表（M2 以上の場合、要旨・エクゼクティブサマリーの発表）
- 14 回：「研究計画書」の発表（M2 以上の場合、要旨・エクゼクティブサマリーの発表）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、講義内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への貢献（ディスカッション）：50% 最終成果物：50%

### テキスト / Textbooks

授業にて随時紹介します（PDF 資料を配布します）。

### 参考文献 / Readings

石村光資郎著・石村貞夫監修 S P S S による統計処理の手順 第 1 0 版 東京図書 2023/11/10  
9784489024177

佐藤郁哉 ビジネス・リサーチ（はじめての経営学） 東洋経済新報社 2021/4/2 9784492503287

久米郁男 原因を推論する 有斐閣 2013/11/13 9784641149076

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編 最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法 ミネルヴァ書房  
2023/9/26 9784623095247

授業にて随時紹介します。

**その他/ Others**

「ビジネスデザイン特講2 A」「ビジネスデザイン特講2 B」を併せて履修することが望ましい。  
「ビジネスデザイン特講2 B」だけの履修も可。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# アントレプレナーシップ

Entrepreneurship

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG202  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日米の起業事例研究や実践的なワークショップから、起業に必要な心構えや 実践的なスキルセットを修得する。

This course leads students on the entrepreneurial journey from small companies to technology start-ups in America and Japan. Through the case studies and practical workshops, students will learn entrepreneurial mind-set and hand-on skill-set.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業ではマクドナルド社とアップル社・マイクロソフト社の事例に焦点を当て、彼らがどのようにビジネスを立ち上げ、どのように世界に広げたかを学ぶ。また様々な日本の起業家の事例についても紹介する。この授業では、ロゴの作成やビジョン・ミッション・バリュープロポジションの表現方法について演習をし、最後にビジネスプランを作成して提出する。

This course first focuses on McDonald's case and Apple-Microsoft cases; how they started their businesses and how they developed their businesses worldwide. Later, it introduces a wide-varieties of Japanese entrepreneur cases.

Workshop sessions provide a broad skill set: how to design logos and express vision, mission, and value proposition. Students will be asked to submit a business plan toward the end of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：アントレプレナーシップとは？ 様々なビジネスのかたちを学ぶ
- 2回：アントレプレナーシップとは？  
社内起業や事業承継にもアントレプレナーシップが必要
- 3回：マクドナルド社の創業1  
起業のスキルセット1(ロゴの歴史・デザインのポイント)
- 4回：マクドナルド社の創業2  
起業のスキルセット2(ストーリー・ビジョン・ミッション・バリュープロポジションの作成ポイント)
- 5回：マクドナルド社の創業3  
起業のスキルセット3(新4Pについて)
- 6回：マクドナルド社の創業4  
起業について、ここまでのまとめ
- 7回：日本の社会的起業・地域起業  
六方よし経営の各事例のKSF
- 8回：日本の起業家ユニクロとブックオフ
- 9回：日本の新規起業事例 ゲストスピーカーを招聘予定
- 10回：日本の新規起業事例 ゲストスピーカーを招聘予定
- 11回：アップルとマイクロソフト1  
シェアリング・エコノミーと airbnb
- 12回：アップルとマイクロソフト2  
ビジネスモデルの形成(コストコとアマゾン)
- 13回：アップルとマイクロソフト3  
テクノロジーベンチャーのまとめ
- 14回：優秀ビジネスプランの発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定教科書を読んで、事前に課題を提出する(3回程度を予定)

指定したフォーマット・枚数で、ビジネスプランを作成する

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 課題提出:30% 最終レポート割合 :20%

### テキスト/ Textbooks

藻谷ゆかり 『六方よし経営 日本を元気にする新しいビジネスのかたち』 日経 BP 2021

9784296110025 ○

レイ・クロック 『成功はゴミ箱の中に』 プレジデント社 2007 9784833418454 ○

**参考文献 / Readings**

---

**その他/ Others**

---

提出課題等について授業中に説明するため、毎回の出席が必須です。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# テクノロジーマネジメント 1

## Technology Management 1

技術と人間社会の境界を巡って

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VG281

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

### 授業の内容 / Course Contents

主に経済誌や報道を賑わす今日的な IT 関連のトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢、IT 関連の論点を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者の直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、議論する。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。

This course focuses on the IT related current topics circulated in media, investigate the social trend and IT



factors in the background, and then enhances the understanding of students.

Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future. They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：情報のデジタル化とデータサプライチェーン（1）ー デジタルとは何か、なぜ求められるのか
- 2回：情報のデジタル化とデータサプライチェーン（2）ー デジタルとは何か、なぜ求められるのか
- 3回：財務情報と非財務情報の位置づけと活用（1）---データの特性とデジタル化による活用方法
- 4回：財務情報と非財務情報の位置づけと活用（2）---データの特性とデジタル化による活用方法
- 5回：持続的社会を巡る課題（1）---デジタル時代と ESG と SDG s
- 6回：持続的社会を巡る課題（2）---デジタル時代と ESG と SDG s
- 7回：社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント（1）---なぜ不祥事は起こるのか、デジタル化によるマネジメントの可能性
- 8回：社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント（2）---デジタルの有効性と避けられるリスク、軽減できるリスク、避けられないリスク
- 9回：Regtech、Suptech を巡る議論（1）---デジタル時代における規制と社会的コスト
- 10回：Regtech、Suptech を巡る議論（2）---デジタル時代における経営責任と監督責任
- 11回：規制と社会---インターネットと規制（1）ー自由と規制の狭間を巡って
- 12回：規制と社会---インターネットと規制（2）ー自由と規制の狭間を巡って
- 13回：EC ビジネスと決済（1）---拡大する E コマースの世界と多様化する決済
- 14回：EC ビジネスと決済（2）---電子マネーとブロックチェーンをめぐる可能性と課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス参加と議論への貢献度:50% 成果物の内容:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

野口悠紀雄 データ資本主義 日本経済新聞出版社 2019 9784532358310

赤羽喜治・愛敬真生 ブロックチェーン 仕組みと理論 リックテレコム 2019 9784865941630

野口悠紀雄 データエコノミー入門 PHP 研究所 2021 9784569850528

野口悠紀雄 CBDC 中央銀行デジタル通貨の衝撃 新潮社 2021 9784104329076

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッション

オンラインなど双方向形式の授業によって運営されます。

## テクノロジーマネジメント 2

### Technology Management 2

今日のデジタル技術を構成する主要な要素技術を学ぶ

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VG283

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

### 授業の内容 / Course Contents

今後、利用が本格化する最先端の IT 関連トピックス (AI, Block Chain, VR/AR, Cloud Computing, Start-up 論等) を取り上げる。各分野の第一線で活躍するスペシャリストもゲストに招きつつ、その概要と背景にある社会情勢を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者が今後直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、議論する。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。

Focuses on the emerging IT related topics which will come to the society in the near future, the course investigates the outline of underlying technologies, social trend, and then enhances the students' understanding. AI, Block Chain, AR/VR, Cloud Computing and Start-up theory are expected to be covered in the session. Specialist are invited as guest speakers to deliver the latest updates in these topics. Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future. They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：AI・ロボティクス（1）ー基本的理解から生成 AI まで
- 2回：AI・ロボティクス（2）ー基本的理解から生成 AI まで
- 3回：自然言語解析と画像解析（1）ー技術の基礎と応用への理解
- 4回：自然言語解析と画像解析（2）ー技術の基礎と応用への理解
- 5回：クラウドとコンピュータ基盤（1）ー技術の概要と応用上の課題
- 6回：クラウドとコンピュータ基盤（2）ー技術の概要と応用上の課題
- 7回：仮想現実と拡張世界（1）ー基礎から最先端まで
- 8回：仮想現実と拡張世界（2）ー基礎から最先端まで
- 9回：ビッグデータ技術の世界（1）ー技術の概要と応用上の課題
- 10回：ビッグデータ技術の世界（2）ー技術の概要と応用上の課題
- 11回：ブロックチェーンとビットコイン（1）ー技術の概要と応用上の課題、自立分散社会への道
- 12回：ブロックチェーンとビットコイン（2）ー技術の概要と応用上の課題、自立分散社会への道
- 13回：インターネットとサイバーセキュリティ（1）ーITの光と影
- 14回：インターネットとサイバーセキュリティ（2）ーITの光と影

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% クラスへの参加と議論への貢献度:50% 成果物の内容:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

澤田純 IOWN 構想ーインターネットの先へ NTT 出版 2019 4757103913

赤羽喜治・愛敬真生 ブロックチェーン 仕組みと理論 リックテレコム 2019 9784865941630

畑村洋太郎 3現で学んだ危険学 畑村創造工学研究所 2020

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッション

オンラインなど双方向形式の授業によって運営されます。

# テクノロジーマネジメント 3

## Technology Management 3

中村 二郎 (NAKAMURA JIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG284
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6600
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

製造業、サービス業、小売業などの経営者や経営スタッフ、そして各構成員がテクノロジーを経営に生かしていく際に必要となる基礎的かつ戦略的な考え方を学ぶ。

We will learn basic and strategic concepts that are necessary for managers and management staff in the manufacturing, service, and retail industries, as well as of each of the members in organizations to use technology in management.

### 授業の内容 / Course Contents

社会のニーズの多様化、市場の成熟化、経済のグローバル化などビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中で、企業の生き残りを左右するのはイノベーションを推進する力である。イノベーションにより事業を日々進化させ、変化する外部環境に対応させることが企業の持続的な成長・発展のためのキーアクションである。まさに、ダーウィンの言葉の通りに、“最も強いものでなく最も環境に適したものが生存機会を保障される。テクノロジーマネジメントでは、知見や道具を使って変化する環境に適応し制御する能力を高める方法ならびに特定の目標を達成するために長期的視野と複合思考で能力や資源を総合的に運用する計画を立案することを学ぶ。テクノロジーマネジメント 3 では、全体概観を学ぶ。

As the environment surrounding business such as diversification of society's needs, maturation of the market, and globalization of the economy changes greatly, this is about the ability to promote innovation that will determine the survival of a company. It is key for sustainable growth and development of a company to evolve day to day business through innovation and to respond to changing external environments. Precisely as Darwin had said, "it is not the strongest, but the most suitable for the environment that is guaranteed to survive." In technology management, we will learn how to improve our ability to adapt and control the changing environment using knowledge and tools and develop a plan for the comprehensive use of capacity and resources with a long-term perspective and combined thinking to achieve specific goals. In Technology Management 3 we will learn a general overview of the subject.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：技術と経営のつながりを知る
- 2 回：企業の進むべき方向を決める
- 3 回：外部環境変化を知る
- 4 回：制約条件の変化を知る
- 5 回：顧客がいくら払うかを知る
- 6 回：商品ライフサイクルの速度を知る
- 7 回：良いものをマーケティングする-テクノロジーマーケティング-
- 8 回：良いものをつくる
- 9 回：良いものを社会へ普及させる
- 10 回：技術をブランディングする-テクノロジーブランディング-
- 11 回：人工知能とテクノロジーアセスメント
- 12 回：まとめ
- 13 回：課題発表（1）
- 14 回：課題発表（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義毎に次回までの学習内容を指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席のうえで議論への積極的な参加:40% 発表:30% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

ハンドアウト配布

### 参考文献 / Readings

講義にて随時紹介

### その他 / Others

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# テクノロジーマネジメント 4

## Technology Management 4

中村 二郎 (NAKAMURA JIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG286  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

製造業、サービス業、小売業などの経営者や経営スタッフ、そして各構成員がテクノロジーを経営に生かしていく際に必要となる基礎的かつ戦略的な考え方を学ぶ。

We will learn basic and strategic concepts that are necessary for managers and management staff in the manufacturing, service, and retail industries, as well as of each of the members in organizations to use technology in management.

### 授業の内容 / Course Contents

社会のニーズの多様化、市場の成熟化、経済のグローバル化などビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中で、企業の生き残りを左右するのはイノベーションを推進する力である。イノベーションにより事業を日々進化させ、変化する外部環境に対応させることが企業の持続的な成長・発展のためのキーマンである。まさに、ダーウィンの言葉の通りに、“最も強いものでなく最も環境に適したものが生存機会を保障される。テクノロジーマネジメントでは、知見や道具を使って変化する環境に適応し制御する能力を高める方法ならびに特定の目標を達成するために長期的視野と複合思考で能力や資源を総合的に運用する計画を立案することを学ぶ。テクノロジーマネジメント 4 では、具体的な方策および事例を中心に学習し、理解を深める。

As the environment surrounding business such as diversification of society's needs, maturation of the market, and globalization of the economy changes greatly, this is about the ability to promote innovation that will determine the survival of a company. It is key for sustainable growth and development of a company to evolve day to day business through innovation and to respond to changing external environments. Precisely as Darwin had said, "it is not the strongest, but the most suitable for the environment that is guaranteed to survive." In technology management, we will learn how to improve our ability to adapt and control the changing environment using knowledge and tools and develop a plan for the comprehensive use of capacity and resources with a long-term perspective and combined thinking to achieve specific goals. In Technology Management 4 we will learn about specific strategies and examples, and deepen our understanding of the subject.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義全体概観
- 2 回：テクノロジーと企業競争力
- 3 回：新商品開発のマネジメント
- 4 回：ビジネスモデルのマネジメント
- 5 回：技術開発・新商品開発の組織マネジメント
- 6 回：テクノロジーとベンチャービジネス
- 7 回：人工知能（AI）を活用した技術開発（プロセスインフォマティクス、マテリアルインフォマティクス）
- 8 回：分野別事例（DX、人工知能（AI）、ロボット）
- 9 回：分野別事例（GX、カーボンニュートラル、エネルギー）
- 10 回：分野別事例（環境・素材）
- 11 回：課題発表（1）
- 12 回：課題発表（2）
- 13 回：まとめ（1）
- 14 回：まとめ（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義毎に次回までの学習内容を指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席のうえで議論への積極的な参加:40% 発表:30% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

ハンドアウト配布

### 参考文献 / Readings

講義にて随時紹介

### その他 / Others

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# インダストリアルマネジメント 1

Industrial Management 1

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG331  
授業形態： オンライン（一部対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

イノベーションに関連する基本文献を読み、イノベーション論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。今年度は、今日のイノベーションを理解するうえでも示唆に富むクレイトン・クリステンセンの『イノベーションのジレンマ』を読解する。

The aim is to read basic literature related to innovation, to learn the basic contents of innovation theory, and to develop the ability to read academic research. This year, we will read Clayton Christensen's Innovation Dilemma, which is inspiring to understand today's innovation.

## 授業の内容 / Course Contents

講義にあたっては、テキストの各章を受講者相互の議論を通じて読解していく。

受講者は、毎回の講義に先だて、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で参加者全員が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、また適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。

本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。

なお講義の進め方は最初の講義（オンラインで実施予定）で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する場合がありますので、最初の講義に参加をすること。

In the lecture, each chapter of the text will be read through discussions among the students.

Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issues and questions, and participate. After that, all the participants explain, present, and report the contents of each sentence and paragraph, and summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.

In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.

How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture, but attendance to the first lecture

(Online lecture) is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：序章の輪読（1）
- 3回：序章の輪読（2）
- 4回：序章の輪読（3）
- 5回：なぜ優良企業が失敗する理由（1）
- 6回：なぜ優良企業が失敗する理由（2）
- 7回：なぜ優良企業が失敗する理由（3）
- 8回：バリュー・ネットワークとイノベーション（1）
- 9回：バリュー・ネットワークとイノベーション（2）
- 10回：バリュー・ネットワークとイノベーション（3）
- 11回：掘削機業界における破壊的イノベーション（1）
- 12回：掘削機業界における破壊的イノベーション（2）
- 13回：掘削機業界における破壊的イノベーション（3）
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。

#### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% レジюме・レポート:40% 提出物:35% 出席・発言等:25%

#### **テキスト / Textbooks**

クレイトン・クリステンセン 『イノベーションのジレンマ』 翔泳社 4798100234 ○

#### **参考文献 / Readings**

必要に応じて適宜、講義において指示する。

#### **注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# インダストリアルマネジメント 2

## Industrial Management 2

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG336  
授業形態： オンライン（一部対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

プラットフォームビジネスに関連する基本文献を読み、プラットフォームビジネス論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。プラットフォームビジネスを理解するうえで基本となるマイケル・クスmanoらの『プラットフォームビジネス』を読解する。

The aim is to read basic literature related to platform business, to learn the basic contents of platform business theory, and to develop the ability to read academic research. We read Michael A. Cusumano et al. 's "The Business of Platforms", which is basic in understanding platform business.

### 授業の内容 / Course Contents

講義にあたっては、テキストの各章を輪読と報告、および受講者相互の議論を通じて読解していく。受講者は、毎回の講義に先だって、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で報告者が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、そして参加者全員が適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。

本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。

なお本講義の進め方は最初の講義（オンラインで実施予定）で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する場合がありますので、最初の講義に参加をすること。

In the lecture, each chapter of the text will be read and reported in turns, and learned through discussions among the students. Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issues and questions, and participate. After that, a reporter explains, presents, and reports the contents of each sentence and paragraph, and all the participants summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.

In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.

How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture (Online lecture), but attendance to the first lecture is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：本講義の目的・方法などについて
- 2回：プラットフォーム思考
- 3回：覇者が全てもしくは大半を獲得する（1）
- 4回：覇者が全てもしくは大半を獲得する（2）
- 5回：戦略とビジネスモデル（1）
- 6回：戦略とビジネスモデル（2）
- 7回：共通する失敗（1）
- 8回：共通する失敗（2）
- 9回：既存企業は新たな世界に適応できるか（1）
- 10回：既存企業は新たな世界に適応できるか（2）
- 11回：諸刃の剣（1）
- 12回：諸刃の剣（2）
- 13回：プラットフォームとその将来
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:



**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。なお報告担当者は輪読のためのレジメを作成し、質問等に回答できるよう準備すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告・発言・出席等:40% 提出物:30% レジメ・レポート:30%

**テキスト / Textbooks**

マイケル・クスマノ、アナベル・ガワー、デヴィッド・ヨッフイー 『プラットフォームビジネス』 有斐閣  
2020年 4641165688 ○

**参考文献 / Readings**

必要に応じて適宜、講義において指示する。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 経営財務3

## Financial Management 3

資本の調達・構成の基本を学ぶ

井潟 正彦 (IGATA MASAHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG507
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	秋学期1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

主目標は、コーポレート・ファイナンスの基礎知識を、とくに資本調達と資本構成に焦点をあてて、強化することである。そのうえで、そうした基礎知識を用いて、企業財務を巡って現実に生じている様々な事象を適切に理解するだけでなく、説明できるようになる。

The goal of this course is enhancement of fundamental knowledge & skills of corporate finance with a focus on capital-raising and capital structure. Based on those fundamental knowledge & skills, class students are expected to not only understand accurately but also explain logically financing behaviors of corporations in the real world.

### 授業の内容 / Course Contents

資本の性格として互いに根本的な相違を持つ借入資本と株主資本の調達、およびその組み合わせの在り方（資本構成）について議論する。その上で、運転資本、メザニン・ファイナンス、非財務資本、スタートアップなどの非公開企業の資金調達などに議論を展開する。コーポレート・ファイナンスの基礎知識の強化を座学のみならず、グループ発表などをより重視して行う。

We will firstly discuss the essential difference between equity capital and debt capital, and the capital structure

theories. Then we will move on to discussions on the working capital, mezzanine finance, start-up company's capital-raising issues, intangible capital(asset), valuation and so on.

Not only classroom lectures but also group discussions/presentations and computational exercises/examples are highly utilized in this course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：株式会社の仕組みと役割
- 2 回：借入資本（有利子負債）の役割
- 3 回：株主資本の役割
- 4 回：資本構成を巡る議論
- 5 回：信用リスクと格付け
- 6 回：運転資本
- 7 回：メザニン・ファイナンス（劣後ローン）
- 8 回：メザニン・ファイナンス（種類株式）
- 9 回：スタートアップの資本調達（1）
- 10 回：スタートアップの資本調達（2）
- 11 回：非財務資本をめぐる議論
- 12 回：ゲストスピーカー（1）
- 13 回：ゲストスピーカー（2）
- 14 回：総括と補論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、必要に応じて、書籍や論文などについても紹介するので、必ず読んでくること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ発表への積極的な参加:20% ゲストスピーカー（1）感想文:30% ゲストスピーカー（2）感想文:30% 質問発出による授業への積極的な貢献:20%

ゲストスピーカーの感想文は各々400字前後。

### テキスト / Textbooks

松田千恵子 コーポレートファイナンス実務の教科書 日本実業出版社 2016 9784534054500 -

### 参考文献 / Readings

磯崎哲也 起業のファイナンス（増補改訂版） 日本実業出版社 2017 9784534052452

イラッド・ギル 爆速成長マネジメント 日経 BP 2021 9784296000111

神田秀樹 会社法入門 岩波新書 2015 9784004315544

大垣尚司 金融から学ぶ会社法入門 勁草書房 2017 9784326403271

朝倉祐介 ファイナンス思考 ダイヤモンド社 2018 9784478103746

毎週、必要に応じて、上記以外の書籍や論文などについても紹介する。

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

企業財務や M&A などへの高い関心（経営に不可欠な要素「ヒト・モノ・カネ」のカネについての高い関心）  
実務において経営企画や財務、IR、ESG といった部署で活躍したいという意欲  
起業を検討したり、スタートアップで活躍したいという意欲

**その他/ Others**

担当者は実務家教員として授業を行う：

2021 年 3 月まで野村資本市場研究所・常務 兼 野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー

2021 年 4 月から株式会社助太刀・常勤監査役

立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授（2016～2019 年度）、客員教授（2020 年度～）

関西学院大学・商学部・客員教授（2008～2014 年度）、教授（2023 年度～）

野村アセットマネジメント・資産運用研究所・アドバイザー

日本証券アナリスト協会・認定アナリスト（CMA）

**注意事項**

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50% 以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 経営財務4

Financial Management 4

企業価値評価法・DCF の基本を学ぶ

井潟 正彦 (IGATA MASAHIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG508  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面（全回）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

主目標は、企業価値評価方法、とくに DCF 法について実務的な理解と知見を高めることである。その上で、日本で近年、また今後も増える M&A の様々な現実の事例について適切に理解するだけでなく、説明できるようになる。

The primary goal of this course is to deepen practical understanding and knowledge of Valuation of Corporations with a focus on DCF. Based on those fundamental knowledge & skills, class students are expected to not only understand accurately but also explain logically purchase prices in M&A transactions, and/or start-up companies' capital raising, which are rapidly increasing in Japan.

### 授業の内容 / Course Contents

企業価値評価方法、とくに DCF について、実際に計算作業などを行いながら、また、実務事例を参照しながら、手順や構成要素などを習得する。

座学だけでなく、授業時間以外の復習（課題）やグループ発表なども重視する。

We will practically learn the DCF method as the primary procedure for valuation of corporations through

calculating exercises and case studies.

In addition to classroom lectures, group-works and home-works are highly utilized.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：コーポレート・ファイナンスの基本についてのレビュー
- 2 回：現在価値の考え方
- 3 回：配当割引モデル (DDM)
- 4 回：DDM の限界と、DCF の概要
- 5 回：FCF の計算
- 6 回：加重平均資本コスト (WACC) の推定－株主資本コスト (CAPM に基づく推定、 $\beta$  の理解)
- 7 回：加重平均資本コスト (WACC) の推定－借入資本 (有利子負債) コスト
- 8 回：有利子負債の節税効果
- 9 回：ターミナル・バリュウの計算
- 10 回：補論・・・DCF の実務における対応、プロジェクト決定の可否判断 (NPV)
- 11 回：株主資本コストと ROE、WACC と ROIC
- 12 回：マーケット・アプローチ・・・PER、PBR、PSR、EBITDA マルチプル
- 13 回：ゲストスピーカー (1)
- 14 回：ゲストスピーカー (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

原則、毎週、授業内容に応じた課題あり (翌週必ず提出)。毎週配布する参考文献は必ず読むこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の課題:20% ゲストスピーカー (1) 感想文:30% ゲストスピーカー (2) 感想文:30% 質問発出やグループ発表による授業への積極的な貢献:20%

ゲストスピーカーの感想文は各々400字前後。

### テキスト / Textbooks

毎週、レジюмеや参考文献を提示する。

### 参考文献 / Readings

伊藤邦雄 新・企業価値評価 日本経済新聞出版社 2014 9784534134501

砂川信幸 笠原真人 はじめての企業価値評価 日本経済新聞出版社 2015 9784532113254

渡辺茂 ケースと図解で学ぶ企業価値評価 日本経済新聞社 2003 4532310539

鈴木一功 企業価値評価 入門編 ダイヤモンド社 2018 9784478028629

田中・保田 コーポレートファイナンス 戦略と実践 ダイヤモンド社 2019 9784478105412

神田・太田・阿久澤 企業価値とオプション評価のロジックと実務 金融財政事情研究会 2019 9784322132786

毎週、必要に応じて、上記以外の書籍や論文などについても紹介する。

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

企業財務や M&A などへの高い関心（経営に不可欠な要素「ヒト・モノ・カネ」のカネについての高い関心）  
実務において経営企画や財務、IR、ESG といった部署で活躍したいという意欲  
起業を検討したり、スタートアップで活躍したいという意欲

### **その他/ Others**

担当者は実務家教員として授業を行う：

2021 年 3 月まで野村資本市場研究所・常務 兼 野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー

2021 年 4 月から株式会社助太刀・常勤監査役

立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授（2016～2019 年度）、客員教授（2020 年度～）

関西学院大学・商学部・客員教授（2008～2014 年度）、教授（2023 年度～）

野村アセットマネジメント・資産運用研究所・アドバイザー（2022 年 5 月～）

日本証券アナリスト協会・認定アナリスト（CMA）

### **注意事項**

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50% 以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 証券経済論 1

## Stock Market 1

未曾有の少子高齢化・長寿社会に直面する日本における一般家計の資産形成・管理、金融経済教育のあり方を検討する

井潟 正彦 (IGATA MASAHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG551
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回）
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

「未曾有の少子高齢化」、「人生 100 年時代」が現実到来した日本社会における、一般家計の資産形成・管理を巡る現状と課題の本質について理解すると共に、一般家計向けの資産形成・管理のためのビジネスモデルについてイノベーションの可能性などを検討する。日本における「金融リテラシー」、「金融経済教育」の現状と課題、展望についても検討を行う。

The primary aim of this course is to research and develop financial service business models and/or innovations to meet the asset accumulation/management service needs of the Japanese households which are facing the unprecedented aging society. Current issues and future perspectives on the financial literacy and education in Japan are also analyzed and discussed.

## 授業の内容 / Course Contents

2019 年に「老後資金 2000 万円不足報告書」として世間で注目を集めた金融庁・金融審議会・市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」を基本文献として使いながら、日本が直面する未曾



有の高齢社会の現状、長寿を巡る金融の課題などを議論する。その上で、そうしたニーズを満たし、広く一般家計向けとして普及すべき次代の資産形成・管理ビジネスの条件や可能性などを欧米先進事例などを参考にしながら議論し、新たなビジネス・チャンスやビジネス・プランを模索する。授業の進め方として、座学だけでなく、発表や授業内でのディスカッションを重視する。

The main material for this course is the Report on the Asset Accumulation & Management in Our Aging Society, which was compiled by a working group under the Financial System Council in late May, 2019. Although hotly debated then, the Report fairly and objectively discusses the current and future issues in our aging society, the financial obstacles against longevity, the possible methodologies taken by the working generation and so on. Based on the proper understanding of the Report and case studies in the United States, we will discuss business opportunities, business models upgraded and innovations on the asset accumulation and management services for the Japanese households. Not only classroom lectures but also group discussions/presentations are highly emphasized in this course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：高齢社会を取り巻く環境変化（1）
- 2 回：高齢社会を取り巻く環境変化（2）
- 3 回：高齢社会における新たな金融ニーズ（1）
- 4 回：高齢社会における新たな金融ニーズ（2）
- 5 回：個人向け資産形成・管理サービスのあり方（1）
- 6 回：個人向け資産形成・管理サービスのあり方（2）
- 7 回：補論・・・とくに NISA と iDeco の制度本質、積立・分散・長期の重要性、金融ジェロントロジーの必要性、団塊世代ジュニアをめぐる大きな課題
- 8 回：日本における一般家計向けの資産形成・管理ビジネスの現状と展望
- 9 回：日本における金融リテラシー、金融経済教育の課題と展望
- 10 回：欧米における先進事例の検討・・・米国で一般家計に広範に資産形成・管理サービスを展開し、高い評価を受けているチャールズシュワブ社やバンガード社などの事例研究
- 11 回：日本における一般家計向けの資産形成・管理ビジネスのイノベーション、ビジネス・チャンスの検討
- 12 回：ゲストスピーカー（1）
- 13 回：ゲストスピーカー（2）
- 14 回：日本における一般家計向けの資産形成・管理ビジネスのイノベーション、ビジネス・チャンスについて各自からのアイデア発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指示する参考文献を必ず読むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表への積極的な参加:20% 質問発出などによる授業への積極的な貢献:20% ゲストス

ピーカー（1）に関するレポート:30% ゲストスピーカー（2）に関するレポート:30%  
ゲストスピーカーの感想文は各々400字前後（厳守）。

### テキスト/ Textbooks

「老後資金 2000 万円不足報告書」として世間で注目を集めた金融庁・金融審議会・市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」を授業の基本文献（金融庁 HP にて PDF 入手可）とする。

### 参考文献 / Readings

毎回指示する参考文献を必ず読むこと。

### 履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

金融サービスに関するイノベーションや起業への高い関心・意欲

少子高齢化・長寿社会に関する高い問題意識

社会における金融経済教育の強化や金融リテラシーの向上への高い関心

### その他/ Others

担当者は実務家教員として授業を行う：

2021 年 3 月まで野村資本市場研究所・常務 兼 野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー

2021 年 4 月から株式会社助太刀・常勤監査役

立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授（2016～2019 年度）、客員教授（2020 年度～）

関西学院大学・商学部・客員教授（2008～2014 年度）、教授（2023 年度～）

野村アセットマネジメント・資産運用研究所・アドバイザー（2022 年 5 月～）

日本証券アナリスト協会・認定アナリスト（CMA）

### 注意事項

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50% 以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 証券経済論 2

### Stock Market 2

企業のサステナブルな成長に機関投資家が果たす役割、課題と展望について学ぶ

井潟 正彦 (IGATA MASAHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG556
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回）
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

先進国、なかでも日本のコーポレート・ガバナンスにおいて近年、資本市場の果たす役割、とくに株主としての機関投資家の役割が急速に重要性を高めている。資本市場における家計から機関投資家を通じて産業・企業に流れる資金フローの仕組み（インベストメント・チェーン）と、機関投資家の役割・課題・展望、ひいては家計からの期待にスタートアップを含め企業が応えていくために求められている条件などについて理解する。その上で、ESG を含むサステナビリティや株主のみならず幅広くステークホルダーを重視する動きが企業の資金調達、ひいては経営戦略に大きな影響を及ぼすことについて理解する。

In recent years, the role of the capital markets, especially the institutional investors, for the corporate governance in Japan, has been expanding rapidly. The goal of this course is to understand (a) the so-called Investment-Chain, or the fund flow between households and companies/industries through the institutional investors in the capital markets, and (b) the basic governance structure required for the Japanese corporations to drive sustainable returns exceeding the cost of capital. In addition, to cultivate a better understanding Sustainability(ESGs) Investment which would cause a fundamental reshaping of capital raising as well as

corporate strategy is also required.

### 授業の内容 / Course Contents

資本市場の重要性やポートフォリオ理論の基本を確認した上で、インベストメント・チェーンに関する重要な論点、とくにコーポレート・ガバナンス・コード、スチュワードシップ・コード、伊藤レポートを始めとする経済産業省や金融庁などで議論された研究会報告書、ブラックロック社 CEO・ラリーフィンク氏の年次書簡、ダボス会議主宰者・クラウスシュワブ氏によるステークホルダー資本主義、インパクト投資などを取り上げる。

座学のみならず、グループ・ディスカッション・発表などを積極的に行う。

After studying the importance of the capital markets and the basics of the portfolio theory, we will focus on several important topics/issues of the Investment-Chain and Sustainability Investment such as Corporate Governance Code, Stewardship Code, some essential discussions/report papers held/published in the Financial Services Agency and/or the Ministry of Economy, Trade and Industry including Ito Report, Fink Letter, Stakeholder Capitalism, Impact Investing and so on..

In addition to classroom lectures, we will also actively hold group discussions/presentations.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：資本市場の仕組み・ポートフォリオ理論の基本
- 2 回：インベストメント・チェーン
- 3 回：アセット・オーナー
- 4 回：アセット・マネジャー
- 5 回：コーポレート・ガバナンス・コード
- 6 回：スチュワードシップ・コード
- 7 回：伊藤レポート
- 8 回：ESG、サステナビリティを巡る動き
- 9 回：インパクト投資
- 10 回：フィンク・レター
- 11 回：ステークホルダー資本主義
- 12 回：金融庁や経済産業省、東京証券取引所などで議論されてきた関連研究会の検討内容
- 13 回：ゲストスピーカー（1）
- 14 回：ゲストスピーカー（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回配布ないし指示する参考文献を必ず読むこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ発表への積極的な参加:20% 質問発出による授業への積極的な貢献:20% ゲストスピーカー（1）感想文:30% ゲストスピーカー（2）感想文:30%

ゲストスピーカーの感想文は各々400字前後。

### **テキスト/ Textbooks**

毎回レジュメあるいは参考文献を提示する。

### **参考文献 / Readings**

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

実務において経営企画や財務、IR、ESGといった部署で活躍したいという意欲

コーポレート・ガバナンスに関する高い関心

サステナビリティ経営に関する高い関心

### **その他/ Others**

担当者は実務家教員として授業を行う：

2021年3月まで野村資本市場研究所・常務 兼 野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー

2021年4月から株式会社助太刀・常勤監査役

立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授（2016～2019年度）、客員教授（2020年度～）

関西学院大学・商学部・客員教授（2008～2014年度）、教授（2023年度～）

野村アセットマネジメント・資産運用研究所・アドバイザー（2022年5月～）

日本証券アナリスト協会・認定アナリスト（CMA）

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG733
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究およびビジネスプラン作成を行う。

- ビジネスリサーチ：テーマ設定と仮説・検証方法を習得し、論理的な思考を修得する。
- ビジネスデザイン：市場創出可能なビジネスプランを作成する。

As advanced professional, we will conduct academic research and develop business plans, in order to contribute to the solution towards real problems in industry or other fields.

- Business research: Exploring the research question, learning the hypothesis verification method and the process of logical thinking through writing the master's thesis.
- Business design: Developing the business plan to realize attractive market creation.

## 授業の内容 / Course Contents

研究テーマもしくは事業領域を設定することを目的に、関心領域と先行研究もしくは事業環境について、各自実施し、その成果を履修者相互に共有し議論することを経て、研究テーマや事業領域を絞り込む。

各自の論文ないしビジネスプランの進捗状況を確認しながら、履修者相互で、各自の論文とビジネスプランを比較し、学習し、自分自身の改善すべき点を確認し、検討する。

尚、主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域であることが望ましい。  
In order to set research themes or business areas, you will go about in your own research area and prior research or business environments, and after sharing and discussing the results among the other students, you will refine your research themes and business areas.

We will review the progress of writing master's thesis and making a business plan, and each thesis and business plan will be improved.

Moreover, it is desirable that the main topic of research is related to the area of marketing and consumer behavior.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：関心領域に関する共有：ゼミ形式により、各自の関心テーマ&事業領域に関して学習・議論（1）
- 2回：関心領域に関する共有：ゼミ形式により、各自の関心テーマ&事業領域に関して学習・議論（2）
- 3回：関心領域設定への準備：参考文献・先行研究・関連データ等についての研究報告（1）
- 4回：関心領域設定への準備：参考文献・先行研究・関連データ等についての研究報告（2）
- 5回：関心領域の仮設定報告（1）
- 6回：関心領域の仮設定報告（2）
- 7回：関心領域の先行研究または関連&類似事業の検討（1）
- 8回：関心領域の先行研究または関連&類似事業の検討（2）
- 9回：研究テーマ&提案事業案を絞込み（1）
- 10回：研究テーマ&提案事業案を絞込み（2）
- 11回：研究仮説設定と検証方法報告&提案事業案と実現可能性報告（1）
- 12回：研究仮説設定と検証方法報告&提案事業案と実現可能性報告（2）
- 13回：夏季休暇中の研究計画の報告（1）
- 14回：夏季休暇中の研究計画の報告（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 各自、毎回の課題、作業に取り組んだうえで授業に臨むことを推奨します。
2. 常に自分自身の関心領域について、情報収集や現場観察に努力することを推奨します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度：40% クラス討議貢献度：40% アウトプット完成度：20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

修了研究（ビジネスリサーチ）履修者：ブランド、消費者行動、マーケティングに関する学術書・学術論文の精読

修了研究（ビジネスデザイン）履修者：ビジネスモデル、競争戦略に関する学術書・学術論文の精読  
以上が、大学院での学びの基礎を構築し、豊かな時間をもたらします。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG734  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究およびビジネスプラン作成を行う。

- ビジネスリサーチ：テーマ設定と仮説・検証方法を習得し、論理的な思考を修得する。
- ビジネスデザイン：内外の事業環境に最適なビジネスプランを作成する。

As advanced professional, we will conduct academic research and develop business plans, in order to contribute to the solution towards real problems in industry or other fields.

- Business research: Exploring the research question, learning the hypothesis verification method and the process of logical thinking through writing the master's thesis.
- Business design: Developing the business plan to realize attractive market creation.

## 授業の内容 / Course Contents

研究テーマもしくは事業領域を設定することを目的に、関心領域と先行研究もしくは事業環境について、各自実施し、その成果を履修者相互に共有し議論することを経て、研究テーマや事業領域を絞り込む。

各自の論文ないしビジネスプランの進捗状況を確認しながら、履修者相互で、各自の論文とビジネスプランを比較し、学習し、自分自身の改善すべき点を確認し、検討する。

尚、主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域であることが望ましい。  
In order to set research themes or business areas, you will go about in your own research area and prior research or business environments, and after sharing and discussing the results among the other students, you will refine your research themes and business areas.

We will review the progress of writing master's thesis and making a business plan, and each thesis and business plan will be improved.

Moreover, it is desirable that the main topic of research is related to the area of marketing and consumer behavior.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：夏期休暇の研究調査進捗状況の確認と指導 (1)
- 2 回：夏期休暇の研究調査進捗状況の確認と指導 (2)
- 3 回：進捗状況確認とグループ指導 (1)
- 4 回：進捗状況確認とグループ指導 (2)
- 5 回：中間報告に向けた個別指導 (1)
- 6 回：中間報告に向けた個別指導 (2)
- 7 回：中間報告に向けた個別指導 (3)
- 8 回：中間報告に向けた個別指導 (4)
- 9 回：最終作成に向けた個別指導 (1)
- 10 回：最終作成に向けた個別指導 (2)
- 11 回：最終作成に向けた個別指導 (3)
- 12 回：最終作成に向けた個別指導 (4)
- 13 回：最終報告会に向けた準備 (1)
- 14 回：最終報告会に向けた準備 (1)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1. 調査研究計画に基づき、夏期休暇中に各種研究調査の実行を前提とした参加を推奨します。
2. 各自、毎回の課題、作業に取り組んだうえで授業に臨むことを推奨します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:40% クラス討議貢献度:20% アウトプット完成度:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

修了研究 (ビジネスリサーチ) 履修者：ブランド、消費者行動、マーケティングに関する学術書・学術論文の精読

修了研究（ビジネスデザイン）履修者：ビジネスモデル、競争戦略に関する学術書・学術論文の精読  
以上が、大学院での学びの基礎を構築し、豊かな時間をもたらします。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG735
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）の作成

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design)

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。

修士論文（ビジネスリサーチ）では、ビジネス実務の経験や社会人としての経験から得た自己の関心にもとづき、社会課題やビジネス課題を見出し、関連する先行研究のレビューを通して独自の研究課題を設定し、探究する。

修士論文（ビジネスデザイン）では、自らの実務経験や社会経験から得た関心事をもとに、新規性・実現性・社会性のあるビジネスモデル・プランを構築する。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design).

In the master's academic paper (business research), based the problem of interest gained from ones own practical experience and social experience, setting and exploring original research questions through a review of related previous research.

In the master's academic paper (business design), based the problem of interest gained from ones own practical experience and social experience, developing the business model and plan with novelty, feasibility, and sociality.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：履修者の関心領域・履修者の研究プラン・事業プランの共有
- 3回：経営学系論文を読む
- 4回：経営学系論文を読む
- 5回：先行研究の検討・参考文献リスト／事業機会の検討
- 6回：先行研究の検討・参考文献リスト／事業機会の検討
- 7回：先行研究の検討・参考文献リスト／事業機会の検討
- 8回：調査分析方法の検討／事業機会の創出
- 9回：調査分析方法の検討／事業機会の創出
- 10回：仮説の構築／ビジネスモデルの構想
- 11回：仮説の構築／ビジネスモデルの構想
- 12回：仮説の構築／ビジネスモデルの構想
- 13回：修士論文の中間報告会
- 14回：修士論文の中間報告会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、各自の課題に取組み準備のうえ授業に臨むことを心がけましょう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の報告:100%

### テキスト / Textbooks

各自のテーマと進捗に応じて適宜指示します。

ただし、受け身ではなく、自身でも積極的に関連文献を探し学習する姿勢が必要です。

### 参考文献 / Readings

川崎剛 優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

久保克行 経営学のための統計学・データ分析 東洋経済新報社 2021 9784492503294

三谷宏治 ビジネスモデル全史 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014 9784799315637

深井宣光 SDGs ビジネスモデル図鑑 KADOKAWA 2023 9784046061430

同上

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業参加時は PC 必須です。

**その他/ Others**

履修者のプレゼンテーションとディスカッション形式で授業運営を行います。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG736
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）の作成

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design)

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は修了研究Aに引き続き、修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design) following Study of Maser's Thesis A .

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査分析の進捗確認／事業プラン構想の具体化
- 2 回：調査分析の進捗確認／事業プラン構想の具体化
- 3 回：調査分析の進捗確認／事業プラン構想の具体化
- 4 回：調査結果の分析と解釈／事業プランにおける経営理念・成長戦略の策定
- 5 回：調査結果の分析と解釈／事業プランにおける経営理念・成長戦略の策定

- 6回：修士論文の中間報告  
 7回：修士論文の中間報告  
 8回：結論導出／ビジネスプランの最終構想策定  
 9回：結論導出／ビジネスプランの最終構想策定  
 10回：本提出に向けた確認・指導  
 11回：本提出に向けた確認・指導  
 12回：本提出に向けた確認・指導  
 13回：審査会に向けた準備・指導  
 14回：審査会に向けた準備・指導

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、各自の課題に取組み準備のうえ授業に臨むことを心がけましょう。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の報告：100%

### テキスト / Textbooks

各自のテーマと進捗に応じて適宜指示します。

ただし、受け身ではなく、自身でも積極的に関連文献を探し学習する姿勢が必要です。

### 参考文献 / Readings

川崎剛 優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

久保克行 経営学のための統計学・データ分析 東洋経済新報社 2021 9784492503294

三谷宏治 ビジネスモデル全史 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014 9784799315637

深井宣光 SDGs ビジネスモデル図鑑 KADOKAWA 2023 9784046061430

同上

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業参加時はPC必須です。

### その他 / Others

履修者のプレゼンテーションとディスカッション形式で授業運営を行います。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG739  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成への助言を行う。

Advising on the creation of a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

- 論文テーマ設定
- ビジネスプラン
- マーケット分析
- フィジビリティスタディ
- オペレーションプラン

- Academic paper theme setting
- Business Plan
- Market research
- Feasibility study

・ Operation planning

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 2回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 3回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 4回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 5回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 6回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 7回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 8回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 9回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 10回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 11回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 12回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 13回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 14回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 指導面談の際の準備状況・質疑応答:100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG740  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成への助言を行う。

Advising on the creation of a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

- 論文テーマ設定
- ビジネスプラン
- マーケット分析
- フィジビリティスタディ
- オペレーションプラン

- Academic paper theme setting
- Business Plan
- Market research
- Feasibility study

・ Operation planning

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する。  
 2回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 3回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 4回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 5回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 6回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 7回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 8回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 9回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 10回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 11回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 12回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 13回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 14回：原則として土曜日2時限（必要に応じ1時限）とするが、受講生と相談のうえ決定する

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 指導面談の際の準備状況・質疑応答:100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究 A

Study of Master's Thesis A

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG741  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）の作成。また、そのための知識・スキルの習得。

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design). In addition, acquire the knowledge and skills for this purpose.

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）の作成に向けた指導を行う。本授業では各自の関心にもとづいて研究テーマを設定した上で、定量分析の手法を用いて仮説を検証する。ゼミ形式での議論を通じて研究を進めていくことを予定しているが、運営方法および内容は人数・進捗に応じて柔軟に設定する。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design). In this class, research topics will be determined based on individual interests, and hypotheses will be tested using quantitative analysis.

This class is planned to conduct research through seminar-style discussions, but the format and content may be

adjusted based on the progress and number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：研究テーマの検討
- 3回：先行研究の調査
- 4回：先行研究の調査
- 5回：先行研究の調査
- 6回：先行研究の調査
- 7回：仮説の設定
- 8回：仮説の設定
- 9回：データの収集と前処理
- 10回：データの収集と前処理
- 11回：データの収集と前処理
- 12回：データの収集と前処理
- 13回：夏季休暇中の研究計画
- 14回：夏季休暇中の研究計画

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回までに実施すべき内容を適宜確認し、自律的に取り組むことが推奨されます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の報告:100%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

論文執筆およびデータ分析等に必要となるため PC を準備すること。なお定量分析には R や Python を用いることを想定している。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG742  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）の作成。また、そのための知識・スキルの習得。

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design). In addition, acquire the knowledge and skills for this purpose.

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文（ビジネスリサーチ）あるいは修士論文（ビジネスデザイン）の作成に向けた指導を行う。本授業では各自の関心にもとづいて研究テーマを設定した上で、定量分析の手法を用いて仮説を検証する。ゼミ形式での議論を通じて研究を進めていくことを予定しているが、運営方法および内容は人数・進捗に応じて柔軟に設定する。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design). In this class, research topics will be determined based on individual interests, and hypotheses will be tested using quantitative analysis.

This class is planned to conduct research through seminar-style discussions, but the format and content may be

adjusted based on the progress and number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：夏季休暇中の進捗共有
- 2回：夏季休暇中の進捗共有
- 3回：仮説の検証
- 4回：仮説の検証
- 5回：仮説の検証
- 6回：仮説の検証
- 7回：中間報告
- 8回：中間報告
- 9回：論文執筆
- 10回：論文執筆
- 11回：論文執筆
- 12回：論文執筆
- 13回：最終報告に向けた準備
- 14回：最終報告に向けた準備

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回までに実施すべき内容を適宜確認し、自律的に取り組むことが推奨されます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の報告:100%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

論文執筆およびデータ分析等に必要となるため PC を準備すること。なお定量分析には R や Python を用いることを想定している。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 修了研究 A

Study of Master's Thesis A

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG745  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および食品産業との関連性を「フードシステム」の視点で理解し、農産物・食品流通の実態について、また食品安全を含む付加価値情報の流通、表示・認証制度、マーケティングについて理解するスキルを身につける。

Understand the relationship between agriculture and the food industry from a "food system" approach, and understand the actual state of agricultural production and food distribution, as well as the communication of food safety, value-addition, labeling and certification systems, and marketing.

## 授業の内容 / Course Contents

農業は、さまざまな関連産業と結びついて多くのビジネス機会を提供している。農業および関連産業では、輸出というグローバル化指向の事業者が増えているが、ひきつづきローカル化に強みを発揮する農業者、事業者は多い。関連産業と結びつきやすいのは後者である。本授業では、以上のような実態をフードシステムの視点で把握し、そこに見られる課題や論点について考察する。

Agriculture is connected to various related industries and provides many business opportunities. In agriculture and related industries, the number of businesses oriented toward globalization through export is increasing, but

there are still many farmers and businesses that continue to have their strengths in localization. The latter is more likely to be linked to related industries. In this course, we will understand the above-mentioned actual situation from the food system approach, and consider the issues and points of contention that arise there.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農産物市場の特性 (1)  
 2 回：農産物市場の特性 (2)  
 3 回：食品産業とフードシステム (1)  
 食品産業の発展とフードチェーン  
 4 回：食品産業とフードシステム (2)  
 食品産業の発展とインテグレーション  
 5 回：食品産業とフードシステム (3)  
 食品産業の発展とバリューチェーン  
 6 回：生産情報の付加価値化 (1)  
 品質とは何か，プロダクト属性とプロセス属性  
 7 回：生産情報の付加価値化 (2)  
 情報の不完全とは何か  
 8 回：生産情報の付加価値化 (3)  
 付加価値の実現とは  
 9 回：食のリスク管理 (1)  
 10 回：食のリスク管理 (2)  
 11 回：表示制度と基準・認証 (1)  
 12 回：表示制度と基準・認証 (2)  
 13 回：産地呼称と地域ブランド化 (1)  
 14 回：産地呼称と地域ブランド化 (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので、確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG746  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および食品産業との関連性を「フードシステム」の視点で理解する能力を身につけて、さらに修士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案、調査研究のためのスキル向上を目指す。

The aim is to acquire the ability to understand the relationship between agriculture and the food industry from a "food system" approach, and to improve the skills for setting a topic for writing a master's thesis, formulating a research plan, and conducting research actually.

## 授業の内容 / Course Contents

履修者は、各自の問題意識にそった先行研究、または関連するビジネスの先行事例のレビューを行う。その上で、新規性とオリジナリティを意識した論文作成、ビジネスプランに向けた議論、作成を進める。

Students will review previous research or related business cases in line with their own interest. Based on this, we will proceed with writing papers with an emphasis on novelty and originality, as well as discussing and creating a business plan.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究の進め方について

- 2回：テーマの選定，仮説設定について  
 3回：先行研究の収集・分析（1）  
 4回：先行研究の収集・分析（2）  
 5回：実証研究の進め方（1）  
 6回：実証研究の進め方（2）  
 7回：実証研究の進め方（3）  
 8回：論文作法について（1）  
 9回：論文作法について（2）  
 10回：論文作法について（3）  
 11回：論文作成の実際（1）  
 12回：論文作成の実際（2）  
 13回：論文作成の実際（3）  
 14回：論文作成の実際（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので，確認のうえ準備学習すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

#### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

#### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

古川 英一 (FURUKAWA EIICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG751
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

選定した M&A に関するテーマを修士論文（ビジネスリサーチ）として作成すること、または、起業、新規事業創造に向けての具体的なビジネスモデル・プランとして策定し、修士論文（ビジネスデザイン）を作成することを目的とする。

The purpose of this course is to teach how to write a master academic paper (business research) on a theme related to M&A chosen by the student, or to create a master academic paper (business design) which is formulated as a specific business model/plan for entrepreneurship and new business creation.

## 授業の内容 / Course Contents

M&A に関するテーマに基づき、M&A が果たす経済的な役割の実証研究、M&A の事例研究、経営戦略に基づく M&A 戦略の実行プランの立案、など学生との個別相談にて研究テーマを決定する。

ビジネスデザインでは、新規性・実現可能性・社会性のある事業を構想し、具体的なビジネスモデル・プランとして策定することを指導する。

Based on a theme related to M&A, the course aims to decide a study theme of an academic paper by the

individual consultation with the student such as the study of the economic role that M&A serves, the case study on M&A, the planning of implementing the M&A strategy, and so on.

Also, the aim of this business design course is to conceptualize a business with novelty, feasibility, and sociality as a completion study, and to formulate it as a concrete business model and plan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：輪読①/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 3回：輪読②/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 4回：輪読③/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 5回：輪読④/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 6回：輪読⑤/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 7回：輪読⑥/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 8回：輪読⑦/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 9回：輪読⑧/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 10回：輪読⑨/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 11回：輪読⑩/論文アウトライン（個別テーマによる学生とのディスカッション等）
- 12回：論文アウトライン発表①
- 13回：論文アウトライン発表②
- 14回：論文アウトライン発表③

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 輪読書「Buy Then Build」 WALKER DEIBEL 著
- ・ M&A に関する一般的知識
- ・ 日々発表される M&A 案件の考察
- ・ M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と取組み:50% 完成度:50%

### テキスト / Textbooks

デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザーズ・M&A デイール 企業買収・売却プロセス実践対策集  
中央経済社 2021 9784502392016 ○

「ビジネスデザインハンドブック」（ビジネスデザイン研究科発行）を全員に配布

### 参考文献 / Readings

ブリーリー、マイヤーズ コーポレートファイナンス 第10版 上・下 日経BP社 2014  
マッキンゼー・アンド・カンパニー 企業価値評価 第7版 上下 ダイヤモンド社 2022

**その他/ Others**

当授業に続き、修了研究 B を履修することが望ましい

**注意事項**

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

古川 英一 (FURUKAWA EIICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG752
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

学生が選定した M&A に関するテーマを論文として書くことを指導する。

The purpose of this course is to teach how to write an academic paper on a theme related to M&A chosen by the student.

## 授業の内容 / Course Contents

M&A が果たす経済的な役割の実証研究、M&A の事例研究、経営戦略に基づく M&A 戦略の実行プランの立案、など学生が選定した研究テーマに基づき討論し、論文の完成へ指導する

The course aims to discuss the study theme chosen by the student with the student such as the study of the economic role that M&A serves, the case study on M&A, the planning of implementing the M&A strategy, and so on, and teach how to complete an academic paper.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：論文に関する指導（各自報告①）
- 2 回：論文に関する指導（各自報告②）
- 3 回：論文に関する指導（各自報告③）



- 4回：論文に関する指導（中間報告①）  
 5回：論文に関する指導（中間報告②）  
 6回：論文に関する指導（最終論点①）  
 7回：論文に関する指導（最終論点②）  
 8回：論文に関する指導（最終論点③）  
 9回：論文に関する指導（最終論点④）  
 10回：論文に関する指導（最終発表会①）  
 11回：論文に関する指導（最終発表会②）  
 12回：論文に関する指導（最終発表会③）  
 13回：最終プレゼンテーション①  
 14回：最終プレゼンテーション②

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ M&A に関する一般的知識
- ・ 日々発表される M&A 案件の考察
- ・ M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と取組み:50% 完成度:50%

### テキスト / Textbooks

デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザーズ・M&A デイール 企業買収・売却プロセス実践対策集  
 中央経済社 2021 9784502392016 ○

適宜授業内で指示する

### 参考文献 / Readings

ブリーリー、マイヤーズ コーポレートファイナンス 第10版 上・下 日経BP社 2014  
 マッキンゼー・アンド・カンパニー 企業価値評価 第7版 上下 ダイヤモンド社 2022

### その他 / Others

当授業の前に、修了研究 A を履修することが望ましい

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG753
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

スモールビジネスからの起業・地域活性化につながる起業・ソーシャルビジネス起業についての修了研究（ビジネスプラン）を指導する。春学期は、修了研究（ビジネスプラン）の概要と調査方法について検討する。

This is the course for Master's thesis (Business Plan) associated with Small Business, Regional Development, and Social Business.

During the Spring semester, we will review the outline of one's business plan and the research methods.

## 授業の内容 / Course Contents

学生は、ビジネスプランの概要と調査方法について2回プレゼンテーションを行い、教員や他の学生からのフィードバックやアドバイスを受ける。

Students will be asked to make presentation twice: the outline of their business plan and the research methods.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：土曜日2限に対面で行う
- 2回：土曜日2限に対面で行う
- 3回：土曜日2限に対面で行う

- 4回：土曜日2限に対面で行う  
 5回：土曜日2限に対面で行う  
 6回：土曜日2限に対面で行う  
 7回：土曜日2限に対面で行う  
 8回：土曜日2限に対面で行う  
 9回：土曜日2限に対面で行う  
 10回：土曜日2限に対面で行う  
 11回：土曜日2限に対面で行う  
 12回：土曜日2限に対面で行う  
 13回：土曜日2限に対面で行う  
 14回：土曜日2限に対面で行う

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学期中に2回プレゼンテーションの準備をする

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

欠席する場合には、事前に教員に連絡をする

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG754  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

スモールビジネスからの起業・地域活性化につながる起業・ソーシャルビジネス起業についての修了研究（ビジネスプラン）を指導する。

教員や他の学生からのフィードバックやアドバイスをもとに、修了研究（ビジネスプラン）を仕上げる

This is the course for Master's thesis (Business Plan) associated with Small Business, Regional Development, and Social Business.

During the Fall Semester, students will be asked to modify and finalize one's business plan.

## 授業の内容 / Course Contents

学生は学期中2回、ビジネスプランのドラフトについて発表し、フィードバックを受ける

Students will be asked to make presentation twice and receive feedback.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する

2回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する

3回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する

- 4回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 5回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 6回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 7回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 8回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 9回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 10回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 11回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 12回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 13回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する  
 14回：原則として土曜日2時限とするが、受講生と相談のうえ決定する

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は発表スケジュールに向かって、プレゼン資料を用意する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

欠席する場合には、事前に教員に連絡をする

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG755  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修了研究（ビジネスリサーチ、ビジネスプラン）を完成させるための先行研究とリサーチデザインを明確にし、調査準備を整えること

The goal of this course is to prepare for MBA research by reviewing the previous research and clarifying research design to complete paper (business research or business plan).

## 授業の内容 / Course Contents

各自が研究計画のドラフトを持ち寄り、ゼミ全員で議論を深めながら「問い」を明確にしていく。自身の「問い」を探求するための先行研究やデータを持ち寄り、リサーチデザインの全体像を形成する。ゼミ人数によるが、1回に2~3名ずつ研究進捗を発表し全体討議を行う。

Each participant brings a draft of the research plan to investigate the "research question" by deepen discussion with colleagues.

Bring in previous research and data to explore your own "research question" and form the whole picture of research design.

2 to 3 participants will make a presentation for the progress of the research (depending on the number of presenters), and hold a general discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：研究の進め方(1)
- 3回：研究の進め方(2)
- 4回：先行研究(1)
- 5回：先行研究(2)
- 6回：問いと論文構成(1)
- 7回：問いと論文構成(2)
- 8回：研究モデルと調査設計(1)
- 9回：研究モデルと調査設計(2)
- 10回：研究モデルと調査設計(3)
- 11回：先行研究部分の執筆(1)
- 12回：先行研究部分の執筆(2)
- 13回：先行研究部分の執筆(3)
- 14回：前半部分のまとめと夏期休暇期間の目標設定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

修了研究を進捗させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 修了研究の進捗:100%

### テキスト / Textbooks

授業内で紹介します。

### 参考文献 / Readings

戸田山和久 新版論文の教室 NHK 出版 2012 9784140911945

佐藤郁哉 ビジネス・リサーチ 東洋経済新報社 2021 9784492503287

服部泰宏 組織行動の考え方・使い方 有斐閣 2020 9784641165663

須田敏子 マネジメント研究への招待 中央経済社 2019 9784502296116

久保克行 経営学のための統計学・データ分析 東洋経済新報社 2021 9784492503294

授業内で紹介します。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG756  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修了研究（ビジネスリサーチ、ビジネスプラン）を完成させるための調査データの分析、解釈、執筆を完了させ、論文発表会の準備を行うこと。

The goal of this course is to finalize for MBA research by analyzing data, writing papers, and preparing the presentation to complete paper (business research or business plan).

## 授業の内容 / Course Contents

各自が進捗中の研究を持ち寄り、ゼミ全員で議論を深めながら論文を仕上げていく。

ゼミ人数によるが、1回に2~3名ずつ研究進捗を発表し全体討議を行う。

Each participant brings own progress of the research, and discusses with colleagues deeply and logically.

2 to 3 participants will make a presentation for the progress of the research (depending on the number of presenters), and hold a general discussion.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1 回：夏期休業期間中の進捗確認
- 2 回：調査データの分析と解釈(1)
- 3 回：調査データの分析と解釈(2)
- 4 回：論文構成の再構築と目次決定(1)
- 5 回：論文構成の再構築と目次決定(2)
- 6 回：全体執筆の進捗確認(1)
- 7 回：全体執筆の進捗確認(2)
- 8 回：全体執筆の進捗確認(3)
- 9 回：全体執筆の進捗確認(4)
- 10 回：全体執筆の進捗確認(5)
- 11 回：全体執筆の進捗確認(6)
- 12 回：全体執筆の進捗確認(7)
- 13 回：全体執筆の進捗確認(8)
- 14 回：口頭試問準備

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

修了研究を進捗させること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 修了研究の完成:100%

#### テキスト / Textbooks

授業内で紹介します。

#### 参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG757
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

多数の先行研究の収集・読解、研究テーマの明確化、章構成の確定、多数の資料の収集、分析を通じて、修士論文（ビジネスリサーチ）を作成する。

Writing a master's academic paper through the collection and reading comprehension of many academic sources, the preparation of the text of the dissertation by clarifying the research theme, defining the chapter structure, collecting and analyzing many sources.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は修士論文（ビジネスリサーチ）を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。多数の先行研究や研究対象に対する実態の理解の上に、研究テーマおよび論点を明確化しつつ、各章構成を確定した上で、先行研究、必要なデータや論拠を収集、整理しながら、文章化を進めていく。そのために学生による進捗報告とそれに対する指導教授の指導や他の教員や学生とのディスカッションを通じて、個々の研究を段階的に進めていく。春学期終了前には、夏休みおよび秋学期での論文作成に向けて課題を明確にし、論文執筆に向けてのスケジュールを決定する。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business

research) .

In this class, we will learn the below points; understanding many academic sources and the state of research subjects; clarifying the research theme and issues; defining each chapter structure; collecting and organizing academic sources, necessary data and arguments; and writing the paper. To this end, the individual research will be advanced in stages through guidance from the supervisor and discussions on each student's progress report with other faculty members and students. Before the end of the spring semester, clarifying the issues to prepare for the summer vacation and the fall semester based on the comments, and write the papers, and determining a schedule for it.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション	
2回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No1
3回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No2
4回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No3
5回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No4
6回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No5
7回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No6
8回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No7
9回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No8
10回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No9
11回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No10
12回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No11
13回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No12
14回：まとめ	

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各指導教員の指示に従う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告および出席:100%

### テキスト / Textbooks

適宜授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

適宜授業内で指示する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG758  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

多数の先行研究の収集・読解、研究テーマの明確化、章構成の確定、多数の資料の収集、分析を通じて、修士論文（ビジネスリサーチ）を作成する。

Writing a master's academic paper through the collection and reading comprehension of many academic sources, the preparation of the text of the dissertation by clarifying the research theme, defining the chapter structure, collecting and analyzing many sources.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業は修士論文（ビジネスリサーチ）を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。

学生による進捗報告とそれに対する指導教授の指導や他の教員や学生とのディスカッションを通じて、個々の研究を段階的に進めていく。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business research).

The individual research will be advanced in stages through guidance from the supervisor and discussions on each student's progress report with other faculty members and students.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

1回：オリエンテーション	
2回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No1
3回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No2
4回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No3
5回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No4
6回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No5
7回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No6
8回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No7
9回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No8
10回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No9
11回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No10
12回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No11
13回：個々の学生への研究指導（学生による報告とディスカッション）	No12
14回：まとめ	

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

各指導教員の指示に従う。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告および出席:100%

**テキスト / Textbooks**

適宜授業内で指示する。

**参考文献 / Readings**

適宜授業内で指示する。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG759  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文としてビジネスリサーチ、あるいはビジネスデザインの作成を行う。

The purpose of this course is to write a business research or a business design as the master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

単に卒業のためではなく、履修者の卒業後のキャリア形成に役立つ修士論文の作成に向け、各自のバックグラウンドとこれまでの経験、専門性の高い分野等を踏まえた課題設定を行う。

リサーチでは、課題分野の現状分析、先行研究の検討を行い、リサーチクエスションの設定、リサーチプランの立案を行う。ビジネスプランでは、対象とするビジネステーマを選定し、ビジネスモデルの設定、環境分析、マネタイズの方法、収益性等の検討を行う。参加者相互に知見を出しつつ、議論を進め、秋学期に論文として完成を目指す地歩を固める。

In order to enhance the future career development of each student, this course sets the appropriate theme focused on the individual business experience, special interest field and past academic career.

Toward the research paper, students are expected to analyze the current status of the target topics, study the previous academic paper, then set research question and make their research plan. Toward the business plan,

students are expected to assess the business opportunity in their mind, then make the business model and evaluate the business environment, monetize method and profitability of the plan.

During the session, students are expected to work with other students. Based upon their suggestion, instructor provides support to ensure the research/business planning process for the final goal in the fall terms.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション（担当者の専門領域の共有と履修者の関心分野の共有）
- 2 回：各履修者のリサーチ／ビジネスデザインにおける関心分野についての発表、ディスカッション
- 3 回：各履修者のリサーチ／ビジネスデザインにおける関心分野についての発表、ディスカッション
- 4 回：各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
- 5 回：各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
- 6 回：各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
- 7 回：各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
- 8 回：各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
- 9 回：各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
- 10 回：リサーチ、ビジネスデザインを構成する要素の確認  
スケルトンの作成方法
- 11 回：これまでのディスカッションをもとにしたスケルトンの発表とディスカッション
- 12 回：これまでのディスカッションをもとにしたスケルトンの発表とディスカッション
- 13 回：夏季休暇中の研究計画・アンケート・サーベイ計画の発表
- 14 回：夏季休暇中の研究計画・アンケート・サーベイ計画の発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分自身の発表内容に対し、得られた意見や助言を消化し、研究計画のブラッシュアップに努めること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス参加と議論への貢献度:50% 発表物の内容:50%

内容の巧拙に関わらず、きちんと意見を述べ、課題を発表し、クラス全員の研究に貢献する姿勢を重視します。

### テキスト / Textbooks

各自の研究の内容、進捗状況を踏まえ、必要な文献を提示します。

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG760  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文としてビジネスリサーチ、あるいはビジネスデザインの作成を行う。

The purpose of this course is to write a business research or a business design as the master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

履修者の卒業後のキャリア形成に役立つ修士論文の作成に向け、春学期での指導と成果をフォローし、質の高い論文作成指導を行う。

春学期に策定したリサーチプラン、ビジネスプランのその後の進捗を点検し、補足作業の必要性を検討、指導する。一連の作業の結果を踏まえ、修士論文として完成するまでのプロセスを指導するとともに、合わせて、プレゼンのスキルも身につけられる機会を提供する。

In order to enhance the future career development of each student, following the outcome from the academic works since spring term, students are expected to set the work plan necessary to produce higher quality paper. Reviewing the updated status of research plan, or business plan which was set during the spring term, we consider the next step towards the goal and consider the necessity of additional research or fine tuning on the



work plan,

Based upon the series of review, students are expected to set the proper process to complete the master thesis with good quality. In addition, instructor provides basic skills for students to deliver presentation and perform better.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
- 2回：研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
- 3回：研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
- 4回：研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
- 5回：リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
- 6回：リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
- 7回：リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
- 8回：リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
- 9回：リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
- 10回：リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
- 11回：リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
- 12回：リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
- 13回：最終とりまとめと発表スキルの完成
- 14回：最終とりまとめと発表スキルの完成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% クラス参加と議論への貢献度:50% 発表物の内容:50%

内容の巧拙に関わらず、きちんと意見を述べ、課題を発表し、クラス全員の研究に貢献する姿勢を重視します。

### テキスト / Textbooks

各自の研究の内容、進捗状況を踏まえ、必要な文献を提示します。

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG763
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスプランの研究テーマ設定、構成・内容等の構想、分析手法の検討等について助言することを目的とする。先行研究の収集・分析、フレームワーク活用での全体構造作成、定量・定性分析手法、ビジネスプラン作成方法等を一貫してレクチャー&ワークで指導。適宜の個別指導も実施。

The goal is to advise on the research theme of the business plan, concept of the structure and its contents, examination of the analysis method, etc. We consistently provide lectures & work on the collection and analysis of prior research, the creation of the whole structure through the use of the framework, quantitative and qualitative analysis methods, business plan creation methods, etc. We also offer individual guidance as needed.

## 授業の内容 / Course Contents

修了研究ビジネスプランを通じて担当教官として指導していきたいこと。それは、グランドデザインを意識したビジネスプランである。グランドデザインとは、世界観や歴史観に基づく大局的で壮大な視点から、国家・社会・ビジネス・企業の在り方を描いていくことであり、それらの全体像と構成要素を明快に指し示していくことである。グランドデザインにおいて重要なことは、それが全体像や構成要素を指し示すだけでなく、実際に提供していく商品・サービスの細部にまで哲学として行き渡っていくことを凡事徹底していくことである。

る。グランドデザインの中核は、徹底した分析や洞察に基づいて、自らの世界観・ミッション・ビジョン・アイデンティティーを構築していくことである。「今、世界はどのような状況にあり、自分達が置かれている国家や社会や業界はどのような立場にあるのか?」「自分達が求められている/果たすべき役割とは何であるのか?」「その役割にしたがって自分達は何をしていくのか?」そして、グランドデザインとは、「自分達がどのように在りたいのか?」という自己実現上の目標でなければならないものでもある。つまりは、「自分達はこう在りたい」という理想の提示でなければならない。自分達の自己実現上の目標であり理想の提示であるからこそ、現時点においては挑戦的であるからこそ、グランドデザインは自分達や周りの人達を鼓舞し、大きな威力を発揮するものとなるのである。人口が減少し、人口構造が大きく変化し、閉塞感が強まっている現在の日本に置かれているからこそ、組織や人が長期的に繁栄を続け社会に貢献していくためには、小手先の事業再構築程度では不十分であり、グランドデザインから愚直に問い直し、真のイノベーションを通じて新たな価値を創造していくことが求められているのだ。創造するという、人に与えられた本来の生きる意義に真剣に対峙することが、グランドデザインそのものであるのだ。ありきたりの戦略、ましてや戦術レベルだけで改善を図っていかうとしても、もはや長期的な繁栄は無理な時代に置かれているのである。志向する分野・業界を問わず、「自分は何者か/自分は何を目指すのか/自分は何を目指したいのか?」から愚直に問い直し、「自分はこう在りたい」という理想の提示を、修了研究ビジネスプランを通じて実現していきたいと考える学生の受講を心から歓迎したい。

We would like to teach via a business plan for completion research as instructors. It is a business plan that takes into consideration grand design. Grand design means depicting the state, society, business, and enterprise from a perspective that is broad and grandiose, based on a view of the world and history and clearly show the whole picture and the components of it. The important thing to note in grand design is not only to indicate the whole picture and the components, but also to make all efforts to disseminate the philosophy to the details of the products and services that are being offered. The core of grand design is to build your own worldview, mission vision, and identity based on thorough analysis and insight. "What is the situation in the world right now, and what is the position of the state, society, and industry in which we are located?", "what role are we requested to play/should play", "what are we going to do according to that role?", and then grand design is "how do we want to be?" and it also must be something that is a self-fulfilling goal. In other words, it must be the presentation of the idea that "we want to be like this". It is challenging when presenting because it is an ideal presentation of a goal of self-realization of oneself, and grand design inspires oneself and the people around them and shows great power. In Japan currently, where the population is decreasing, the population structure is changing greatly, and the sense of stagnation is strong, it is not enough to rebuild the business a small step at a time for organizations and people to continue to contribute to the society in the long term and it is necessary to reconsider grand design and create new value through true innovation. It is important to take seriously the original meaning of life given to people, but that is grand design itself. Even if we try to improve a conventional strategy, let alone at a tactical level, the long-term prosperity will no longer be there. Regardless of the field or industry you aspire to, ask again in a simple and honest way "who am I/what are my goals/what am I aiming for?" We wish to sincerely welcome students who wish to realize the idea of "I want to be like this" through the completion of the research business plan.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
- 2 回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
- 3 回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定

- 4回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 5回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 6回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 7回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 8回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 9回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 10回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 11回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 12回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 13回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 14回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経営戦略、マーケティング戦略、財務・ファイナンス、組織・人事、マネジメント、リーダーシップ等経営学の幅広い分野において、深い知識を身につけておくこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究内容と結果:50% 普段のコミュニケーション:50%

### テキスト / Textbooks

- 竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 高橋恭介+田中道昭 『あしたの履歴書』 ダイヤモンド社 2017 9784478103937 -  
 田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656 -

### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG764
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスプランの研究テーマ設定、構成・内容等の構想、分析手法の検討等について助言することを目的とする。先行研究の収集・分析、フレームワーク活用での全体構造作成、定量・定性分析手法、ビジネスプラン作成方法等を一貫してレクチャー&ワークで指導。適宜の個別指導も実施。

The goal is to advise on the research theme of the business plan, concept of the structure and its contents, examination of the analysis method, etc. We consistently provide lectures & work on the collection and analysis of prior research, the creation of the whole structure through the use of the framework, quantitative and qualitative analysis methods, business plan creation methods, etc. We also offer individual guidance as needed.

## 授業の内容 / Course Contents

修了研究ビジネスプランを通じて担当教官として指導していきたいこと。それは、グランドデザインを意識したビジネスプランである。グランドデザインとは、世界観や歴史観に基づく大局的で壮大な視点から、国家・社会・ビジネス・企業の在り方を描いていくことであり、それらの全体像と構成要素を明快に指し示していくことである。グランドデザインにおいて重要なことは、それが全体像や構成要素を指し示すだけでなく、実際に提供していく商品・サービスの細部にまで哲学として行き渡っていくことを凡事徹底していくことである。

る。グランドデザインの中核は、徹底した分析や洞察に基づいて、自らの世界観・ミッション・ビジョン・アイデンティティーを構築していくことである。「今、世界はどのような状況にあり、自分達が置かれている国家や社会や業界はどのような立場にあるのか?」「自分達が求められている/果たすべき役割とは何であるのか?」「その役割にしたがって自分達は何をしていくのか?」そして、グランドデザインとは、「自分達がどのように在りたいのか?」という自己実現上の目標でなければならないものでもある。つまりは、「自分達はどう在りたい」という理想の提示でなければならない。自分達の自己実現上の目標であり理想の提示であるからこそ、現時点においては挑戦的であるからこそ、グランドデザインは自分達や周りの人達を鼓舞し、大きな威力を発揮するものとなるのである。人口が減少し、人口構造が大きく変化し、閉塞感が強まっている現在の日本に置かれているからこそ、組織や人が長期的に繁栄を続け社会に貢献していくためには、小手先の事業再構築程度では不十分であり、グランドデザインから愚直に問い直し、真のイノベーションを通じて新たな価値を創造していくことが求められているのだ。創造するという、人に与えられた本来の生きる意義に真剣に対峙することが、グランドデザインそのものであるのだ。ありきたりの戦略、ましてや戦術レベルだけで改善を図っていかうとしても、もはや長期的な繁栄は無理な時代に置かれているのである。志向する分野・業界を問わず、「自分は何者か/自分は何を目指すのか/自分は何を目指したいのか?」から愚直に問い直し、「自分はどう在りたい」という理想の提示を、修了研究ビジネスプランを通じて実現していきたいと考える学生の受講を心から歓迎したい。

We would like to teach via a business plan for completion research as instructors. It is a business plan that takes into consideration grand design. Grand design means depicting the state, society, business, and enterprise from a perspective that is broad and grandiose, based on a view of the world and history and clearly show the whole picture and the components of it. The important thing to note in grand design is not only to indicate the whole picture and the components, but also to make all efforts to disseminate the philosophy to the details of the products and services that are being offered. The core of grand design is to build your own worldview, mission vision, and identity based on thorough analysis and insight. "What is the situation in the world right now, and what is the position of the state, society, and industry in which we are located?", "what role are we requested to play/should play", "what are we going to do according to that role?", and then grand design is "how do we want to be?" and it also must be something that is a self-fulfilling goal. In other words, it must be the presentation of the idea that "we want to be like this". It is challenging when presenting because it is an ideal presentation of a goal of self-realization of oneself, and grand design inspires oneself and the people around them and shows great power. In Japan currently, where the population is decreasing, the population structure is changing greatly, and the sense of stagnation is strong, it is not enough to rebuild the business a small step at a time for organizations and people to continue to contribute to the society in the long term and it is necessary to reconsider grand design and create new value through true innovation. It is important to take seriously the original meaning of life given to people, but that is grand design itself. Even if we try to improve a conventional strategy, let alone at a tactical level, the long-term prosperity will no longer be there. Regardless of the field or industry you aspire to, ask again in a simple and honest way "who am I/what are my goals/what am I aiming for?" We wish to sincerely welcome students who wish to realize the idea of "I want to be like this" through the completion of the research business plan.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
- 2 回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
- 3 回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定

- 4回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 5回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 6回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 7回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 8回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 9回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 10回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 11回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 12回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 13回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定  
 14回：スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経営戦略、マーケティング戦略、財務・ファイナンス、組織・人事、マネジメント、リーダーシップ等経営学の幅広い分野において、深い知識を身につけておくこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究内容と結果:50% 普段のコミュニケーション:50%

### テキスト / Textbooks

- 竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 高橋恭介+田中道昭 『あしたの履歴書』 ダイヤモンド社 2017 9784478103937 -  
 田中道昭 GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656 -

### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG765  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆に必要な基礎知識や能力を身につける。

Acquire the basic knowledge and skills necessary for writing a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文の執筆に向け、研究テーマの絞り込みを検討し、それに合わせて文献や資料の収集方法を指導する。その中から先行研究になりそうなものを選択し、輪読とディスカッションを行った後、先行研究のまとめ方の指導を行う。続いて、修士論文の構成（章立て）についての指導を行う。

最後に、修士論文の執筆に必要な PC スキル（Word や Excel 等の機能）、利用できるデータベースの使用について解説する。

In order to write a master's academic paper, we will look at a narrowed down research theme and guide you on how to collect literature and materials according to it. The one that seems like it will be a prior research from among them is selected, and after reading in turns and discussing, guidance on the way of summarizing prior research is performed. Then, guidance on the composition (collation) of the master's academic paper is performed.



Finally, PC skills (functions such as Word and Excel) that are required for writing a master's academic paper and the use of available databases are explained.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマの選定
- 2回：文献や資料の検索方法
- 3回：先行研究の輪読とディスカッション（1）
- 4回：先行研究の輪読とディスカッション（2）
- 5回：先行研究の輪読とディスカッション（3）
- 6回：先行研究の輪読とディスカッション（4）
- 7回：先行研究のまとめ（1）
- 8回：先行研究のまとめ（2）
- 9回：論点整理（1）
- 10回：論点整理（2）
- 11回：論文執筆に必要なPCスキルの修得
- 12回：データ収集とデータベースの利用
- 13回：成果報告（1）
- 14回：成果報告（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。  
研究テーマに即した基礎的な科目を履修しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参加状況:30% 演習内での報告:35% 最終レポート割合：:35%

### テキスト / Textbooks

特になし。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参すること。

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、簡単な講義に続いて教員と履修者、あるいは履修者同士でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG766  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

論文の構成を確認し、執筆に関する種々の指導を行う。

The composition of the academic paper is confirmed and various guidance on the writing is performed.

## 授業の内容 / Course Contents

本演習での研究テーマは、経営分析研究や会計学研究を基本とする（周辺分野の研究でも可）。  
春学期までに終了しているであろう研究テーマの選定や先行研究のレビューや章立ての検討を基礎として修士論文の執筆指導を進めていく。

指導方法はグループ指導と個別指導の2本立てで行う。グループ指導では、章ごとの内容の口頭発表と質疑を通じて多様な視点を研究に取り込み、個別指導では論点整理を行う。

The research theme in this seminar is based on management analysis research and accounting research (can be used for research in surrounding fields).

This course will focus on the selection of research themes that may have been completed by the spring semester, review of prior research, and review of chapters as a basis for the guidance on the writing of a masters academic paper.

Two types of guidance methods are performed, group and individual guidance. In group guidance, various viewpoints are incorporated into the research through oral presentation of the contents of each chapter and questions, and the point of dispute is arranged in individual guidance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：先行研究のレビューの確認（1）
- 2 回：先行研究のレビューの確認（2）
- 3 回：章立ての再検討
- 4 回：仮説の構築と検証（1）
- 5 回：仮説の構築と検証（2）
- 6 回：仮説の構築と検証（3）
- 7 回：論理一貫性の確認と討議（1）
- 8 回：論理一貫性の確認と討議（2）
- 9 回：論文執筆指導（1）
- 10 回：論文執筆指導（2）
- 11 回：論文執筆指導（3）
- 12 回：論文執筆指導（4）
- 13 回：成果報告（1）
- 14 回：成果報告（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。  
授業の終了後には、授業内での指摘事項について復習や修正を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参加状況:30% 演習内での報告:35% 最終レポート割合：35%

### テキスト / Textbooks

特になし。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参すること。

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、個別指導の4回を除き、教員と履修者、あるいは履修者同士でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は71.4%（14回中10回）である。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG767
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

各自が選んだテーマに関連する過去の論文・書籍等の発表をしたり討論を行うことで、修士論文の完成を目標とする。

The purpose of this course is to help students improve their academic writing, especially of research papers.

## 授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、修士論文の完成にむけた研究指導を行います。

This course aims to advise students in writing a paper. The course introduces fundamental concepts of academic writing including audience, purpose, organization, style, flow, and presentation, with a special focus on helping students construct research papers.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画に関する指導
- 2 回：研究テーマと関連する研究領域の指導
- 3 回：先行研究のレビュー（1）
- 4 回：先行研究のレビュー（2）

- 5回：研究テーマの社会的意義の確認（1）  
 6回：研究テーマの社会的意義の確認（2）  
 7回：研究テーマの絞り込みに関する指導（1）  
 8回：研究テーマの絞り込みに関する指導（2）  
 9回：仮説と検証方法に関する指導（1）  
 10回：仮説と検証方法に関する指導（2）  
 11回：仮説と検証方法に関する指導（3）  
 12回：論文作成指導（1）  
 13回：論文作成指導（2）  
 14回：論文作成指導（3）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済学・経営学・会計学・法学・統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 論文の完成度:40% クラスディスカッションへの貢献:30% 出席したうえで積極的な討論への参加:30%

#### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。

#### 参考文献 / Readings

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG768  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

各自が選んだテーマに関連する過去の論文・書籍等の発表をしたり討論を行うことで修士論文の完成を目標とする。

The purpose of this course is to help students improve their academic writing, especially of research papers.

## 授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、修士論文の完成に向けた研究指導を行います。

This course aims to advise students in writing a paper. The course introduces fundamental concepts of academic writing including audience, purpose, organization, style, flow, and presentation, with a special focus on helping students construct research papers.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画に関する指導
- 2 回：研究テーマと関連する研究領域の指導
- 3 回：先行研究のレビュー（1）
- 4 回：先行研究のレビュー（2）

- 5回：研究テーマの社会的意義の確認（1）
- 6回：研究テーマの社会的意義の確認（2）
- 7回：研究テーマの絞り込みに関する指導（1）
- 8回：研究テーマの絞り込みに関する指導（2）
- 9回：仮説と検証方法に関する指導（1）
- 10回：仮説と検証方法に関する指導（2）
- 11回：仮説と検証方法に関する指導（3）
- 12回：論文作成指導（1）
- 13回：論文作成指導（2）
- 14回：論文作成指導（3）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済学・経営学・会計学・法学・統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 論文の完成度:40% クラスディスカッションへの貢献:30% 出席したうえで積極的な討論への参加:30%

#### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。

#### 参考文献 / Readings

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG769  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆に必要な基礎知識や能力を身につける。

Acquire the basic knowledge and skills necessary for writing a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文を執筆するために、研究テーマの設定・絞り込みを検討する。また、論文執筆に必要な文献や資料、事例の収集方法を指導する。研究テーマの内容を深めるために、輪読とディスカッションを行う。さらに、修士論文の構成（章立て）についての指導を行う。

その際、論文作成に必要な作法、注意点などについても指導する。フィールドワーク、調査研究が必要な学生には、そのサポートも行う。

In order to write a master's thesis, consider setting and narrowing down the research theme. In addition, guidance will be given on how to collect literature, materials, and case studies necessary for writing a thesis. In order to deepen the content of the research theme, reading and discussion are conducted. In addition, guidance will be given on the composition (chapter setting) of the master's thesis.

At that time, we will also provide guidance on the manners and precautions necessary for writing a thesis. We

also provide support for students who need fieldwork and research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマの検討
- 2回：文献や資料の検索方法
- 3回：先行研究の輪読とディスカッション（1）
- 4回：先行研究の輪読とディスカッション（2）
- 5回：先行研究の輪読とディスカッション（3）
- 6回：先行研究の輪読とディスカッション（4）
- 7回：研究テーマの論点検討（1）
- 8回：研究テーマの論点検討（2）
- 9回：研究テーマの論点検討（3）
- 10回：研究テーマの論点検討（4）
- 11回：フィールドワーク・調査研究の検討（1）
- 12回：フィールドワーク・調査研究の検討（2）
- 13回：成果報告（1）
- 14回：成果報告（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

研究テーマに即した基礎的な科目を履修しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参加状況:50% 演習内での報告:30% 演習内での発言:20%

### テキスト / Textbooks

特になし。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG770  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文のテーマ、構成を確認し、論文執筆に必要な指導を行う

Confirm the theme and structure of the master's thesis, and provide guidance necessary for writing the thesis.

## 授業の内容 / Course Contents

本演習で取り扱う研究テーマは経済学、アジア経済、起業、ソーシャルビジネスなどである。

受講生が考えた研究テーマの選定や先行研究のレビューや章立ての検討に基づいて修士論文作成のための指導を行う。

指導方法はグループ指導と個別指導の2本立てで行う。グループ指導では、章ごとの内容の口頭発表と質疑を通じて多様な視点を研究に取り込み、個別指導では論点整理を行う。

The research themes dealt with in this exercise include economics, the Asian economy, entrepreneurship, and social business.

Guidance will be provided for the preparation of the master's thesis based on the selection of the research theme that the student has considered, the review of previous research, and the consideration of chapters.

There are two methods of instruction: group instruction and individual instruction. Group guidance incorporates

diverse perspectives into research through oral presentations and question-and-answer sessions on the content of each chapter, while individual guidance organizes points of discussion.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：先行研究の検討・確認（1）
- 2 回：先行研究検討一の確認（2）
- 3 回：論文構成の検討
- 4 回：論理構成の確認と検討（1）
- 5 回：論理構成の確認と検討（2）
- 6 回：論理構成の確認と検討（3）
- 7 回：論文としての独創性検討（1）
- 8 回：論文としての独創性検討（2）
- 9 回：論文執筆指導（1）
- 10 回：論文執筆指導（2）
- 11 回：論文執筆指導（3）
- 12 回：論文執筆指導（4）
- 13 回：成果報告（1）
- 14 回：成果報告（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。  
授業の終了後には、授業内での指摘事項について復習や修正を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参加状況:30% 演習内での報告:50% 演習内での発言:20%

### テキスト / Textbooks

特になし。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG771  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 原則として毎回オンラインで実施する。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆、ビジネスプランの作成に対し、支援助言する

This class provides support and advice for writing a master's thesis or developing a business plan

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文と卒論・レポートとの違い

執筆計画、先行研究の取り扱い

テーマ設定、仮説と検証、方法論、データ・リソースの確保

市場予測、需要予測、収支計算

Differences between a master's thesis and a thesis or report

Writing plan, handling of previous research

Establishing themes, hypotheses and proofs, methodology, data and resources

Market forecasting, demand forecasting, income and expenditure calculations

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 2回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 3回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 4回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 5回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 6回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 7回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 8回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 9回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 10回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 11回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 12回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 13回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。  
 14回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

前半は進捗状況を全員毎週発表します。

テーマは6月中には決めましょう。そのためには4月5月は先行研究を読破して参考とする研究を絞1本から2本にするようにします。

夏休みに本格的に執筆開始とするために、リサーチの方は仮説とその証明のストーリーを7月中に決めます。プランの方は、競合企業や市場範囲、差別化戦略など本質的な要素を夏休みに固めるために、大筋のプラン(何を売るか、何で勝つか)を7月中に決めます。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表:60% 授業での議論、発言、貢献:40%

欠席、遅刻は厳禁です。8割以上の出席を求めます。遅刻はいろんな迷惑になるのでしないこと。

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

ポール・J・シルヴィア できる研究者の論文生産術 講談社 2021 9784061531536

川崎 剛 社会科学系のための優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG772  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 原則として毎回オンラインで実施する。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆、ビジネスプランの作成に対し、支援助言する

This class provides support and advice for writing a master's thesis or developing a business plan

## 授業の内容 / Course Contents

分析方法の確認、

データの統計処理の検討、

論文構成の確認、

文献整理および記載方法の確認

プランの妥当性の検討、

修士論文提出後は口頭試問向けプレゼン練習

Confirmation of analytical methods,

Review of statistical treatment of data,

Confirmation of the structure of the paper,  
 Confirmation of References and description  
 Review the validity of business plan,  
 After submission of master's thesis, practice presentation for oral examination

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 2回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 3回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 4回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 5回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 6回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 7回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 8回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 9回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 10回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 11回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 12回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 13回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。
- 14回：原則として木曜 G5・6 限とするが、受講生と相談の上決定する。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

11月の仮提出締切時には、全体の8割が完成しているイメージで進めます。ということは、9月にはリサーチの方は構成と主張および依拠する先行研究との違いの主眼が決まり、あとは証明、検証するだけという状態だということです。プランのかたは、何をだれにどのように売るか、なぜそのプランが成功するか、なぜそのプランが継続できるか、など事業の内容がほぼ決まっていることが重要です。9月と10月にかけて仕上げていきます。毎回、全体の進行プランと現在の進捗状況について発表してもらいます。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表:70% 授業での議論、発言、貢献:30%

欠席、遅刻は厳禁です。8割以上の出席を求めます。遅刻はいろんな迷惑になるのでしないこと。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

ポール・J・シルヴィア できる研究者の論文生産術 講談社 2021 9784061531536

川崎 剛 社会科学系のための優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG775  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成への助言を行なう。

Advising on the creation of a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

- 論文テーマ設定
  - マーケット・顧客分析
  - ビジネスモデル開発
  - 仮説の設定
  - リサーチ
  - オペレーションプラン
  - マーケティング戦略
  - フィージビリティスタディー・収益計算
  - リスク分析、出口戦略
- Academic paper theme setting

- Market and customer analysis
- Business model development
- Assumptions
- Market research
- Researches
- Operation planning
- Marketing strategy
- Feasibility study
- Risk management and exit strategy

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 2回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 3回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 4回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 5回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 6回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 7回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 8回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 9回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 10回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 11回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 12回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 13回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 14回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 指導面談の際の準備状況・質疑応答:100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

ジョン マッキー、ラジェンドラ シソーディア 世界でいちばん大切にしたい会社 コンシャス・カンパニー 翔泳社 2014 9784798134543

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

---

タイムマネジメント

**注意事項**

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG776  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成への助言を行なう。

Advising on the creation of a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

- 論文テーマ設定
  - マーケット・顧客分析
  - ビジネスモデル開発
  - 仮説の設定
  - リサーチ
  - オペレーションプラン
  - マーケティング戦略
  - フィージビリティースタディー・収益計算
  - リスク分析、出口戦略
- Academic paper theme setting

- Market and customer analysis
- Business model development
- Assumptions
- Market research
- Researches
- Operation planning
- Marketing strategy
- Feasibility study
- Risk management and exit strategy

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 2回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 3回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 4回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 5回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 6回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 7回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 8回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 9回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 10回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 11回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 12回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 13回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする
- 14回：原則として土曜日 3限（必要に応じ4限）とする

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 指導面談の際の準備状況・質疑応答:100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

タイムマネジメント

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG779  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスリサーチおよびビジネスデザインを作成するための助言と指導を行うこと。  
Provide advice and guidance for creating business research and business designs.

## 授業の内容 / Course Contents

研究テーマは各自の問題意識に基づいて決定するが、教員はマクロ組織論や戦略論を理論的ベースとした企業の戦略に関する定量的実証研究を専門としている。論文は(1)研究質問の設定、(2)先行研究の検討、(3)理論・仮説構築、(4)インタビュー調査・ケース分析、(5)データ収集、(6)データ解析、(7)結論の導出というプロセスで構成され、各プロセスで修正を加えながらこれらの作業を繰り返すことで進められる（事例分析の場合は(5)、(6)を除く）。修了研究Aでは、はじめに論文とは何かに関するレクチャーを行う。そのうえで、研究質問の設定と研究手法の検討まで行うことを想定している。運営方法はゼミ形式を予定しているが、人数に応じて学生と相談のうえ決定する。また、指導内容、指導時間などは学生の進捗や予定に合わせて臨機応変に対応する。

Research topics are determined based on each individual's problem awareness, but the faculty specializes in quantitative empirical research on corporate strategy based on macro-organizational theory and strategy theory.

The academic paper consists of the following processes: (1) formulation of the research question, (2) review of previous studies, (3) theory and hypothesis development, (4) interview survey and case analysis, (5) data collection, (6) data analysis, and (7) drawing of conclusions. In the case of "case study analysis", (5) and (6) are excluded. In this course, a lecture on what a thesis is is given at the beginning. This course is planned to be seminar-style, but this will be decided after consultation with the students depending on the number of students. The content and time of instruction will be flexible according to the progress and schedule of the students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：運営方法について
- 2 回：論文を書くということ (1)
- 3 回：論文を書くということ (2)
- 4 回：問題意識
- 5 回：問題意識
- 6 回：研究質問の設定
- 7 回：研究質問の設定
- 8 回：先行研究の検討
- 9 回：先行研究の検討
- 10 回：先行研究の検討
- 11 回：理論・仮説構築
- 12 回：理論・仮説構築
- 13 回：研究手法の検討
- 14 回：研究手法の検討

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の報告:100%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG780  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスリサーチおよびビジネスデザインを作成するための助言と指導を行うこと。  
Provide advice and guidance for creating business research and business designs.

## 授業の内容 / Course Contents

研究テーマは各自の問題意識に基づいて決定するが、教員はマクロ組織論や戦略論を理論的ベースとした企業の戦略に関する定量的実証研究を専門としている。論文は(1)研究質問の設定、(2)先行研究の検討、(3)理論・仮説構築、(4)インタビュー調査・ケース分析、(5)データ収集、(6)データ解析、(7)結論の導出というプロセスで構成され、各プロセスで修正を加えながらこれらの作業を繰り返すことで進められる（事例分析の場合は(5)、(6)を除く）。修了研究 B では研究手法の検討から結論の導出までを想定している。運営方法はゼミ形式を予定しているが、人数に応じて学生と相談のうえ決定する。また、指導内容、指導時間などは学生の進捗や予定に合わせて臨機応変に対応する。

Research topics are determined based on each individual's problem awareness, but the faculty specializes in quantitative empirical research on corporate strategy based on macro-organizational theory and strategy theory. The academic paper consists of the following processes: (1) formulation of the research question, (2) review of

previous studies, (3) theory and hypothesis development, (4) interview survey and case analysis, (5) data collection, (6) data analysis, and (7) drawing of conclusions. In the case of "case study analysis", (5) and (6) are excluded. This course is expected to cover everything from the examination of research methods to the drawing of conclusions. This course is planned to be seminar-style, but this will be decided after consultation with the students depending on the number of students. The content and time of instruction will be flexible according to the progress and schedule of the students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：運営方法について
- 2 回：研究手法の検討
- 3 回：研究手法の検討
- 4 回：分析の実施
- 5 回：分析の実施
- 6 回：分析の実施
- 7 回：分析の実施
- 8 回：分析の実施
- 9 回：結果の解釈
- 10 回：結果の解釈
- 11 回：結果の解釈
- 12 回：結果の解釈
- 13 回：結論の検討
- 14 回：結論の検討

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の報告:100%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究A

Study of Master's Thesis A

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG787  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文を完成するために必要な知識・スキルを習得する。

Acquire the knowledge and skills necessary to complete a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、経営組織論の理論的発展および主要理論を整理するとともに、現代的な課題、なかでもグローバル化とイノベーション創出をテーマとして研究することが、基本的な関心である。

そのうえで、以下の領域に関心のある学生を指導する。

- 1) ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
- 2) ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
- 3) ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
- 4) 観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
- 5) 企業組織に関する研究
- 6) 組織と社会との関係に関する研究
- 7) 組織と個人との関係に関する研究

In this discipline, the fundamental interest is to study modern problems, especially globalization and innovation creation, as well as to arrange theoretical development and the main theories of Organizational Management. Moreover, we will guide students who have an interest in the following areas:

- 1) Research on current issues in hospitality business
- 2) Comparative study of international management of hospitality business
- 3) Research on new businesses in the fields of hospitality business
- 4) Research on luxury business as a new area of tourism research
- 5) Research on corporate organization
- 6) Research on the relationship between organizations and society
- 7) Research on the relationship between organizations and individuals

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：論文とは何か
- 2 回：研究にとっての論文の意味
- 3 回：アカデミズムとジャーナリズム
- 4 回：相関関係と因果関係
- 5 回：「科学的」とはなにか
- 6 回：帰納法と演繹法
- 7 回：1次データと2次データ
- 8 回：データの価値とサンプリング
- 9 回：統計ソフトの選択
- 10 回：図書館とデータベース
- 11 回：先行研究の調査と選別の基準
- 12 回：仮説の設定
- 13 回：学生プレゼンテーション
- 14 回：学生プレゼンテーション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

とくに必要としない。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:50% 授業への取組み:50%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

授業において指示する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 修了研究B

Study of Master's Thesis B

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG788  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文の完成に向けて、必要な知識およびスキルを習得する。

Acquire the necessary knowledge and skills to complete a master's academic paper.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、経営組織論の理論的発展および主要理論を整理するとともに、現代的な課題、なかでもグローバル化とイノベーション創出をテーマとして研究することが、基本的な関心である。

そのうえで、以下の領域に関心のある学生を指導する。

- 1) ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
- 2) ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
- 3) ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
- 4) 観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
- 5) 企業組織に関する研究
- 6) 組織と社会との関係に関する研究
- 7) 組織と個人との関係に関する研究

In this discipline, the fundamental interest is to study modern problems, especially globalization and innovation creation, as well as to arrange theoretical development and the main theories of Organizational Management. Moreover, we will guide students who have an interest in the following areas:

- 1) Research on current issues in hospitality business
- 2) Comparative study of international management of hospitality business
- 3) Research on new businesses in the fields of hospitality business
- 4) Research on luxury business as a new area of tourism research
- 5) Research on corporate organization
- 6) Research on the relationship between organizations and society
- 7) Research on the relationship between organizations and individuals

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究対象の検討
- 2 回：研究テーマ・仮説の検討
- 3 回：研究意義の検討
- 4 回：研究方法の検討
- 5 回：仮説とその検定
- 6 回：目次の作成
- 7 回：先行研究の整理
- 8 回：参考文献と注釈
- 9 回：論文の体裁と表記
- 10 回：論文作成の指導 1
- 11 回：論文作成の指導 2
- 12 回：論文作成の指導 3
- 13 回：プレゼンテーションの指導 1
- 14 回：プレゼンテーションの指導 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

同一担当教員の修了研究 A を履修していること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取組み:100%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

授業において必要に応じて指示する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 専門研究 A

Study of Master's Thesis A

笠原 英一／青淵 正幸 (KASAHARA EIICHI / AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG981
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

経営の実践の場で多くの人々が認識をしている課題に関して何らかの貢献することのできる修士論文もしくはビジネスプランの作成を支援することである。対象とする経営分野については、特に限定はしないが、研究・開発、競争戦略、マーケティング、消費者行動論、機能戦略（価値連鎖・供給連鎖）、DX などであることが望ましい。

The main purpose of this course is to support students to prepare academic papers or business plans that are expected to contribute to solve practical needs in business or society. The topics or themes for research do not need to be limited into certain fields, but ideally the following domains are recommended: R&D, competitive strategy, marketing management(B2B, B2C), consumer behavior, operational management (VC, SC),etc.

## 授業の内容 / Course Contents

良い研究とは、多くの人々が価値を見出してくれる分野で真実に迫ったものとする。研究には、仮説を立案して、その仮説を何らかの形で検証するプロセスが含まれる必要がある。修士論文（ビジネスリサーチ）の作成に限らず、ビジネスプラン（ビジネスデザイン）の立案に際しても、仮説の探索、検証のプロセスを展開することで、魅力のある提言につなげていくことができると考える。授業の大きな構成は以下の通り。

テーマの明確化  
 仮説の設定と検証  
 論文/ビジネスプラン作成（文章化）  
 プレゼンテーション準備

Ideal research projects should contain the following process: exploring research questions, setting up hypotheses and verifying them. In both developing research papers and business plans, students are supposed to apply the above process in order to create appropriate and persuasive proposals. The main steps are as follows:

Clarify themes

Set up and verify hypotheses

Develop research papers/business plans

Prepare for the presentation

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：テーマ検討
  - ・各自の興味や関心のある領域に関する基礎理論の学習
- 2 回：テーマ検討
  - ・各自の興味や関心のある領域に関する基礎理論の学習
- 3 回：テーマの仮設定にむけての準備
  - ・既存の先行研究論文に関する探索
  - ・関連論文に関する分析
  - ・類似事業モデルに関する調査
- 4 回：テーマの仮設定にむけての準備
  - ・既存の先行研究論文に関する探索
  - ・関連論文に関する分析
  - ・類似事業モデルに関する調査
- 5 回：仮テーマの報告
  - ・先行研究論文、関連研究論文の要約
  - ・類似事業のケーススタディ要約
  - ・テーマ変更に関しての決定
- 6 回：仮テーマの報告
  - ・先行研究論文、関連研究論文の要約
  - ・類似事業のケーススタディ要約
  - ・テーマ検討に関しての決定
- 7 回：研究テーマ・提案事業に関する本調査のための準備
  - ・プレリサーチの計画、実施
  - ・簡易顧客アンケート、専門家インタビュー、競合ヒアリング
  - ・データ収集・分析
- 8 回：研究テーマ・提案事業に関する本調査のための準備
  - ・プレリサーチの計画、実施
  - ・簡易顧客アンケート、専門家インタビュー、競合ヒアリング
  - ・データ収集・分析

## 9回：研究テーマ・提案事業に関する本調査の計画と実施

- ・既存研究論文のレビュー
- ・仮説の設定と調査方法の決定
- ・調査の企画、実施、データ収集

## 10回：研究テーマ・提案事業に関する本調査の計画と実施

- ・既存研究論文のレビュー
- ・仮説の設定と調査方法の決定
- ・調査の企画、実施、データ収集

## 11回：調査結果のまとめ

- ・調査結果の分析
- ・補足調査の実施（必要に応じて）

## 12回：調査結果のまとめ

- ・調査結果の分析
- ・補足調査の実施（必要に応じて）

## 13回：論文作成・ビジネスプランの作成

- ・論文の骨子（既存類似先行研究要約、仮説、検証方法）
- ・ビジネスプランの基本方向（事業領域、競争戦略、提供物）

## 14回：論文作成・ビジネスプランの作成

- ・論文の骨子（既存類似先行研究要約、仮説、検証方法）
- ・ビジネスプランの基本方向（事業領域、競争戦略、提供物）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業をマイルストーンとして、各自で設定した必要な作業を進めたうえで授業に参加していただくとよいでしょう。ゼミのメンバーがアドバイザー/コンサルタントとして他のメンバーに対するサポートやアドバイスをしながら、メンバー全員が授業での新たな気づきを最大限享受できるような有益な時間にしていきたいと考えます。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:30% 議論貢献:30% アウトプット:40%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings****注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 専門研究B

Study of Master's Thesis B

笠原 英一／青淵 正幸 (KASAHARA EIICHI/ AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG982  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経営の実践の場で多くの人々が認識をしている課題に関して何らかの貢献することのできる修士論文もしくはビジネスプランの作成を支援することである。対象とする経営分野については、特に限定はしないが、研究・開発、競争戦略、マーケティング、消費者行動論、機能戦略（価値連鎖・供給連鎖）、DX などであることが望ましい。

The main purpose of this course is to support students to prepare academic papers or business plans that are expected to contribute to solve practical needs in business or society. The topics or themes for research do not need to be limited into certain fields, but ideally the following domains are recommended: R&D, competitive strategy, marketing management(B2B, B2C), consumer behavior, operational management (VC, SC),etc.

## 授業の内容 / Course Contents

良い研究とは、多くの人々が価値を見出してくれる分野で真実に迫ったものとする。研究には、仮説を立案して、その仮説を何らかの形で検証するプロセスが含まれる必要がある。修士論文（ビジネスリサーチ）の作成に限らず、ビジネスプラン（ビジネスデザイン）の立案に際しても、仮説の探索、検証のプロセスを展開することで、魅力のある提言につなげていくことができると考える。授業の大きな構成は以下の通り。

テーマの明確化  
 仮説の設定と検証  
 論文/ビジネスプラン作成（文章化）  
 プレゼンテーション準備

Ideal research projects should contain the following process: exploring research questions, setting up hypotheses and verifying them. In both developing research papers and business plans, students are supposed to apply the above process in order to create appropriate and persuasive proposals. The main steps are as follows:

Clarify themes

Set up and verify hypotheses

Develop research papers/business plans

Prepare for the presentation

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査研究の進捗状況の確認
  - ・ 研究内容の発表
  - ・ 発表内容に関する相互コーチング
- 2 回：調査研究の進捗状況の確認
  - ・ 研究内容の発表
  - ・ 発表内容に関する相互コーチング
- 3 回：論文・ビジネスプラン作成支援
  - ・ グループ討議
  - ・ 学科会投稿準備（希望に応じて）
- 4 回：論文・ビジネスプラン作成支援
  - ・ グループ討議
  - ・ 学科会投稿準備（希望に応じて）
- 5 回：中間報告に向けての論文・ビジネスプラン作成支援
  - ・ 個別に発表
  - ・ Q&A
- 6 回：中間報告に向けての論文・ビジネスプラン作成支援
  - ・ 個別に発表
  - ・ Q&A
- 7 回：中間報告に向けての論文・ビジネスプラン作成支援
  - ・ 個別に発表
  - ・ Q&A
- 8 回：中間報告に向けての論文・ビジネスプラン作成支援
  - ・ 個別に発表
  - ・ Q&A
- 9 回：最終報告に向けての論文・ビジネスプラン作成支援
  - ・ 個別に発表
  - ・ Q&A
- 10 回：最終報告に向けての論文・ビジネスプラン作成支援

- ・個別に発表
- ・Q&A
- 11回：最終報告に向けての論文・ビジネスプラン精緻化支援
- ・個別に発表
- ・Q&A
- 12回：最終報告に向けての論文・ビジネスプラン精緻化支援
- ・個別に発表
- ・Q&A
- 13回：最終報告に向けての論文・ビジネスプラン精緻化支援
- ・個別に発表
- ・Q&A
- 14回：最終報告に向けての論文・ビジネスプラン精緻化支援
- ・個別に発表
- ・Q&A

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業をマイルストーンとして、各自で設定した必要な作業を進めたうえで授業に参加していただくとよいでしょう。ゼミのメンバーがアドバイザー/コンサルタントとして他のメンバーに対するサポートやアドバイスをしながら、メンバー全員が授業での新たな気づきを最大限享受できるような有益な時間にしていきたいと考えます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:25% 議論貢献:25% アウトプット:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 専門研究A

Study of Master's Thesis A

手塚 貞治/安田 直樹 (TEZUKA SADAHARU/ YASUDA NAOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VG983
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文の完成を目指す。

## 授業の内容 / Course Contents

主に経営戦略分野における修士論文作成の指導を実施する。研究テーマの選定から、仮説設定、調査分析、論文としてのとりまとめまでを、討論を通じて指導する。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：修了研究の進め方
- 2 回：研究テーマ選定①
- 3 回：研究テーマ選定②
- 4 回：研究テーマ選定③
- 5 回：研究テーマ選定④
- 6 回：先行研究レビュー①
- 7 回：先行研究レビュー②
- 8 回：先行研究レビュー③

- 9回：先行研究レビュー④  
 10回：研究課題の設定①  
 11回：研究課題の設定②  
 12回：研究課題の設定③  
 13回：研究課題の設定④  
 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自予習のうえ発表していただく

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究内容（発表・進捗状況等の研究内容）：60% ゼミ貢献（討議参加等のゼミへの貢献）：40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 専門研究B

Study of Master's Thesis B

手塚 貞治/安田 直樹 (TEZUKA SADAHARU/ YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VG984  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6020  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

修士論文の完成を目指す。

## 授業の内容 / Course Contents

主に経営戦略分野における修士論文作成の指導を実施する。研究テーマの選定から、仮説設定、調査分析、論文としてのとりまとめまでを、討論を通じて指導する。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査研究①
- 2 回：調査研究②
- 3 回：調査研究③
- 4 回：調査研究④
- 5 回：分析・考察①
- 6 回：分析・考察②
- 7 回：分析・考察③
- 8 回：分析・考察④

- 9回：論文作成①  
 10回：論文作成②  
 11回：論文作成③  
 12回：論文作成④  
 13回：論文作成⑤  
 14回：論文作成⑥

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自予習のうえ発表していただく

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究内容（発表・進捗状況等の研究内容）：40% ゼミ貢献（討議参加等のゼミへの貢献）：20% 論文完成度：40%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ホスピタリティデザイン特講4B

Special Seminar on Hospitality Design 4B

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH198

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経営専門職人材としてのインターンシップを通して

1. 経営学の諸理論およびフレームワークについての理解を深めること
2. 経営の諸領域に関する実践的な理解を深めること
3. 高度経営専門職人材としてのキャリアについて理解を深めること
4. 大学院における自己の学修課題を明確化すること

Through an internship as a management professional

1. To deepen the understanding of the theories and frameworks of business management studies
2. To deepen the practical understanding of various areas of business management
3. To deepen the understanding of careers as highly-skilled management professionals
4. To identify your own study goals in graduate school.

## 授業の内容 / Course Contents

春学期中に履修者の選考及び事前研修を経て、夏季休暇以降に企業にインターンとして派遣する。派遣期間は3か月から6か月程度。インターンシップ終了後に報告会を実施する。

なお、本科目は秋学期開講科目であるが、履修希望者は4月下旬に始まるエントリー期間に履修申請すること。

Student selection and preparatory training will take place during the spring semester and students will be sent to respective companies as interns during or after the summer break. The duration of the internship will be 3 months to 6 months. A debriefing session will be conducted in the fall semester.

Although this course is scheduled for the fall semester, candidates wishing to enroll need to apply during the entry period which begins in late-April.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：エントリー
- 2回：面接
- 3回：面接合格後、事前講習①
- 4回：事前講習②
- 5回：事前講習③
- 6回：派遣先企業希望提出
- 7回：派遣先企業との面接
- 8回：派遣先企業決定
- 9回：インターンシップの実施
- 10回：実施期間中の報告書提出
- 11回：インターンシップ報告会の企画
- 12回：インターンシップ報告会の実施
- 13回：インターンシップ報告会の記録作成
- 14回：派遣先企業への報告書作成

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外にもインターンシップのための準備を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 派遣先企業の評価:40% 派遣先企業への報告書:40% 報告会でのプレゼンテーション:20%

### テキスト / Textbooks

なし

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜指示する。

### その他 / Others

授業開始前に履修者の選考（書類審査・面接）を行います。  
履修希望者は事前ガイダンスに必ず参加してください。

# ホスピタリティデザイン特講5B

Special Seminar on Hospitality Design 5B

観光地経営専門家育成プログラム

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH200

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

観光による地域振興を図るためには、変化する観光の動向を的確にとらえ、観光地を革新し、マネジメントする能力をもった人材が求められる。この授業では、そうした知識・スキルをもった人材＝観光地経営専門家を育成することを目標とした知識の習得と、観光地経営に必要とされる調査分析方法について学ぶ。

In order to revitalize local communities through tourism, people who have the ability to accurately capture the changing tourism trends, and innovating and managing tourist destinations are required. In this class, we will learn about the acquisition of knowledge and skills as the tourist destinations management experts, and how to analyze the research required for tourist management.

## 授業の内容 / Course Contents

観光地を経営し、革新することの意義を理解し、実践する力を身につけるために、現代の観光を取り巻く様々な環境条件と変わりゆく観光の動向を多角的に把握するとともに、地域資源の活用、効果的な地域情報発信の方法など、観光と地域振興に関わる多角的な視点からの知識とそのための調査分析方法を学び、さらに事例研究を通したより実践的・発展的な学習を行う。授業期間中に、内容に即した2度のフィールドワーク(任意参

加)を実施する。

In order to understand the significance of running a tourist destination, the significance of innovation, and to acquire the ability to practice, we study the trends of tourism that is changing from various environmental conditions surrounding modern tourism and community. Learn the multifaceted knowledge from the perspective of tourism and regional promotion, such as the utilization of regional resources and effective regional information transmission methods, and the research and analysis methods for that purpose, and further learning more practically through case study. During the class period, two fieldwork (voluntary participation) will be planned according to the content.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光地における価値の創造
- 3 回：観光地の調査分析方法 1：地理学
- 4 回：観光地からの情報発信
- 5 回：観光地のソーシャルイノベーション①
- 6 回：観光地のソーシャルイノベーション②
- 7 回：観光地の調査分析方法 2：フィールドワーク
- 8 回：町並み観光地の経営
- 9 回：観光地の調査分析方法 3：経済学
- 10 回：新しい観光地経営の事例分析
- 11 回：温泉観光地の経営
- 12 回：温泉観光地の経営事例分析
- 13 回：観光地経営と地域のステークホルダー
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義後に、講義内容が自らの研究にいかに関活用しうるかを考えつつ復習を行うこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義・議論への参加状況:60% 最終レポート割合：40%

講義や議論への参加状況、課題レポートで評価する。

### テキスト / Textbooks

授業時に資料を配布する。

### 参考文献 / Readings

配布資料に記載する。

### その他 / Others

授業期間中に2度のフィールドワークを計画している。任意参加で交通費は自己負担となるが、観光地経営の

実際に学ぶ良い機会であるので、参加を強く勧める。



# 医療経済学概論

Economics of Health Care

八木 麻衣子 (YAGI MAIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VH211
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

医療・介護やその周辺領域で活動を行うために必要なあらゆる事項を、医療経済学的な視点で理解する

The aim of this lecture is to understand matters necessary to carry out activities in and around the health care system and nursing care field.

## 授業の内容 / Course Contents

国民皆保険を基盤とした日本の医療・介護サービス産業は国民の健康達成度に貢献し、海外からも高い評価を得ている。しかし、地域包括ケアシステムへの移行や、2040 年問題に向けた政策課題とされている医療・福祉サービス改革による生産性の向上など、医療・介護領域が取り組むべき課題は多い。そもそも、医療・介護分野は、医療資源の分配問題に代表されるさまざまな課題を内包するがゆえ、制度設計が重要な領域なのである。

限られた医療資源を有効に活用するためには、需要側である患者やその家族、さらには国民の理解が必要である。また、供給側である医療提供側においては、制度や政策、そして医療における経済的特性を理解する必要がある。そのうえで、医療の価値を最大化することを目的とした新たな競争基準の概念に基づいた組織戦略を可能とするため、医療・介護サービス産業全般の環境分析を行えることが必要となる。

そこで本講義では、現在の社会背景や国の戦略をふまえた医療・介護分野の問題点について医療経済学的な視点で整理を行い、急速に進む医療の情報化、今後のイノベーションが期待される先進医療、創薬、医療機器開発分野や健康関連産業を含め、医療・介護やその周辺領域で活動を行うために必要なあらゆる知識について、包括的に理解することを目的とする。

なお、本講義は問題提起のための材料を講義にて提示し、それをもとに参加者によるディスカッションを中心とした構成とする。医療・介護領域の組織運営者や医療者のみならず、幅広い分野からの参加者ととも、現在の医療現場における問題を探り解決の一端を見出す場としたい。

Medical and nursing care service industry in Japan, based on universal health insurance, contribute to the health attainment of the Japanese people and are highly regarded overseas. However, there are many issues that need to be addressed, such as the establishing a comprehensive community care system and the improving productivity through medical and welfare service reform, which is a policy issue for the 2040 problem. In the first place, the medical and nursing care fields involves various issues, such as the allocation of medical resources, and therefore the system design is important.

Effective use of limited medical resources required the understanding of the demand side, such as patients, their families, and the public. In addition, health care providers on the supply side need to understand the institutions, policies, and economic characteristics. In addition, we should understand the concept of new competitive standards aimed at maximizing the value of health care, and learn the ability to analyze the overall environment and take organizational strategies.

Therefore, the purpose of this lecture is to provide a comprehensive understanding of all the knowledge necessary to conduct activities in the medical and nursing care and related fields.

The lecture will be structured around discussions by the participants based on the issues presented in the lecture.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：医療経済学とは
- 3回：医療制度の概要と医療・介護制度改革の方針
- 4回：医療における需要と供給
- 5回：医療・介護サービスの経済的特徴とその影響
- 6回：「医療の質」の本質と評価方法の変遷
- 7回：医療における情報化と情報開示の在り方
- 8回：医療の情報化と医療・介護連携 -地域包括ケアシステムに向けて-
- 9回：医療の効率化をめぐる議論-行動経済学視点での分析-
- 10回：医療における価格（医療費）を決定する因子
- 11回：医療とイノベーションの在り方
- 12回：医療・介護周辺領域でのビジネスチャンス
- 13回：期末プレゼンテーション（1）
- 14回：期末プレゼンテーション（2）

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書  教材（パワポ等）の使用  上記以外の視聴覚教材の使用

個人発表 : ○ グループ発表 : ディスカッション・ディベート : ○  
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
上記いずれも用いない予定 :

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加姿勢:30% 授業における発言頻度とその内容:40% 期末プレゼンテーション:30%

**テキスト / Textbooks**

特に定めない

**参考文献 / Readings**

授業にて随時紹介する

**その他 / Others**

医療経営学概論と併せての履修が望ましい

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 医療経営学概論

Management of Health Care

八木 麻衣子 (YAGI MAIKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH212  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

医療機関や介護施設における組織運営について経営学的な幅広い視点で理解する

The aim of this lecture is to understand the organizational management in medical institutions and nursing homes from a wide managerial perspective.

## 授業の内容 / Course Contents

医療機関や介護施設は、数年ごとにもたらされる診療報酬制度の改訂という外部環境の急激な変化に対し、そのつどビジョンや戦略の変更を余儀なくされる状況に置かれている。また、多くの高度専門職種を抱えるがゆえ、個人のキャリア形成と組織のガバナンスをどのように両立させるかなど、その運営に困難さを抱えている。

一方で、これまでの医療機関においては、医療の特殊性を大義名分とし、組織的問題に対する取り組みが十分に行われてこなかったことも否定できない。医療の品質管理をはじめとして、一般企業における取り組みが応用できる場面は多いと考えられるが、そのような取り組みも十分とは言えない状況が存在する。また、今後は病院のみならずクリニック・介護施設を含め、要点を抑えた多角的な運営の必要性も増している。

そこで本講義では、医療経営学概論で整理した医療・介護サービス産業のマクロ的背景や外部環境を踏ま

え、医療・介護領域の組織運営に関連した事象について、ミクロ的な視点の整理をもとに理解を深め、戦略に基づいた医療機関や介護施設における組織運営について考察する。

なお、本講義は問題提起のための材料を講義にて提示し、それをもとにした参加者によるディスカッションを中心とした構成とする。医療・介護領域の組織運営者や医療者のみならず、幅広い分野からの参加者とともに、現在の医療現場における問題を探り解決の一端を見出す場としたい。

Medical institutions and nursing care facilities are forced to modify their vision and strategies in responses to rapid changes in the external environment, such as the revision of universal health care fee in every few years. In addition, because of the large number of professional providers, there are difficulties in managing both individual career development and organizational governance.

On the other hand, medical institutions have not sufficiently addressed organizational problems in the name of the special nature of medicine. There are many situations where general corporate initiatives can be applied, such as quality control of medical care, but it is not sufficient. In addition, there is an increasing need for multifaceted operations with a focus on the essentials, not only in hospitals but also in clinics and long-term care facilities.

In this lecture, we will discuss strategy-based organizational management in the medical care field.

The lecture will be structured around discussions by the participants based on the issues presented in the lecture.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：医療機関・介護施設の概要
- 3 回：医療機関・介護施設のステークホルダー
- 4 回：医療機関・介護施設の財務状況と資金調達方法
- 5 回：医療機関の株式会社化の是非と情報開示
- 6 回：医療機関・介護施設における人材マネジメント (1)
- 7 回：医療機関・介護施設における人材マネジメント (2)
- 8 回：医療機関・介護施設における組織マネジメント (1)
- 9 回：医療機関・介護施設における組織マネジメント (2)
- 10 回：医療・介護におけるクリニカルガバナンス
- 11 回：医療・介護施設における医療の質の管理
- 12 回：医療・介護施設における安全性の管理-経済性も含めて-
- 13 回：期末プレゼンテーション (1)
- 14 回：期末プレゼンテーション (2)

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加姿勢:30% 授業における発言の頻度とその内容:40% 期末プレゼンテーション:30%

**テキスト / Textbooks**

特に定めない

**参考文献 / Readings**

授業にて随時紹介する

**その他 / Others**

当講義は、医療経済学概論の内容を踏まえたうえで進めるため、併せての履修が望ましい

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 会計学基礎OD

Accounting (OD)

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH501  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項） オンデマンド授業の配信予定は授業開始前に掲示する  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業における会計の役割と商取引の計算構造を学ぶ

The role of accounting in corporations and the calculation structure of commercial transactions are studied

## 授業の内容 / Course Contents

企業は理念やビジョンに基づいて経営計画を策定し、他社との交換取引を行う。取引内容は貨幣単位で記録され、蓄積される。企業は一定期間が経過した時点で、蓄積された取引内容を財務諸表にまとめる。すなわち、財務諸表は一定期間における企業活動の成果を示す表であり、経営者の声でもある。

本講義では、企業経営の成果がまとめられた財務諸表を題材とし、その構造と作成プロセスの理解を目標としている。

The corporation decides the management plan based on an idea and vision, and performs exchange trade with other companies. The transaction contents are recorded and accumulated in the currency unit. When a certain period of time has passed, corporations arrange the contents of accumulated transactions into financial statements. That is, the financial statement is a table which shows the result of business activity in a fixed period, and it is also the voice of the manager.

In this lecture, the goal is to focus on financial statements that have been compiled from the results of corporate management and to understand its structure and process of creation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・意思決定と会計情報
- 2回：貸借対照表の構造
- 3回：損益計算書の構造・期末商品の評価
- 4回：キャッシュ・フロー計算書と資金繰り表
- 5回：簿記一巡の流れと財務諸表
- 6回：取引の仕訳・収益と費用の認識
- 7回：決算整理（1）
- 8回：決算整理（2）
- 9回：決算整理（3）
- 10回：予想財務諸表の作成（1）
- 11回：予想財務諸表の作成（2）
- 12回：予想財務諸表の作成（3）
- 13回：予想財務諸表の作成（4）
- 14回：予想財務諸表の作成（5）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、全ての回をオンデマンド配信で行う。

詳しい配信日時は、初回配信の資料で通知する。

初回配信日時および資料の配信方法は「授業支援システム」に掲示する。

計算方法をマスターするために、授業後には復習を行い、課題を提出すること。

課題には提出期間が設けられているので、注意すること。

次回の講義までに準備しておくことは、講義内で説明する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内で指示する課題:100%

### テキスト / Textbooks

初回授業の中で紹介する

### 参考文献 / Readings

入門書や専門書については、必要に応じて授業内で紹介する。

### その他 / Others

本講義は会計学の初心者を対象として、オンデマンド形式で開講する。

授業動画は毎週定期的に配信するので、受講者は自己の都合に合わせて時間を作り、受講すること。

難解と思われるところは動画を停止して考えたり、再生を繰り返すなどして理解度を深めること。



なお、授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が、本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう、各自で授業の受講計画を立てること。

# 会計学基礎OD

Accounting (OD)

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH506  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項） オンデマンド授業の配信予定は授業開始前に掲示する  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業における会計の役割と商取引の計算構造を学ぶ

The role of accounting in corporations and the calculation structure of commercial transactions are studied

## 授業の内容 / Course Contents

企業は理念やビジョンに基づいて経営計画を策定し、他社との交換取引を行う。取引内容は貨幣単位で記録され、蓄積される。企業は一定期間が経過した時点で、蓄積された取引内容を財務諸表にまとめる。すなわち、財務諸表は一定期間における企業活動の成果を示す表であり、経営者の声でもある。

本講義では、企業経営の成果がまとめられた財務諸表を題材とし、その構造と作成プロセスの理解を目標としている。

The corporation decides the management plan based on an idea and vision, and performs exchange trade with other companies. The transaction contents are recorded and accumulated in the currency unit. When a certain period of time has passed, corporations arrange the contents of accumulated transactions into financial statements. That is, the financial statement is a table which shows the result of business activity in a fixed period, and it is also the voice of the manager.

In this lecture, the goal is to focus on financial statements that have been compiled from the results of corporate management and to understand its structure and process of creation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・意思決定と会計情報
- 2回：貸借対照表の構造
- 3回：損益計算書の構造・期末商品の評価
- 4回：キャッシュ・フロー計算書と資金繰り表
- 5回：簿記一巡の流れと財務諸表
- 6回：取引の仕訳・収益と費用の認識
- 7回：決算整理（1）
- 8回：決算整理（2）
- 9回：決算整理（3）
- 10回：予想財務諸表の作成（1）
- 11回：予想財務諸表の作成（2）
- 12回：予想財務諸表の作成（3）
- 13回：予想財務諸表の作成（4）
- 14回：予想財務諸表の作成（5）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、全ての回をオンデマンド配信で行う。

詳しい配信日時は、初回配信の資料で通知する。

初回配信日時および資料の配信方法は「授業支援システム」に掲示する。

計算方法をマスターするために、授業後には復習を行い、課題を提出すること。

課題には提出期間が設けられているので、注意すること。

次回の講義までに準備しておくことは、講義内で説明する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内で指示する課題:100%

### テキスト / Textbooks

初回授業の中で紹介する

### 参考文献 / Readings

入門書や専門書については、必要に応じて授業内で紹介する。

### その他 / Others

本講義は会計学の初心者を対象として、オンデマンド形式で開講する。

授業動画は毎週定期的に配信するので、受講者は自己の都合に合わせて時間を作り、受講すること。

難解と思われるところは動画を停止して考えたり、再生を繰り返すなどして理解度を深めること。

なお、授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が、本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう、各自で授業の受講計画を立てること。

# 原価計算基礎OD

Cost Accounting (OD)

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH511  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項） オンデマンド授業の配信予定については学期当初に告知する。  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

製品の製造費用の計算方法について学ぶ。

How to calculate the cost of manufacturing a product is studied.

## 授業の内容 / Course Contents

製造業は、原材料や製造に携わる工員など、有形・無形の資源を結合させて製品を生産し、その販売を通じて社会の富の形成に貢献している。製品販売時にはその対価を受け取ることになるが、果たしてその対価はいくらに設定すればよいだろうか。

製品を生産するためにかかる費用は製造原価と呼ばれ、それは販売価格の決定に有用な情報として利用される。本講義では、製造原価の計算方法の基本的な構造について理解することを目標にしている。

また、標準原価計算や直接原価計算を取り上げ、コストマネジメントの基本を学ぶ。

The manufacturing industry produces products by combining tangible and intangible resources such as raw materials and workers that are involved in manufacturing, and through those sales have contributed to the formation of the wealth of society. When selling a product, you will receive compensation, but how much should the compensation be set at?

The cost for producing the product is called the manufacturing cost, and it is utilized as useful information for deciding the selling price. In this lecture, the goal is to understand the basic structure of the manufacturing cost calculation method.

Also, standard cost accounting and direct cost accounting are taken up, and the basics of cost management are studied.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：原価計算の基礎
- 3 回：原価の分類（1）
- 4 回：活動基準原価計算
- 5 回：原価の分類（2）
- 6 回：実際原価計算（1）
- 7 回：実際原価計算（2）
- 8 回：標準原価計算（1）
- 9 回：標準原価計算（2）
- 10 回：直接原価計算（1）
- 11 回：直接原価計算（2）
- 12 回：意思決定会計（1）
- 13 回：意思決定会計（2）
- 14 回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、全ての回をオンデマンド配信で行う。

詳しい配信日時は、初回配信の資料で通知する。

初回配信日時および資料の配信方法は「授業支援システム」に掲示する。

計算方法をマスターするために、授業後には復習を行い、課題を提出すること。

課題には提出期間が設けられているので、注意すること。

次回の講義までに準備しておくことは、講義内で説明する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内で指示する課題:100%

### テキスト / Textbooks

初回の授業内で紹介する。

### 参考文献 / Readings

他の入門書や専門書については、必要に応じて授業内で指示する。

### その他 / Others

本講義は原価計算の初心者を対象として、オンデマンド形式で開講する。

授業動画は毎週定期的に配信するので、受講者は自己の都合に合わせて時間を作り、受講すること。

難解と思われるところは動画を停止して考えたり、再生を繰り返すなどして理解度を深めること。

なお、授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が、本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう、各自で授業の受講計画を立てること。

# 原価計算基礎OD

Cost Accounting (OD)

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH516  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項） オンデマンド授業の配信予定については学期当初に告知する。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

製品の製造費用の計算方法について学ぶ。

How to calculate the cost of manufacturing a product is studied.

## 授業の内容 / Course Contents

製造業は、原材料や製造に携わる工員など、有形・無形の資源を結合させて製品を生産し、その販売を通じて社会の富の形成に貢献している。製品販売時にはその対価を受け取ることになるが、果たしてその対価はいくらに設定すればよいだろうか。

製品を生産するためにかかる費用は製造原価と呼ばれ、それは販売価格の決定に有用な情報として利用される。本講義では、製造原価の計算方法の基本的な構造について理解することを目標にしている。

また、標準原価計算や直接原価計算を取り上げ、コストマネジメントの基本を学ぶ。

The manufacturing industry produces products by combining tangible and intangible resources such as raw materials and workers that are involved in manufacturing, and through those sales have contributed to the formation of the wealth of society. When selling a product, you will receive compensation, but how much should the compensation be set at?



The cost for producing the product is called the manufacturing cost, and it is utilized as useful information for deciding the selling price. In this lecture, the goal is to understand the basic structure of the manufacturing cost calculation method.

Also, standard cost accounting and direct cost accounting are taken up, and the basics of cost management are studied.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：原価計算の基礎
- 3 回：原価の分類（1）
- 4 回：活動基準原価計算
- 5 回：原価の分類（2）
- 6 回：実際原価計算（1）
- 7 回：実際原価計算（2）
- 8 回：標準原価計算（1）
- 9 回：標準原価計算（2）
- 10 回：直接原価計算（1）
- 11 回：直接原価計算（2）
- 12 回：意思決定会計（1）
- 13 回：意思決定会計（2）
- 14 回：授業のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、全ての回をオンデマンド配信で行う。

詳しい配信日時は、初回配信の資料で通知する。

初回配信日時および資料の配信方法は「授業支援システム」に掲示する。

計算方法をマスターするために、授業後には復習を行い、課題を提出すること。

課題には提出期間が設けられているので、注意すること。

次回の講義までに準備しておくことは、講義内で説明する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内で指示する課題:100%

### テキスト / Textbooks

初回の授業内で紹介する。

### 参考文献 / Readings

他の入門書や専門書については、必要に応じて授業内で指示する。

### その他 / Others

本講義は原価計算の初心者を対象として、オンデマンド形式で開講する。

授業動画は毎週定期的に配信するので、受講者は自己の都合に合わせて時間を作り、受講すること。

難解と思われるところは動画を停止して考えたり、再生を繰り返すなどして理解度を深めること。

なお、授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が、本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう、各自で授業の受講計画を立てること。

# 企業財務基礎OD

Introduction to Corporate Finance (OD)

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH521  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、実務でファイナンス業務を専門としたことのない管理者向けに、グローバル標準のファイナンス理論について理解することを目標にしています。この講義で学ぶファイナンス理論は、他の全ての経営学に関連する選択科目の基礎を形成するものとなります。

If you want to advance in your career, you'll need to make smart financial decisions and develop the confidence to clearly communicate those decisions to others. This program offers invaluable learning opportunities for non-financial managers, regardless of how much industry experience they may have. The course curriculum provides fundamental concepts of the global standard in finance theory. The concepts developed in introduction to finance theory form the foundation for all elective courses.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義では、意思決定を目的としたファイナンス理論の基本的な概念とツールを学びます。ファイナンス理論における基礎的論点である、①投資決定論（どのような投資をするべきか）、②資金調達論（どこから資金を調達するか）、③利益還元論（利益をどのように還元するか）、さらに④コーポレートガバナンスと、⑤行動ファイナンスについて講義する。

This course reviews the basic concepts and tools of finance for the purpose of decision making.

The main topics include: 1) the time value of money and uncertainty and models of risk and return; 2) investment decision-making, portfolio management and capital asset pricing model; 3) optimal capital structure; 4) dividend policy decisions; 5) corporate governance; 6) behavioral finance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：ファイナンス理論の体系  
 2回：1. リスクとリターン：時間価値と不確実性  
 3回：2. 投資決定論  
 4回：2-1. NPV と IRR  
 5回：2-2. ポートフォリオ理論  
 6回：2-3. 市場の均衡価格(CAPM)  
 7回：2-4. デリバティブ(先渡・先物・スワップ・オプション)  
 8回：3. 資金調達論  
 9回：3-1. 加重平均資本コスト(WACC)  
 10回：3-2. 最適資本構成  
 11回：4. 利益還元論  
 12回：4-1. 配当(ペイアウト)政策  
 13回：5. コーポレートガバナンス  
 14回：6. 行動ファイナンス

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワー等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全14回の講義構成は、第1回から第7回の前半部分と、第8回から第14回の後半部分に分かれています。なお、後半部分は前半部分の理解を前提に進められるので、第1回講義から逐次学習を積み上げていくことが効果的です。

各回講義資料に Homework が掲載されていますので、各回講義の理解度確認として活用するとともに回答を「立教時間」を通じて提出してください。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業の進行に応じた課題:60% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

### その他 / Others

本講義は、オンデマンド形式となるので、受講生各位の好きな時間に何度でも視聴可能です。

なお、視聴オンデマンド動画のアップロードや視聴 URL などの詳細については、第1回講義開始前に受講生

に通知いたします。

# 企業財務基礎OD

Introduction to Corporate Finance (OD)

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH526  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、実務でファイナンス業務を専門としたことのない管理者向けに、グローバル標準のファイナンス理論について理解することを目標にしています。この講義で学ぶファイナンス理論は、他の全ての経営学に関連する選択科目の基礎を形成するものとなります。

If you want to advance in your career, you'll need to make smart financial decisions and develop the confidence to clearly communicate those decisions to others. This program offers invaluable learning opportunities for non-financial managers, regardless of how much industry experience they may have. The course curriculum provides fundamental concepts of the global standard in finance theory. The concepts developed in introduction to finance theory form the foundation for all elective courses.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義では、意思決定を目的としたファイナンス理論の基本的な概念とツールを学びます。ファイナンス理論における基礎的論点である、①投資決定論（どのような投資をするべきか）、②資金調達論（どこから資金を調達するか）、③利益還元論（利益をどのように還元するか）、さらに④コーポレートガバナンスと、⑤行動ファイナンスについて講義する。

This course reviews the basic concepts and tools of finance for the purpose of decision making.

The main topics include: 1) the time value of money and uncertainty and models of risk and return; 2) investment decision-making, portfolio management and capital asset pricing model; 3) optimal capital structure; 4) dividend policy decisions; 5) corporate governance; 6) behavioral finance.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：ファイナンス理論の体系  
 2回：1. リスクとリターン：時間価値と不確実性  
 3回：2. 投資決定論  
 4回：2-1. NPV と IRR  
 5回：2-2. ポートフォリオ理論  
 6回：2-3. 市場の均衡価格(CAPM)  
 7回：2-4. デリバティブ(先渡・先物・スワップ・オプション)  
 8回：3. 資金調達論  
 9回：3-1. 加重平均資本コスト(WACC)  
 10回：3-2. 最適資本構成  
 11回：4. 利益還元論  
 12回：4-1. 配当(ペイアウト)政策  
 13回：5. コーポレートガバナンス  
 14回：6. 行動ファイナンス

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワー等)の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全14回の講義構成は、第1回から第7回の前半部分と、第8回から第14回の後半部分に分かれています。なお、後半部分は前半部分の理解を前提に進められるので、第1回講義から逐次学習を積み上げていくことが効果的です。

各回講義資料に Homework が掲載されていますので、各回講義の理解度確認として活用するとともに回答を「立教時間」を通じて提出してください。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業の進行に応じた課題：60% 最終テスト割合：40%

### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

### その他 / Others

本講義は、オンデマンド形式となるので、受講生各位の好きな時間に何度でも視聴可能です。

なお、視聴オンデマンド動画のアップロードや視聴 URL などの詳細については、第1回講義開始前に受講生

に通知いたします。



# 統計学基礎OD

Statistics (OD)

竹内 淨 (TAKEUCHI JO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH531  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、統計学の基礎知識を習得することである。統計学の実用的な利用方法はより上位の科目に任せ、本講義の内容は基本的なものに限定することとする。既に十分な知識がある者は上位科目を履修することを勧める。

The purpose of this course is to acquire the standard knowledge of statistics. As this course includes elementary contents, I recommend that students who already have sufficient knowledge take higher-level courses.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、確率、データの整理、確率の分布、推定と検定を学ぶ。正規分布、統計的推測、仮説検定など、各種の資料でよく目にする用語について、改めてその意味を確認し、理解する。

In this course, we learn probabilities, data organization, probability distributions, statistical estimations and testing. Students will confirm and understand the meanings of statistical terms commonly found in various documents, such as normal distributions, statistical inferences, and hypothesis testing.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：度数分布表とヒストグラム、平均値の役割と捉え方  
 3回：分散と標準偏差、標準偏差の評価  
 4回：ボラティリティ、シャープレシオ  
 5回：正規分布、正規分布による予測  
 6回：仮説検定の考え方、区間推定  
 7回：母集団と統計的推定、母分散と母標準偏差  
 8回：標本平均の考え方、標本平均の利用  
 9回：母平均の区間推定、カイ二乗分布  
 10回：母分散の推定、カイ二乗分布に比例する統計量  
 11回：母平均が未知の場合の区間推定、t分布  
 12回：t分布による仮説検定と区間推定  
 13回：統計学および確率論の補足説明  
 14回：仮説検定と区間推定の実用例

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業計画に示したテーマについて確認すること。
- ・毎回の講義内容を再確認すること。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題:100%

数回の課題で評価する。

#### テキスト / Textbooks

小島寛之 『完全独習統計学入門』 ダイヤモンド社 2006 4478820090 ○

#### 参考文献 / Readings

# 統計学基礎OD

Statistics (OD)

竹内 淨 (TAKEUCHI JO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH536  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、統計学の基礎知識を習得することである。統計学の実用的な利用方法はより上位の科目に任せ、本講義の内容は基本的なものに限定することとする。既に十分な知識がある者は上位科目を履修することを勧める。

The purpose of this course is to acquire the standard knowledge of statistics. As this course includes elementary contents, I recommend that students who already have sufficient knowledge take higher-level courses.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、確率、データの整理、確率の分布、推定と検定を学ぶ。正規分布、統計的推測、仮説検定など、各種の資料でよく目にする用語について、改めてその意味を確認し、理解する。

In this course, we learn probabilities, data organization, probability distributions, statistical estimations and testing. Students will confirm and understand the meanings of statistical terms commonly found in various documents, such as normal distributions, statistical inferences, and hypothesis testing.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：度数分布表とヒストグラム、平均値の役割と捉え方  
 3回：分散と標準偏差、標準偏差の評価  
 4回：ボラティリティ、シャープレシオ  
 5回：正規分布、正規分布による予測  
 6回：仮説検定の考え方、区間推定  
 7回：母集団と統計的推定、母分散と母標準偏差  
 8回：標本平均の考え方、標本平均の利用  
 9回：母平均の区間推定、カイ二乗分布  
 10回：母分散の推定、カイ二乗分布に比例する統計量  
 11回：母平均が未知の場合の区間推定、t分布  
 12回：t分布による仮説検定と区間推定  
 13回：統計学および確率論の補足説明  
 14回：仮説検定と区間推定の実用例

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業計画に示したテーマについて確認すること。
- ・毎回の講義内容を再確認すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題:100%

数回の課題で評価する。

#### テキスト / Textbooks

小島寛之 『完全独習統計学入門』 ダイヤモンド社 2006 4478820090 ○

#### 参考文献 / Readings

# 観光地域経済論 1

Regional Economics for Tourism 1

ホテル開発と都市マネジメント

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH836

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

都市部における都市型ホテルのエリア戦略と地域経済との関連を考察することから都市マネジメントにおける観光の在り方を明らかにしていく。

都市部におけるホテルを中心とした宿泊産業のビジネス構造や特性について理解する。

By examining the relationship between the area strategy of urban hotels and the local economy in urban areas, we will clarify the ideal state of tourism in area management.

Understand the business structure and characteristics of the lodging industry centered on hotels in urban areas.

## 授業の内容 / Course Contents

都市型ホテル（主に宿泊主体型カテゴリー）のビジネスモデルを踏まえたうえで、都市部における都市型ホテルのエリア戦略と地域経済との関連を事例研究をもとに考察する。

ゲストスピーカーを招聘する場合がある。

Based on the business model of urban hotels (mainly lodging-oriented categories), we will consider the

relationship between the area strategy of urban hotels and the regional economy in urban areas based on case studies.

Guest speakers may be invited.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと自己紹介（履修者の問題意識の共有）
- 2回：観光の概念について
- 3回：ホテルビジネス、ホテル開発についての概要について(1)
- 4回：ホテルビジネス、ホテル開発についての概要について(2)
- 5回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究1）
- 6回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究1）
- 7回：ホテルの滞在価値について（事例研究2）
- 8回：ホテルの滞在価値について（事例研究2）
- 9回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究3）
- 10回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究3）
- 11回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 12回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 13回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究5）
- 14回：地域観光におけるホテルの再定義、サステナビリティ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 観光地域経済論 2

Regional Economics for Tourism 2

ホテル開発と都市マネジメント

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH838

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

地方都市を含む都市部におけるホテルのエリア戦略と地域経済との関連を考察することから都市マネジメントにおける観光の在り方を明らかにしていく。

都市部におけるホテルを中心とした宿泊産業のビジネス構造や特性について理解する。

We will clarify the ideal form of tourism in area management by considering the relationship between hotel area strategy and regional economy in urban areas including regional cities.

Understand the business structure and characteristics of the lodging industry centered on hotels in urban areas.

### 授業の内容 / Course Contents

都市型ホテル（主に宿泊主体型カテゴリー）のビジネスモデルを踏まえたうえで、都市部における都市型ホテルのエリア戦略と地域経済との関連を事例研究をもとに考察する。

ゲストスピーカーを招聘する場合がある。

Based on the business model of urban hotels (mainly lodging-oriented categories), we will consider the

relationship between the area strategy of urban hotels and the regional economy in urban areas based on case studies.

Guest speakers may be invited

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、観光と地域経済（観光政策を概観する）
- 2回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究1）
- 3回：事例研究1分析・振り返り
- 4回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究2）
- 5回：事例研究2分析・振り返り
- 6回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究3）
- 7回：事例研究3分析・振り返り
- 8回：「観光地域経済論」の議論（DMOと観光DX）
- 9回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 10回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 11回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究5）
- 12回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究5）
- 13回：地域観光・観光政策（1）
- 14回：地域観光・観光政策（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 都市マネジメント 1

Urban Management design 1

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH871  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

都市の成長、衰退という問題は多世紀にわたり多くの関心が各方面から寄せられてきた。そして、そのメカニズムに対しての常識も時代とともに変化してきた。

それを舞台として人生を営む人々にとっても、地方自治体などの「官」の側にとっても、また何らかの論理性を見出したいアカデミアに属するものにとっても、これからの都市はどうなっていくのか、どうあるべきか、は永遠の問いである。

都市マネジメント 1 では、都市の成長、衰退のメカニズムについてのアカデミックな論理を学習し、過去から現在、そして未来の都市のあり方についての視座の獲得を目的とする。

The issue of urban growth and decline has attracted a great deal of attention from various quarters over the centuries. The common sense about the mechanism has also changed over time.

For those who live their lives in cities, for those on the "government" side such as local governments, and for those in academia who wish to find some kind of logic, the question of what cities will be like in the future and what they should be like is an eternal question.

In Urban Management 1, students will study the academic logic of the mechanisms of urban growth and decline,

with the aim of acquiring a perspective on the past, present, and future of cities.

## 授業の内容 / Course Contents

都市マネジメント 1 と 2 は独立しているので、一方のみを履修することも可能である。

授業では、まず最初に都市づくりがこの半世紀の間にどう変容してきたかの概略を理解し、次に、押さえておくべきいくつかの「キーワード」ごとにその用語が唱えられてきた時代の都市づくりの関心とポイントについて学習する。

キーワードの1つ目は「多様性」であり、2つ目は「創造性」である。

「多様性」はジェイン・ジェイコブスの唱えた、ほとんどの人が気が付いていなかった都市の多様性の重要性のことである。2つ目の「創造性」はクリエイティブクラスという、リチャード・フロリダが新しい都市成長のキーワードとして提唱した概念であり、その実証分析により世界の都市づくりに大きな影響を与えた。授業では3冊のテキストを輪読し、発表担当者のプレゼンの後に全員で内容について議論する。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them. The class will first provide an overview of how urban development has transformed over the past half century, and then learn about the urban development interests and points of view of the era in which the terms were advocated for each of several "key words" that should be kept in mind.

The first keyword is "diversity" and the second is "creativity."

Diversity" refers to the importance of urban diversity that most people were not aware of, as advocated by Jayne Jacobs, and "creativity" refers to the concept of the creative class, which was proposed by Richard Florida as a new keyword for urban growth, and whose empirical analysis has had a major impact on urban development worldwide. It has had a major impact on urban development around the world through its empirical analysis. In class, the three texts will be read in rotation, and after the presentations by the presenters, the contents will be discussed by all participants.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：

自己紹介(バックグラウンド・受講動機・修士論文イメージなど)、  
授業の進め方、輪読担当決め

2回：ポスト 2020 の都市づくり 序から 2 章

3回：ポスト 2020 の都市づくり 3 章から 5 章

4回：ポスト 2020 の都市づくり 6 章から 7 章

5回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 1 部

6回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 2 部

7回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 3 部

8回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 4 部

9回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 5 部

10回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 1 部

11回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 2 部

12回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 3 部

13回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 4 部

14回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 5 部から結論

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

授業の予習は必須でありその準備が必要である。また、輪読担当者は発表準備も必要となる。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス内の発表内容:60% 授業への貢献度:40% 最終レポート割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

井口典夫ほか ポスト 2020 の都市づくり 学芸出版社 2017 9784761526498 ○

ジェイン・ジェイコブズ 新版アメリカ大都市の生と死 鹿島出版会 2011 9784306072749 ○

リチャード・フロリダ 新クリエイティブ資本論 ダイアモンド社 2014 9784478024805 ○

**参考文献 / Readings**

必要に応じて授業中に適宜紹介する

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

テキストをあらかじめ発表担当者を決めて、毎週発表してもらうので、発表にあたり、パワーポイントなどの発表用資料の作成が求められる。また、オンラインによる授業が原則なので、自宅やオフィスなど大学内でない場所からのアクセスには Wi-Fi など良好な速度を保てるツールや環境が必要となる。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 都市マネジメント 2

Urban Management design 2

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH873  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

都市づくり、まちづくりを取り囲む状況は過去のそれとは大きく変容している。人口減少や縮退がこれからのデフォルトになる時代、都市の在り方が当然変わってくるはずであり、また変わるべきであろう。

この授業では、これまでとは異なるまちづくりのアプローチという視点から、世界のさまざまな衰退傾向にあったまちのチャレンジの実態を詳しく調べ、その成功要因を分析し、日本の将来のまちづくりへのヒントを探る。

The circumstances surrounding city development have changed dramatically from those of the past. In an era where population decline and shrinkage will be the default, the way cities should and will change. In this class, from the perspective of a different approach to urban development, we will examine in detail the challenges faced by various declining cities around the world, analyze their success factors, and look for hints for future city development in Japan.

## 授業の内容 / Course Contents

都市マネジメント 1 と 2 は独立しているので、一方のみを履修することも可能である。

多くの都市が従来型の成長をもちや見込めず、新しいありかたを模索している。産業衰退のあとに何が待つ

か、経済の縮小や災害などの苦難をどう乗り越えるか、財政収縮のなかどうやってまちづくりをすすめるべきか、それらの切実な問いへの答えが、世界のあちこちに、それも決して有名でない村や街の実践のなかにあった。

授業では、世界各地の様々な街における衰退からの脱出をどうチャレンジしたかについて詳細に書かれたテキストを輪読、分担者が発表し、その後に全員で内容や示唆について議論する。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them.

Many cities are no longer expected to grow in the conventional way and are searching for a new way of life. What awaits us after industrial decline, how to overcome hardships such as economic contraction and disasters, and how to promote city development in the midst of financial contraction? In the class, we will read the text in turn, and the assigned person will make a presentation, followed by a discussion of the contents and suggestions by all participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：自己紹介、授業の進め方、輪読割当、興味の視点の確認など

2回：イタリア：アルベルゴ・ディフーズ（出典2つ）

3回：ドイツ・ライプツィヒ：ハウスプロジェクト

ドイツ・ベルリン：アーバンガーデン

4回：ドイツ・ラオジッツ：インダストリアル・ランドスケープ

アメリカ・デトロイト：エリア再生（スタートアップ0）

5回：イギリス・リバプール&グラスゴー：コミュニティ・アーキテクチャ

グラスゴー：アートとビジネスの融合（出典2つ）

6回：チリ：建築家の社会構造的アプローチ

イタリア：アグリツーリズム

7回：「スタートアップは辺境に生まれる」

スタートアップを集める木造建築最前線

8回：ピレネー南山麓地方：ガストロのみーからの地域創生

9回：小さな民間事業と公の取り組み：リスボン、ポルト、山賊村

10回：ガストロのみーとラーニングツーリズム：ダブリンとグルメ漁港

11回：森林資源の徹底活用：フィンランドの小都市

12回：衰退市街地で光る極小予算のエリア再生：台北、台中、嘉義

13回：2つの序章と日本への示唆

日本の試みとしての新しい方向性：(例として) 関係人口、商店街を地域の持続可能性の核に、空き家は資源

14回：独自調査プレゼン発表会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の予習は必須でありその準備が必要である。また、輪読担当者は発表準備も必要となる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス内の発表内容:60% 授業への貢献度:40% 最終レポート割合 :0%

**テキスト/Textbooks**

馬場正尊 CREATIVE LOCAL エリアリノベーション海外編 学芸出版社 22017 9784761526665 ○

松永安光 世界の地方創生 学芸出版社 2018 9784761526450 ○

**参考文献 / Readings**

必要に応じて授業中に適宜紹介する

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 観光地マネジメント 1 (イノベーション)

Tourist Site Management 1

地域（観光）経営を学ぶ

沢登 次彦 (SAWANOBORI TSUGUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH885

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

観光は国の基幹産業、地方の成長産業になりえるのかを様々な角度で検証します。地域は、高齢化、生産年齢人口の減少、少子化と課題は山積。そこにコロナ過が加わりました。この授業では、未来に向けて、「観光」により地域経済が成長する方策を地域経営の観点で、フィールドワーク先の地域の実際の課題解決提案をしていただきます。地域の観光リーダーとなる能力を身に付け、地域プロデューサー、地方創生プロデューサーとして、将来活躍いただきたいと考えています。

We will examine at various angles whether tourism can become a basic industry of the country, and an industry of growth for the local areas. In the regions of Japan, there are many issues such as an aging population, a declining production age, and a low birth rate. Therefore, we will acquire a large number of measures for the development of the local economy through tourism, which will also lead to the ability to manage as a regional tourism leader. As a "regional producer, regional revitalization producer", we will master a practical perspective and ability to lead the region.

## 授業の内容 / Course Contents

観光マネジメント 1, 2 は両方受講をお願いいたします。

研究・調査・事例を基にした実践的な講義とその講義内容を基にした討議で、課題の真因を探り、解決策を導きます。また、実際の地域のエリア戦略を個人ワーク、グループワークで立案します。地域の活躍者からの情報提供、現地視察も予定。マネジメント 2 の最後に発表と講評をいらいます。

観光地及び地域は如何に観光力・地域力によみがえらせるか。その実践的な力が身につく授業です。消費者は既存の旅行に飽きが生じ、観光地、観光地していない地域にも目を向け始めています。そこをマッチングできる人が、地域には必要です。地域に I ターン、U ターンして、地域活性の仕事をしたと思っている方、観光産業の中で、地域を支援したいと思っている方必見です。この授業では、リクルートの旅行部門の研究所である、「じゃらんリサーチセンター」の実践的研究・アプローチを題材として、より地域には、何が必要か、磨きあげを行っていきます。情報提供セッションと対話で展開していきます。共に学び、共に地域を元気にしていきますましよう！

Please take both Tourist Site Management 1 and 2.

We will perform practical lectures based on research, investigation, and case studies, and discussions based on the contents of the lectures to explore the root cause of the problems, and acquire solutions through actual regional cases. We also plan to provide information for our guests and lecturers.

How can tourism and regional power revive tourist destinations and regions? This is a class where you can learn those practical skills. Consumers are getting bored of current travel destination, and they are beginning to look at tourist spots and areas that are not famous tourist spots. A person who can match that is necessary in the local area. It is a must take for those who want to do regional activity work through I-turn, U-turn in the region, and those who want to support the region through the tourism industry. In this class, we will polish what is necessary for the region, and use the practical research and approaches of the "Jalan Research Center", which is a research institute of the travel department of Recruit. We will continue to move forward through informational sessions and dialogues. Learn and revitalize local areas together!

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

観光マーケティング授業について、期待値、課題感共有

(1) 国内観光動向の最新実態

(2) 生活環境、余暇の多様化による旅行の競合は？

2 回：観光の実態把握 現状また 2030 年未来を学ぶ

(1) 観光を取り巻く背景、日本人の国内旅行の実態、カスタマーの実態など

3 回：地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは？、

(1) 講義 (2) 討議

4 回：地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは？、

(1) 講義 (2) 討議

5 回：事例地域からの事前情報提供

(1) 講義 (2) 討議

6 回：事例地域からの事前情報提供

(1) 講義 (2) 討議

7 回：地域経営(マネジメント)を学ぶ

(1) 研究講義 (気仙沼事例など) (2) 討議

8 回：事例地域の戦略立案



(1) 個人ワーク、グループワーク

9 回：実際の地域を視察する

(1) 視察 (2) 討議

10 回：実際の地域を視察する

(1) 視察 (2) 討議

11 回：事例地域の戦略立案

(1) 個人ワーク、グループワーク

12 回：事例地域の戦略立案

(1) 個人ワーク、グループワーク

13 回：発表（中間）

14 回：発表（中間）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

地域を観光で元気にしたい！その想いを持って臨んでください。

ある地域を題材にして、実践型で学んでいきます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言、質問、取り組み姿勢など:100%

### テキスト / Textbooks

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

### 参考文献 / Readings

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

### その他 / Others

#### 【系統的履修】

観光地マネジメント2（ネットワーク）を続けて履修することを推奨します。

#### 【双方向による授業割合】

8割以上（ほぼ毎対話形式を取り入れてます）

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 観光地マネジメント 2（ネットワーク）

Tourist Site Management 2

地域（観光）経営を学ぶ

沢登 次彦（SAWANOBORI TSUGUHIKO）

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH887

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

観光は国の基幹産業、地方の成長産業になりえるのかを様々な角度で検証します。地域は、高齢化、生産年齢減少、少子化と課題は山積。そこにコロナ禍が加わっています。この授業では、観光により地域経済が発展する方策を、数多く身に付け、地域の観光リーダーとしてマネジメントする能力にもつなげます。また、地方のエリア戦略のあり方を身に付け、「地域プロデューサー、地方創生実現プロデューサー」として、地域を牽引する実践的な視座と能力を習得します。

We will examine at various angles whether tourism can become a basic industry of the country, and an industry of growth for the local areas. In the regions of Japan, there are many issues such as an aging population, a declining production age, and a low birth rate. Therefore, we will acquire a large number of measures for the development of the local economy through tourism, which will also lead to the ability to manage as a regional tourism leader. As a "regional producer, regional revitalization producer", we will master a practical perspective and ability to lead the region.

### 授業の内容 / Course Contents

観光マネジメント 1, 2 は両方受講をお願いいたします。

研究・調査・事例を基にした実践的な講義とその講義内容を基にした討議で、課題の真因を探り、解決策を導きます。また、実際の地域のエリア戦略を個人ワーク、グループワークで立案します。ゲストからの情報提供、現地視察も予定しています。最後に発表、講評の場も用意します。

観光地及び地域は如何に観光力・地域力によみがえらせるか。その実践的な力が身につく授業です。消費者は既存の旅行に飽きが生じ、観光地、観光地していない地域にも目を向け始めています。そこをマッチングできる人が、地域には必要です。地域に I ターン, U ターンして、地域活性の仕事をしたと思っている方, 観光産業の中で、地域を支援したいと思っている方必見です。この授業では、リクルートの旅行部門の研究所である、「じゃらんリサーチセンター」の実践的研究・アプローチを題材として、より地域には、何が必要か、磨きあげを行っていきます。情報提供セッションと対話で展開していきます。共に学び、共に地域を元気にしていきますましよう！

Please take both Tourist Site Management 1 and 2.

We will perform practical lectures based on research, investigation, and case studies, and discussions based on the contents of the lectures to explore the root cause of the problems, and acquire solutions through actual regional cases. We also plan to provide information for our guests and lecturers.

How can tourism and regional power revive tourist destinations and regions? This is a class where you can learn those practical skills. Consumers are getting bored of current travel destination, and they are beginning to look at tourist spots and areas that are not famous tourist spots. A person who can match that is necessary in the local area. It is a must take for those who want to do regional activity work through I-turn, U-turn in the region, and those who want to support the region through the tourism industry. In this class, we will polish what is necessary for the region, and use the practical research and approaches of the "Jalan Research Center", which is a research institute of the travel department of Recruit. We will continue to move forward through informational sessions and dialogues. Learn and revitalize local areas together!

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：観光地マネジメント 1 に続けての授業

(1) 振り返り (2) 討議

2 回：観光地マネジメント 1 に続けての授業

(1) 振り返り (2) 討議

3 回：地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは？、

(1) 講義 (2) 討議

4 回：地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは？、

(1) 講義 (2) 討議

5 回：「事例地域」からの事前情報提供

(1) 講義 (2) 討議

6 回：「事例地域」からの事前情報提供

(1) 講義 (2) 討議

7 回：地域経営(マネジメント)を学ぶ

(1) 研究講義 (気仙沼事例など) (2) 討議

8 回：事例地域の戦略立案

(1) 個人ワーク、グループワーク

9 回：実際の事例地域を視察する

(1) 視察 (2) 討議

10 回：実際の事例地域を視察する

(1) 視察 (2) 討議

11 回：事例地域の戦略立案

(1) 個人ワーク、グループワーク

12 回：事例地域の戦略立案

(1) 個人ワーク、グループワーク

13 回：発表、講評

14 回：発表、講評

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

地域を観光で元気にしたい！その想いを持って臨んでください。

ある地域の実際の課題解決提案を行っていただきます。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言、質問、取り組み姿勢など:100%

### テキスト / Textbooks

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

### 参考文献 / Readings

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

### その他 / Others

#### 【系統的履修】

観光地マネジメント1 (イノベーション) に続いて履修することを推奨します。

#### 【双方向による授業割合】

8割以上 (ほぼ毎対話形式を取り入れています)

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 都市経済学 1

Urban Economics 1

DX や GX の同時推進持と続可能なまちづくり

デウィット, A (DEWIT ANDREW)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH889

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン実施回は科目担当者に確認をすること

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

政治経済学からみた現代の都市が直面する課題と DX、GX、ESG や SDGs について学習する。

The goal of the course is to learn the political economy of DX, GX, ESG, and SDGs related to issues confronting contemporary urbanization

## 授業の内容 / Course Contents

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1冊にまとめた教科書はないため、DX、GX、ESG や SDGs、クリティカル・ミネラルズ、コンパクトシティ、税制改革などのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。また、学生には発表や討議を通じて、現代財政や都市統治のあり方についての理解を深め、最新の情報を学ぶことも求められる。

Course management will be discussed and determined with the students. Since there is no single applicable textbook, students will read relevant papers and other materials on topics such as DX, GX, ESG and SDGs, critical minerals, compact cities, and tax reform. Students will also be expected to broaden their understanding of contemporary public finance and urban governance through presentations and discussion.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：DX、GX、ESG やSDGs と持続可能なまちづくり  
 2回：DX と持続可能なまちづくり  
 3回：GX と持続可能なまちづくり  
 4回：ESG と持続可能なまちづくり  
 5回：SDGs と持続可能なまちづくり  
 6回：実例：スマートシティ東京都と官民連携  
 7回：実例：富山市におけるコンパクトでスマートなまちづくり  
 8回：実例：浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム  
 9回：実例：国土強靱化地域計画とその背景  
 10回：実例：大阪モデルのスマートシティ  
 11回：実例：福島新エネ社会構想  
 12回：実例：スマートシティ会津若松  
 13回：実例：災害に強い地域マイクログリッド  
 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習については、別途指示する。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合 :40%

**テキスト/ Textbooks**

KPMG コンサルティング 『スマートシティ 3.0(日経ムック)』 日本経済新聞出版 2022 9784296113934

瀬藤澄彦 『グローバル都市革命: コンパクトシティ 田園都市 第3の都市』 文真堂 2022

9784830951886 -

富国生命投資顧問 『ESG 投資 持続可能な将来設計』 ダイヤモンド社 2022 9784478115893 -

スマートシティ官民連携プラットフォーム

<https://www.mlit.go.jp/scpf/>

地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム

<https://future-city.go.jp/platform/>

GXを支える地域・くらしの脱炭素

[https://www.env.go.jp/council/content/i\\_05/000096596.pdf](https://www.env.go.jp/council/content/i_05/000096596.pdf)

**参考文献 / Readings****その他/ Others**

国土強靱化

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo\\_kyoujinka/](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/)

地域強靱化計画（国土強靱化地域計画）

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo\\_kyoujinka/tiiki.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/tiiki.html)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

## 都市経済学 2

Urban Economics 2

DX や GX の同時推進と持続可能なまちづくり

デウィット, A (DEWIT ANDREW)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VH890

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン実施回は科目担当者に確認をすること

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

政治経済学からみた現代の都市が直面する課題と DX、GX、ESG、SDGs について学習する。

The goal of the course is to learn the political economy of DX, GX, ESG, and SDGs related to issues confronting contemporary urbanization

### 授業の内容 / Course Contents

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1冊にまとめた教科書はないため、DX、GX、ESG や SDGs、クリティカル・ミネラルズ、コンパクトシティ、税制改革などのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。また、学生には発表や討議を通じて、現代財政や都市統治のあり方についての理解を深め、最新の情報を学ぶことも求められる。

Course management will be discussed and determined with the students. Since there is no single applicable textbook, students will read relevant papers and other materials on topics such as DX, GX, ESG and SDGs, critical minerals, compact cities, and tax reform. Students will also be expected to broaden their understanding of contemporary public finance and urban governance through presentations and discussion.



**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：世界における都市化とDX、GX、ESG、SDGs  
 2回：スマートシティとエネルギー安全保障  
 3回：実例：日米スマートシティ協力1  
 4回：実例：日米スマートシティ協力2  
 5回：実例：日印スマートシティ協力1  
 6回：実例：日印スマートシティ協力2  
 7回：実例：日欧スマートシティ協力1  
 8回：実例：日欧スマートシティ協力2  
 9回：実例：NECとスマートシティ  
 10回：実例：国際協力機構とスマートシティ  
 11回：実例：日立とスマートシティ  
 12回：実例：日建設計とスマートシティ  
 13回：実例：新エネルギー・産業技術総合開発機構とスマートシティ  
 14回：まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

授業時間外の学習については、別途指示する。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合 :40%

**テキスト/ Textbooks**

安岡 美佳;ユリアン 森江 原 ニールセン 『北欧のスマートシティ：テクノロジーを活用したウェルビーイングな都市づくり』 学芸出版社 2022 9784761528386 -

ジェフ・スベック 『ウォークアブルシティ入門』 学芸出版社 2022 9784761528249 -

アジアの脱炭素都市の実現に向けた情報提供サイト

<https://www.env.go.jp/earth/coop/lowcarbon-asia/>

日米グローバル地方ゼロカーボン促進イニシアティブ

<https://www.env.go.jp/press/110703.html>

持続可能な開発目標 (SDGs) - 2030 アジェンダ | 国連広報センター

[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_devel](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_devel)

**参考文献 / Readings**

日系企業の海外進出機会 - 資源エネルギー庁

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/advanced\\_systems/smart\\_community/smartcity\\_ws/pdf/smartcity\\_ws2022\\_01r.pdf](https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/advanced_systems/smart_community/smartcity_ws/pdf/smartcity_ws2022_01r.pdf)

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

特にない

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

特にない

**その他/ Others**

全世界 スマートシティアプローチの適用性に係る

<https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/12342507.pdf>

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

# 観光経営研究 1

Tourism Industry Management 1

西村 剛 (NISHIMURA GO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH896  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本科目は観光経営研究 2 との関係科目である。まず本科目では観光経営の分析に必要な観光経済学の基礎理論修得や関連する世界市場のマクロ分析を通じて観光経営研究の基礎作りを行う。

The subject of this discipline is related to Tourism Industry Management 2. First, in this discipline, we will learn the basic theory of Economics of Tourism necessary for analysis of Tourism Management and create a basis of Tourism Management research through macro analysis of related world markets.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、わが国観光産業に最も重要な交通モードである国際航空と現代クルーズを念頭に、交通経済学の視点からの関連基礎理論と世界情勢の現状と課題について解説する。

In this discipline, the related basic theory from the traffic of Economics viewpoint and the present state and problems of the world are explained, keeping in mind international flights and the modern cruises, which are the most important traffic modes for the Japan tourism industry.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：観光経済学（1）観光商品

- 2回：観光経済学（2）観光客  
 3回：観光経済学（3）供給者  
 4回：観光経済学（4）観光受入社会  
 5回：国際観光統計（1）①WTTC2022  
 6回：国際観光統計（1）②UNWTO2022  
 7回：国際観光統計（2）①US2022  
 8回：国際観光統計（2）②JNTO2022  
 9回：観光交通ビジネス（1）観光と地域経済  
 10回：観光交通ビジネス（2）観光交通の特徴  
 11回：観光交通ビジネス（2）観光政策と観光交通①  
 12回：観光交通ビジネス（2）観光政策と観光交通②  
 13回：Responsible Tourism から Regenerative Tourism へ  
 14回：観光のSDGsとは

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義資料は参考文献等から抜粋した資料で、専門用語を多用しているため、必ず講義前に熟読し専門用語の調査研究も事前に済ませておくこと。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への貢献:30% 小レポート:30% 最終テスト割合：:40%

#### テキスト / Textbooks

WTTC（世界観光旅行協議会）、UNWTO（世界観光機構）の2020年実績レポートを各自ホームページからダウンロードし目を通しておくこと

#### 参考文献 / Readings

ジェームズ・マック 観光経済学入門 日本評論社 2005 9784535554320

塩見英治ほか 観光交通ビジネス 成山堂書店 2017 9784425928811

山内弘隆ほか 観光経済学 有斐閣 2022 9784641166073

#### その他 / Others

関連業界の受講生の業界報告などアクティブラーニングを心がけますので積極的に講義に参加してください。講義では過年度の新型コロナ発生3年目の2022年度が対象ですが随時今年度の直近の影響度合いも講義でフォローしていきます。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 観光経営研究 2

Tourism Industry Management 2

西村 剛 (NISHIMURA GO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VH898  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

連係科目である観光経営研究 1 で修得した観光経済学と交通経済学の知見を活用して、我が国、国際観光の主要交通モードである国際航空と現代クルーズを対象にポストコロナへむけた課題について研究する。

Utilizing the knowledge of tourism economics and transport economics acquired in tourism management research 1, which is a linked subject, we will discuss issues for post-corona, targeting international airlines and modern cruises, which are the main modes of international tourism in Japan.

## 授業の内容 / Course Contents

我が国国際観光の主要交通モードである国際交通の規制緩和の変遷や LCC、現代クルーズの新たな交通ビジネスモデルの分析を通じて国際航空と現代クルーズのポストコロナの対応まで広範囲に学ぶ。

Through the analysis of the transition of deregulation of international traffic, which is the main mode of transportation for international tourism in Japan, and the new transportation business model of LCC and modern cruises, we will learn a wide range of cutting edge movements of international flights and modern cruises.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：米国にみる航空産業の誕生と発展過程を交通経済学の視点から学ぶ

- 2回：シカゴバミューダー体制の確立による国際民間航空の成立  
 3回：米国航空デレギュレーション法の成立とオープンスカイ政策の変遷  
 4回：欧州の段階的航空市場の自由化  
 5回：多国間オープンスカイの進展  
 6回：3大グローバルアライアンスの誕生と発展  
 7回：エアラインビジネスモデル①  
 8回：エアラインビジネスモデル②  
 9回：空港経営①空港経営の商業化  
 10回：空港経営②わが国空港の民営化  
 11回：現代クルーズ①現代クルーズの誕生と発展  
 12回：現代クルーズ②我が国クルーズ事業の現状と課題  
 13回：我が国航空界の現状と展望  
 14回：航空・空港の温室効果ガス対策について

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義資料は参考文献等から抜粋した資料で、専門用語を多用しているため、必ず講義前に熟読し専門用語の調査研究も事前に済ませておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への貢献:30% 小レポート:30% 最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

国土交通省「我が国クルーズ事業の現状と課題」をダウンロードし当該講義前に目を通しておくこと。

### 参考文献 / Readings

高橋望・横見宗樹 エアライン／エアポート・ビジネス入門 法律文化社 2016 9784589037541

村上英樹ほか 航空の経済学 ミネルヴァ書房 2006 9784623045587

山内弘隆ほか 観光経済学 有斐閣 2022 9784641166073

### その他 / Others

関連業界の受講生の業界報告などアクティブラーニングを心がけますので積極的に講義に参加してください。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ビジネスシミュレーション

Business Simulation

安田 直樹／古川 英一／青淵 正幸／花谷 昌弘 (YASUDA NAOKI/ FURUKAWA EIICHI/ AOBUCHI MASAYUKI/ HANATANI MASAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL001

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： BDS5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく、企業の事業構想プロセスを経験的に学習する。

Students will learn empirically about the corporate business conceptualization process in order to develop the creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, "business creators".

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく企業の事業構想プロセスを経験的に学修することを目的としており、前半期の事業構想プロセスの理論的講義、ワークショップと後半期のビジネスプラン策定から構成される。

事業構想のプロセスは容易に定型化することは難しいものの、その構想を具体的に進める中で分析しなければならない問題や検討しなければならない課題は理論的に明らかにされてきており、そうした問題の分析や課題の検討をどう進めていくかについての方法論も蓄積されてきている。前半期の7週間では、履修者は企業の

新たな事業構想のプロセスを理論的に学ぶとともに、グループワークを通じてそのプロセスを経験的に習得する。

後半期の7週間では、前半の期間で培った様々な知識とスキルを活用し、具体的な企業を事例として選定し、その企業の経営資源や事業環境を踏まえて、新規事業の担い手（「ビジネスクリエーター」）として新たなビジネスプランの構想に取り組む。発想の転換や新たな着想は、異なる視点や思考枠組の交換から生じる。新たな事業の構想には新たな問題の発見や価値の創造が必要となろう。授業では、異なる知識や経験、価値観を持ったメンバーの知的相互作用を通じて創造的な事業構想を実現するプロセスを経験し、「ビジネスクリエーター」としての創造的な事業構想力の習得を目指す。

The purpose of this course is to empirically study the business conceptualization process of companies in order to cultivate creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, or "business creators". The course consists of theoretical lectures and workshops on the business conceptualization process in the first half and business plan formulation in the second half.

Although the business conceptualization process is difficult to formulate, the problems that must be analyzed and the issues that must be considered in the concrete implementation of the conceptualization process have been theoretically clarified, and methodologies on how to proceed with the analysis of such problems and consideration of issues have been accumulated. In the first seven weeks of the course, students will learn the process of new business conceptualization of companies theoretically, and also learn the process experientially through group work.

In the second half of the seven-week period, students will use the knowledge and skills they gained in the first half of the program to select a specific company as a case study and work on the concept of a new business plan as a new business creator based on the company's management resources and business environment. A shift in thinking and new ideas come from the exchange of different perspectives and thinking frameworks. The conceptualization of a new business will require the discovery of new problems and the creation of new values. In this class, we will experience the process of realizing creative business concepts through intellectual interaction among members with different knowledge, experiences, and values, and aim to acquire creative business conceptualization skills as "business creators".

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：企業の戦略的意思決定
- 2 回：ビジョン策定
- 3 回：課題、テーマの明確化、アイデア発想
- 4 回：インプットセミナー、アイデアプロトタイプング
- 5 回：アイデアブラッシュアップ
- 6 回：ビジネスモデルの検討 (1)
- 7 回：ビジネスモデルの検討 (2)、まとめ
- 8 回：事業機会の発見と価値提案
- 9 回：環境分析と顧客セグメント
- 10 回：事業活動とチャネル構築
- 11 回：収益構造と費用構造、資源調達
- 12 回：競争優位の構築と参入障壁
- 13 回：成長戦略と長期計画



## 14回：事業計画の総合的評価

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

系統別認定試験の免除対応科目、統計・調査法、会計学、ファイナンス関連の科目を履修しておくことが望ましい。また、経営学、経営戦略やマーケティング関連の基礎モジュール科目についても並行して履修することを推奨する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加・貢献度:30% グループワークへの貢献度の相互評価:35%  
授業内レポート:35%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

予備的学習や補足的学習のための文献については必要に応じて指示する。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

パソコン操作法（特に表計算ソフトの使用方法）、財務経理の基礎が最低限必要なスキルとなる。

**その他 / Others****【双方向による授業】**

本科目は、講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%(14回中14回)である。

**【実務家教員】**

本科目担当教員のうち2名は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ビジネスシミュレーション

Business Simulation

庄司 貴行／片山 郁夫／内田 彬浩／花谷 昌弘 (SHOJI TAKAYUKI/ KATAYAMA IKUO/ UCHIDA YOSHIHIRO/ HANATANI MASAHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL003  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 4  
科目ナンバリング： BDS5010  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 自動登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく、企業の事業構想プロセスを経験的に学習する。

Students will learn empirically about the corporate business conceptualization process in order to develop the creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, "business creators".

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく企業の事業構想プロセスを経験的に学修することを目的としており、前半期の事業構想プロセスの理論的講義、ワークショップと後半期のビジネスプラン策定から構成される。

事業構想のプロセスは容易に定型化することは難しいものの、その構想を具体的に進める中で分析しなければならない問題や検討しなければならない課題は理論的に明らかにされてきており、そうした問題の分析や課題の検討をどう進めていくかについての方法論も蓄積されてきている。前半期の7週間では、履修者は企業の

新たな事業構想のプロセスを理論的に学ぶとともに、グループワークを通じてそのプロセスを経験的に習得する。

後半期の7週間では、前半の期間で培った様々な知識とスキルを活用し、具体的な企業を事例として選定し、その企業の経営資源や事業環境を踏まえて、新規事業の担い手（「ビジネスクリエーター」）として新たなビジネスプランの構想に取り組む。発想の転換や新たな着想は、異なる視点や思考枠組の交換から生じる。新たな事業の構想には新たな問題の発見や価値の創造が必要となろう。授業では、異なる知識や経験、価値観を持ったメンバーの知的相互作用を通じて創造的な事業構想を実現するプロセスを経験し、「ビジネスクリエーター」としての創造的な事業構想力の習得を目指す。

The purpose of this course is to empirically study the business conceptualization process of companies in order to cultivate creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, or "business creators". The course consists of theoretical lectures and workshops on the business conceptualization process in the first half and business plan formulation in the second half.

Although the business conceptualization process is difficult to formulate, the problems that must be analyzed and the issues that must be considered in the concrete implementation of the conceptualization process have been theoretically clarified, and methodologies on how to proceed with the analysis of such problems and consideration of issues have been accumulated. In the first seven weeks of the course, students will learn the process of new business conceptualization of companies theoretically, and also learn the process experientially through group work.

In the second half of the seven-week period, students will use the knowledge and skills they gained in the first half of the program to select a specific company as a case study and work on the concept of a new business plan as a new business creator based on the company's management resources and business environment. A shift in thinking and new ideas come from the exchange of different perspectives and thinking frameworks. The conceptualization of a new business will require the discovery of new problems and the creation of new values. In this class, we will experience the process of realizing creative business concepts through intellectual interaction among members with different knowledge, experiences, and values, and aim to acquire creative business conceptualization skills as "business creators".

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：企業の戦略的意思決定
- 2 回：ビジョン策定
- 3 回：課題、テーマの明確化、アイデア発想
- 4 回：インプットセミナー、アイデアプロトタイプング
- 5 回：アイデアブラッシュアップ
- 6 回：ビジネスモデルの検討 (1)
- 7 回：ビジネスモデルの検討 (2)、まとめ
- 8 回：事業機会の発見と価値提案
- 9 回：環境分析と顧客セグメント
- 10 回：事業活動とチャネル構築
- 11 回：収益構造と費用構造、資源調達
- 12 回：競争優位の構築と参入障壁
- 13 回：成長戦略と長期計画

## 14回：事業計画の総合的評価

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

系統別認定試験の免除対応科目、統計・調査法、会計学、ファイナンス関連の科目を履修しておくことが望ましい。また、経営学、経営戦略やマーケティング関連の基礎モジュール科目についても並行して履修することを推奨する。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加・貢献度:30% グループワークへの貢献度の相互評価:35%  
授業内レポート:35%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

予備的学習や補足的学習のための文献については必要に応じて指示する。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

パソコン操作法 (特に表計算ソフトの使用方法)、財務経理の基礎が最低限必要なスキルとなる。

**その他 / Others****【双方向による授業】**

本科目は、講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%(14回中14回)である。

**【実務家教員】**

本科目担当教員のうち2名は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# コンサルティング・メソッド 1

## Consulting Methods 1

青淵 正幸／柴田 徹／内田 彬浩 (AOBUCHI MASAYUKI/ SHIBATA TORU/ UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL091  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

中小企業へのコンサルティング過程を学び、独自のメソッドを確立する

Learn about the consulting process for small and medium sized businesses and establish your own methods

### 授業の内容 / Course Contents

この科目は、実在する中小企業の経営者の協力を得ながら当該企業へのコンサルティング過程を実体験し、第2創業的なビジネスプランを提案するメソッドを体得することを目的としている。本科目は「コンサルティング・メソッド 2」と一体となってはじめて研究・教育効果が発現するものであるため、コンサルティング・メソッド 2 とセットでの履修が条件となる。

コンサルティング過程の前半となるこの科目では、協力企業が属する業界に関する市場動向、業界動向、技術動向などマクロ的な調査・研究に重きをおく。履修者は、会社毎に数人ずつのチームを編成し、分担して調査・研究を行い、その結果を中間および最終報告にて発表する。チーム研究が中心となるため、時間割表に示された時限以外に、各自の分担した調査・研究の成果を持ち寄り、討論と取り纏めを行う時間が必要となる。

なお、協力企業の対応能力の関係上、履修者を 12 名程度に選抜する。

In this discipline, you will experience the consulting process with the cooperation of the management of real

small and medium sized businesses and the goal is to acquire a 2nd method for proposing a business plan that is similar to a start up business. Since this discipline is intended to have a research and education effect only when it is combined with "Consulting Methods 2", it is required to take this course in combination with Consulting Methods 2.

In this discipline, which is the first half of the consulting process, we will focus on macro-related surveys and research, such as market trends, industry trends, and technological trends in the industry to which the partner companies belong. The students will form a team of several people for each company and the results of the surveys and research will be published in the interim and final reports. Since team research is the main focus, it is necessary to have time to gather the results of the surveys and research that you have shared, and to discuss and arrange them, in addition to the time limit indicated in the timetable.

In addition, for the relationship of the response capabilities of the partner companies, up to 12 students are selected.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：講義「コンサルティング・メソッド総論」
- 3回：講義「中小企業の経営戦略」
- 4回：講義「中小企業のデータ検索と分析」
- 5回：対象企業の業界分析1（演習）
- 6回：対象企業の業界分析2（演習）
- 7回：対象企業の業界分析3（発表）
- 8回：対象企業の業界分析4（ディスカッション）
- 9回：対象企業の事業分析1（演習）
- 10回：対象企業の事業分析2（演習）
- 11回：対象企業の業界・事業分析1（発表）
- 12回：対象企業の業界・事業分析2（ディスカッション）
- 13回：研究成果報告1（発表）
- 14回：研究成果報告2（ディスカッション）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内もしくは電子メール、授業支援システム等にて伝達する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への参加状況:35% チーム作業への貢献度:30% 中間報告および最終報告の成果:35%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

### **参考文献 / Readings**

必要に応じて指示する。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC を持参すること。

### **その他 / Others**

- ・ コンサルティング・メソッド 2 (VL092) を継続して履修することが条件となる。
- ・ 履修者数に上限を設けている。選抜方法は履修ガイダンス時に説明する。
- ・ 協力企業との関係により、履修希望に応えられないことがある。
- ・ 履修者の選抜結果は掲示で行う。また、履修登録は独立研究科事務室で行う。
- ・ 履修に先立って秘密保持契約を締結する。
- ・ 授業計画は、協力企業との調整によって変更になる場合がある。
- ・ 授業時間外のチーム研究、討論、取り纏め、発表準備等が必要となる。

### **注意事項**

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## コンサルティング・メソッド2

Consulting Methods 2

青淵 正幸／柴田 徹／内田 彬浩 (AOBUCHI MASAYUKI/ SHIBATA TORU/ UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL092

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

中小企業へのコンサルティング過程を学ぶ（実践編）

Learn about the process of consulting for small and medium sized enterprises (practical edition)

### 授業の内容 / Course Contents

この科目はコンサルティング・メソッド1を引き継ぐところからはじまる。協力企業に対してコンサルティングを行い、具体的な提案（新規事業の提案もしくは改善提案等）を行うことを最終目的とする。担当する企業について、製品や商品、サービスや立地、保有設備、従業員の状況等、企業のリソースを十分に理解したうえで提案が必要となる。必要に応じて経営者へのヒアリングや意見交換を実施し、提案の方向性を確認しながら、実践的な提案内容へと仕上げていく。なお、チーム研究が中心となるため、時間割表に示された時限以外に各自で分担した調査・研究の成果を持ち寄って討論や取り纏めを行ったりする時間が必要となる。

This discipline picks up after Consulting Methods 1. The final objective is to provide consulting services to partner companies and make specific proposals (new business proposals, improvement proposals, etc.). It is necessary to make proposals to the company with a thorough understanding of the company's resources, such as products, services, location, facilities, and employee status. As necessary, hearings and opinions will be



exchanged with managers and, while checking the direction of the proposal, we will finish the practical proposal content. In addition, since team research is the main focus, it is necessary to have time to gather the results of the surveys and research that you have shared, and to discuss and arrange them, in addition to the period indicated in the timetable.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：コンサルティングの方向性の確認・点検1（演習）
- 3回：企業訪問1（学外実習）
- 4回：企業訪問2（学外実習）
- 5回：コンサルティングの方向性の確認・点検2（発表）
- 6回：コンサルティングの方向性の確認・点検3（演習）
- 7回：コンサルティングの方向性の確認・点検4（演習）
- 8回：コンサルティングの方向性の確認・点検5（発表）
- 9回：企業訪問3（学外実習）
- 10回：企業訪問4（学外実習）
- 11回：研究成果プレ報告1（発表）
- 12回：研究成果プレ報告2（ディスカッション）
- 13回：最終成果報告1（発表）
- 14回：最終成果報告2（講評とまとめ）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内もしくは電子メール、授業支援システム等にて伝達する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への参加状況:35% チーム作業への貢献度:30% 最終報告の成果:35%

### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

### その他 / Others

- ・コンサルティング・メソッド1（VL091）からの継続履修となる。当科目のみの履修は不可。
- ・履修者の選抜結果はコンサルティング・メソッド1と同時に掲示で行う。履修登録は独立研究科事務室で行う。
- ・コンサルティング・メソッド1と同様、履修には秘密保持契約への同意が必要となる。
- ・最終報告の評価は、企業経営者、巣鴨信用金庫担当者および教員が行う。

- ・ 提案内容の採否は協力企業の経営者が決定する（本科目のゴールは提案と評価までである）。
- ・ 最終成果物は、調査した資料集、コンサル報告書、最終プレゼン資料の3つを想

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 企業法務 1

Business Law 1

大野 正文 (ONO MASAFUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL141  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、社会経済社会における企業活動に関し「企業」を取り巻く様々な法律問題を通じて、企業が取引や組織運営に当たって直面する問題の特質を理解し、法的な分析、法的解決に至る基礎的スキルを修得することを目標とする。

In this Course, we aim enable students to understand the characteristics of the problems that companies face in transactions and organizational management through various legal issues surrounding "company" in relation to corporate activities in socio-economic society, and to learn basic skills leading to legal analysis methods and legal solutions.

## 授業の内容 / Course Contents

経済社会が複雑化、国際化、IT 化等の変化が進展する中で、経済社会の構成員である企業活動も多くの課題に直面しており、企業法務分野もその取り扱う問題は多様化している。こうした問題に対応するためには、法律専門家だけでなく、企業に雇用され、日常的企業活動に携わる「会社員」も、企業が直面する法的問題を適切に理解し、分析し、解決に導く能力が求められる。問題分析にあたって必要なことは、複雑な問題を基本的な法律知識によって分析できることである。本講義では、事例問題を中心に、その法的な問題点を検討すること

とし、当該問題を解決するための法的な基本的知識を説明する。

学修対象となる法律の名称は、「民法」「商法」「会社法」であるが、必要な範囲で資料を配付するので、とくに専門的な教科書を用意しなくても理解できるよう講義を進める。

As the economy and society undergo major changes such as complication, globalization, and IT, the activities of companies, which are major members of the economy and society, are also facing many challenges, and the issues handled by corporate legal affairs are diversifying. . In order to deal with these problems, not only legal professionals but also "company workers" who are employed by companies and engage in their daily business activities should have skills to properly understand, analyze and solve the legal problems that companies face. In order to properly analyze complex issues, we need to acquire basic legal knowledge. In this lecture, we will focus on case studies to examine the legal issues involved, and explain the basic legal knowledge needed to resolve these issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：企業活動をめぐる法制度環境－企業活動の法的課題
- 2 回：企業取引における契約①－契約とは何か、契約をめぐる基本的なルール
- 3 回：企業取引における契約②－消費者契約と約款
- 4 回：企業取引における契約③－金融取引（法人融資）
- 5 回：企業取引における契約④－取引における説明、顧客の属性（金融商品販売を例に）
- 6 回：企業取引における契約⑤－ネット取引
- 7 回：企業の組織形態と法①－会社とは何か（組合形態と会社形態）
- 8 回：企業の組織形態と法②－経営構造・経営者の責任
- 9 回：企業の組織形態と法③－資金調達・市場法
- 10 回：企業の組織形態と法④－コーポレートガバナンスコード
- 11 回：企業と経済社会にかかわる法的問題①－独占禁止法
- 12 回：企業と経済社会にかかわる法的問題②－労働法制
- 13 回：企業をめぐる新たな法整備と企業法務－立法政策への企業の対応
- 14 回：企業活動をめぐる現代的法的課題－SDGs・人権等と企業法務

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講義では、事例を前提にディスカッションしながら進めていくことを予定している。あらかじめ事例を配付するので、眼を通したうえで、法的知識を前提の有無にかかわらず、自分なりにどのように考えるかを検討したうえで講義に参加してもらいたい。

講義内で基本的な法律知識、裁判例などを講義するので、改めて、配付事例について検証することを講義後実施してもらいたい。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前の事案論点分析:20% 授業内でのディスカッション参加の程度:50%

最終

レポート割合：:30%

**テキスト/Textbooks**

---

松尾剛行 キャリアデザインのための企業法務入門 有斐閣 2022 9784641126374 -

川崎政司他 ビジネス法体系 ビジネス法概論 第一法規 2018 9784474063969 -

塚本英巨他 ビジネス法体系 企業取引法 第一法規 2017 4474061721 -

**参考文献 / Readings**

---

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# クリティカル・シンキング

Critical Thinking

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL150  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスにおける問題解決能力を高めていくことのみならず、自らが意義の大きい問題設定や課題設定ができるようになることや、それらの問題解決の実行が実際にできるようになることを目的とする

The purpose of this course is not only to improve problem solving skills regarding business, but also to enable you to set up and solve problems that are of great significance to yourself, and to actually be able to solve these problems.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義においては、クリティカル・シンキングを、論理的に思考するためのツールや能力という狭義の捉え方はもとより、「分析力×洞察力×構想力」を高め、問題解決能力を高めていくツールや能力であると広義に捉えてクラスを実践的に進めていく。さらには、与えられた問題を解決していただくだけではなく、自ら合理性の高い問題設定や課題設定を行い、それらの解決策を見出すことができるようになることを目指していく。本講義においては、「定量分析×定性分析」や「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」を融合させ、企業の現場でいかに合理性の高い戦略を策定し、なおかつ、いかにそれを効果的に実行して成果を上げていくかという点にも注力していく。そのために最も重要なことは、クリティカル・シンキングで導き出した「正しいロジック

ク」を相手に振りかざすのではなく、相手の立場や感情にも心を配り、相手の「共感」や周りとの「調和」を実現していくことである。現実のビジネスシーンにおいては、「正しいロジック」にいかにか「共感」してもらえ  
るの方が重要である。したがって、講義では人系フレームワークも活用して、想定顧客との信頼関係構築  
のためのロープレ演習やチームワーク演習なども多用し、実践的にクラスを進めていく。本講義で学んでいく  
MECE や 3W1H 等の基礎的なツールは、ビジネススクールで学んでいく専門的なフレームワークに対して  
「OS」や「CPU」のように機能するものであるが、同時に企業の現場においては最も多用されるものでもあ  
る。各種科目の履修初期の段階はもとより、修了前の段階においてこそ立ち返るべき内容である。

したがって、本講義の後半においては、実際にクリティカル・シンキングのツールを使って、企業の現場にお  
ける売上・利益・業績等を向上していく手法についても事例を用いて実践的に学んでいく。

In this lecture, in addition to the narrow view of tools and abilities to think logically about critical thinking, this class will interpret, in a broad sense, critical thinking as a tool and ability to enhance the problem solving ability through enhancing "analytical power × insight × imagination". Further, we will not only solve the problems that are given to us, but we will also setup problems that are highly rational and aim to be able to find solutions to those. In this lecture, we will discuss how to formulate a strategy that is highly rational at the scene of companies by fusing "quantitative analysis × qualitative analysis" and "strategy system framework × human system framework", and in addition, we will focus on how to effectively implement these measures and achieve results. For this purpose, the most important thing is not to show the other party the "correct logic" derived by critical thinking, but also to be mindful of the position and feelings of the other party and to realize "sympathy" of the other party and "harmony" with the surroundings. In real business, it is more important to get "sympathy" as a way for "correct logic". Therefore, in this lecture we will utilize human system frameworks as well as many other exercises such as role play seminars and team work seminars to build trust with our supposed customers. The basic tools learned in this lecture, such as MECE and 3W1H, are those that function much like an "OS" and "CPU" for the specialized framework learned in business school, but at the same time, it is one of the most frequently used in the field of business. Not only in just the early stages of taking a course in each discipline, it is the content that should be returned to before completion.

Therefore, in the second half of this lecture, students will learn how to improve the sales, profit, and performance of companies by using the actual tools of critical thinking.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クリティカル・シンキングの前提知識（1）
- 2 回：クリティカル・シンキングの前提知識（2）
- 3 回：クリティカル・シンキングの基礎知識（1）
- 4 回：クリティカル・シンキングの基礎知識（2）
- 5 回：クリティカル・シンキングのフレームワーク（1）
- 6 回：クリティカル・シンキングのフレームワーク（2）
- 7 回：問題解決の手法（1）
- 8 回：問題解決の手法（2）
- 9 回：PDCA の理論と実際（1）
- 10 回：PDCA の理論と実際（2）
- 11 回：売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（1）
- 12 回：売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（2）
- 13 回：「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング

(1)

14回：「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング

(2)

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

問題解決、課題や仮説設定などに普段から高い問題意識をもっておくこと

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合 : :20%

**テキスト / Textbooks**

高田貴久+岩澤智之 『問題解決』 英治出版 2014 9784862761248 -

安宅和人 『イシューからはじめよ』 英治出版 2010 9784862760852 -

田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -

田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656 -

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

**参考文献 / Readings**

竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482

泉田良輔 『Google vs. トヨタ—自動運転車は始まりにすぎない』 角川 2014 9784040800233

日経デザイン 『アップルのデザイン戦略』 日経 BP 社 2014 9784822264888

板倉俊之 『ことわざドリル—笑いこみあげる92題』 リトルモア 2010 9784898152904

**その他 / Others****【双方向による授業】**

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100% (14回中14回) である。

**【実務家教員による授業】**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# グローバル・マーケティング 1

## Global Marketing 1

笠原 英一 (KASAHARA EIICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL151  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、クラス・ディスカッション及びショートケースを展開することにより、理論の理解を深めながら、グローバル市場におけるマーケティング活動を推進する人にとって必要不可欠な理論に関する理解を深め、実践力を強化することを目的としている。

The goal of this lecture is to deepen the understanding of the theory through developing class discussions and short case, and to deepen the understanding of the theory, which is essential for people who promotes marketing activity in the global market, and to strengthen the practice.

### 授業の内容 / Course Contents

マーケティングにおけるグローバル化への対応とは、世界のあらゆる市場にデータ収集や営業の拠点としてのオフィスを開設することではない。グローバル化と世界各地に拠点を置くということは、全く別の次元である。自社の経営資源を生かして、顧客の満たされないニーズを探索・確定し、ソリューションを提供していくという一連の価値創造を、市場の選定から、価値を創るための開発、生産、組み立て、サービス等の機能の組み合わせも含め、グローバルな視点で考察することがグローバル・マーケティングの本質である。グローバル・マーケティング 1 では、総論として、グローバル・マーケティングの枠組み、参入市場の決定、市場参入

方式の決定、参入基本戦略、機能・領域間の統合・調整、組織・体制などを最新のテキストを用いてカバーする。

The response to globalization in marketing is not about opening an office as a data collection and sales base in every market in the world. Globalization and the fact that we are based in different parts of the world are completely different. The essence of global marketing is to consider a series of value-creation from the selected market, including the combination of development, production, assembly, and service functions to create value, by utilizing the company's management resources to search and determine the unmet needs of customers and provide solutions. In Global Marketing 1, as an introduction, the framework of global marketing, decision of the market entry, decision of the method of entry, basic entry strategies, integration and adjustment between functions and areas, and organization and structure are covered with the latest text.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：グローバル市場とマーケティング
- 2 回：グローバル市場の分析（経済、技術）
- 3 回：グローバル市場の分析（文化、社会）
- 4 回：グローバル市場の分析（法律）
- 5 回：世界市場、地域市場、国内市場の統合
- 6 回：マーケティング・リサーチ
  - ・設計
  - ・解析
- 7 回：グローバル市場の選択
- 8 回：グローバル市場への参入
- 9 回：市場戦略総論
  - ・市場の細分化、標的市場の抽出、提供効用の明確化
- 10 回：製品開発
  - ・効用、製品、サービス
- 11 回：価格付け
  - ・効用、競合、コスト
- 12 回：チャンネル開発
  - ・チャンネル・プレイヤー
  - ・リーチ vs. リッチネス
- 13 回：販売促進
  - ・コミュニケーションミックス（広告、広報、営業、販促、SNS）
- 14 回：テスト及び解説・まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事

前)、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業で実施するプレゼンテーション:30% 最終レポート割合：:30%最終テスト割合：:40%

グローバル・マーケティング2も引き続き受講することが望ましい

### テキスト / Textbooks

笠原英一翻訳、Ilan Alon 他著 『グローバル戦略市場経営』 白桃書房 2017 ○

笠原英一著 『強い会社が実行している経営戦略の教科書』 KADOKAWA 2013 ○

### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

<http://www.aprim.jp/>

【双方向による授業割合】

100%

※20年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# グローバル・マーケティング2

## Global Marketing 2

笠原 英一 (KASAHARA EIICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL153  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、クラス・ディスカッション及びショートケースを展開することにより、理論の理解を深めながら、グローバル市場におけるマーケティング活動を推進する人にとって必要不可欠な実践力を強化することを目的としている。

The goal of this lecture is to deepen the understanding of the theory through developing class discussions and short cases, and to strengthen the essential practical skills for people who promote marketing activities in the global market.

### 授業の内容 / Course Contents

マーケティングにおけるグローバル化への対応とは、世界のあらゆる市場にデータ収集や営業の拠点としてのオフィスを開設することではない。グローバル化と世界各地に拠点を置くということは、全く別の次元である。自社の経営資源を生かして、顧客の満たされないニーズを探索・確定し、ソリューションを提供していくという一連の価値創造を、市場の選定から、価値を創るための開発、生産、組み立て、サービス等の機能の組み合わせも含め、グローバルな視点で考察することがグローバル・マーケティングの本質である。グローバル・マーケティング2では、グローバル・マーケティングの領域の中で、特に今後の成長が見込まれるアジア

市場を対象にして、特にアセアン主要地域に関するマーケティングを研究する。ケース・スタディ及びビジネス・プラン作成を通してグローバル・マーケティングの各論としてのリージョナル・マーケティングを実践的かつ系統立てて学習していくことを目的としている。グローバル・マーケティング2では、グローバル・マーケティングの領域の中で、特に今後の成長が見込まれるアジア市場を対象にして、特にアセアン主要地域に関するマーケティングを研究する。各セッションではA日程のグローバルマーケティングの基本を復習しながら、下記のテーマについて議論を深めていく。

The response to globalization in marketing is not about opening an office as a data collection and sales base in every market in the world. Globalization and the fact that we are based in different parts of the world are completely different. The essence of global marketing is to consider a series of value-creation from the selected market, including the combination of development, production, assembly, and service functions to create value, by utilizing the company's management resources to search and determine the unmet needs of customers and provide solutions. In Global Marketing 2, we will look at marketing in Asia markets where future growth is expected in the area of global marketing, especially in major ASEAN markets. The goal is to learn about regional marketing as a detailed explanation of global marketing through case studies and business plan preparations in a practical and systematic way. In Global Marketing 2, we will look at marketing in Asia markets where future growth is expected in the area of global marketing, especially in major ASEAN markets. In each session, we will review the basics of global marketing on schedule A and deepen the discussion on the following themes.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ビジネス・システムの意味と構成要素
- 2 回：ビジネス・システムの構成要素  
(企業所有、産業ネットワーク、経営スタイル、資本調達、人材採用、信用付与、価値観、アイデンティティ、権限移譲)
- 3 回：アセアン市場とビジネス・システム①
- 4 回：アセアン市場とビジネス・システム②
- 5 回：グローバルビジネスの実践－成長の源泉を探す
- 6 回：グローバルビジネスの実践－事業領域を選定する
- 7 回：グローバルビジネスの実践－権限移譲と人材開発
- 8 回：グローバルビジネスの実践－実行と調整
- 9 回：グローバルビジネスの実践－評価指標と留意点
- 10 回：グローバル事業戦略と現状分析 - 顧客分析、競合分析、自社分析、マクロ環境分析
- 11 回：グローバル事業戦略と基本方向 - 事業目標、事業領域、競争戦略
- 12 回：グローバル事業戦略と具体施策 (STP+マーケティング・ミックス、バリューチェーン)
- 13 回：確認テストの実施
- 14 回：テストのポイント解説

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

次の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業で実施するプレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :30%最終テスト割合 :40%

グローバル・マーケティング1を受講しておくことが望ましい。

### テキスト / Textbooks

笠原英一翻訳、Ilan Alon 他著 『グローバル戦略市場経営』 白桃書房 2017 ○

笠原英一翻訳、サンジェイ著 『フォーカス戦略』 東洋経済 2019 ○

その都度ハンドアウトを配布する。

### 参考文献 / Readings

笠原英一 『経営戦略の教科書』 Kadokawa

### その他 / Others

<http://www.aprim.jp/>

【双方向による授業割合】

100%

※20年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 統計学基礎 1

Statistics Essentials 1

ウエノ, R. (UYENO RUSSELL KAZUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL155  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項） Online instruction will begin during the first week of the semester.  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5801  
使用言語： 英語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the fundamental concepts, terms, and methods of statistical analysis. There will be an emphasis on conceptual understanding of statistical information, to enable students of various levels of mathematics experience to benefit from the course.

Learning objectives include:

Understand and be able to use basic statistical concepts.

Understand and be able to interpret the results of basic statistical analyses.

Understand the concept of statistical inference and the process of hypothesis testing.

Collect and organize data for statistical analysis.

Identify the appropriate statistical analysis for specific types of data and research questions.

## 授業の内容 / Course Contents

The general topics to be covered will include:

Basic concepts in quantitative data analysis

Descriptive statistics: central tendency and variation

Inferential statistics: hypothesis testing

Basic types of analysis: t-tests; correlation; simple regression; one-way ANOVA; chi-square

Review and summary

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction and course overview
- 2 回： Basic concepts of statistical analysis
- 3 回： Descriptive statistical analysis: mean and standard deviation
- 4 回： Descriptive statistical analysis: z-scores
- 5 回： Frequency distributions and probability
- 6 回： Normal distribution
- 7 回： Inferential statistical analysis: basic concept and rationale of the hypothesis test
- 8 回： T-tests
- 9 回： Analyzing variation: correlation
- 10 回： Simple regression
- 11 回： One-way analysis of variance (ANOVA)
- 12 回： Chi-square
- 13 回： Examples and applications
- 14 回： Review

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Readings, practice problems, and homework as assigned.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100%    Homework and quizzes:60%                      最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

Students are not required to purchase a textbook for this course.

### 参考文献 / Readings

Journal articles and other readings will be provided by the instructor.

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students should be comfortable with online instruction, including watching lecture videos, downloading course materials, and uploading assignments.

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should have access to a laptop or tablet that they can use to access the online class material and complete/upload assignments.



# 統計学基礎 2

Statistics Essentials 2

ウエノ, R. (UYENO RUSSELL KAZUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL157  
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）  
授業形態（補足事項） Online instruction will begin during the first week of the semester.  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5801  
使用言語： 英語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

This course follows Statistics Essentials 1 and will further build students' understanding of and experience with key methods of statistical analysis, particularly multiple linear regression and factorial analysis of variance (ANOVA). It will also introduce students to more advanced methods of analysis such as factor analysis, logistic regression and path analysis.

Learning objectives include:

Conceptualize, develop and interpret the results of intermediate-level statistical analyses.

Further develop students' understanding of the concept of statistical inference and its application to more advanced statistical methods.

Further develop students' understanding of the rationale and methods of preparing data for statistical analysis.

Further develop students' ability to identify appropriate statistical analysis for specific types of data and research questions.

## 授業の内容 / Course Contents

The general topics to be covered will include:

Review of key concepts and methods introduced in Statistics Essentials 1.

Multiple linear regression: testing and evaluating models and variables.

Factorial ANOVA: analysis using two or more independent variables.

Other methods: logistic regression, factor analysis, path analysis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction and course overview
- 2 回： Review of concepts and methods covered in Statistics Essentials 1 course.
- 3 回： Further understanding of correlation and variance.
- 4 回： Multiple linear regression: basic concepts and method.
- 5 回： Multiple linear regression: interpreting models and variables.
- 6 回： Multiple linear regression: model building methods.
- 7 回： ANOVA: from one-way to factorial designs.
- 8 回： ANOVA: main effects and interaction.
- 9 回： Logistic regression: underlying concept and relationship to multiple linear regression.
- 10 回： Logistic regression: interpreting results.
- 11 回： Path analysis: underlying concept and relationship to multiple linear regression.
- 12 回： Factor analysis: underlying concept and applications
- 13 回： Examples and applications
- 14 回： Review

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Readings, practice problems, and homework as assigned.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Homework and quizzes:60% 最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

Students are not required to purchase a textbook for this course.

### 参考文献 / Readings

Journal articles and other readings will be provided by the instructor.

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students should be comfortable with online instruction, including watching lecture videos, downloading course materials, and uploading assignments.

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should have access to a desktop, laptop or tablet that they can use to access the online class material and complete/upload assignments.

# 統計学 1

Statistics 1

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL171  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

統計学に関する基礎的な内容および記述統計の基礎を固め、推定・仮説検定という推測統計の基礎を身につける。また、R を用いたデータ分析スキルも身につける。

The basic content on Statistics and the basis of descriptive statistics are solidified, and the basis of inferential statistics of estimation and hypothesis testing are acquired. Also, data analysis skills using SPSS, EXCEL, etc. will be acquired.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、統計学に関する基礎的な知識を習得し、自ら基礎的な分析を行うことができるようになることを目標としている。そのため、授業は講義および演習から構成される。講義では、まず記述統計および2変量の関連指標について説明したのち、統計的推測および検定の考え方とその方法について講義する。演習では、R を用いて、実際に分析を行う。なお、本授業で扱うのは推測統計の考え方と2変量までの分析手法である。多変量解析の方法については統計学2で取り扱う。

The goal of this class is to provide students with basic knowledge of statistics and to enable them to perform basic

analyses on their own. Therefore, the course consists of lectures and exercises. In the lecture, descriptive statistics and bivariate related indices will be explained first, and then the concept and methods of statistical inference and testing will be lectured. In the exercises, students will conduct actual analyses using SPSS, EXCEL, and other tools. This class will cover the concept of inferential statistics and analysis methods up to bivariate analysis. Methods of multivariate analysis will be covered in Statistics 2.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会と統計
- 2 回：1 変数データの要約
- 3 回：1 変数データの要約（演習）
- 4 回：2 変数データの要約（相関係数）
- 5 回：2 変数データの要約（クロス表）
- 6 回：2 変数データの要約（演習）
- 7 回：推測統計の基礎
- 8 回：統計的検定
- 9 回：2 変数間の関連の推定と検定（t 検定）
- 10 回：2 変数間の関連の推定と検定（ $\chi^2$  乗検定）
- 11 回：2 群の母平均の差の t 検定
- 12 回：平均値の差の分散分析
- 13 回：単回帰分析
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の課題学習活動:100%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

資料を配付予定。

### 参考文献 / Readings

杉野勇 入門・社会統計学 法律文化社 2017 9784589038463

### その他 / Others

本科目では、実際の社会調査で得られたデータを用いる可能性がある（データの利用のための誓約事項がある場合あり）。

# 統計学 2

Statistics 2

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL176  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

目的に応じた適切な多変量解析を実行できる力を身につける

Acquire the ability to perform appropriate Multivariate Analysis according to the goal

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、目的に応じた適切な多変量解析を実行できる力を身につけることを目標としている。そのため、この授業では、多変量解析の手法に関する講義、実際の社会調査データを用いた演習を行う。多変量解析の手法には様々なものがあるが、この授業では、重回帰分析とその応用、ロジスティック回帰分析、主成分分析・因子分析を取り扱う。演習では、R 等の統計パッケージを用いて、これらの分析を実際に行う。以上の講義および演習により、目的に応じた適切な分析手法の選択と分析の実施、結果のまとめができるようになることを目指す。

The goal of this class is to acquire the ability to perform multivariate analysis appropriate for the purpose. To this end, this class will include lectures on multivariate analysis methods and exercises using actual social survey data. There are various methods of multivariate analysis, but this class will cover multiple regression analysis and its applications, logistic regression analysis, and principal component analysis and factor analysis. In the exercises,

students will perform these analyses using statistical packages such as SPSS. Through the above lectures and exercises, the course aims to enable students to select appropriate analytical methods, conduct analyses, and summarize the results according to their objectives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：データの生成・加工と記述統計
- 3 回：2変数間の関連の推定と検定
- 4 回：分散分析
- 5 回：単回帰分析
- 6 回：重回帰分析①重回帰分析の基礎
- 7 回：重回帰分析②ダミー変数を含む重回帰モデル
- 8 回：重回帰分析③2乗項、交互作用項を含む重回帰モデル
- 9 回：重回帰分析④階層的重回帰分析
- 10 回：2項ロジスティック回帰分析
- 11 回：多項ロジスティック回帰分析
- 12 回：主成分分析と因子分析
- 13 回：欠測データ処理
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の課題学習活動:100%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

資料を配付予定。

### 参考文献 / Readings

杉野勇 入門・社会統計学 法律文化社 2017 9784589038463

三輪哲・林雄亮（編著） SPSS による応用多変量解析 オーム社 2014 9784274050114

高橋将宜・渡辺美智子 欠測データ処理—Rによる単一代入法と多重代入法— 共立出版 2017  
9784320112568

### その他 / Others

統計学 1 の内容（推定・仮説検定の基礎）を習得していることが望ましい。

本科目では、実際の社会調査で得られたデータを用いる可能性がある（データの利用のための誓約事項がある場合あり）。

# 調査法 1

Business Research Methods 1

吉村 喜子 (YOSHIMURA KIYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL177  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、受講者が調査データの統計処理および報告書作成に必要な知識を身に付けることを目的とする。調査法 1 では、調査目的の設置、分析手法等、調査を実施、分析するために必要な基礎知識を習得することを目標とする。

The purpose of this course is for students to acquire the knowledge necessary for the statistical processing of survey data and report preparation. In addition, Business Research Method 1 aims to develop the basic knowledge required for conducting and analyzing surveys, such as setting survey objectives and analysis methods.

## 授業の内容 / Course Contents

調査法とは人々の意識や行動の特徴、社会的事実や社会現象、仕組みなどを明らかにする科学的方法である。本講義では、目的に即した調査の種類、性質、データ、分析などを学ぶ。調査法 1 はテーマと調査目的を決めて、目的に基づく簡単な調査票の作成、簡単な分析までの基本的な調査手法を学ぶ。調査法 1 においては、統計学についての基礎があると望ましい。

講義では、分析のテーマを各自に決めてもらう。前期課程 2 年目の修士論文やビジネスデザインのテーマを決めていることが望ましいが、テーマを決めていない人は、身近な対象をテーマとして選ぶことで、調査の手順

を学ぶことができる。前期課程2年目の準備として何を考えておかなければならないか？という自身の課題発見という視点で講義に臨んでほしい。

Research methods reveal the characteristics of people's consciousness and behavior, social facts, social phenomena, and mechanisms. In this lecture, you will learn about the types, data, analysis, etc., of the Research methods according to the purpose. In Research Methods I, you will learn fundamental research methods.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：コース概要
- 2回：課題の設定と基本的事項の理解
- 3回：量的調査
- 4回：質的調査
- 5回：調査の基本事項
- 6回：調査の方法と計画
- 7回：調査票1
- 8回：調査票2
- 9回：サンプリング
- 10回：調査の実施
- 11回：データの整理と分析1
- 12回：データの整理と分析2
- 13回：データの整理と分析3
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

本授業は、講義中にはクラス内を超えて調査をすることがないが、詳細（例えば前期課程2年目に）ビジネスの現場で実際にアンケート調査を行うことを想定している。所属する職場やコミュニティの課題等、意義あるテーマを見つけることを勧める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:60% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特になし。

### 参考文献 / Readings

授業中に都度紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

修士2年目の修士論文やビジネスデザインのテーマを決めていることが望ましいが、テーマを決めていない人も、修士2年目の準備として何を考えておかなければならないか？という自身の課題発見という視点で講義に



臨んでほしい。

### **その他/ Others**

実務でアンケート調査をすることを想定して授業を進める。初回は対面実施予定。オンライン授業も設定する。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 調査法 2

Business Research Methods 2

吉村 喜子 (YOSHIMURA KIYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL178  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

調査に基づいた報告書を作成するためにデータの分析手法を学ぶ。具体的には、検定と多変量解析、およびアンケートの自由記載事項を分析するためのテキストマイニング手法を習得することを目標とする。

Learn how to process and analyze data for preparing a research-based report. Specifically, the goal is to learn statistic tests, multivariate analyses, and text mining techniques for free text in the survey.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義は受講者が前期課程 2 年目の修論作成やビジネスプランの作成を想定して、調査データの統計処理および報告書作成に必要な知識を身に付けることを目的とする。具体的には、検定（t 検定・カイ二乗検定など）、多変量解析、およびテキスト分析を利用した分析方法を習得する。講義は概要説明と実習（統計分析ソフト SPSS、AMOS、KHCoder 用）を使用する。また、最終回には分析方法についての理解を深めるために、分析結果を発表してもらい、受講者全員で発表を行う。

調査法 2 は、統計ソフトを使用して具体的なデータ分析をサンプルデータを使って履修する。各自が研究テーマを決めていることが望ましい。まだ、研究テーマを決めていない人は、データを取得することを想定して、どのような分析ができるか？ということを考えながら履修してほしい。

This course aims to acquire the ability to process investigation data and to learn analysis methods. Specifically, learn to use statistic tests (t-tests/chi-square tests.), multivariate analysis, and text mining. The course combines the lectures and practical use of software (SPSS/ AMOS/KH Coder). Also, to deepen our understanding of the analysis method, participants will present and discuss their findings in the final class.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会調査法とは/コース概要
- 2 回：検定
- 3 回：主成分分析
- 4 回：因子分析
- 5 回：回帰分析 1
- 6 回：回帰分析 2
- 7 回：ロジスティック回帰分析 1
- 8 回：ロジスティック回帰分析 2
- 9 回：共分散構造分析 1
- 10 回：共分散構造分析 2
- 11 回：テキストマイニング 1
- 12 回：テキストマイニング 2
- 13 回：プレゼンテーション 1
- 14 回：プレゼンテーション 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

SPSS・AMOSの基礎的な操作方法の習得。KH CODERのダウンロード（授業中に指示あり）。  
実務でアンケート調査をすることを想定して授業を進めていく。VL177/調査法1を履修した方は、実査したデータを自己学習のために使用して分析することを勧める。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:40% 課題提出:60%

### テキスト / Textbooks

特になし

### 参考文献 / Readings

授業中に都度紹介します。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

統計の知識があることが望ましい。

### その他 / Others

本講義は調査法1の履修を前提とした講義である。未履修者も履修できるが、出来るだけ調査法1を受講していることを勧める。統計の知識があることが望ましい。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# データサイエンス基礎

Basics of Data Science

データサイエンス基礎

嶋田 圭吾 (SHIMADA KEIGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL179

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現在、最も注目されているデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進する中核的な人材が、データサイエンティストである。本授業は、データサイエンティストを目指す方達の入門講座の位置付けとなる。データサイエンティストの根幹であるデータサイエンスの基礎を学ぶことで、データの基本的な扱い方、データの活用方法、データモデリング、データ分析手法などの習得を目指す。また、講義と自習を通じて、データベースの基礎や SQL での基本的なデータ操作方法を学習する。

Data scientists are the core human resources who are driving the promotion of digital transformation (DX), which is currently attracting the most attention. This class will be an introductory course for those wishing to become a data scientist. By learning the basics of data science, which is the foundation for being a data scientist, our goal is to learn basic treatment of data, utilization methods of data, data modeling, data analysis methods, etc. Also, through lectures and self-study, we will learn the basics of database and basic data operations in SQL.

## 授業の内容 / Course Contents

データサイエンス基礎知識の習得、データ分析プロセスやデータモデリングの理解、統計学の基礎知識学習に

関しては講義形式で実施する。データ活用やデータ分析に関しては、実際のビジネス上での事例を紹介し、理解を深める。また、SQLによるデータクレンジングやデータ変換方法の学習に関しては、SQL基礎講習と自習によりデータ操作方法を理解する。

We will learn the basics of data science, understand data analysis processes and data modeling, and learn the basic knowledge of Statistics in a lecture format. We will introduce actual cases in business and deepen our understanding of data utilization and data analysis. Also, for learning about data cleansing and data conversion methods using SQL, we will learn how to use data through SQL basic training and self-study.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

### 1回：データサイエンスの基本概念と応用例

データサイエンスとは何か、何を学んだら良いか、また、データサイエンスがどのような分野でどんな形で実際に利用されているかなどを講義形式で分かり易く解説する。

### 2回：データ分析プロセスの理解と実践例の紹介

データサイエンスの中で大きなウエイトを占めているデータ分析に関して、その分析手法や分析プロセスを学習する。講義に合わせて、具体的な分析プロセスの実例を紹介する。

### 3回：データモデル概念の理解とプロトタイプモデル作成演習

データを扱う上で、基本であり、かつ最も重要なデータモデルに関して、モデリング手法やデータモデル作成方法の基本を学習する。また、例題を使い、実際にプロトタイプモデルを作成する演習を行う。

### 4回：データサイエンスに必要な統計手法と具体的な利用例

データサイエンスで必要となる最低限の統計手法を学習する。理解を深めるため、統計手法の具体的な利用例を交えて解説する。

### 5回：ビックデータの活用方法と現状

ビックデータとは何か、何故大きな話題となったのかを解説する。また、ビックデータが実際にどのように活用されているのかという現状を紹介する。

### 6回：新しいIT技術の活用

最近話題となっているAI、IoT、ブロックチェーンなど、最新のIT動向を解説しながら、データサイエンスとの関連や今後の展望に関して解説する。

### 7回：【事例紹介】顧客データ分析事例

顧客データ分析の事例を使い、顧客統合や名寄せの手法、分析手順などを紹介する。

### 8回：【事例紹介】購買データ分析事例

原価の削減や代替品候補の選定などで使われている購買データ分析の事例を紹介する。また、事例を通して購買業務に関して理解を深める。

### 9回：【事例紹介】製造原価分析事例

グローバル製造業全体の課題でもある製造原価分析に関して、先進的なグローバル製造企業が、現在どのような方法で原価分析を行っているかを紹介する。

### 10回：販売データ分析演習

販売データの代表であるPOSデータを使い、販売データ分析に関して理解を深める。

販売データ分析における課題と分析時の重要なポイントを理解する。

### 11回：貸借対照表による財務分析の基礎

貸借対照表を使った財務分析の基礎を学習し、売上分析を例とした場合、実際どのような手順で分析を行なうのかを理解する。

### 12回：ビックデータ分析事例

I o Tデータを使ったビックデータ解析に関して、実際のデータを確認しながら、ビックデータの基本的な解析手順や解析手法を理解する。

13回：データクレンジング概念の理解と具体的なクレンジング事例紹介

データサイエンティストの仕事の80%を占めると言われているデータクレンジングに関して、何のために、どんな手法でデータクレンジングを行うのかを具体例を交えて解説する。

14回：データベースの基礎とデータサイエンスのまとめ

データベースの基礎とSQLに関して学習する。また、講義全体の復習とまとめを行う。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

11回目の授業までに、損益計算書がある程度読めるくらいまでの基礎を学習しておくこと。

復習に関しては、各回の授業終了時に指示する。

数学、統計、ITの知識がない方でも受講可能な内容となっている。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・発言:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

毎回、プリントを配布。

### 参考文献 / Readings

青木 峰郎 10年戦えるデータ分析入門 SBクリエイティブ 2015 9784797376272

西内 啓 統計学が最強の学問である [実践編] ダイヤモンド社 2014 9784478028230

竹村 彰通 データサイエンス入門 学術図書出版社 2021 9784780607307

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データベースをインストールしても良いPC。

ハードディスク 50GB、メモリ 15G程度必要。

### その他 / Others

本科目を履修する場合、本科目と関連の深い日本データビジネス協会が提供するデジタルトランスフォーメーションモジュール内の他の科目を併せて履修することを推奨する。必須ではない。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# デジタル・ビジネスプランニング

Digital Business Planning

青木 明彦 (AOKI AKIHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL180
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6600
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

デジタルビジネストランスフォーメーションが加速する昨今、ビジネスにおける競争優位獲得のための経営戦略立案において、データ活用の必要性がこれまで以上に重要視されている。本科目では、AI・IoT等最新技術およびデータを活用した「デジタル・ビジネスプランニング」を学び、実践的な「データサイエンティスト」を目指す。デジタル技術とデータを活用した新規ビジネスの創出および業務改善のための実践的なスキルと知識を学びたい人向けの内容となっている。

The necessity of the data utilization is more important in the management strategy planning for competitive superiority acquisitions in business more than before these days as the digital business transformation is accelerating. In this discipline, we will learn "Digital Business Planning" utilizing the latest AI/IoT technologies and data, and our goal is to become a practical "data scientist". The content is for people who want to learn practical skills and knowledge for creating new businesses and business improvements using digital technology and data.

## 授業の内容 / Course Contents

多種多様なデジタル・ビジネス事例をケーススタディする。デジタル・ビジネスにおいてデータ活用は必須で



ありデータおよびその活用方法についての基礎を学ぶ。またプランニングの手順を含めた方法についても学ぶ。マーケティング、IT などプランニングに必要な知識については概要レベルで全体を講義する。幅広い知識を必要とするが、高度な専門知識は前提としない。終盤は各自またはグループでデジタル・ビジネスプラン作成にチャレンジする。

We will study a diversity of digital business cases. In digital business, data utilization is essential, and we will learn the basics of data and how to utilize it. Also, we will learn methods including planning steps. A general lecture on the knowledge required for planning such as marketing and IT will be given at an overview level. Requires extensive knowledge, but advanced specialization is not assumed. At the end of the course, we will challenge ourselves or our group to create a digital business plan.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：「AI、IoT と中心としたデジタルトランスフォーメーションの実態」「データ活用の現状」最新の事例からデジタルビジネスを俯瞰する。米国最新情報についても共有する。

2 回：データマネジメント

データマネジメント知識体系ガイドに沿ってデータ活用の基礎を理解する。

3 回：デジタル・ビジネスプランニング概論

デジタル・ビジネスプランの全体構成を学び、各自の領域におけるプランニングテーマを設定する。

4 回：データサイエンティストの知識とスキル

データサイエンティストで必要に必要な知識とスキルについて学ぶ。

5 回：データ活用事例研究 1 (ビッグデータ)

SNS が生み出すビッグデータのマーケティング領域での活用事例について考察する。

6 回：データ活用事例研究 2 (オープンデータ・クローズドデータ)

オープンデータと企業内クローズドデータによる活用事例について考察する。

7 回：デジタル・ビジネスプランニングメソッド

プランニングのアプローチ方法、目的、手順、成果物について学ぶ。

8 回：データデザイン (データの定義・収集・加工・分析)

デジタル・ビジネスプランニングに必要なデータデザインについて学ぶ。

9 回：サブスクビジネス概論 1

サブスクリプション形式サービスの定義と歴史を振り返る。

10 回：サブスクビジネス概論 2

”モノからコトへ”消費の変化とともにサブスク市場の今後について解説する。

11 回：デジタル・ビジネスプランニング演習 1

学習してきた方法に基づき各自またはチームでプランニングを行う。

12 回：デジタル・ビジネスプランニング演習 2

13 回：デジタル・ビジネスプランの評価 1

演習で作成したプランをそれぞれ発表し、検討評価する。

14 回：デジタル・ビジネスプランの評価 2

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定　：

### **授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

11、12 の演習内容は、レポート（プレゼン資料）提出となる。

### **成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合　:100%　最終レポート:40%　授業の参加度・発言:60%

### **テキスト / Textbooks**

毎回、資料を配布する。

### **参考文献 / Readings**

特定の文献は使用しない。授業中必要な情報はオンライン参照する。参考となる文献は都度紹介する。

### **その他 / Others**

本科目を履修する場合、他のデジタルビジネストランスフォーメーションモジュール内科目との関連が高いため、興味があり可能であればモジュール内科目を併せて履修することを推奨する。必須ではない。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 経営学基礎 1

## Introduction to Management 1

木村 剛 (KIMURA TSUYOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL181
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

本コースは、経営学の基礎的な概念、理論を習得するための入門的な科目である。経営学基礎 1・2 を通じて経営戦略を中心とする経営学を幅広く取り扱うが、経営学基礎 1 では、経営戦略論、戦略経営論および財務分析論の基礎的項目の理解を目的としている。

This course is an introductory discipline for learning the basic concepts and theories of Business Management. We handle a wide range of Business Management, focusing on management strategy, through Introduction to Management 1 and 2, but Introduction to Management 1 aims to understand basic items of corporate strategy, strategic management theory, and financial analysis theory.

### 授業の内容 / Course Contents

ビジネススクールでの学修とは、与えられた課題を仲間と議論するプロセスから、自ら学び・気づきを得るプロセスである。経営学基礎 1 では、ビジネススクールでの学修のための基礎スキルである「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」の習得から始める。続く「経営戦略論」では、どこでどう闘うのか（もしくはいかに闘いを避けるのか）を定めるためのプロセスと基本フレームワークを学ぶ。「戦略経営（Strategic Management）論」では、経営戦略の策定にとどまらず、その実行と、現場からのフィードバックによる戦

略・資源転換を議論する。「財務分析論」では、財務三表のつながりを理解し、それらに表されている数字から企業の状況や戦略をいかに読み解くかを検討する。なお、講義は演習や議論を中心に行う。

Learning at a business school is a process of self learning and gaining awareness from the process of discussing a given subject together with peers. In Introduction to Management 1, we begin by learning "logical thinking" and "facilitation", which are the basic skills needed for learning at business schools. In the following "corporate strategy", we will learn the process and basic framework to determine where and how to fight (or how to avoid a fight). The "strategy management theory" is not limited to the formulation of management strategies, but also discussions on their implementation and the transformation of strategies and resources based on feedback from the field. In the "financial analysis theory", we will try to understand the connection between three financial tables and consider how to interpret the situation and strategy of the company from the figures expressed in them. In addition, lectures are focused on seminars and discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：基礎スキル：ロジカルシンキング
- 3回：基礎スキル：ファシリテーション
- 4回：経営戦略論①
- 5回：経営戦略論②
- 6回：経営戦略論③
- 7回：総合的議論
- 8回：中間テスト
- 9回：戦略経営論
- 10回：財務分析論①
- 11回：財務分析論②
- 12回：財務分析論③
- 13回：総合的議論とコースのまとめ
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画に沿って、毎回の講義の際に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業への貢献、週次の課題レポート:40% 中間テスト:30% 最終テスト割合：:30%

2/3以上の出席をしていない場合は単位修得不可

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

高橋 宏幸ほか 現代経営入門 有斐閣 2011 4641183945

網倉久永,新宅純二(著) 経営戦略入門 日本経済新聞出版社 2011 453213403

網倉久永,新宅純二(著) 経営戦略の基本 日本実業出版社 2008 4534044674

國貞克則 財務3表一体理解法 朝日新聞出版 2016 4022736844

#### **その他/ Others**

続けて「経営学基礎2」を履修することが望ましい。

#### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 経営学基礎 2

## Introduction to Management 2

木村 剛 (KIMURA TSUYOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL186
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

本コースは、経営学の基礎的な概念、理論を習得するための入門的な科目である。経営学基礎 1・2 を通じて経営戦略を中心とする経営学を幅広く取り扱うが、経営学基礎 2 では、マーケティング論、ファイナンス論および組織論（マクロ・ミクロ）の基礎的項目の理解を目的としている。

This course is an introductory discipline for learning the basic concepts and theories of Business Management. We handle a wide range of Business Management, focusing on management strategy, through Introduction to Management 1 and 2, but Introduction to Management 2 aims to understand basic items of marketing theory, finance theory, and organization theory (macro and micro).

### 授業の内容 / Course Contents

経営学基礎 2 では、「マーケティング論」から始める。“顧客”や“市場”というキーワードでビジネスをとらえなおし、また、消費者行動にも着目する。続く「ファイナンス論」では、経営資源のうち“カネ”に着目し、企業価値を高めるための資金調達や投資評価に関する基礎的項目を議論する。「組織論」では、“ヒト”に着目し、組織体制や制度（マクロ）およびリーダーシップや動機付けの組織行動（ミクロ）に関して議論する。なお、講義は、演習や議論を中心に行う。

In Introduction to Management 2 we will start with “marketing theory”. We will reimagine business with the keywords "customer" and "market" and also focuses on consumer behavior. In the following "finance theory", we focus on "money" among the management resources and discuss basic items related to financing and investment evaluation to increase corporate value. In "organization theory", we focus on "people" and discuss organizational structures and systems (macro) and organizational behavior (micro) of leadership and motivation. In addition, lectures will be focused on seminars and discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：マーケティング論①
- 3回：マーケティング論②
- 4回：マーケティング論③
- 5回：ファイナンス論①
- 6回：ファイナンス論②
- 7回：総合的議論
- 8回：中間テスト
- 9回：企業論
- 10回：組織論概論
- 11回：マクロ組織論
- 12回：ミクロ組織論（組織行動論）
- 13回：総合的議論とコースのまとめ
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画に沿って、毎回の講義の際に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業への貢献、週次の課題レポート:40% 中間テスト:30% 最終テスト  
割合：:30%

2/3以上の出席をしていない場合は単位修得不可

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

沼上 幹 わかりやすいマーケティング戦略 有斐閣 2008 4641123551

二村 敏子 現代ミクロ組織論—その発展と課題 有斐閣 2004 4641086990

岸田 民樹 現代経営組織論 有斐閣 2005 4641183309

朝倉 智也 一生モノのファイナンス入門 ダイヤモンド社 2016 4478068356

### その他 / Others

「経営学基礎1」を履修していることが望ましい。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# CSR1

## Corporate Social Responsibility 1

企業経営のフィロソフィーを考える

栗屋 仁美 (AWAYA HITOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL187

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

CSR1 の目的は、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）とは何かを論理的に把握することにある。関連する基本的な用語や考え方を学び、経済システムや歴史などの外部環境を把握したうえで、社会における企業の在り方と思考方法、そして戦略を修得する。

The purpose of CSR1 is to logically recognize what CSR is. After learning the relevant basic terms and concepts, and understanding the external environment such as the economic system and history, students will master how a company should be in society, how to think, and its strategies.

### 授業の内容 / Course Contents

CSR とは、企業経営そのものであり、経営戦略と大きく関係する。「CSR1」では、現代の経営に必要な CSR、コーポレート・ガバナンスなどの概念を習得し、関係を整理する。SDGs や ESG 概念との関係性も考える。

Corporate social responsibility is corporate management itself, and is closely related to management strategy. In Corporate Social Responsibility 1 (CSR 1), students acquire concepts such as CSR and corporate governance

necessary for modern management and organized relationships; they examine the relationship between CSR and SDGs and ESG concepts.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経営学における CSR①
- 2 回：経営学における CSR②SDGs や ESG
- 3 回：コーポレート・ガバナンスと CSR①
- 4 回：コーポレート・ガバナンスと CSR②
- 5 回：企業機関と CSR①
- 6 回：企業機関と CSR②
- 7 回：企業は誰のものか①
- 8 回：企業は誰のものか②
- 9 回：戦略的 CSR①
- 10 回：戦略的 CSR②
- 11 回：CSV と CSR①
- 12 回：CSV と CSR②
- 13 回：社会における企業の在り方を問う
- 14 回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習：課題文献を読んで臨む

復習：講義ノートを必ず見返し、理論をまとめる。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内演習:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

特に教科書は使いません。

### 参考文献 / Readings

栗屋仁美 CSR と市場 立教大学出版会 2012 4901988190

ミルトン・フリードマン 資本主義と自由 日経 BP クラシックス 2008 4822246419

谷本寛治 企業と社会 サステナビリティ時代の経営学 中央経済社 2020 4502331015

江川雅子 現代コーポレートガバナンス 日経 BP マーケティング 2018 4532134897

### その他 / Others

【系統的履修】「CSR1」と「CSR2」を併せて履修することが望ましい。

MBA では、経営数値の把握や戦略のテクニックを学ぶと共に、フィロソフィーの学びも重要です。社会における企業の存在意義を議論しましょう。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# CSR2

## Corporate Social Responsibility 2

社会の中における企業の在り方を考える

栗屋 仁美 (AWAYA HITOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL188

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現在の企業経営における意思決定に必要な、企業と社会の関係の視座や戦略を学ぶことを目標とする。

The purpose of CSR 2 is to learn the viewpoints and strategies of the relationship between companies and society that are necessary for decision-making in current corporate management.

### 授業の内容 / Course Contents

「CSR 2」では、今、企業に問われている社会性とは何か、その背景、そして世界の企業の行動指針やガイドライン、CSR の取り組み事例を学ぶ。SDGs や ESG 概念と共に、企業の経済性と社会性のバランスのとり方について考える。これは企業の経営戦略を学ぶことでもある。

In Corporate Social Responsibility 2 (CSR 2), students learn (1) what sociality is currently being asked of companies; (2) CSR's background; (3) about action guidelines and guidelines of companies around the world; and (4) about examples of CSR initiatives. Students also consider how to balance the economic and social aspects of a company, along with the SDGs and ESG concepts. This is also to learn the management strategy of the company.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：積極的 CSR と消極的 CSR
- 2 回：ESG
- 3 回：中小企業の CSR
- 4 回：SDGs
- 5 回：上場と非上場と CSR
- 6 回：株主の役割
- 7 回：現代の CSR①多様性
- 8 回：事例検討 産業内の CSR
- 9 回：現代の CSR②エシックス
- 10 回：事例検討 産業内の CSR
- 11 回：現代の CSR③フィランソロピー
- 12 回：事例検討 産業内の CSR
- 13 回：まとめ
- 14 回：総括ディスカッション

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

予習：関連領域の知識や情報を得る

復習：講義ノートを必ず見返し、CSR の考え方をまとめる

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内演習:70% 最終レポート割合 :30%

**テキスト / Textbooks**

特に使いません

**参考文献 / Readings**

粟屋仁美 CSR と市場 立教大学出版会 2012 4901988190

ミルトン・フリードマン 資本主義と自由 日経 BP クラシックス 2008 4822246419

谷本寛治 企業と社会 サステナビリティ時代の経営学 中央経済社 2020 4502331015

江川雅子 現代コーポレートガバナンス 日経 BP マーケティング 2018 4532134897

その他は、授業内で紹介します。

**その他 / Others**

【系統的履修】「CSR1」と「CSR2」を併せて履修することが望ましい。

MBA では、経営数値の把握や戦略のテクニックを学ぶと共に、フィロソフィーの学びも重要です。社会における企業の存在意義を議論しましょう。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッション

オンラインなど双方向形式の授業によって運営されます。

# マーケティング・エッセンシャルズ 1

## Marketing Essentials 1

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL201  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
- 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立
1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

### 授業の内容 / Course Contents

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス（製造業、流通業、サービス業等）だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit

organizations.

This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：マーケティングとは
- 2 回：発展の歴史／マーケティング・マネジメントの基本的な考え方
- 3 回：マーケティング環境：各市場の特徴／：標的市場の設定
- 4 回：マーケティング・ミックスとは
- 5 回：製品政策（1）：製品概説（製品分類／製品ミックス概念）
- 6 回：製品政策（2）：プロダクトライフサイクルとマーケティングミックス
- 7 回：価格政策（1）：価格概説
- 8 回：価格政策（2）：上澄価格と浸透価格
- 9 回：流通政策（1）：流通チャネル概説
- 10 回：流通政策（2）：流通諸理論
- 11 回：マーケティング・コミュニケーション政策（1）：マーケティング・コミュニケーション概説
- 12 回：マーケティング・コミュニケーション政策（2）：広告・PR・SP・人的販売
- 13 回：最終課題報告
- 14 回：最終課題報告

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学修（予習）：前回までの復習を実施し、授業に参加する。

事後学修（復習）：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。

上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

### テキスト / Textbooks

講義資料は、ブラックボード等で、配布する。

テキストについては、講義時に紹介する。

### 参考文献 / Readings

和田 充夫（編集），日本マーケティング協会（編集） マーケティング用語辞典（日経文庫） 日本経済新聞社  
2005 4532110742

有馬 賢治（著），岡本 純（著），斎藤 明（著），長崎 秀俊（著），宮下 雄治（著） マーケティング・オン・ビジネス—基礎からわかるマーケティングと経営 新世社 2016 4883842347

### その他 / Others

※全授業回をオンラインでの実施予定。



※適宜、関連する実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。

本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目（B2B、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等）が開講されています。

実務に関連した業務（営業系業務）経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経

#### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# マーケティング・エッセンシャルズ 2

## Marketing Essentials 2

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL205

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS5400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

1. マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
2. 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立
1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

### 授業の内容 / Course Contents

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス（製造業、流通業、サービス業等）だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit

organizations.

This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション／サービスマーケティング（1）：サービス概説
- 2回：サービスマーケティング（2）：SD ロジック・価値共創
- 3回：ブランド（1）：諸概念
- 4回：ブランド（2）：ブランディング
- 5回：消費者行動（1）：消費者行動概説（意思決定プロセス）（影響要因）
- 6回：消費者行動（2）：消費者行動諸概念（態度・関与）
- 7回：消費者行動（3）：消費者行動諸概念（流行、クチコミ他）
- 8回：ソーシャルマーケティング／非営利組織のマーケティング
- 9回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（A）
- 10回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（A）
- 11回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（B）
- 12回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（B）
- 13回：最終課題報告
- 14回：最終課題報告

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学修（予習）：前回までの復習を実施し、授業に参加する。

事後学修（復習）：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。

上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

### テキスト / Textbooks

講義資料については、ブラックボード等で配布する。

テキストについては、授業内に紹介する。

### 参考文献 / Readings

和田 充夫（編集），日本マーケティング協会（編集） マーケティング用語辞典（日経文庫） 日本経済新聞社  
2005 4532110742

有馬 賢治（著），岡本 純（著），斎藤 明（著），長崎 秀俊（著），宮下 雄治（著） マーケティング・オン・ビジネス—基礎からわかるマーケティングと経営 新世社 2016 4883842347

### その他 / Others

※全授業回をオンラインでの実施予定。

※適宜、実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。

本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目（B2B、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等）が開講されています。

実務に関連した業務（営業系業務）経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経験のあ

#### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# サービス・マーケティング1

## Services Marketing 1

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL211  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

サービス産業全般に対するサービス経営学の中核としてのサービス・マーケティング、サービス産業全般に対するマーケティングとしてのサービス・マーケティング（広義のサービスに関するマーケティング、政治マーケティング等も含む）を実践的に学ぶ

In this course, we will learn practically about service marketing as a core area of Service Business Management, and service marketing as a marketing strategy for the service industry in general (including service marketing and political marketing in a broad sense).

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域と捉えてサービス・マーケティングを学んでいく。

サービス産業の特徴やその重要性をカバーした後で、サービス経営学全般を鳥瞰し、サービス・マーケティングの基礎知識をカバー、そしてその詳細について学んでいく。

カバーする業種には、医療・介護、ホテル・旅行、アミューズメント・エンターテインメント、飲食、IT、生命保険、銀行・証券、その他サービス業等を含むものとする。選挙戦及び政権運営を対象とする政治マーケティング

ングも対象とする。

このような位置付けと問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 7P とサービスミックス、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでサービス・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。

特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーしていく。またサービスにおける顧客心理と購買心理過程においては、実際に想定顧客とのロールプレイング等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, we will learn about service marketing, consider service marketing as a core area of Service Business Management Studies for the service industry as a whole.

After covering the characteristics of the service industry and its importance, we will cover all aspects of Service Business Management, covering basic knowledge of service marketing, and deepen our knowledge about it.

The business categories covered include medical and nursing care, hotel and travel, amusement and entertainment, food and beverage, IT, life insurance, banking and securities, and other services. It also covers political marketing for election campaigns and government operations.

Based on the position and awareness of the problem, we will learn how to develop and implement service marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactics such as 7P and service mix, and branding, which is the positioning of a company.

In particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers. Also, in terms of customer psychology and purchasing psychology in service, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：サービス産業の特徴とサービス経営学（1）
- 2 回：サービス産業の特徴とサービス経営学（2）
- 3 回：サービス・マーケティングの基礎知識（1）
- 4 回：サービス・マーケティングの基礎知識（2）
- 5 回：サービス・マーケティングにおける STP 戦略（1）
- 6 回：サービス・マーケティングにおける STP 戦略（2）
- 7 回：サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス（1）
- 8 回：サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス（2）
- 9 回：サービスブランディング（1）
- 10 回：サービスブランディング（2）
- 11 回：選挙及び政権運営（統治）を対象とする政治マーケティング（1）
- 12 回：選挙及び政権運営（統治）を対象とする政治マーケティング（2）
- 13 回：サービスにおける顧客心理と購買心理過程（1）
- 14 回：サービスにおける顧客心理と購買心理過程（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨するが、これらの履修がなくても理解できるような授業運営を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合 :20%

### テキスト / Textbooks

田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクージ 2012 9784799101643 -

田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクージ 2013 9784799102367 -

フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575 -

田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -

田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656 -

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482

フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング3.0』 朝日新聞出版 2010 9784023308398

ロバート・スコープル/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経BP社 2014 9784822250478

ケビン・レーン・ケラー 『戦略的ブランド・マネジメント』 東急エージェンシー 2010 9784884971120

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# サービス・マーケティング2

## Services Marketing 2

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL216
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6700
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

すべての産業に対するホスピタリティーや顧客満足向上におけるマーケティング手法を最新のサービス工学等も交えて実践的に学んでいく

We will learn about hospitality and marketing methods for improving customer satisfaction in all industries, including the latest service engineering

### 授業の内容 / Course Contents

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域であると捉えることに加えて、すべての産業におけるホスピタリティーや顧客満足向上に対するマーケティング手法と捉えて、サービス・マーケティングを学んでいく。具体的には、サービスの質と価値、ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動、CRM とサービス・マーケティング等のサービス・マーケティングの領域のみならず、サービス工学やサービスに関連する数理マーケティング等の先端分野も学んでいく。サービス・マーケティング1と同様に、特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーし、最終的にはコーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービ



ス・マーケティングを実践していく。またホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動においては、実際に想定顧客とのロープレ演習等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, in addition to thinking of service marketing as a core area of Service Business Management in the service industry in general, service marketing is studied as a marketing method for hospitality and customer satisfaction improvement in all industries. To be specific, we will learn not only the quality and value of services, hospitality, customer value, customer satisfaction, impression, CRM and service marketing, but also the cutting edge fields of service engineering and service related mathematical marketing. As with Service Marketing 1, in particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers and in the end, we will practice service marketing to improve the companies corporate value and brand value. Also, in terms of hospitality, customer value, customer satisfaction, and inspiration, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：サービス工学とサービス・マーケティング（1）
- 2回：サービス工学とサービス・マーケティング（2）
- 3回：数理マーケティングとサービス・マーケティング（1）
- 4回：数理マーケティングとサービス・マーケティング（2）
- 5回：マネジメントシステムとサービス・マーケティング（1）
- 6回：マネジメントシステムとサービス・マーケティング（2）
- 7回：サービスの質と価値（1）
- 8回：サービスの質と価値（2）
- 9回：ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動（1）
- 10回：ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動（2）
- 11回：CRMとサービス・マーケティング（1）
- 12回：CRMとサービス・マーケティング（2）
- 13回：コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング（1）
- 14回：コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合：:20%

#### テキスト / Textbooks

田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクエージ 2012 9784799101643 -

田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクエージ 2013 9784799102367 -

窪山哲雄 『ホスピタリティ・マーケティングの教科書』 実業之日本社 2014 9784408594002 -  
田中道昭 『アマゾンが描く 2022 年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

ティム・ブラウン 『デザイン思考が世界を変える』 早川書房 2014 9784150504076  
ロバート・スコובר/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経 BP 社 2014 9784822250478  
本村陽一 『サービス工学の技術』 東京電機大学出版局 2012 9784501551001  
泉田良輔 『Google vs. トヨタ—自動運転車は始まりにすぎない』 角川 2014 9784040800233  
田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2029 9784532322656

### その他 / Others

系統的履修

サービス・マーケティング 1 を履修しておくこと。

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100% (14 回中 14 回) である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50% 以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# マーケティング・リサーチ 1

## Marketing Research 1

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL221
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可
校地：	池袋
学期：	秋学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

### 授業の内容 / Course Contents

マーケティング・リサーチとは、マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし、マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。

本講義では、マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定性調査の理解を目的とし、マーケティング・リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.

In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially qualitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：消費者理解とマーケティングリサーチ

- 2回：マーケティング課題とリサーチ  
 3回：定性調査と定量調査  
 4回：学術調査と実務的調査  
 5回：定性調査（1）：インタビュー調査  
 6回：定性調査（2）：インタビュー調査  
 7回：定性調査（3）：観察法調査  
 8回：定性調査（4）観察法調査  
 9回：実務家による実践報告（A）  
 10回：実務家による実践報告（A）  
 11回：実務家による実践報告（B）  
 12回：実務家による実践報告（B）  
 13回：期末課題報告（A）  
 14回：期末課題報告（B）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜講義内にて、指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

### テキスト / Textbooks

適宜講義内にて、紹介する

### 参考文献 / Readings

関連テーマに応じて適宜講義内にて、参考文献等を紹介します。

### その他 / Others

- （1）全授業回をオンラインでの実施予定。
- （2）大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点について留意すること。
- （3）実務家ゲストスピーカーの招聘を予定する。
- （4）各回の講義内容は前後する場合がある。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# マーケティング・リサーチ 2

## Marketing Research 2

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL226
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可
校地：	池袋
学期：	秋学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する。

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

### 授業の内容 / Course Contents

マーケティング・リサーチとは、マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし、マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。

本講義では、マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定量調査の理解を目的とし、マーケティング・リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.

In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially quantitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：定量調査

- 2回：マーケティング課題とリサーチ課題  
 3回：リサーチプロセス  
 4回：母集団とサンプリング  
 5回：マーケティング分析（1）：回帰分析  
 6回：マーケティング分析（2）：回帰分析  
 7回：マーケティング分析（3）：検定  
 8回：マーケティング分析（4）：検定  
 9回：実務家による実践報告（A）  
 10回：実務家による実践報告（A）  
 11回：実務家による実践報告（B）  
 12回：実務家による実践報告（B）  
 13回：期末課題報告（1）  
 14回：期末課題報告（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜講義内にて、適宜指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

### テキスト / Textbooks

適宜講義内にて、適宜紹介する。

### 参考文献 / Readings

関連テーマに応じて適宜講義内にて、参考文献等を紹介する。

### その他 / Others

- (1) 全授業回をオンラインでの実施予定。
- (2) 大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点について留意すること。
- (3) 実務家ゲストスピーカーの招聘を予定する。
- (4) 各回の講義内容は前後する場合がある。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# コーポレート・ストラテジー 1

## Corporate Strategy 1

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL231

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 授業形態の詳細については初回講義にて説明する（基本的にはオンラインでも受講で可能な運営を想定している）。

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS5300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講は経営戦略の歴史的発展経緯を把握したうえで、今日的経営戦略の全体像について、現象およびその現象の背景にある理論の理解を深めることを目的としている。

The purpose of this course is to understand the historical development of strategy, and then to deepen the understanding of the phenomenon and the theory about the overall view of strategy.

### 授業の内容 / Course Contents

経営戦略の歴史的変遷を理解したうえで、経営戦略の全体構造を構成する各テーマについて議論する。具体的には、現象としての事業戦略、企業戦略、市場戦略、新規事業戦略について、理論的背景を含めて議論する。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

After understanding the historical transition of business strategy, each theme that constitutes the overall structure of strategy will be discussed. Specifically, business strategy, corporate strategy, market strategy, and new business strategy will be discussed, including theoretical background. For each theme, we will use case study

analysis and deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：経営戦略論の発展
- 3 回：経営理念
- 4 回：企業と外部環境
- 5 回：業界環境と SCP ロジック
- 6 回：リソース・ベスト・ビューと活動システム図
- 7 回：コストリーダーシップと差別化
- 8 回：競争戦略とレッドクイーン理論
- 9 回：企業戦略（垂直統合と取引コスト）
- 10 回：戦略の転換
- 11 回：製品と事業のライフサイクルと新規事業戦略
- 12 回：イノベーションの正当化
- 13 回：ビジネスモデル
- 14 回：プレゼンテーション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業コミットメント:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

### 参考文献 / Readings

三谷宏治 『経営戦略全史』 ディスカバリー・トゥエンティワン 2013

入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019

その他資料は随時配布する。

### その他 / Others

本講とコーポレート・ストラテジー2 はセットになっているため、本講から受講することが望ましい。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# コーポレート・ストラテジー 2

## Corporate Strategy 2

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL236

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 授業形態の詳細については初回講義にて説明する（基本的にはオンラインでも受講で可能な運営を想定している）。

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS5300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講は「コーポレート・ストラテジー1」を踏まえ、経営戦略に関する代表的な理論だけではなく、意思決定や戦略の実行にも焦点を当てながら、経営戦略についてより深く理解することを目的としている。

Based on "Corporate Strategy 1", this course aims to provide a deeper understanding of strategy, focusing not only on the typical theories of strategy but also on decision-making and strategic implementation.

### 授業の内容 / Course Contents

経営戦略は、戦略策定だけではなくそれが円滑に実行されてはじめて価値を持つ。本講では戦略の実行にも焦点を当てて、その理論的背景を含めて議論を行う。また、意思決定を含めた組織の個人に焦点を当て、その背景にある理論に関する議論を行うことで、より幅広い視点から経営戦略を捉える。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

Strategies have value not only when they are formulated but also when they are smoothly implemented. In this lecture, we will focus on strategic implementation, including the theoretical background. In addition, this lecture

focuses on individuals in the organization, including decision-making, and discussion of the theory behind it to capture business strategy from a broader perspective. In each theme, the case analysis will be used to deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経営戦略の全体像①
- 2 回：経営戦略の全体像②
- 3 回：組織の原理
- 4 回：上層部理論（理論とは何かを含む）
- 5 回：制度理論と資源依存理論
- 6 回：意思決定の理論
- 7 回：戦略と組織：戦略の実行①
- 8 回：戦略と組織：戦略の実行②
- 9 回：社会ネットワーク理論
- 10 回：ナレッジ・ベースト・ビュー
- 11 回：知の探索、知の深耕（両利き）①
- 12 回：知の探索、知の深耕（両利き）②
- 13 回：企業と経営者①
- 14 回：企業と経営者②

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業コミットメント:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

### 参考文献 / Readings

入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイアモンド社 2019

その他資料は随時配布する。

### その他 / Others

コーポレート・ストラテジー1を受講していることが望ましい。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# コーポレート・ストラテジー 3

## Corporate Strategy 3

手塚 貞治 (TEZUKA SADAHARU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL237  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

経営戦略の基礎的理論について、その背景と意義について理解し、スキルとして活用可能な形に体得することを目指す。

Our goal is to understand the basic theory of management strategy, its background and significance, and acquire it in a form in which it can be utilized as a skill.

### 授業の内容 / Course Contents

経営戦略の基礎的理論について、初学者にも分かりやすい形で実務的見地から講義を行う。具体的には、理論内容とその背景について事例も交えながら説明を行い、適宜、事例探索や事例分析等の形で演習を行う。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

We will perform a lecture on the basic theory of management strategy from a practical viewpoint in an easy to understand form for beginners. To be specific, the theoretical content and its background are explained with examples, and as appropriate, seminars in the form of case search and case analysis, etc., are performed. In addition, the above class contents and management method may be modified depending on the class size.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：戦略とは
- 2 回：戦略的思考
- 3 回：外部環境分析
- 4 回：内部環境分析
- 5 回：事例演習①
- 6 回：事例演習②
- 7 回：事業戦略①
- 8 回：事業戦略②
- 9 回：事例演習③
- 10 回：事例演習④
- 11 回：全社戦略①
- 12 回：全社戦略②
- 13 回：総合演習①
- 14 回：総合演習②

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

事例分析の準備が必要な場合があるが、別途授業内で指示をする。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% レポート取組状況:50% 演習取組状況:50%

**テキスト / Textbooks**

授業時にその都度資料を配付する。

**参考文献 / Readings**

手塚貞治 武器としての戦略フレームワーク 日本実業出版社 2022 4534058959

授業時にその都度指示をする。

**その他 / Others**

本講とコーポレート・ストラテジー4はセットになっているため、本講から受講することが望ましい。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# コーポレート・ストラテジー 4

## Corporate Strategy 4

手塚 貞治 (TEZUKA SADAHARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL238
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

経営戦略の今日テーマについて網羅的に把握し、スキルとして活用可能な形とする。

We will comprehensively grasp the theme of today's management strategy and craft it into a form that can be utilized as a skill.

### 授業の内容 / Course Contents

VUCA（Volatility（変動）、Uncertainty（不確実）、Complexity（複雑）、Ambiguity（曖昧））の時代と言われる今日では、不確実性のなかでイノベーションを起こし続けることが求められており、従来型戦略論の限界も指摘されている。本講義では、コラボレーション（例：ビジネスエコシステム）や未来創造（例：シナリオプランニング）など、現在進行形のテーマを俯瞰的に紹介する。そのうえでビジネスモデル論について事例を交えて詳細に検討し、最後には演習としてビジネスモデル作成を実施する。なお、参加者の状況によって変更の可能性もある。

In the era of today's VUCA, volatility, uncertainty, complexity, and ambiguity, there is a need to keep innovating amid the uncertainty, and the limitations of traditional strategy theories are also pointed out. In this lecture, we will comprehensively introduce themes of current ongoing progress, such as collaboration (example: business

ecosystem) and future creation (example: scenario planning), etc. Then, the business model theory will be examined in detail with examples, and finally, business model development will be implemented as a seminar. In addition, there is also the possibility of a change depending on the situations of the participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イノベーションとは
- 2 回：イノベーションの種類
- 3 回：企業間連携①
- 4 回：企業間連携②
- 5 回：未来創造①
- 6 回：未来創造②
- 7 回：デザイン思考①
- 8 回：デザイン思考②
- 9 回：ビジネスモデル①
- 10 回：ビジネスモデル②
- 11 回：ビジネスモデルの収益構造
- 12 回：ビジネスモデル演習①
- 13 回：ビジネスモデル演習②
- 14 回：発表会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レポート取組状況:50% 演習取組状況:50%

### テキスト / Textbooks

授業にて適宜資料を配付する

### 参考文献 / Readings

授業にて適宜案内する。

### その他 / Others

本講はコーポレート・ストラテジー3の内容を理解していることが望ましい。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# マーケティング・ストラテジー 1

Marketing Strategy 1

兼村 栄哲 (KANEMURA EITETSU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL243  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング戦略について自分なりに論理的に説明することができるようになります。

We will be able to understand the basic terms, concepts, theories, etc. related to marketing strategies accurately, and to explain various marketing strategies logically in our own way.

## 授業の内容 / Course Contents

「マーケティング・ストラテジー 1」および秋学期 2 に開講する「マーケティング・ストラテジー 2」では、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などをわかりやすく説明していきます。

この「マーケティング・ストラテジー 1」では、①マーケティングの本質、②企業とマーケティング戦略、③競争優位の創造、④マーケティングの基本枠組み、⑤マーケティング情報とカスタマー・インサイト、⑥消費者の購買行動、⑦製品、サービス、ブランド、の領域を取り扱います。

具体的な進め方は、以下のとおりです。まず担当者が指定された箇所についてレジュメを作成し、発表します。その後、質疑応答や全員によるディスカッションを通じて、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などが正確に理解されているか否か、一つひとつ確認していきます。

In "Marketing Strategy 1" and "Marketing Strategy 2", we will explain the basic terms, concepts, and theories etc. related to marketing strategies in an easy to understand manner.

This class, Marketing Strategy 1, will cover the seven areas of essences of marketing, businesses and marketing strategies, creation of competitive advantages, marketing basic frameworks, marketing information and customer insights, buying behavior of consumers, and products, services, and brands.

The specific procedures are as follows: First, the person in charge will make a resume for the designated place and present it. After that, through question and answer sessions and discussions among all participants, we will confirm whether or not basic terms, concepts, and theories related to marketing strategies have been accurately understood.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：マーケティングの本質（その1）
- 2回：マーケティングの本質（その2）
- 3回：企業とマーケティング戦略（その1）
- 4回：企業とマーケティング戦略（その2）
- 5回：競争優位の創造（その1）
- 6回：競争優位の創造（その2）
- 7回：マーケティングの基本枠組み（その1）
- 8回：マーケティングの基本枠組み（その2）
- 9回：マーケティング情報とカスタマー・インサイト（その1）
- 10回：マーケティング情報とカスタマー・インサイト（その2）
- 11回：消費者の購買行動（その1）
- 12回：消費者の購買行動（その2）
- 13回：製品、サービス、ブランド（その1）
- 14回：製品、サービス、ブランド（その2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ①とくに専門用語に留意しつつ、事前に配信されるレジюмеを予習しておいてください。
- ②各授業の内容について、入念に復習してください。
- ③日頃から、「日本経済新聞」、「日経産業新聞」、「日経 MJ（流通新聞）」などの新聞や「週刊ダイヤモンド」、「週刊東洋経済」、

「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり、「クローズアップ現代」、「日経スペシャル ガイアの夜明け」、「日経スペシャル カンブリア宮殿」、「ワールドビジネスサテライト（WBS）」を観たりするなどして、マーケティングに関心をもつようにしてください。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レジюмеおよび発表の内容:30% 質疑応答やディスカッションの内容:30%

最



終レポート割合：:40%

### **テキスト/Textbooks**

---

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩藏直人（著） 『マーケティング原理』 丸善出版  
2014年 9784621066225 ○

### **参考文献 / Readings**

---

適宜、紹介します。

### **注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# マーケティング・ストラテジー 2

## Marketing Strategy 2

兼村 栄哲 (KANEMURA EITETSU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL244  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング戦略について自分なりに論理的に説明することができるようになります。

We will be able to understand the basic terms, concepts, theories, etc. related to marketing strategies accurately, and to explain various marketing strategies logically in our own way.

### 授業の内容 / Course Contents

「マーケティング・ストラテジー 2」は、秋学期 1 に開講した「マーケティング・ストラテジー 1」に引き続き内容であり、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などをわかりやすく説明していきます。

この「マーケティング・ストラテジー 2」では、①新製品開発と製品ライフサイクル戦略、②マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供、③価格設定、④コミュニケーションによる顧客価値の説得、⑤広告とパブリック・リレーションズ、⑥人的販売と販売促進、⑦ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング、の領域を取り扱います。

具体的な進め方は、以下のとおりです。まず担当者が指定された箇所についてレジюмеを作成し、発表しま

す。その後、質疑応答や全員によるディスカッションを通じて、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などが正確に理解されているか否か、一つひとつ確認していきます。

"Marketing Strategy 2" is a continuation of "Marketing Strategy 1", and we will explain the basic terms, concepts, and theories etc. related to marketing strategies in an easy to understand manner.

This class, Marketing Strategy 2, will cover the seven areas of new product development and product life cycle strategies, marketing channels to provide customer values, pricing, communication to convince customer values, advertising and public relations, personal selling and sales promotion, direct marketing and online marketing.

The specific procedures are as follows: First, the person in charge will make a resume for the designated place and present it. After that, through question and answer sessions and discussions among all participants, we will confirm whether or not basic terms, concepts, and theories related to marketing strategies have been accurately understood.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：新製品開発と製品ライフサイクル戦略（その1）
- 2 回：新製品開発と製品ライフサイクル戦略（その2）
- 3 回：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供（その1）
- 4 回：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供（その2）
- 5 回：価格設定（その1）
- 6 回：価格設定（その2）
- 7 回：コミュニケーションによる顧客価値の説得（その1）
- 8 回：コミュニケーションによる顧客価値の説得（その2）
- 9 回：広告とパブリック・リレーションズ（その1）
- 10 回：広告とパブリック・リレーションズ（その2）
- 11 回：人的販売と販売促進（その1）
- 12 回：人的販売と販売促進（その2）
- 13 回：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング（その1）
- 14 回：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング（その2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ①とくに専門用語に留意しつつ、事前に配信されるレジюмеを予習しておいてください。
- ②各授業の内容について、入念に復習してください。
- ③日頃から、「日本経済新聞」、「日経産業新聞」、「日経 MJ（流通新聞）」などの新聞や「週刊ダイヤモンド」、「週刊東洋経済」、

「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり、「クローズアップ現代」、「日経スペシャル ガイアの夜明け」、「日経スペシャル カンブリア宮殿」、「ワールドビジネスサテライト（WBS）」を観たりするなどして、マーケティングに関心をもつようにしてください。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% レジюмеおよび発表の内容:30% 質疑応答やディスカッションの内容:30% 最終レポート割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩藏直人（著） 『マーケティング原理』 丸善出版  
2014年 9784621066225 ○

**参考文献 / Readings**

適宜、紹介します。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ビジネスケースメソッド 1

## Business Case Method 1

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL245  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ケース分析によって、企業行動や戦略およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

### 授業の内容 / Course Contents

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。

本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and organization of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and

students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no "one right answer" to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.

The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ショートケース
- 3回：マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
- 4回：マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
- 5回：企業戦略： ワタベウェディング
- 6回：企業戦略： ワタベウェディング
- 7回：競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
- 8回：競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
- 9回：イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
- 10回：イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
- 11回：成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
- 12回：成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
- 13回：戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社
- 14回：戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発言などのクラスへの貢献:30% ケース課題:30% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## ビジネスケースメソッド2

Business Case Method 2

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL246  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ケース分析によって、戦略や意思決定およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of strategy, decision making and related theories through case analysis.

### 授業の内容 / Course Contents

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。

本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

ビジネスケースメソッド2では、ビジネスケースメソッド1とは異なり個人に焦点を当てたケースも扱う。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and

organization of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no "one right answer" to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.

The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.

Unlike Business Case Method 1, Business Case Method 2 will include cases that focus on the individual.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ネットフリックス
- 3回：ビジネスモデル： 再春館製菓所
- 4回：ビジネスモデル： 再春館製菓所
- 5回：マネジメント： GEの過去20年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
- 6回：マネジメント： GEの過去20年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
- 7回：イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
- 8回：イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
- 9回：リーダーシップ： 日産自動車2002年
- 10回：リーダーシップ： 日産自動車2002年
- 11回：組織文化： グーグルを「グーグルらしく」保つ
- 12回：組織改革： 組織改革の危険性と落とし穴：若きマネージャーの経営再建の旅
- 13回：意思決定： チャレンジャー打ち上げ決定のグループプロセス
- 14回：意思決定： チャレンジャー打ち上げ決定のグループプロセス

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発言などのクラスへの貢献:30% ケース課題:30% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# ブランド・マーケティング1

## Brand Marketing 1

ブランドマーケティングを学び、ブランドマネージャーの仕事を知る

高城 幸司 (TAKAGI KOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL247

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）原則は対面で、オンラインは必要最低限にて認めています。基本的にインタラクティブな講義を目指しており、ワークショップ形式中心で、外部ゲストによる実務的な課題を共有いただきながら講義内で課題解決を考える機会を数多く準備します。

校地： 池袋

学期： 秋学期1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

10年後も「長く愛されるブランド」をつくるために必要なフレームワークと戦略の立て方を理解し、企業で活躍する「ブランドマネージャー」のスキルを考える機会を通じて、ブランドマーケティングのベーススキルを身に付けていただきます。ブランドマーケティングを学ぶことはビジネスに取り組むすべての方にとって有意義なことです。

We will understand the framework and strategy necessary to create a "brand that is loved for times to come" even after 10 years, and our goal will be to acquire a part of the skill of a "brand manager", who is active in business and be able to make use of it in the business.

### 授業の内容 / Course Contents

企業経営を確固たるものにするために、長く愛されるブランドの確立が重要です。そのためのブランド構築には、ブランドのコンセプトを明確にしてその個性を育て、認知させ、価値を高めるための様々な手法が用いられ

ます。こうしたブランド力が企業の成長にどのように関わるのか？具体的なケースを中心に講義を行っていきます。また、ゲストスピーカーを交えて理解とを高める機会を数回行う予定。基本的にはグループワーク中心の講義です。冒頭に各自の意向も確認して講義の進行は柔軟にすすめてまいります。一部でリモートを活用する可能性があります、インタラクティブにすすめてまいります。

In order to consolidate corporate management, it is important to establish a brand that is loved for times to come = "10 years brand". In order to build that brand, various techniques are used to clarify the concept of the brand and to nurture, recognize, and enhance the value of its personality. A new logo and design, differentiation from competitors, and communication with consumers is needed. How does this brand power relate to the growth of the business? We will give lectures focusing on specific cases. Also, there will be several opportunities to increase our understanding together with guest speakers. Basically, it is a group work centered lecture. At the beginning, we will check the intention of each student and make the progress of the lecture flexible.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ブランドとは何か？ブランドの基本を学ぶ
- 2 回：拡大するブランド領域について理解する
- 3 回：ブランドが企業にもたらす3つの価値（ブランドエクイティ）
- 4 回：企業が取り組むブランド戦略を分析する
- 5 回：スターブランドと墓場ブランドの差を分析する
- 6 回：墓場ブランドをスターブランドに変える条件
- 7 回：ゲストスピーカーとディスカッション（ブランドマネージャーをお招きする予定）
- 8 回：ブランドのレバレッジ効果
- 9 回：ブランドなんかいらないと主張する人の背景
- 10 回：ブランドロイヤリティを高める
- 11 回：ブランド対比によるロイヤリティ分析1
- 12 回：ブランド対比によるロイヤリティ分析1
- 13 回：フィールドワークを活用したブランド分析
- 14 回：グループ討議を中心としたラップアップ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テーマを決めたブランド分析のために各自で調査分析を依頼することがあります。消費者目線でロイヤリティを高めるための課題を整理していただきます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業で指示した提出物:40% グループワークに対する貢献:40% 授業での積極的な発表:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

デービッド・A. アーカー カテゴリー・イノベーション 日本経済新聞出版社 2011年 4532317509

ナオミ・クライン ブランドなんかいない はまの出版 2001年 4893613251

アルライズ ブランディング22の法則 東急エージェンシー出版部 1999年 488497073

フィリップコトラー コトラーのマーケティング4.0 スマートフォン時代の究極法則 朝日新聞出版 2017年 074156

片平秀貴 新版 パワー・ブランドの本質 ダイヤモンド社 1999年 00354

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

ビジネスにおいてブランドおよびマーケティングテーマのスキルを高めたい人であれば、その意欲を前提に履修を歓迎します。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ネットワーク環境があり、オンラインで履修も可能なPCの持参をお願いします。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ブランド・マーケティング2

## Brand Marketing 2

ブランドマーケティングを学び、ブランドマネージャーの仕事を知り、より実践的に学ぶ

高城 幸司 (TAKAGI KOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL249

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）原則は対面で、オンラインは必要最低限にて認めています。基本的にインタラクティブな講義を目指しており、ワークショップ形式中心で、外部ゲストによる実務的な課題を共有いただきながら講義内で課題解決を考える機会を数多く準備します。

校地： 池袋

学期： 秋学期2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

10年後も「長く愛されるブランド」をつくるために必要なフレームワークと戦略の立て方を理解し、企業で活躍する「ブランドマネージャー」のスキルを考える機会を通じて、ブランドマーケティングのベーススキルを身に付けていただきます。ブランドマーケティングを学ぶことはビジネスに取り組むすべての方にとって有意義なことです。

後期の講座として2つに分かれていますが、連続で履修することを推奨します。

We will understand the framework and strategy necessary to create a "brand that is loved for times to come" even after 10 years, and our goal will be to acquire a part of the skill of a "brand manager", who is active in business and be able to make use of it in the business.

### 授業の内容 / Course Contents

企業経営を確固たるものにするために、長く愛されるブランドの確立が重要です。そのためのブランド構築に

は、ブランドのコンセプトを明確にしてその個性を育て、認知させ、価値を高めるための様々な手法が用いられます。こうしたブランド力が企業の成長にどのように関わるのか？具体的なケースを中心に講義を行っていきます。また、ゲストスピーカーを交えて理解とを高める機会を数回行う予定。基本的にはグループワーク中心の講義です。冒頭に各自の意向も確認して講義の進行は柔軟にすすめてまいります。一部でリモートを活用する可能性があります、インタラクティブにすすめてまいります。

In order to consolidate corporate management, it is important to establish a brand that is loved for times to come = "10 years brand". In order to build that brand, various techniques are used to clarify the concept of the brand and to nurture, recognize, and enhance the value of its personality. A new logo and design, differentiation from competitors, and communication with consumers is needed. How does this brand power relate to the growth of the business? We will give lectures focusing on specific cases. Also, there will be several opportunities to increase our understanding together with guest speakers. Basically, it is a group work centered lecture. At the beginning, we will check the intention of each student and make the progress of the lecture flexible.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ブランドとは何か？ブランドの基本を学ぶ
- 2回：拡大するブランド領域について理解する
- 3回：ブランドが企業にもたらす3つの価値（ブランドエクイティ）
- 4回：企業が取り組むブランド戦略を分析する
- 5回：スターブランドと墓場ブランドの差を分析する
- 6回：墓場ブランドをスターブランドに変える条件
- 7回：ゲストスピーカーとディスカッション（ブランドマネージャーをお招きする予定）
- 8回：ブランドのレバレッジ効果
- 9回：ブランドなんかいらないと主張する人の背景
- 10回：ブランドロイヤリティを高める
- 11回：ブランド対比によるロイヤリティ分析1
- 12回：ブランド対比によるロイヤリティ分析2
- 13回：フィールドワークを活用したブランド分析
- 14回：グループ討議を中心としたラップアップ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テーマを決めたブランド分析のために各自で調査分析を依頼することがあります。消費者目線でロイヤリティを高めるための課題を整理していただきます。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業で指示した提出物:40% グループワークに対する貢献:40% 授業での積極的な発表:20%

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

デービッド・A. アーカー カテゴリー・イノベーション 日本経済新聞出版社 2011年 4532317509  
ナオミ・クライン ブランドなんかいない はまの出版 2001年 4893613251  
アルライズ ブランディング22の法則 東急エージェンシー出版部 1999年 488497073  
フィリップコトラー コトラーのマーケティング4.0 スマートフォン時代の究極法則 朝日新聞出版 2017年 074156  
片平秀貴 新版 パワー・ブランドの本質 ダイヤモンド社 1999年 00354

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

ビジネスにおいてブランドおよびマーケティングテーマのスキルを高めたい人であれば、その意欲を前提に履修を歓迎します。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

ネットワーク環境があり、オンラインで履修も可能なPCの持参をお願いします。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# コーポレート・マーケティング

## Corporate Marketing

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL251  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

企業全体を商品・サービス戦略などの主要なマーケティング戦略と高い融合性をもたせながら社内外にマーケティングしていく手法やミッションブランディングに代表される企業全体のブランディング手法を学んでいく。政治マーケティングにおけるブランディング等もカバーする。

We will learn how to market the whole company both internally and externally, and how to brand the whole company, such as mission branding, while having a high fusion with the main marketing strategy, such as product and service strategy, etc. We will also cover branding and other aspects of political marketing.

### 授業の内容 / Course Contents

コーポレート・マーケティングとは、企業などの組織全体を社内外にマーケティングしていく手法である。その中核はミッションブランディングにある一方で、実際に顧客に提供する商品・サービスはもとより、店舗戦略や経営戦略等に至るまで、企業の戦略ピラミッドのすべての階層との整合性が不可欠な分野でもある。商品・サービスの背景には、コーポレートブランドが存在し、商品・サービスブランドと一体化している。優れたブランド企業の商品・サービスは、単に商品・サービスだけが優れているのではなく、一流の品質を維持するための企業活動やその背景としてのブランドプロミスに支えられているのである。

本講義においては、このような問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 4P、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでコーポレート・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。

企業におけるミッション・ビジョン・バリュー、そしてストラテジーを、実際の商品・サービスと連携して強化していく手法をカバーしていく。特にコーポレート・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、コーポレートブランディングのみならず、商品ブランディング、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディングについてもカバーしていく。

そのなかでも、グランドデザインの構築というコーポレート・マーケティングの領域もカバーし、ブランド理念やブランドビジョンから始まって、ブランドストラテジー、さらには商品・サービスのみならず、実際のデザインに至るまで、全体像と構成要素を構築し、ブランドの理想像やミッションブランディングを提示していく手法を学んでいく。

さらには、コーポレート・マーケティングとしての企業 PR やコーポレートアイデンティティ、そして上場企業の IR (インベスターズリレーションズ) の実務もカバーし、最終的にはコーポレートバリューやブランドバリュー、株価などを高めていく手法についても学んでいく。

政治マーケティング (特に選挙マーケティング) におけるブランディングも対象とする。

Corporate Marketing is a method of marketing an entire organization, such as a company, internally and externally.

While the core of this is mission branding, consistency with all classes of the strategic pyramid of the business is indispensable, not only products and services that are actually provided to customers, but also store strategies, management strategies, etc.

In the background of products and services, there is a corporate brand, and it is integrated together with the brand of products and services. The products and services of businesses with excellent brands are not only superior products and services, but are supported by corporate activities to maintain first class quality and brand promise as their background.

In this lecture, based on the awareness of the problem, we will learn how to develop and implement Corporate Marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactic 4P, and branding, which is the positioning of a company and the essence of marketing.

We will cover techniques to enhance the mission, vision, value, and strategy of a business in cooperation with actual products and services. In particular, we will focus on company branding, which is the core of Corporate Marketing, and will cover not only corporate branding, but also product branding, store branding, and self-branding for managers and developers.

Among them, we cover the area of Corporate Marketing, which is the construction of grand design, and create the entire picture and constitutes, starting from the brand philosophy and brand vision, not only from the brand strategy, but also from the products and services, to the actual design and we will learn how to present the ideal image of the brand and mission branding.

Further, we will cover the practice of corporate PR, corporate identity, and investor relations (IR) of listed companies as Corporate Marketing, and finally, we will also teach how to raise corporate value, brand value, and stock price.

We will also cover branding in political marketing (especially in electoral marketing).

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略 (1)



- 2回：コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略（2）  
 3回：コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（1）  
 4回：コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（2）  
 5回：コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（1）  
 6回：コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（2）  
 7回：マーケティング 3.0 とミッションブランディング（1）  
 8回：マーケティング 3.0 とミッションブランディング（2）  
 9回：企業 PR とコーポレートアイデンティティ（1）  
 10回：企業 PR とコーポレートアイデンティティ（2）  
 11回：政治マーケティングにおけるブランディング（1）  
 12回：政治マーケティングにおけるブランディング（2）  
 13回：コーポレートバリューとブランドバリュー（1）  
 14回：コーポレートバリューとブランドバリュー（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド* (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨する

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合 : :20%

#### テキスト / Textbooks

- 田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクエージ 2012 9784799101643 -  
 田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクエージ 2013 9784799102367 -  
 ケビン・レーン・ケラー 『戦略的ブランド・マネジメント』 東急エージェンシー 2010 9784884971120 -  
 高橋恭介+田中道昭 『あしたの履歴書』 ダイヤモンド社 2017 9784478103937 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く 2022 年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

#### 参考文献 / Readings

- フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』  
 ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575  
 竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482  
 ロバート・スコープル/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経 BP 社 2014 9784822250478  
 ティム・ブラウン 『デザイン思考が世界を変える』 早川書房 2014 9784150504076  
 田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656

#### その他 / Others

**【双方向による授業】**

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

**【実務家教員による授業】**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 消費者行動論 1

Consumer Behavior 1

牛窪 恵 (USHIKUBO MEGUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL261
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

現代消費者の消費行動を読み解く基礎的なマーケティング手法を、実践的理論と近年の実例から学ぶこと。同時に、その知識を企業活動に応用できるスキルを、ディスカッションやケーススタディを通して身につけること。

Utilizing practical theories and real world examples, you will learn basic marketing techniques to better understand modern consumers' consumption behavior. In addition, through in-class discussion and the use of case studies, you will learn and acquire the skills necessary to apply this knowledge in corporate practice. Online courses, but only 2 times lectures will be "Hybrid (with face-to-face)".

## 授業の内容 / Course Contents

本科目は、約 20 年間に渡り、大手小売、飲食、自動車、家電、住宅メーカーと新商品の企画・開発を行ってきた実務者による授業である。前半の「消費者行動論 1」では、ベーシックな消費者マーケティングの手法を学びながら、注目企業が実践する取り組みや消費者分析、そして新型コロナウイルスや深刻な災害による消費の変化について、受講者と双方向で学んでいく。また適宜、専門分野のゲスト講師を招いて話を聞く。

With 20 years of practical experience, the instructor will teach you how major companies from a variety of

industries plan and develop new products for retail, food and beverage, automotive, home appliances, and residential development. In the first half of the course, “Consumer Behavior 1,” we will discuss and learn about basic consumer marketing techniques and the differing approaches and consumer analyses notable companies practice. We’ll also learn about the changes in consumption caused by “COVID-19 (2020-22)” and serious disaster.

Special guest speakers will be invited as appropriate.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：消費者行動とマーケティング - I  
 ～なぜ「消費者行動」が重要なのか？  
 = consumption (消費) の概念とマーケティングの意義
- 2 回：消費者行動とマーケティング - II  
 = ワークマン、chocoZAP 等にみる消費者分析モデル
- 3 回：消費者ニーズと欲望- I  
 ～なぜ「消費者ニーズ」は見えにくいのか？  
 = 花王、パナソニック等にみる消費者欲求と潜在・顕在ニーズ
- 4 回：消費者ニーズと欲望- II  
 ～欲望の世代間ギャップ、定性・定量調査、Z 世代とイミ消費  
 = 積水ハウス、ビールメーカー等との商品開発事例
- 5 回：消費者心理と意思決定 - I  
 ～なぜ時代は「消費ニーズ」を変えるのか？  
 = コロナ、能登大地震による消費変化と、観光業界の対応事例
- 6 回：消費者心理と意思決定- II  
 = SDGs とデジタル化、個人・集団とプロスペクト理論
- 7 回：企業組織と消費者変化 - I  
 = 日立製作所の DX 戦略と組織変革【同社ゲスト講師予定-1】
- 8 回：企業組織と消費者変化- II  
 = 同ディスカッション
- 9 回：コロナ・災害と販路、組織変革 - I  
 ～中小企業はコロナ禍の消費者変化にどう対応したのか？  
 = OEM から直販への組織変革等、事例
- 10 回：コロナ・災害と販路、組織変革 - II  
 = 雇用流動性と人材 (財) シェアリングがもたらしたもの
- 11 回：消費者回遊とエリア分析- I  
 ～商圈分析とハフモデル、オムニチャネル  
 = イオン、ユニクロ等にみるデジタル戦略と顧客理解
- 12 回：消費者回遊とエリア分析- II  
 = 大手アパレル役員によるオムニ戦略とメタバース【ゲスト講師予定-2】
- 13 回：総括と課題発表 - I
- 14 回：総括と課題発表 - II

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

期中レポート (2 回程度)、最終レポート (1 回) など、授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内ディスカッション:30% 授業内プレゼンテーション:20% 期中レポート (2 回程度) :20% 最終レポート割合 :30% 最終テスト割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

田中洋 『消費者行動論』 中央経済社 2015 9784502126512 ○

牛窪恵 『若者たちのニューノーマル』 日経 BP 2020 9784532264499 ○

フィリップ・コトラーほか 『コトラーのマーケティング 5.0』 朝日新聞出版 2022 9784022518187 ○

リチャード・セイラーほか 『実践 行動経済学』 日経 BP 2022 9784296000982 ○

ダニエル・カーネマン 『ファスト&スロー (上)』 早川書房 2014 9784150504106 ○

テキストは必ずしも全てを購入いただく必要はありませんが、授業に向けて読んでおくことで、より理解が深まると考えます。

**参考文献 / Readings**

ロバート・B・チャルディーニ 『影響力の武器』 誠信書房 2014 9784414304220

PHILIP KOTLER 『Marketing 6.0: The Future Is Immersive』 Wiley 2023 9781119835219

森岡毅 『マーケティングとは「組織革命」である』 日経 BP 2018 9784822257958

宮下雄治 『マーケティング DX』 すばる舎 2022 9784799110379

足立光／西口一希 『アフターコロナのマーケティング戦略』 ダイヤモンド社 2020 9784478111611

田中道昭／牛窪恵 『なぜ女はメルカリに、男はヤフオクに惹かれるのか?』 光文社 2019

9784334044275

参考文献は、関心のある文献だけでも手に取ることを推奨します。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

消費者マーケティングの基本から学ぶため、専門知識は不要です。また「消費者行動論 2」と連続しての受講は必須ではありませんが、1、2 を続けて受講されることをお勧めします。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC、Zoom 受講用回線 (wi-fi) 及びイヤホン (またはヘッドホン) 等、課題提出用パワーポイントまたはワード等 (ソフトウェア)

**その他 / Others**

※マーケティング会社・インフィニティ (牛窪恵)

<http://www.hachinoji.com/>

**注意事項**

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50% 以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 消費者行動論 2

Consumer Behavior 2

牛窪 恵 (USHIKUBO MEGUMI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL266  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代消費者の消費行動を読み解く最新のマーケティング手法を、ニューロ（AI）マーケティングなどの科学的アプローチや SNS の分析などから学ぶこと。また、新型コロナウイルスや深刻な災害など消費者を取り巻く環境変化や、高度な欲求への気づきを得て、実践的フレームワークへと結びつけること。

You will learn the latest marketing techniques to better understand modern consumers' consumption behaviors using scientific approaches such as neuro (AI) marketing and the analysis of social media. In addition, you will learn how to be more aware of social environmental changes (including "Covid-19" and serious disaster), then advanced customer need states, and how to link this to a practical framework. Online courses, but only 2 times lectures will be "Hybrid (with face-to-face)".

### 授業の内容 / Course Contents

本科目は、約 20 年間に渡り、大手小売、飲食、自動車、家電、住宅メーカーと新商品の企画・開発を行ってきた実務者による授業である。後半の「消費者行動論 2」では、時代の先端を行く企業が実践するニューロ（AI）マーケティングなど、「五感」と最新技術を応用したマーケティング手法を、受講者と双方向で学んでいく。同時に、after コロナのデジタル、SNS 戦略についても学ぶ。また適宜、専門分野のゲスト講師を招いて話

を聞く。

With 20 years of practical experience, the instructor will teach how major companies from a variety of industries plan and develop new products for retail, food and beverage, automotive, home appliances, and residential development. In the second half of the course, “Consumer Behavior 2,” we will discuss and learn about marketing techniques applying the “five senses,” and the latest technology such as neuro (AI) marketing that notable companies practice. We’ll also learn about digital marketing and the strategies of social media after the pandemic. Special guest speakers will be invited as appropriate.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：消費者行動とデジタル-I  
～なぜコロナ後、対面価値が向上したのか？  
＝売らない店にみる消費行動、ショールーミングとウェブルーミング
- 2 回：消費者行動とデジタル-II  
～CX と SNS、ファンベース、カスタマージャーニー
- 3 回：消費者対話とコミュニティ-I  
～物欲から「コミュ欲」へ、AISAS、ULSSAS から SAUSE へ
- 4 回：消費者対話とコミュニティ-II  
～消費は「競争」から「共創」の時代へ  
＝ネスレ、レゴ等にみる「共創」マーケティング事例
- 5 回：消費者欲求と五感-I  
～なぜ人は「無意識」下で操られてしまうのか？  
＝香り、色、音、アイトラッキング、「エモい」と ASMR 効果
- 6 回：消費者欲求と五感-II  
＝資生堂、ベネッセ等にみる表情（感情）認識 AI のいま
- 7 回：消費者思考とデジタル-I  
～メタバース、エヴァンジェリストのいま、今後  
＝ナイキ、サンリオ等にみるコミュニティ形成とデジタル価値
- 8 回：消費者思考とデジタル-II  
～AI、デジタルマーケティングのグローバル事例  
＝元 Google & 楽天執行役員・尾原和啓氏による AI 戦略デザイン【ゲスト講師—1 予定】
- 9 回：消費者感情と SDGs-I  
～なぜ SDGs は「消費者感情」を変えるのか？  
＝メルカリ等にみるイミ消費とシェアリングエコノミー
- 10 回：消費者感情と SDGs-II  
＝オイシックス、サントリーウェルネス等にみる CSV とパーパス経営
- 11 回：消費イノベーションと組織-I  
～なぜ DX が消費イノベーションをもたらすのか？  
＝コロナが変えた DX とデザイン思考、イノベーション曲線
- 12 回：消費イノベーションと組織-II  
＝元ドコモ・ヘルスケア社長・竹林一氏による「ひとりイノベーション」【ゲスト講師—2 予定】
- 13 回：総括と課題発表-I
- 14 回：総括と課題発表-II

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

期中レポート (2 回程度)、最終レポート (1 回) など、授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内ディスカッション:30% 授業内プレゼンテーション:20% 期中レポート (2 回程度):20% 最終レポート割合 :30%

**テキスト / Textbooks**

田中洋 『消費者行動論』 中央経済社 2015 9784502126512 ○

尾原和啓 『プロセスエコノミー』 幻冬舎 2021 9784344038332 ○

竹林一 『たった 1 人からはじめるイノベーション入門』 日本実業出版社 2021 9784534058973 ○

望月智之 『2025 年、人は「買い物」をしなくなる』 クロスメディア・パブリッシング 2019  
9784295403432 ○

フィリップ・コトラーほか 『コトラーのマーケティング 5.0』 朝日新聞出版 2022 9784022518187 ○  
テキストは必ずしも全てを購入いただく必要はありませんが、授業に向けて読んでおくことで、より理解が深まると考えます。

**参考文献 / Readings**

牛窪恵 『若者たちのニューノーマル』 日経 BP 2020 9784532264499

中野崇 『マーケティングリサーチとデータ分析の基本』 すばる舎 2018 9784822257958

名和高司 『パーパス経営』 東洋経済新報社 2021 9784492534366

宮下雄治 『マーケティング DX』 すばる舎 2022 9784799110379

足立光／西口一希 『アフターコロナのマーケティング戦略』 ダイヤモンド社 2020 9784478111611

田中道昭 / 牛窪恵 『なぜ女はメルカリに、男はヤフオクに惹かれるのか?』 光文社 2019  
9784334044275

参考文献は、関心のある文献だけでも手に取ることを推奨します。

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

「消費者行動論 1」より多少高度ですが、前半で基本も含めて学ぶため、専門知識は不要です。また「消費者行動論 1」から連続しての受講は必須ではありませんが、1、2 を続けて受講されることをお勧めします。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC、Zoom 受講用回線 (wi-fi) 及びイヤホン (またはヘッドホン) 等、課題提出用パワーポイントまたはワード等 (ソフトウェア)

**その他 / Others**

※マーケティング会社・インフィニティ (牛窪恵)

<http://www.hachinoji.com/>

**注意事項**



本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 消費者行動論 3

## Consumer Behavior 3

笠原 英一 (KASAHARA EIICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL268
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング戦略、マーケティング・リサーチおよび消費者行動論の有機的な関係を明らかにすると同時に、消費者行動論を理論体系として整理して理解し、実務で活用できるようになること。

We will clarify the organic relationship between marketing strategy, marketing research, and consumer behavior, as well as organize and understand the theory of consumer behavior theory as a theoretical system, and be able to utilize it in practice.

### 授業の内容 / Course Contents

消費者は、過去の経験と自己をとりまく環境などによってニーズやウォンツを感じ、製品・サービスを知覚して、選択する。その際には、環境のさまざまな要素を情報として受け入れる。更に、購買して、所有、使用した結果、満足あるいは不満足を感じる。以上のように消費者行動には多くの内的変数、外的変数が作用する。消費者行動論では、消費者が購入や所有、使用といった消費活動を行う際に、どのような変数が介在し、影響し、どのような結果が生じるかということを考察することをテーマとしている。消費者行動論とは、マーケティング戦略を立案するための、そして、マーケティング・リサーチを推進するための基盤的理論体系と考えられる。本講義では、マーケティング戦略、マーケティング・リサーチおよび消費者行動論の有機的な関係を明

らかにすると同時に、消費者行動論を理論体系として整理して理解することを目的としている。

Consumers perceive and choose products and services through their needs and wants from the environment surrounding their past experiences and self. At that time, they will accept various elements of the environment as information. Further, they will buy, own, see the results of use, and have a feeling of satisfactory or unsatisfactory. As described above, many internal and external variables act on consumer behavior. In Consumer Behavior, the theme is to consider what kind of variables intervene, influence, and what kind of results occur when consumers carry out consumption activities such as purchase, possession, and usage. Consumer Behavior theory is considered to be a basic theory system for designing marketing strategies and for promoting Marketing Research. The goal of this lecture is to clarify the organic relationship between marketing strategy, marketing research, and consumer behavior, and to organize and understand consumer behavior as a theoretical system.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：マーケティングと消費者行動
  - ・ マーケティングとは
  - ・ 消費者行動とは
- 2 回：消費者行動の分析フレームワーク
  - ・ 消費者行動分析レベル
  - ・ 消費者行動分析モデル
- 3 回：消費者行動研究の理論体系
  - ・ 系譜と主要モデル
- 4 回：消費行動の変化
  - ・ 消費行動の分析アプローチ
  - ・ 消費行動変化の要因
- 5 回：情報処理プロセス
  - ・ 情報処理のメカニズム
  - ・ 情報処理の動機付け
- 6 回：情報処理プロセス
  - ・ 情報処理の知識
  - ・ 情報処理の能力
- 7 回：意思決定プロセス
  - ・ 意思決定プロセス理論
  - ・ 購買前のプロセス
- 8 回：意思決定プロセス
  - ・ 購買時のプロセス
  - ・ 購買後のプロセス
- 9 回：消費者行動の統合的モデル
- 10 回：消費者行動の統合的モデル
- 11 回：消費者行動と準拠集団・家族
- 12 回：消費者行動と文化、ライフスタイル
- 13 回：消費者行動論のまとめ
- 14 回：テスト及び解説

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントする。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業で実施するクイズや授業での発表:20% 最終レポート割合：:40%最終テスト割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

青木幸弘他 『消費者行動論』 有斐閣アルマ 2015 ○

笠原英一 『強い会社が実行している「経営戦略」の教科書』 KADOKAWA 2019 ○

**参考文献 / Readings****その他 / Others**

【双方向による授業割合】

100%

※20年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 消費者行動論 4

Consumer Behavior 4

笠原 英一 (KASAHARA EIICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL270  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング戦略、マーケティング・リサーチおよび消費者行動論の有機的な関係を明らかにすると同時に、消費者行動論を理論体系として整理して理解し、実務で活用できるようになること。

We will clarify the organic relationship between marketing strategy, marketing research, and consumer behavior, as well as organize and understand the theory of consumer behavior theory as a theoretical system, and be able to utilize it in practice.

## 授業の内容 / Course Contents

消費者は、過去の経験と自己をとりまく環境などによってニーズやウォンツを感じ、製品・サービスを知覚して、選択する。その際には、環境のさまざまな要素を情報として受け入れる。更に、購買して、所有、使用した結果、満足あるいは不満足を感じる。以上のように消費者行動には多くの内的変数、外的変数が作用する。消費者行動論では、消費者が購入や所有、使用といった消費活動を行う際に、どのような変数が介在し、影響し、どのような結果が生じるかということを考察することをテーマとしている。消費者行動論とは、マーケティング戦略を立案するための、そして、マーケティング・リサーチを推進するための基盤的理論体系と考えられる。本講義では、消費者行動論 3 で構築した理論体系を基に、各種事業分野への応用事例を研究することを

通して、消費者行動論に対する理解を深めると同時に実務家/プロフェッショナルとしての実践力を高めるためのコンテンツを提供する。

Consumers perceive and choose products and services though their needs and wants from the environment surrounding their past experiences and self. At that time, they will accept various elements of the environment as information. Further, they will buy, own, see the results of use, and have a feeling of satisfactory or unsatisfactory. As described above, many internal and external variables act on consumer behavior. In Consumer Behavior, the theme is to consider what kind of variables intervene, influence, and what kind of results occur when consumers carry out consumption activities such as purchase, possession, and usage. Consumer Behavior theory is considered to be a basic theory system for designing marketing strategies and for promoting Marketing Research. In this lecture, based on the theoretical system constructed in Consumer Behavior 3, by studying application examples in various business fields, contents are offered to deepen the understanding of consumer behavior and to enhance the practical ability as a practitioner/professional at the same time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：消費者行動論とマーケティング
  - ・ 情報処理プロセスとマーケティング・マネジメント・プロセス
  - ・ 購買意思決定と価値伝達のデザイン
- 2 回：消費者行動論とブランディング
  - ・ ブランド構築の視点、構成要素、
- 3 回：定量的リサーチと消費者行動論
  - ・ アンケート/サーベイ調査の設計
- 4 回：定量的リサーチと消費者行動論
  - ・ 多変量解析を用いた調査分析
- 5 回：定性的リサーチと消費者行動論
  - ・ FGI、インデプス・インタビュー、顧客訪問、顧客アドバイザーパネル
- 6 回：定性的リサーチと消費者行動論
  - ・ デザインシンキング、エスノグラフィー
- 7 回：消費者行動論とマーケティング・マネジメント
  - ・ セグメンテーション及びターゲティングに関する定量分析
- 8 回：消費者行動論とマーケティング・マネジメント
  - ・ セグメンテーション及びターゲティングに関する定量分析
- 9 回：消費者行動論とマーケティング・マネジメント
  - ・ ポジショニング/パーセプション・マップに関する定量分析
- 10 回：消費者行動論とマーケティング・マネジメント
  - ・ ポジショニング/パーセプション・マップに関する定量分析
- 11 回：消費者行動論に関するケース・スタディ
  - ・ 消費財ケース
- 12 回：消費者行動論に関するケース・スタディ
  - ・ 産業財ケース
- 13 回：消費者行動論に関するまとめ
- 14 回：テスト及び解説

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

次の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントする。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業で実施するクイズや授業での発表:20% 最終レポート割合：:40%最終テスト割合：:40%

**テキスト / Textbooks**

井上崇通 消費者行動論 同文館 2018 ○

各セッションでハンドアウトを用意する。日米欧の最新論文を基に、新しいコンテンツをカスタマイズして配布する。

**参考文献 / Readings**

笠原英一 『強い会社が実行している「経営戦略」の教科書』 中経出版 2013

**その他 / Others**

【双方向による授業割合】

100%

※20年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# リーディング産業論

Industrial Development Theory

高柳 寛樹 (TAKAYANAGI HIROKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL309  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

「IT 前提経営®」の提唱者である担当者が、テクノロジーが支える社会における産業の在り方を、実例と、その後ろに控える事実やビジネスモデル、及び、大量のエピソードを丁寧に分析しながら今の「リーディング産業」を定義し議論を行う。

The person in charge, as a proponent of "Tech Driven Management®", carefully analyzes the actual cases and facts behind them, and discusses the situation of industries in a society supported by technology, and defines and discusses the "leading industry".

## 授業の内容 / Course Contents

テクノロジー優位の経済社会の出現は今に始まったことではなく長い歴史がある。その歴史（マクロな観点）を踏まえた上で、それらのテクノロジーの「社会化（socialized）」の過程を史実の分析をもとに考える。その上で今私たちが直面している「ソフトシフト化」したテクノロジーを利用した経営について「IT 前提経営®」の6大要素をしっかりと理解した上で、経営者の「TECH リテラシー」欠如による産業の衰退の実例などをつぶさに分析しながら足元の「リーディング産業」の課題について議論を進める。キーワードとしては「メディア社会とテクノロジー」「経営とテクノロジー」「ネットリテラシーとテックリテラシー」「マスマーケティング



からデジタルマーケティングへの展開」「AI×IoT×ビックデータ」「センサー優位経済の理解」「自動運転社会の理解」「規制と規制緩和」「経営者のテクノロジー理解と実践」「エクイティファイナンスとソフトシフト化したビジネスモデル」「APIエコノミーとオープンイノベーション」など多岐にわたる。大学院科目のため講義に座学ではなく議論をベースとした授業展開を行うゆえ、積極的な授業参加を求めたい。また基礎的な知識の共有から行うため、向学心があれば予備知識は不要である。

The advent of a technology dominated economic society has a long history, this is not the beginning. Based on its history (from a macro perspective), we will consider the process of "socialization" of these technologies based on the analysis of historical facts. After that, after understanding the basics of "Tech Driven Management®" of management using the technology that we are now facing, we will continue to discuss the issues of the "leading industry" (micro), which is underdeveloped, by analyzing examples of industries in detail in which the managers have a lack of "tech literacy". There are a wide variety of keywords, such as "media society and technology", "management and technology", "net literacy and tech literacy", "development from mass marketing to digital marketing", "AI x IoT x big data", "understanding of the sensor-dominated economy", "understanding of the autonomous driving society", "regulation and deregulation", "understanding and practice of management technology", "equity finance and leading industries", "the cost of democracy and management", etc. Students who are unable to participate actively in the program are asked to not participate in the class because this graduate school discipline is based on discussions rather than lectures. Also, in order to prevent absence from classes due to location, the attendance of lectures by telecommuting is also widely accepted. Also, prior knowledge is unnecessary if there is a strong sense of direction.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロクションと履修者による自己紹介
- 2 回：「IT 前提経営®」の理解のための文献輪読と議論（最低限のコンセンサスの構築）：履修者数によって輪読を座学に置き換える可能性がある。
- 3 回：「メディア・テクノロジー」にみる「リーディング産業」の歴史（予定）
- 4 回：「リーディング産業」を巡る規制と規制緩和（ベンチャー企業が突破すべきものは何か）
- 5 回：商品としてのテクノロジーとテクノロジーを用いた経営の違いについて～DX アドバイザリーの現場から～
- 6 回：「TECH リテラシー」と経営（実例分析）「IT 化（又は DX）」の本質を理解する
- 7 回：「IT 前提経営®」文脈による「AI×IoT×ビックデータ」の理解とソフトシフト化した社会の理解
- 8 回：ビジネスの公共性について（ビックデータとプライバシーを考える）
- 9 回：エクイティファイナンスと「リーディング産業」
- 10 回：ゲストスピーカーA（リーディング産業経営者又は評価者）の招聘と議論
- 11 回：マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開（ゲストスピーカーB の招聘と共に）
- 12 回：民主主義のコストと経営について（中国などの事例を参考に理解する）
- 13 回：履修者による発表と議論（1）
- 14 回：履修者による発表と議論（2）と総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題やレポートの執筆、リアクションペーパーの記入と提出がある。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート数回:50% 議論への参加度（リアクションペーパー）:50% 最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :0%

### テキスト / Textbooks

高柳寛樹 『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』 ハーベスト社 2022 9784863391147 ○

高柳寛樹 『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』 近代科学社 digital 2020 9784764960084 ○

高柳寛樹 『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』 ハーベスト社 2017 9784863390867 ○

### 参考文献 / Readings

適宜講義内で指定する。

### その他 / Others

担当者プロフィール：

<https://hiroki.st/profile/>

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ラグジュアリーブランド・マネジメント 1

## Luxury Brand Management 1

外村 彩 (TONOMURA AYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL321
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	ゲストスピーカーの都合によりオンラインとなる場合あり。
校地：	池袋
学期：	秋学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということ考察し明らかにする。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

### 授業の内容 / Course Contents

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家と予定され、ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。（マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定）担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling

in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ラグジュアリーブランド・マネジメント概論（本科目の目的と概要）
- 2 回：ゲストスピーカー講義 1
- 3 回：ゲストスピーカー講義 2
- 4 回：ゲストスピーカー講義 3
- 5 回：ゲストスピーカー講義 4
- 6 回：ゲストスピーカー講義 5
- 7 回：ゲストスピーカー講義 6
- 8 回：ゲストスピーカー講義 7
- 9 回：ゲストスピーカー講義 8
- 10 回：ゲストスピーカー講義 9
- 11 回：ゲストスピーカー講義 1 0
- 12 回：ゲストスピーカー講義 1 1
- 13 回：ゲストスピーカー講義 1 2
- 14 回：総括講義

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題（＝各セメスター期末レポート）について授業外でも各自探究いただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの貢献:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

JN カプフェレ+V バスティアン The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略 東洋経済新報社 2017  
9784492556825

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ラグジュアリーブランド・マネジメント 2

## Luxury Brand Management 2

外村 彩 (TONOMURA AYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL322
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	ゲストスピーカーの都合によりオンラインとなる場合あり。
校地：	池袋
学期：	秋学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということ考察し明らかにする。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

### 授業の内容 / Course Contents

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家で予定され、ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。（マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定）担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling

in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ラグジュアリーブランド・マネジメント概論（本科目の目的と概要）
- 2 回：ゲストスピーカー講義 1
- 3 回：ゲストスピーカー講義 2
- 4 回：ゲストスピーカー講義 3
- 5 回：ゲストスピーカー講義 4
- 6 回：ゲストスピーカー講義 5
- 7 回：ゲストスピーカー講義 6
- 8 回：ゲストスピーカー講義 7
- 9 回：ゲストスピーカー講義 8
- 10 回：ゲストスピーカー講義 9
- 11 回：ゲストスピーカー講義 1 0
- 12 回：ゲストスピーカー講義 1 1
- 13 回：ゲストスピーカー講義 1 2
- 14 回：総括講義

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題（＝各セメスター期末レポート）について授業外でも各自探究いただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの貢献:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

JN カプフェレ+V バスティアン The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略 東洋経済新報社 2017  
9784492556825

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# オペレーション・マネジメント 1

## Operations Management 1

平井 直樹 (HIRAI NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL341  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

オペレーションに関わる分野と、各企業が取り組んできた特徴や強みを理解するとともに、企業の活動を俯瞰できることを目的とする。

The goal is to be able to understand areas involved in operations, the characteristics and strengths of each business, and to be able to see the activities of the business in a comprehensive manner

### 授業の内容 / Course Contents

オペレーションをマネジメントするということは、単にサプライチェーンなどの業務のやり方を管理、改善することだけではありません。

オペレーションは、企業戦略の実行に関わるものであり、生産・販売活動、組織構造、意思決定、マーケティング、情報技術（AI 等テクノロジー）など様々な企業活動が結びついています。

本講義では、ビジネススクールの基礎から応用的なエッセンスとして、オペレーションに関わる具体的な企業事例（ケース）のほか、組織行動論などの学術的な観点から論文の紹介、フレームワークや理論、ディスカッションを通じて理解を深めていきます。

オペレーションマネジメント 1 では、DX やテクノロジー、マネジメント・リーダーシップなどを中心に取り

上げます。

Managing operations is not just about managing and improving the way you do business in the supply chain, etc. Managing operations are involved in the execution of corporate strategies, and are linked to a variety of corporate activities, including production and sales activities, organizational structures, decision making, marketing, and information technology.

In this lecture, we will deepen our understanding of the elements involved in Business school through discussions, while giving concrete examples (cases).

Operations Management 1 will focus on DX, technology, and management leadership.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：オペレーションのデジタル化（DX）、DX 推進状況や課題
- 3回：バリューチェーン・サプライチェーン
- 4回：サプライチェーンの複雑性とリスク、Amazon、ZARA、ドローンの事例など
- 5回：情報技術によるオペレーションの変化（IT、AI）
- 6回：AI 人材や雇用への影響、省人化・無人化の取り組み、キャッシュレス・実店舗とオンラインの連携
- 7回：サブスクリプションビジネス（リカーリングレベニュー）
- 8回：シェアリングビジネス
- 9回：労働者管理・生産管理・科学的管理法・マニュアル化・標準化
- 10回：牛丼店のビジネスモデルとオペレーション、ワンオペ問題
- 11回：ゲストスピーカー予定
- 12回：ディスカッション
- 13回：リーダーシップ理論（古代～現在）・トップマネジメント（創業者・プロ経営者・生え抜き）
- 14回：マクドナルトの事例、創業者一族の対立事例、後継者問題（お家騒動）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、講義内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への貢献（ディスカッション）:50% レポート:50%

### テキスト / Textbooks

授業にて随時紹介します（PDF 資料を配布します）。

### 参考文献 / Readings

授業にて随時紹介します。

### その他 / Others

「オペレーション・マネジメント1」「オペレーション・マネジメント2」を併せて履修することが望ましい。  
「オペレーション・マネジメント1」だけの履修も可。



ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# オペレーション・マネジメント 2

## Operations Management 2

平井 直樹 (HIRAI NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL342  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

オペレーションに関わる分野と、各企業が取り組んできた特徴や強みを理解するとともに、企業の活動を俯瞰できることを目的とする。

The goal is to be able to understand areas involved in operations, the characteristics and strengths of each business, and to be able to see the activities of the business in a comprehensive manner

### 授業の内容 / Course Contents

オペレーションをマネジメントするということは、単にサプライチェーンなどの業務のやり方を管理、改善することだけではありません。

オペレーションは、企業戦略の実行に関わるものであり、生産・販売活動、組織構造、意思決定、マーケティング、情報技術（AI 等テクノロジー）など様々な企業活動が結びついています。

本講義では、ビジネススクールの基礎から応用的なエッセンスとして、オペレーションに関わる具体的な企業事例（ケース）のほか、組織行動論などの学術的な観点から論文の紹介、フレームワークや理論、ディスカッションを通じて理解を深めていきます。

オペレーションマネジメント 2 では、モチベーションやナレッジなど企業内部の取り組みを中心に、最近のビ

ジネストレンドである心理的安全性やナラティブなども取り上げます。

Managing operations is not just about managing and improving the way you do business in the supply chain, etc. Managing operations are involved in the execution of corporate strategies, and are linked to a variety of corporate activities, including production and sales activities, organizational structures, decision making, marketing, and information technology.

In this lecture, we will deepen our understanding of the elements involved in Business School through discussions, while giving concrete examples (cases).

Operations Management 2 will focus on internal corporate initiatives such as motivation and knowledge, as well as recent business trends such as psychological safety and narratives.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：働き方の変化・モチベーション（動機づけ理論）
- 3 回：マネージャーと心理的安全性、ティール組織（フラット型の組織）
- 4 回：Google による組織運営に関わる調査や考え方、心理的安全性の理論・研究
- 5 回：ゲストスピーカーを予定（経営理念・クレド等を予定）
- 6 回：ディスカッション
- 7 回：企業の知識創造（暗黙知・形式知・ナレッジマネジメント）・イノベーション活動
- 8 回：SECI モデル理論、知識共有の「場」の事例、ストーリーテリングとナラティブ
- 9 回：ゲストスピーカーを予定（ホテル業界の方を予定）
- 10 回：ディスカッション
- 11 回：反復型プロセスの理論と実例：PDCA、OODA、リーンスタートアップ、アジャイル
- 12 回：問題提起・問題解決の理論と実例：デザイン思考・ビジョン思考・ムーンショット
- 13 回：プレゼンテーションとまとめ（1）
- 14 回：プレゼンテーションとまとめ（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、講義内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への貢献（ディスカッション）:50% プレゼンテーション:50%

### テキスト / Textbooks

授業にて随時紹介します（PDF 資料を配布します）。

### 参考文献 / Readings

授業にて随時紹介します。

### その他 / Others

「オペレーション・マネジメント1」「オペレーション・マネジメント2」を併せて履修することが望ましい。

「オペレーション・マネジメント2」だけの履修も可。

ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# キャッシュフロー・マネジメント 1

## Cash Flow Management 1

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL401

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS5200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、損益計算書・貸借対照表とキャッシュフロー計算書の関係を理解し、会計（アカウンティング）における利益の計算だけでなく、財務（ファイナンス）におけるキャッシュのマネジメント方法を理解する。

This course provides financial terminology and general financial principles, interpret financial statements, make the distinction between net income and cash flow.

In this course, you will gain exposure to diverse financial approaches, including methods of valuation.

### 授業の内容 / Course Contents

この講義では、会計（アカウンティング）と財務（ファイナンス）の違いを理解するとともに、戦略的視点から経営幹部がどのように利益をマネジメントするのか、どうすればキャッシュをマネジメントできるのかについての基本を講義する。

Finance and Accounting for the Non-Financial Manager allows non-financial business executives to become better users of financial information so they can be more strategic contributors to their organization.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：会計（アカウンティング）と財務（ファイナンス）の違い  
 3回：1. 利益のマネジメント  
 4回： 1-1. 利益とキャッシュは何が違うのか  
 5回： 1-2. 利益調整とキャッシュフロー  
 6回： 1-3. 損益計算書と貸借対照表の構造と分析  
 7回： 1-4. キャッシュフロー計算書の構造  
 8回： 1-5. キャッシュフロー分析  
 9回：2. キャッシュのマネジメント  
 10回： 2-1. キャッシュをどのようにコントロールするのか  
 11回： 2-2. 運転資本のコントロール  
 12回： 2-3. キャッシュ・コンバージョン・サイクル  
 13回：3. 会計(アカウンティング)と財務(ファイナンス)の有機的關係  
 14回：キャッシュフローマネジメント1の総まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は講義内で説明します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート  
割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

#### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

#### その他 / Others

- ・会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。
- ・講義では表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いた演習を行うことがあります。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# キャッシュフロー・マネジメント 2

## Cash Flow Management 2

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL402
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

企業価値というテーマは、経営や財務部門に携わる方でなくても、社会人の基礎知識として学ぶ必要性を感じている方は多いのではないのでしょうか。本講義は企業価値評価（バリュエーション）の基礎を理解し、企業価値向上のための経営意思決定ができるようになることを目標とする。

In this course, you will learn how to analyze and evaluate the financial implications of strategic and operating decisions. You will learn the correct way to do financial modeling and how to identify and avoid potential pitfalls and common mistakes.

### 授業の内容 / Course Contents

企業価値評価において、マネジメントは様々な情報を詳細に分析し、将来の業績動向について予測をしなければならない。これまで企業価値を算定しようとする様々な評価方法や企業価値評価モデルが考案されてきた。本講義では、ディスカウント・キャッシュフロー(DCF)法を中心に、キャッシュフローを用いて企業価値評価がどのように行われ、マネジメントとして企業価値向上のために何を行っていけばよいのかについて、アカウントティングとファイナンスの観点から講義する。

The focus of this course is on the valuation of companies. The course covers current conceptual and theoretical

valuation frameworks and translates those frameworks into practical approaches for valuing companies. The relevant accounting topics and the appropriate finance theory are integrated to show how to implement the valuation frameworks discussed on a step-by-step basis. The course teaches how to develop the required information for valuing companies from financial statements and other information sources in a real-world setting.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：アカウンティングからファイナンスへの橋渡し
- 2回：1. マネジメント視点から見たキャッシュフローと投資意思決定
- 3回：1-1. 投資意思決定の判断基準① 時間価値と割引計算
- 4回：2. 企業価値評価論
- 5回：2-1. ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法総論
- 6回：2-2. フリーキャッシュフロー(FCF)の算定①
- 7回：2-3. フリーキャッシュフロー(FCF)の算定②
- 8回：2-4. 加重平均資本コスト(WACC)の算定①
- 9回：2-5. 加重平均資本コスト(WACC)の算定②
- 10回：2-6. ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法による企業価値評価演習
- 11回：3. 企業価値評価とマネジメント
- 12回：3-1. 企業価値評価が必要となる理由
- 13回：3-2. 企業価値向上のためのマネジメント
- 14回：キャッシュフローマネジメント2のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

### その他 / Others

- ・キャッシュフロー・マネジメント 1、会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。
- ・講義では表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いた演習を行うことがあります。

### 注意事項



本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 管理会計 1

## Managerial Accounting 1

中村 正伸 (NAKAMURA MASANOBU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL403  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

1. 伝統的な管理会計の内容を理解し、重要なポイントを説明できる。
  2. 1.を踏まえ、現代において管理会計に期待される役割を自分なりに考察することができる。
1. Understand the contents of traditional management accounting and be able to explain important points.
  2. Based on 1.  
the modern expected role of management accounting can be considered in your own way.

### 授業の内容 / Course Contents

- ・企業は、製品やサービスのライフサイクルが短期化する中で、その戦略目標を実現する必要がある。そのことを前提に、管理会計の企業組織内での役割を検討する。
- ・前半では、管理会計についての伝統的な内容を主に議論する。
- ・後半では、その内容も踏まえ、履修者の所属組織における管理会計（特に予算管理）についてプレゼンテーションをしてもらい（15分を予定）、その内容を基に履修者で議論を行う（15分を予定）。

Enterprises need to achieve their strategic goals in an environment where the life cycle of their products and

services is shortened.

Assuming that situation, we consider the role of management accounting within organizations.

In the first half, we will mainly discuss the traditional content of management accounting.

In the second half, based on the contents of the first half, the students will be asked to give a presentation on management accounting (especially budgeting) in their organizations, and the students will discuss based on the contents.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：・授業の進め方、イントロダクション  
・管理会計とそのシステムの持つ2面性①
- 2 回：・管理会計とそのシステムの持つ2面性②
- 3 回：・管理会計の基礎①：管理会計の意義
- 4 回：・管理会計の基礎②：管理会計の基礎概念
- 5 回：・利益管理①：利益管理と利益計画
- 6 回：・利益管理②：CVP分析
- 7 回：・予算管理①：予算管理の意義と予算管理の実行
- 8 回：・予算管理②：予算差異分析と予算の運用の実際
- 9 回：プレゼンテーション①
- 10 回：業績管理アプローチとPDCA
- 11 回：プレゼンテーション②
- 12 回：意思決定アプローチとPDCA
- 13 回：プレゼンテーション③
- 14 回：プレゼンテーション④、まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回授業後、当日の内容について復習すること。
- ・授業の前に、予習として、前回の内容を振り返ること。
- ・次回授業で用いる資料を前日に配布するので、目を通しておくこと。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内での所属組織についてのプレゼンテーション:40% 平常点（授業内での発言等）:60%

授業中のディスカッションを重視する。自分の所属組織での経験を踏まえ、履修者全員で共有できるよう、ディスカッションに参加すること。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

**その他/ Others**

- ・履修者のバックグラウンドと学習経験を踏まえ、履修者と調整の上で、講義の内容や順番を一部変更することがあります。
- ・所属組織の管理会計の内容を具体的に説明頂くことで、履修者間での議論がリッチになりますので、ご協力をお願い致します。もちろん発表内容は授業内のみで扱うこととし、授業外での使用は厳禁とします。
- ・極力、管理会計1と2をセットで、受講頂きたいですが、どちらかみでの履修も認めます。
- ・単位を取ることを目的にする方は履修を辞退して下さい。授業内でのディスカッションに積極的にご参加ください。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 管理会計 2

## Managerial Accounting 2

中村 正伸 (NAKAMURA MASANOBU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL404  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- 経営環境の変化の中で、管理会計に期待される役割がどのように変化してきているかを理解する。
- 1.を踏まえ、将来に亘り、管理会計に期待される役割を自分なりに考察することができる。
1. Understand how the expected role of management accounting is changing in the changing business environment.
2. Based on 1., the expected role of management accounting in the future can be considered in your own way .

### 授業の内容 / Course Contents

企業は、製品やサービスのライフサイクルが短期化する中で、その戦略目標を実現する必要がある。そのことを前提に、管理会計の企業組織内での役割を検討する。

現代における、組織を取り巻く経営環境の変化を受けて、組織において管理会計に期待される役割がどのように変わり、具体的にどのような管理会計の活用があるのかを、議論する。

Enterprises need to achieve their strategic goals as the life cycle of their products and services is shortened.

Assuming that situation,, we consider the role of management accounting within organizations.  
 In response to changes in the business environment surrounding the organization in modern times  
 We will discuss how the expected role of management accounting in organizations will change, and how  
 management accounting will be used in concrete terms.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経営環境の変化に伴う管理会計に期待される役割の変化
- 2 回：長期経営計画①
- 3 回：長期経営計画②
- 4 回：長期経営計画③
- 5 回：設備投資計画①
- 6 回：設備投資計画②
- 7 回：ABC・ABM①
- 8 回：ABC・ABM②
- 9 回：原価企画①
- 10 回：原価企画②
- 11 回：BSC①
- 12 回：BSC②
- 13 回：アメーバ経営
- 14 回：まとめ これからの管理会計に期待されること ウォーターフォールとアジャイルの対比を手掛かりに

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 毎回授業後、当日の内容について復習すること。
- ・ 授業の前に、予習として、前回の内容を振り返ること。
- ・ 次回授業で用いる資料を前日に配布するので、目を通しておくこと。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート:40% 平常点 (授業内での発言等) :60%

授業中のディスカッションを重視します。自分の所属組織での経験を踏まえ、履修者全員で共有できるよう、ディスカッションに参加して下さい。

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

谷武幸 エssenシャル管理会計 中央経済社 2022

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・ 管理会計 1 を履修していることが望ましい。但し、管理会計の学習経験があれば、その限りではない。

### その他 / Others

- ・履修者のバックグラウンドと学習経験等を踏まえ、履修者と調整の上で、講義の内容や順番を一部変更することがあります。
- ・極力、管理会計1と2をセットで、受講頂きたいですが、どちらかみでの履修も認めます。
- ・単位を取ることを目的にする方は履修を辞退して下さい。授業内でのディスカッションに積極的にご参加ください。こちらからも発言を適宜求めます。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 財務会計 1

Financial Accounting 1

清松 敏雄 (KIYOMATSU TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL408  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

財務諸表分析の手法についての知識の習得することを目標とする。

The objective of this course is to acquire knowledge about analysis of financial statements.

## 授業の内容 / Course Contents

財務諸表を用いて企業の収益性等の分析する手法を解説する。

By using financial statements, analysis methods of profitability of a company are explained.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：財務諸表分析のうち安全性分析について解説する。
- 2 回：財務諸表分析のうち収益性分析（2 回中 1 回目）について解説する。
- 3 回：財務諸表分析のうち収益性分析（2 回中 2 回目）について解説する。
- 4 回：財務諸表分析のうち効率性分析について解説する。
- 5 回：財務諸表分析のうち成長性分析について解説する。
- 6 回：連結財務諸表について解説する。
- 7 回：連結財務諸表を用いた財務諸表分析について解説する。



- 8回：セグメント情報について解説する。  
 9回：セグメント情報を用いた財務情報の分析について解説する。  
 10回：株価収益率や株価純資産倍率等について解説する。  
 11回：利益とキャッシュ・フローの関係（2回中1回目）について解説する。  
 12回：利益とキャッシュ・フローの関係（2回中2回目）について解説する。  
 13回：中期経営計画の利用について解説する。  
 14回：財務会計1のまとめを行う。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習： 各回の講義の終わりに復習用の課題を提示するので、その課題を行うこと。

予習： 事前準備が必要な回については、その前の授業の際に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席とディスカッション等への参加:60% 最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

講義内で指定する。

### 参考文献 / Readings

青木茂男他 要説経営分析 森山書店 2022 9784839421946

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎回ではありませんが事例に基づくディスカッションを行う回があります。会計知識がまったくないと、ディスカッションへの参加が難しいので、基本用語などは知っているということが前提となります。

### その他 / Others

財務会計1と財務会計2は、両科目ともに履修することが望ましいが、一方の科目のみの履修も可能である。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 財務会計 2

## Financial Accounting 2

清松 敏雄 (KIYOMATSU TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL409  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

会計の一連の流れを理解し、企業の財政状態や経営成績を評価するのに必要なスキルを身につけることを目標とします。

The purpose of this course is to understand the accounting process and to develop skills necessary to evaluate an enterprise's financial position and results of operations.

### 授業の内容 / Course Contents

財務諸表作成の根底にある概念や資産・負債の測定基準について解説するほか、収益・費用の認識基準についても解説します。

The concepts of financial accounting and recognition / measurement basis of assets, liabilities, revenues and expenses are explained.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：財務会計の役割（情報提供機能と利害調整機能）
- 2 回：収益・費用の認識基準（現金基準、発生基準、実現基準）
- 3 回：資産・負債の評価基準（総論）（原価基準、時価基準、割引現在価値基準）

- 4回：資産の評価基準（事業投資）（2）棚卸資産  
 5回：資産の評価基準（事業投資）（3）有形固定資産  
 6回：資産の評価基準（金融資産）（1）  
 7回：資産の評価基準（金融資産）（2）  
 8回：減損会計（減損の兆候、減損損失の認識、減損損失の測定）  
 9回：研究開発費の会計（資産計上、一括費用化、条件付資産計上）  
 10回：負債の評価基準（金融負債）  
 11回：引当金（債務性引当金と非債務性引当金）  
 12回：財務会計と税務の相違（目的の相違と計算構造）  
 13回：税効果会計（一時差異と永久差異、将来減算一時差異と将来加算一時差異）  
 14回：財務会計2のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

復習： 各回の講義の終わりに復習用の課題を提示するので、その課題を行うこと。

予習： 事前準備が必要な回については、その前の授業の際に指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度（授業内の課題対応を含む）:60% 最終テスト割合 :40%

### テキスト / Textbooks

講義内で指示する。

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 会計学 1

Accounting 1

浅野 敬志 (ASANO TAKASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL461  
授業形態： 対面（一部オンライン）  
授業形態（補足事項） オンラインの回は受講生と相談のうえ決定する。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現行の会計制度の背後にある仕組みや考え方について理解を深めるとともに、伝統的な会計理論や企業会計原則についても理解を深める。

We deepen our understanding of the mechanisms and ideologies behind the current accounting system, while also enhancing our understanding of traditional accounting theories and corporate accounting principles.

## 授業の内容 / Course Contents

会計は多くの複雑なルールに基づいているが、その背後にある仕組みや考え方について、主に輪読を通じて理解を深める。過去 100 年にわたり、会計は静態論から動態論へ、収益費用アプローチから資産負債アプローチへと、基本的な足場を移行させている。この移行の中で、従来の会計基準全体を支える基本的な考え方との整合性が常に検討されており、伝統的な会計理論や企業会計原則についても理解を深める。

Accounting is based on many complex rules, but understanding the underlying mechanisms and principles is primarily achieved through group reading. Over the past 100 years, accounting has transitioned from static to dynamic perspectives and from revenue-cost to asset-liability approaches, shifting its foundational framework. Within this transition, the consistency with the fundamental principles supporting traditional accounting

standards is constantly under scrutiny. It is important to deepen understanding of traditional accounting theories and corporate accounting principles as well.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：会計の機能
- 3回：会計のルール
- 4回：会計の制度性
- 5回：会計の基礎概念
- 6回：会計の仕組み
- 7回：利益計算の考え方
- 8回：発生主義会計
- 9回：配分と評価
- 10回：資産負債アプローチと収益費用アプローチ
- 11回：資産・負債の認識と測定（1）
- 12回：資産・負債の認識と測定（2）
- 13回：純資産の会計
- 14回：総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当箇所に通し、疑問点や討論したい事項をまとめてくること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告:40% 討論:40% 最終レポート:20%

### テキスト / Textbooks

藤井秀樹 入門財務会計（第4版） 中央経済社 2021 4502375519 ○

### 参考文献 / Readings

佐藤信彦ほか スタンダードテキスト財務会計論 I（基本論点編）（第16版） 中央経済社 2023  
4502461911

桜井久勝 財務会計講義（第25版） 中央経済社 2024 9784502500718

本講義は、受講者がディスカッションをしながら進める講義である。学部上級レベルの財務会計の知識（上記参考文献程度の知識）を前提として進めていく予定である。

# 会計学 2

Accounting 2

浅野 敬志 (ASANO TAKASHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL466  
授業形態： 対面（一部オンライン）  
授業形態（補足事項） オンラインの回は受講生と相談のうえ決定する。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業による会計処理や情報開示の選択が財務会計の機能に及ぼす影響について理解するとともに、会計基準や財務報告制度の理論を通じて、制度設計に関する示唆を得ることを目標とする。

The goal is to understand how companies' choices in accounting policy and disclosure affect the function of financial accounting, and to derive insights for institutional design through an understanding of accounting standards and financial reporting theories.

## 授業の内容 / Course Contents

企業が会計処理や情報開示の選択を行うプロセスを確認しつつ、これらが財務会計に期待される情報提供機能と利害調整機能にどのような影響を与えるかを学習する。さらに、会計基準や財務報告制度の理論についても理解を深めることで、制度設計への示唆を考察する予定である。

We will examine the process through which companies make choices regarding accounting policy and disclosure while learning about the impact of these choices on the information-providing and stakeholder alignment functions expected of financial accounting. Furthermore, by deepening our understanding of accounting standards and financial reporting system theories, we plan to consider implications for system design.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション  
 2回：利益調整  
 3回：発生主義会計の優位性の源泉  
 4回：発生主義会計の潜在的な弱点  
 5回：財務報告の機能と制度  
 6回：利害調整機能  
 7回：情報提供機能  
 8回：利益調整による株価形成の誤導  
 9回：財務報告の制度設計と株価・会計情報研究の役割  
 10回：基準設定の理論（1）  
 市場の失敗と情報開示インセンティブ  
 11回：基準設定の理論（2）  
 財務報告の質と量  
 12回：基準設定の理論（3）  
 基準設定のデュープロセス  
 13回：基準設定の理論（4）  
 資本市場の国際統合と会計  
 14回：総括

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

テキストの該当箇所を目を通し、疑問点や討論したい事項をまとめてくること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 報告:40% 討論:40% 最終レポート:20%

**テキスト / Textbooks**

桜井久勝 利益調整：発生主義会計の光と影 中央経済社 2023 9784502451119 ○

ウィリアム・R・スコット 新版 財務会計の理論と実証 中央経済社 2022 4502427616 -

**参考文献 / Readings**

浅野敬志 会計情報と資本市場：変容の影響と分析 中央経済社 2018 9784502250415

**その他 / Others**

本講義は、受講者がディスカッションをしながら進める講義である。学部上級レベルの財務会計の知識（上記参考文献程度の知識）を前提として進めていく予定である。

# リーダーシップ論 1

## Leadership 1

安部 哲也 (ABE TETSUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL509  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

リーダーシップ理論やケース演習、議論を通じて、リーダーシップ、ニューノーマル時代のリーダーシップとは何か、リーダーシップ実践手法を学ぶ。受講者自身のリーダーシップにおける強み・弱み、スタイルを理解、実践し、各自のリーダーシップ開発を進めていく。

What leadership is, and how leadership practices can be practiced, are studied through leadership theory and case studies. Participants will review their own strengths, weaknesses, and style of leadership and will each develop their own leadership.

### 授業の内容 / Course Contents

デジタル化、多様化、グローバル化、社会問題、リモート化、長寿命化などにより、ビジネスや社会活動を取り巻く環境は急激に変化してきている。このような複雑な環境下（ニューノーマル時代）、リーダーシップの重要性がさらに高まり、また取るべきリーダーシップのあり方も変化してきている。リーダーシップについて、これまでのリーダーシップ研究の変遷をおさえながら、国内、グローバル企業・組織の経営者、リーダー、マネージャーなどのケースを参考に学習していく。講義中心ではなく、個人ワーク、グループディスカッション、ケース演習などを多く取り入れ、全員参加型ワークショップ形式で進める。



注) 授業の進行、受講者の状況などにより、内容、スケジュールは変更される可能性あり。

取り扱うケースなどは、状況により変わる可能性あり。

The environment surrounding business and social activities has been changing rapidly due to globalization, the internet, and diversity. In such a complex environment, the importance of leadership is increasing, and the way of taking leadership is changing. With past transitions in leadership research as the base, we will learn about leadership by referring to cases of executives, leaders, managers, etc. of domestic and global corporations and organizations. Rather than focusing on lectures, this workshop will focus on individual work, group discussions, and case studies, and will be organized in a workshop style that is open to all participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：リーダーシップの定義：リーダーシップとは何か？

事業環境の変化（ニューノーマル時代）とリーダーシップの変化

2回：リーダーシップ理論研究の変遷①（特性理論・行動理論・条件適合型理論）

3回：ニューノーマル時代のリーダーシップとは

セルフ・リーダーシップ①：自分自身の強み／弱み、価値分析

4回：セルフ・リーダーシップ②：自分自身のミッション・ビジョン構築・

リーダーシップ開発プラン作成

\*グループプロジェクト（リーダーシップに関する研究）スタート

\*院生どうしのペアによるコーチングをスタート

5回：リーダーシップ理論研究の変遷②（トランスフォーメーション・リーダーシップ）

ケース例) 富士フイルム VS コダック or トヨタ VS テスラ など

6回：リーダーシップ理論研究の変遷③（トランザクショナル・リーダーシップ）

サーバント型リーダーシップ/EQ型リーダーシップ など

7回：チーム・リーダーシップ①：経営理念・パーパス・ビジョン構築手法と演習

ケース例) パナソニック、ソニー 等

8回：チーム・リーダーシップ②：モチベーション理論 ケース例) 伊那食品工業 等

9回：グローバル・リーダーシップ：異文化理解 フレームワーク

ケース例) トヨタ、ホンダ 等

10回：ダイバーシティ（多様性）・リーダーシップ

ケース例) IBM、Google 等

11回：デジタル時代のリーダーシップ&コミュニケーション

12回：ケーススタディ 例) 京セラ創業者 稲盛和夫 など

13回：ゲストスピーカー(企業経営者・起業家など) による講演とディスカッション or ケーススタディ

14回：リーダーシップ開発プランの発表・質疑応答・全体のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト (世界標準のリーダーシップ)、ケース演習の準備、リーダーシップ開発の実践などがある。

詳細は、講義内で指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業貢献（出席、発言など）:40% 授業内課題:60%

### テキスト / Textbooks

安部哲也 世界標準のリーダーシップ 総合法令出版 2022 9784862808431 ○

ジム・コリンズ ビジヨナリー・カンパニーZERO：ゼロから事業を生み出し、偉大で永続的な企業になる  
日経 BP 社 2022 9784296000326 ○

別途、テキスト・ケース類は、講義にて指示する

### 参考文献 / Readings

スティーブン ロビンス 新版 組織行動のマネジメント ダイヤモンド社 2009 9784478004593

野中郁次郎・竹内弘高 ワイズカンパニー 東洋経済新報社 2020 9784492522301

ジョン・P・コッター CHANGE 組織はなぜ変わらないのか ダイヤモンド 2022 9784478114681

P. F. ドラッカー 経営者の条件 ダイヤモンド社 2006 4478300747

松下幸之助 実践経営哲学 PHP 研究所 2001 4569575625

坂本光司 日本でいちばん大切にしたい会社 あさ出版 2008 4860632486

安部哲也 新版 課長の心得 総合法令出版 2022 9784862808363

### その他 / Others

系統的履修 必ずリーダーシップ論2も継続受講すること。リーダーシップ論1・2で、リーダーシップ論全体を構成するものとなっている。進行状況により内容が前後することもある。

【双方向による授業】簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は約70%（14回中10回）である。

【実務家教員による授業】5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# リーダーシップ論 2

## Leadership 2

安部 哲也 (ABE TETSUYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL510  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

リーダーとしての、コーチング&コミュニケーションスキルを学び、部下や同僚などに対し、効果的なコーチング&コミュニケーションを実践できるレベルになることを目指す。

また、リモート環境、デジタル環境におけるリーダーシップ、社会課題解決のためのリーダーシップについても学ぶ。

As a leader, our goal will be to study coaching skills and be able to practice and use coaching toward subordinates and colleagues.

### 授業の内容 / Course Contents

企業・組織を取り巻く環境が複雑化、多様化する中、企業・組織の経営資源である「ヒト・モノ・カネ・ノウハウ・データ」において「ヒト」をどう動機づけ、どう育成していくかが、さらに重要課題となってきている。経営者、リーダー、マネージャーがメンバーを動機付け、育成するための実践的なリーダーシップ・コーチング・スキルを習得する。コーチングスキルは欧米において、経営者やリーダー、マネージャーに不可欠なスキルとして定着してきており、また日本やアジアの企業・組織においても導入が急速に進んでいる。コーチングの基本的な考え方、コミュニケーションスキル、ビジョン実現モデルなどを理論と実践的演習などを通じ

て学ぶ。またリモートリーダーシップ、ソーシャルリーダーシップの理論・実践手法を学ぶ。

注) 授業の進行、受講者の状況などにより、内容、スケジュールは変更される可能性あり。

取り扱うケースなどは、状況により変わる可能性あり。

As the environment surrounding corporations and organizations is becoming more and more complex and diverse, how to motivate and develop "people" in "people, things, money, and information", which are the resources of management in corporations and organizations, has become a more important and difficult issue. We will learn practical leadership coaching skills for executives, leaders, and managers to motivate and develop members. Coaching skills have been established in Europe and the United States as essential skills for executives, leaders and managers, and have been rapidly introduced in companies and organizations in Japan and Asia. We will study the basic concepts of coaching, communication skills, vision realization models, etc., through theoretical and practical seminars.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：リーダーシップ・コーチングの定義 (組織目的・目標と人財・組織育成の両立)  
ティーチングとコーチング メリットとデメリット、使い分け
- 2 回：リーダーシップにおける信頼関係の構築 "スマート・トラスト"
- 3 回：リーダーシップ・コーチング・スキル演習  
①アクティブリスニング (積極的傾聴) ②効果的な質問スキル  
\*ペアによるコーチングスタート
- 4 回：リーダーシップ・コーチング・スキル演習  
③フィードバック&フィードフォワード スキル ④ロールプレー演習
- 5 回：リモート・リーダーシップ リモート環境におけるリーダーシップ 3E モデル  
(Engage:信頼関係づくり、Empowerment:エンパワー、Evaluation:評価・フィードバック)
- 6 回：心理的安全性/組織の成功循環モデル  
ケース) グーグル他
- 7 回：リーダーシップ・コーチング ビジョン実現 (M+GROW) モデル 演習 (1on1 ミーティング)
- 8 回：ゲスト・スピーカーによる講義・議論 例) 企業経営者・リーダーなど or ケーススタディ
- 9 回：リーダーにとってのビジネスネゴシエーション (交渉)  
・Win-win ネゴシエーション  
・BATNA/ZOPA など  
・交渉ケース演習
- 10 回：積極的フォロワーシップ (上司・先輩を動かすリーダーシップ)
- 11 回：ソーシャル・リーダーシップ：ケーススタディ ①  
ケース)バングラデッシュ グラミン銀行、ボータレスジャパン 等
- 12 回：ソーシャル・リーダーシップ：ケーススタディ ②  
演習) 自分が考えるソーシャルビジネス
- 13 回：リーダーシップに関する自主研究テーマ 発表・質疑応答・まとめ①
- 14 回：リーダーシップに関する自主研究テーマ 発表・質疑応答・まとめ②

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ 教材 (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表 :○ グループ発表 :○ ディスカッション・ディベート:○  
 実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :  
 上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で別途指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業貢献（出席、発言など）:40% 授業内課題:60%

### テキスト / Textbooks

安部哲也 世界標準のリーダーシップ 総合法令出版 2022 9784862808431 ○

講義時に配布，指示する。

### 参考文献 / Readings

トム・ラス さあ、才能に目覚めよう ストレングス・ファインダー2. 0 新版 日本経済新聞出版社 2017  
 9784532321437

エリック・シュミット 1兆ドルコーチ シリコンバレーのレジェンド ビル・キャンベルの成功の教え ダイ  
 ヤモンド社 2019 4478107246

リード・ヘイスティングス NO RULES(ノー・ルールズ) 世界一「自由」な会社、NETFLIX 日本経済新聞  
 出版 2020 4532323673

ピーター M セング 学習する組織—システム思考で未来を創造する 英治出版 2011 4862761011

ムハマド・ユヌス 3つのゼロの世界—貧困0・失業0・CO2排出0の新たな経済 早川書房 2018  
 9784152097446

### その他 / Others

系統的履修 必ずリーダーシップ論1・2を連続して受講すること。リーダーシップ論1・2で、リーダーシ  
 ュップ論全体を構成するものとなっている。進行状況により内容が前後することもある。

【双方向による授業】簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開  
 する。双方向による授業の割合は約70%（14回中10回）である。

【実務家教員による授業】5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッ  
 ションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ヒューマン・リソース・マネジメント 1

## Human Resource Management 1

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL521  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- ヒューマン・リソース・マネジメントで取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
- 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
- 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

The goals this course are to

- Be able to understand the outline and issues of the main themes discussed with in human resource management.
- Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
- Be able to read research papers and discover the implications for business.

### 授業の内容 / Course Contents

ビジネスを成り立たせる資源（リソース）には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感

情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。

この講義では、経営戦略の実現に向けてヒューマン・リソース・マネジメントの中核的機能である、格付け、賃金、評価、報酬、採用、配置、人材開発などについて実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound. This course introduces the core functions of human resource management, such as grading, wages, evaluation, compensation, recruitment, placement, and human resource development, in order to activate the business strategy by combining practice and theory.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：人事の課題整理
- 2 回：ヒューマン・リソース・マネジメントの鳥観図と概論
- 3 回：経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (1)
- 4 回：経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (2)
- 5 回：社員格付け制度と賃金 (1)
- 6 回：社員格付け制度と賃金 (2)
- 7 回：人事評価と報酬 (1)
- 8 回：人事評価と報酬 (2)
- 9 回：採用、配置、退出 (1)
- 10 回：採用、配置、退出 (2)
- 11 回：人材開発とキャリア開発 (1)
- 12 回：人材開発とキャリア開発 (2)
- 13 回：人的資本経営 (1)
- 14 回：人的資本経営 (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:60% 授業姿勢 (出席、発言、発表) :40%

### テキスト / Textbooks

平野光俊・江夏幾多郎 人事管理 人と企業、ともに生きるために 有斐閣 2018 9784641150478 -

### 参考文献 / Readings

江夏幾多郎 新・マテリアル人事労務管理 有斐閣 2023 9784641166196

授業内で紹介します。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# ヒューマン・リソース・マネジメント 2

## Human Resource Management 2

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL526  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域となる組織行動、労働政策、労働法等で取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
- 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
- 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

The goals this course are to

- Be able to understand the outline and issues of the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc.
- Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
- Be able to read research papers and discover the implications for business.

### 授業の内容 / Course Contents

ビジネスを成り立たせる資源（リソース）には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感

情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。

この講義では、ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域で議論される組織行動、労働政策、労働法等における主要テーマについて、実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound. This course introduces the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc. by combining practice and theory to students taking this course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：組織行動論：モチベーション(1)
- 2 回：組織行動論：モチベーション(2)
- 3 回：組織行動論：個人と組織の関係性(1)
- 4 回：組織行動論：個人と組織の関係性(2)
- 5 回：組織行動論：リーダーシップ(1)
- 6 回：組織行動論：リーダーシップ(2)
- 7 回：組織行動論：コンフリクト(1)
- 8 回：組織行動論：コンフリクト(2)
- 9 回：組織行動論：組織文化(1)
- 10 回：組織行動論：組織文化(2)
- 11 回：労働政策：外部労働市場と内部労働市場(1)
- 12 回：労働政策：外部労働市場と内部労働市場(2)
- 13 回：労働法：労働法制と就業管理(1)
- 14 回：労働法：労働法制と就業管理(2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート：60% 授業姿勢（出席、発言、発表）：40%

### テキスト / Textbooks

鈴木竜太・服部泰宏 組織行動 組織の中の人間行動を探る 有斐閣 2019 9784641150669 -

### 参考文献 / Readings

服部泰宏 組織行動論の考え方・使い方 有斐閣 2020 9784641165663

山崎京子 個人と組織不適合のダイナミクス：適合と不適合が牽引する外部環境適応 白桃書房 2023  
9784561267768

授業内で紹介します。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ビジネス・オーガニゼーション 1

## Business Organization 1

組織・戦略・人材

鈴木 秀一 (SUZUKI SHUICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL541
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

この組織戦略論の講義の目的は、ビジネスにおける組織の有効性と限界を戦略論の視点から学ぶことである。受講生は組織と経営戦略の基礎理論を学ぶ。そして具体的なケースを学び、理論の使い方をグループディスカッションとミニディベートによって身につける。理論とケースを補完的に学習することで、受講生は組織マネジメントのスキルを身につける。組織戦略論を学ぶことの楽しさも受講生には知ってほしい。

The purpose of this course (organizational strategy) is to study the effectiveness and limitations of organizations in business from the perspective of strategic theory. Students will learn first the basic theories of organization and business strategy, and then they will then study specific cases and learn how to use the theories through group discussions and mini-debates. Through the complementary study of theory and cases, students will acquire organizational management skills. Hopefully students will find studying the theory of organizational strategy quite interesting.

### 授業の内容 / Course Contents

この講義の焦点は、現代戦略論の最重要課題である組織イノベーションである。ICT の発達は、ビジネスエコ

システムを刷新し、市場に「破壊的イノベーション」をもたらした。その結果は2つの側面がある。ひとつは、クリステンセンのイノベーションのジレンマ論が指摘したように、起業家企業に対する支配的大企業の弱さであった。他のひとつは、大企業側も創造的破壊への対応力を学びつつある新しい側面である。

本講義（I）では、起業家企業の戦略と組織ケイパビリティを学ぶ。クリステンセン、パーパス経営やビジョナリー・リーダーシップ等である。デザイン思考や両利き経営など、大企業の最近の対応戦略・組織については本講義（II）で学ぶ。

This lecture focuses on the most important issue of contemporary strategy theory: organizational innovation. The development of ICT has revolutionized the business ecosystem and brought "disruptive innovation" to the business market. The consequences are twofold. One was the weakness of dominant large firms against entrepreneurial firms, as Christensen's innovation dilemma theory pointed out. The other is a current development in which the large firms are learning to adapt properly to so called creative destruction. In this lecture (I), we will study the business strategy and organizational capability of entrepreneurial firms, including Christensen, purpose Management and visionary Leadership.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：「この講義の課題」「企業組織の機能」「経営戦略と組織の関係：ポーターから資源ベース論まで」  
なぜビジネスにおいて組織が問題となるのか。経済学の企業モデルと組織論の企業モデルはどう異なるのか。ポーターからバーニーまでの経営戦略論では組織の役割はどのように重視されてきたか。企業組織について、基本的な視点、論点、概念を講義する。

2回：ケース「ソニーのラジオ事業」

草創期のソニーの破壊的イノベーションとその組織ケイパビリティ、創業者の人材観について学ぶ。講義とグループワーク。

3回：基礎理論「ドラッカーの組織イノベーション論」

組織論の基礎概念、CSRの視点、イノベーションについて、ドラッカーの果たした貢献と限界について講義する。とくにGMの経営者スローンの経営論との対比から、現代のCSRあるいはパーパス経営の組織論を講義する。

4回：ケース「リーダーシップとマネジメント」

経営学分野では組織運営における「マネジメント」過剰を指摘する文献は多い。ハーバード大学のコッターはそれを「リーダーシップ」機能の不足として理論化した。ドラッカーからビジョナリー・カンパニー、最近のパーパス経営に至るビジョナリー・リーダーシップの理論を具体的なケースでグループディスカッションする。

5回：基礎理論「クリステンセンのイノベーション論」

既存大企業が破壊的イノベーションに直面したときに陥る「イノベーションのジレンマ」とはなにか。なぜスタートアップの起業家精神をもった組織文化のほうが、資金も技術もまっさっている官僚制企業よりも「破壊的イノベーション」に強いのか、についてイノベーション研究の背景から検討し講義する。

6回：ケース「探索と深化」

イノベーション理論のキーワード「探索」と「深化」について講義し、グループワークをする。

7回：基礎理論「クリステンセンのイノベーション論・続」

クリステンセンのイノベーション論の骨格は、「RPV（経営資源、業務プロセス、組織の価値観）」理論にある。この理論から、「イノベーションのジレンマ」をさらに深掘りする。

8回：ケース「クリステンセンのジョブ理論」

具体的な企業をとりあげて、クリステンセンのジョブ理論を講義し、グループディスカッションを行う。

## 9回：基礎理論「創発戦略と組織文化」

ミンツバーグの「創発戦略」を講義する。この授業では、創発戦略が官僚制企業のプランニング制とポーター戦略論に対する組織論的な反論になっていることを明らかにする。単なるGM批判やホンダエフェクトの主張としてではない「創発」の意義を講義する。

## 10回：ケース「ホンダの創発戦略」

組織戦略論の視点から有名な「創発戦略」を検討したあとで、グループワークを中心に事例を議論することで「創発戦略」の理解を進める。

## 11回：基礎理論「パーパス経営と組織文化」

経営の本質はビジョンである。「起業家精神」でも「ビジョナリー・カンパニー」でも、あるいは「創発」の組織文化でも、そこにあるのは明確な経営理念である。今日またこのことが再評価されている。それがパーパス経営である。

## 12回：グループディスカッション「イノベーションのジレンマの解決法」第1回

これまでの講義とグループワークをさらに理解を深めるために、グループごとに解決法を提案してもらおう。破壊的な新製品・新サービス・新技術に対して、貴社はどのように対応し、競争力を維持するか、その解決法をグループごとに議論し、提案する。

## 13回：グループディスカッション「イノベーションのジレンマの解決法」第2回

1週間の時間的余裕のあと、各グループは提案をクラス全体に発表し、株主総会の場で様々な批判的質問やコメントに対応する。そのあとで各提案を仕上げ、最終レポートとして提出する。

## 14回：まとめ

各グループワークへのフィードバック。

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経営戦略論と組織理論の入門者は、この分野の基礎概念とロジックを身につけるために教科書の予復習を推奨します。

## 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループワーク貢献度:40% 中間レポート:30% 最終レポート割合：:30%

## テキスト / Textbooks

羽田明浩・鈴木秀一・平鹿一久 ポストコロナのヘルスケア経営戦略 文真堂 2022 9784830951800 ○

## 参考文献 / Readings

## 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## ビジネス・オーガニゼーション 2

### Business Organization 2

大企業組織の改革：パーパス経営と未来の働き方

鈴木 秀一 (SUZUKI SHUICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL546
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

この組織戦略論の講義目的は、ビジネスにおける組織の有効性と限界を戦略論の視点から学ぶことである。受講生は組織と経営戦略の基礎理論を学ぶ。そして具体的なケースを学び、理論の使い方をグループディスカッションとミニディベートによって身につける。理論とケースを補完的に学習することで、受講生は組織マネジメントのスキルを身につける。組織戦略論を学ぶ楽しさも受講生には知ってほしい。

The purpose of this course is to study the effectiveness and limitations of organizations in business from the perspective of strategic theory. Students will learn first the basic theories of organization and business strategy, and then they will then study specific cases and learn how to use the theories through group discussions and mini-debates. Through the complementary study of theory and cases, students will acquire organizational management skills. Hopefully students will find studying the theory of organizational strategy quite interesting.

### 授業の内容 / Course Contents

この講義（Ⅱ）では、講義（Ⅰ）で学習した知識を前提として、組織の官僚制化の問題、大企業の組織とイノベーションについて学ぶ。技術の進化により、またこの 20 年来の大企業が学習組織論を導入した結果、業界の支

配的大企業はクリステンセンの時代よりも「破壊的イノベーション」に対する組織ケイパビリティを構築してきている。たとえばデザイン思考、リーンアジャイル、リーンスタートアップといったダイナミック・ケイパビリティ戦略を導入した組織ケイパビリティである。「両利き経営」論も、クリステンセンに対する反論としての大企業の有力な対応力のひとつである。人生 100 年時代の未来の組織像について、筆者の言う「楕円形組織」はひとつの有力な結論となろう。

In this lecture (II), the knowledge learned in (I) is a prerequisite to study the problem of bureaucratization as well as the organizational management of innovation of large firms. Due to the evolution of technology, and as a result of the introduction of learning organization theory by large companies over the last 20 years, the dominant large companies in the industry have built organizational capability for "disruptive innovation" far more than in Christensen's time. For example, they have introduced dynamic capability strategies such as design thinking, lean-agile management, and lean startup management. "Ambidextrous management" is another powerful development by large companies as a counterargument to Christensen's theory. The "elliptical organization" theory described by the author is one of the most promising conclusions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1 回：基礎理論「組織の官僚制化・近代組織の合理性」

講義を主として基礎概念とロジックの学習をする。アクティブラーニングも部分的に取り入れる。ビジネスオーガニゼーション（II）では、官僚制化した大企業の論理と近年の組織戦略について学ぶ。合理性と逆機能のジレンマがなぜ発生するのが（II）のテーマであり、最後にそのソリューションをグループで提案する。

#### 2 回：ケース「GE の官僚主義組織文化」

米国の巨人ゼネラルエレクトリック（GE）はどのように成長し、またどのように官僚制化していったか。その発展史を通じて官僚制企業のメリットとデメリットを討議する。ケースについて講義の後、グループごとに受講生はケースの論点や疑問点などをディスカッションで明らかにする。

#### 3 回：基礎理論「ソニーの官僚制化とイノベーション・ケイパビリティ」

講義（I）で学んだソニーは、やがて低迷期を迎え、2003年の「ソニーショック」と言われるまで転落した時代がある。なぜソニーは元来の起業家精神を失ったのか。ソニーの組織はどのように官僚主義化したか。イノベーション能力の変遷について講義する。

#### 4 回：ケース「フォードとスローン」

ヘンリー・フォードは大量生産システムを確立した「自動車王」として知られる。彼の技術革新はまたそれを運営する個人能力に支えられていた。フォードイズムの全盛期は意外に短かった。GM のスローンは、組織革新によってフォードに追いつき、勝った。現代に通じるスローンの組織革新とは何か。ワンマン組織に対する官僚制組織のメリットとは何か。

#### 5 回：基礎理論「両利き経営の戦略」

近年の「両利き組織」論は、大企業の側からの「イノベーションのジレンマ」に対する有力な組織戦略のひとつかもしれない。この講義では、クリステンセンとの接点と批判点を明確にして、「両利き」モデルの特徴を明らかにする。クリステンセン理論からみた「両利き」組織の限界も示す。

#### 6 回：ケース「ビジョナリー経営ヒューレット・パカード」

「両利き」モデルの成功例としてあげられているのが HP のあるプロジェクトである。このケースを講義したあと、グループディスカッションする。

#### 7 回：基礎理論「両利き経営の戦略・楕円形組織論」

オリリーとタッシュマンは 1990 年代から組織と戦略論の第一人者だった。彼らの代表的な理論を紹介してから、「両利き」経営モデルをみる。それが明確なクリステンセンへの反論になっていることがわかる。筆者の



「楕円形組織論」も講義する。

#### 8回：ケース「アップルのビジョナリー経営」

アップルもまた、ある意味で「両利き」だった。ケース講義ではジョブズのビジョン&パーパス経営についても明らかにする。ケースはグループワークで深掘りする。

#### 9回：基礎理論「デザイン思考のマネジメント（組織と人材）」

組織戦略論でいう「デザイン思考」を講義する。それは単なる製品のデザインではなく、企業の技術能力と人間中心的な価値志向の統合を意味する。また、組織デザインは企業全体のパフォーマンスと個々の従業員の人的価値の相互依存から持続的競争力をもたらすことにつながる。

#### 10回：ケース「デザイン思考と大企業のイノベーション」

デザイン思考の具体例として「ルールデザイン」や行動経済学を利用した現代調の官僚制デザインなどを検討する。

#### 11回：基礎理論「人生100年時代の労働と未来組織」

マルチキャリアの時代になり、伝統的な日本企業の組織と人事制度は変化を余儀なくされている。大企業のデザイン思考や行動経済学的な組織デザインと日本の創発的なイノベーションの相関と二律背反を講義する。

#### 12回：グループディスカッション「官僚制化した企業における働き方改革の提案」第1回

これまでの講義とグループワークをさらに理解を深めるために、グループごとに解決法を提案してもらおう。破壊的な新製品・新サービス・新技術に対して、貴社はどのように対応し、競争力を維持するか、その解決法をグループごとに議論し、提案する。

#### 13回：グループディスカッション「官僚制化した企業における働き方改革の提案」第2回

1週間の時間的余裕のあと、各グループは提案をクラス全体に発表し、仮想株主総会の場で様々な批判的質問やコメントに対応する。そのあとで各提案を仕上げ、最終レポートとして提出する。

#### 14回：まとめ

各グループ提案にフィードバックする。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

グループディスカッションの前提となる配付資料を理解するために、経営組織論の入門者は教科書の予復習を推奨します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループワーク貢献度：40% 中間レポート：30% 最終レポート割合：30%

### テキスト / Textbooks

羽田明浩・鈴木秀一・平鹿一久 ポストコロナのヘルスケア経営戦略 文真堂 2022 9784830951800 ○

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# キャリアデザイン1

## Career Design 1

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL569
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

- キャリア・デザインにおける心理学的側面の主要理論が理解できるようになること。
- 理論を用いた先行研究を調べ、研究の概要説明ができるようになること。
- 理論を自分自身のキャリア形成に活かし、キャリア・コンサルティングに適用する方法を理解できるようになること。

The goals this course are to

- Be able to understand the main theories of psychological aspects in career design.
- Be able to investigate previous theoretical research and explain the outline of the research.
- Be able to understand how to apply the theory to own career-development and how to apply it to career-consulting.

### 授業の内容 / Course Contents

キャリアに関する議論は、個人（心理学的な側面）、組織（人材開発的な側面）、そして社会（労働政策的な側面）といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。

この講義ではミクロに焦点を絞り、個人のキャリアの捉え方に関する理論を研究者ごとに学び、自分自身のキ

キャリアの内省やキャリア・コンサルティングへの適用を検討する。  
グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).

This course focuses on the micro, studying the individual's career theory by each academic researcher, and then reflecting into oneself and considering and considering the application to career-consulting.

Each group will investigate previous research and make a presentation in the lecture every time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：キャリア心理学概論
- 2回：スーパー 「ライフキャリア・レインボー」
- 3回：ホランド 「VPI 職業興味検査」
- 4回：シャイン 「キャリア・アンカー」
- 5回：シュロスバーグ 「トランジション」
- 6回：デシ&ライアン 「自己決定理論」
- 7回：バンデュラ 「自己効力感」
- 8回：克蘭ボルツ 「計画された偶発性」
- 9回：ホール 「プロティアン・キャリア」
- 10回：サビカス 「キャリア・アダプタビリティ」
- 11回：ハンセン 「統合的キャリア発達」
- 12回：リンダ・グラットン 「ライフ・シフト」
- 13回：キャリア・コンサルティングの理論と実践(1)
- 14回：キャリア・コンサルティングの理論と実践(2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:60% 授業姿勢（出席、発言、発表）:40%

### テキスト / Textbooks

渡辺三枝子 新版キャリアの心理学 ナカニシヤ出版 2018 9784779512940 -

### 参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# キャリアデザイン2

## Career Design 2

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL570

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS5500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

1. テーマや対象者に応じたキャリア研究の進め方が理解できるようになること。
2. 論文に示された研究成果を、自社や自分自身に適用するにはどうすべきかを検討できるようになること。

The goals this course are to

1. Be able to understand how to proceed with career research.
2. Be able to consider how to apply the research results shown on the paper to your company or yourself.

### 授業の内容 / Course Contents

キャリアに関する議論は、個人（心理学的な側面）、組織（人材開発的な側面）、そして社会（労働政策的な側面）といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。

さらに、学生やシニアといった発達段階や、非正規労働者や外国人労働者といった労働条件などの違いによって課題が異なることから、研究対象ごとの議論が行われる。

この講義では対象に焦点を絞り、どのような研究が実際に行われているのかを学び、キャリア研究の進め方と実務適用について検討する。

グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).

Furthermore, since the career issues differ depending on the developmental stage such as students or seniors, or the working conditions such as non-proper workers, foreign workers; the discussions will be held for each research target and subject.

This course focuses on the target and subject; understanding what kind of research is actually being conducted, and considering how to proceed with career research and practical application.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：キャリア研究概論
- 2 回：キャリア研究：大学生
- 3 回：キャリア研究：新入社員
- 4 回：キャリア研究：ミドル
- 5 回：キャリア研究：中間管理職
- 6 回：キャリア研究：経営者
- 7 回：キャリア研究：シニア
- 8 回：キャリア研究：女性
- 9 回：キャリア研究：非正規労働者
- 10 回：キャリア研究：外国人労働者
- 11 回：キャリア研究：技術職・専門職
- 12 回：キャリア研究：グローバル
- 13 回：キャリア研究：ワークライフ・バランス
- 14 回：キャリア研究：組織によるキャリア支援

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート：60% 授業姿勢（出席、発言、発表）：40%

### テキスト / Textbooks

必要に応じてレジュメを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# メディカル・ビジネス論

Medical Business

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL591  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

医療・メディカル産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in medical and medical industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

## 授業の内容 / Course Contents

\* MBA×医療・介護ビジネス

MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用

\* ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント

MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・介護ビジネスに応用

\* 戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成

PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図



\* 医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応

徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供

\* 実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー

シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行

医療・介護事業従事者のみならず、広く MBA でのスキルセットの活用方法を実践的に学びたい受講生も歓迎する。介護ビジネス論と併せての受講を推奨。

\* MBA x medical and nursing care business

Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.

\* Mission, vision, value x strategy x leadership x management

MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc. and apply them to medical and nursing care businesses.

\* Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation

We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.

\* Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture

By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.

\* Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.

We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

We welcome not only medical and nursing care workers, but also students who want to learn how to use the skill set of MBA in a wide range of practical ways.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：医療・メディカル産業全般（1）

2 回：医療・メディカル産業全般（2）

3 回：医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営（1）

4 回：医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営（2）

5 回：医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）

6 回：医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）

7 回：医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）

8 回：医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）

9 回：医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）

10 回：医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）

- 11回：国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（1）  
 12回：国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（2）  
 13回：医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（1）  
 14回：医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

医療・メディカル産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

- 田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクエージ 2012 9784799101643 -  
 田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクエージ 2013 9784799102367 -  
 田中道昭 『歯科医院経営改善プログラム』 クインテッセンス出版 2014 9784781204031 -  
 フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』  
 ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

- フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング3.0』 朝日新聞出版 2010 9784023308398  
 ロバート・スコープル/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経BP社 2014 9784822250478  
 真野俊樹 『医療が日本の主力商品となる』 ディスカヴァー21 2012 9784799312230  
 齋藤勝裕 『ニュースがよくわかる生命科学超入門』 ディスカヴァー21 2014 9784799314906  
 田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 介護ビジネス論

Nursing Care Business

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL596  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

介護産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in nursing care industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

## 授業の内容 / Course Contents

\* MBA×医療・介護ビジネス

MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用

\* ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント

MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・介護ビジネスに応用

\* 戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成

PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図

\* 医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応

徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供

実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー

シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行

この授業では、介護ビジネス論を広くシニア向けマーケティングや高齢者向けマーケティングとも捉え、このような視点からも授業展開していく。したがって、医療・介護従事者のみならず、広くこれらのマーケティングに興味をもつ学生の受講も推奨する。メディカルビジネス論と連携してのクラス展開が行われるため、同講座からの履修を強く推奨。

\* MBA x medical and nursing care business

Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.

\* Mission, vision, value x strategy x leadership x management

MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc. and apply them to medical and nursing care businesses.

\* Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation

We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.

\* Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture

By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.

Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.

We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

In this class, we will consider nursing care business theory as marketing for seniors and marketing for the elderly, and develop lessons from this perspective as well. Therefore, we encourage not only medical and nursing care workers, but also students who are interested in these marketing activities to participate.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：介護ビジネス産業全般（1）

2回：介護ビジネス産業全般（2）

3回：介護ビジネスにおけるミッション経営（1）

4回：介護ビジネスにおけるミッション経営（2）

5回：介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）

6回：介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）

7回：介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）

8回：介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）

9回：介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）

- 10回：介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）  
 11回：国内外における介護ビジネスの最先端事例（1）  
 12回：国内外における介護ビジネスの最先端事例（2）  
 13回：介護ビジネスにおける成長戦略（1）  
 14回：介護ビジネスにおける成長戦略（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

介護産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンケージ 2012 9784799101643 -  
 田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンケージ 2013 9784799102367 -  
 フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』  
 ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575 -  
 ミルトン・メイヤーロフ 『ケアの本質—生きることの意味』 ゆみる出版 1987 9784946509117 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング3.0』 朝日新聞出版 2010 9784023308398  
 ロバート・スコープル/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経BP社 2014 9784822250478  
 A.H.マズロー 『人間性の心理学』 産業能率大学出版部 1987 9784382049246  
 ティム・ブラウン 『デザイン思考が世界を変える』 早川書房 2014 9784150504076  
 田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ベンチャー企業論

Entrepreneurship

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL601  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、スタートアップ企業特有のマネジメント理論について学習する。優れた起業家たちの行動要素を用いて、アントレプレナーがスタートアップの成功確率を高める可能性がある論理を特定していく。

The course studies the creation and management of start-up businesses. Uses elements of entrepreneurial expertise to analyze the success of start-up businesses, identifying general logic that might increase the probability that an entrepreneurial venture will succeed.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義は、不確実で複雑なビジネス環境において、合理的な経営判断に効果的な対処法や、ダイナミックで複雑な行動領域における革新的なツールを探求していく。優れた起業家たちの科学的・実践的に証明された最新の知識を習得し、不確実性下での適切な意思決定と、主体的な行動力が発揮できるようになります。

The course will effectively address the need to exercise rational managerial judgment in an uncertain and complex business landscape, and explore innovative tools in dynamic and complex fields of action.

You will acquire up-to-date scientifically and practically proven knowledge on entrepreneurial expertise, gain sovereignty in decision-making and acting under uncertainty.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：1. イントロダクション
- 2回： 1-1. 事業機会の認識と不確実性
- 3回：2. マーケティング
- 4回： 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング① エフェクチュエーション
- 5回： 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング② 優れた起業家に共通する5つの原則
- 6回：3. ストラテジー
- 7回： 3-1. ベンチャー企業における経営戦略① 不確実性下での戦略思考
- 8回： 3-2. ベンチャー企業における経営戦略② 多様な戦略アプローチの適用
- 9回： 3-3. ベンチャー企業における経営戦略③ 理論と実務の統合
- 10回：4. 競争優位性
- 11回： 4-1. 伝統的な競争優位の源泉
- 12回： 4-2. 新たな競争優位の源泉(変化対応・再構築・エコシステム)とビジネスモデル
- 13回：5. リーガル
- 14回：6. ベンチャー企業論のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート  
割合 :40%

**テキスト/ Textbooks**

テキストは立教時間を通じて配布します。

**参考文献 / Readings**

参考文献は適時指示します。

**その他/ Others**

経営学基礎、ストラテジーやマーケティング関連科目を受講していることが望ましい。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# スタートアップ・ストラテジー 1

Strategy to Start Up 1

スタートアップ実践の基礎科目

高柳 寛樹 (TAKAYANAGI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL611

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この約 25 年で 4 社のスタートアップを立ち上げ、その内 2 社はエクイティファイナンスによる資金調達を伴うベンチャー企業の経営を経験した担当者が、これまで経験してきた事実をつぶさに分析し、スタートアップのビヘビアを細かく因数分解して丁寧に学生と共有する講義である。大学院科目のため履修者数によってはディスカッションを多く行う。

In the past 25 years, the faculty in charge has been actively involved in the start up of 4 companies, and among them, 2 companies are used in lectures in which the faculty in charge, who experienced the management of venture companies with equity financing, analyzes their factors of past experiences in fine detail, and we will share the details of start-up behavior by factorizing with students.

## 授業の内容 / Course Contents

一言でスタートアップと言ってもその「目的」によって形態はかなり異なる。しかし現在、その目的別の形態があまり因数分解されてこなかったため、間違った因子の掛け合わせにより、それに関わる人たちを不幸にする結果も多くある。担当者はその経験から、スタートアップ企業を構成する因子を「正しく」かけ合わせれ



ば、いわゆる「不確実性」を小さくできると主張している。出来る限り現実に即したエピソードを題材に、スタートアップを構成する因子一つ一つを「学際的」に確認、理解し、院生諸氏の修士論文や興味に資する講義を構築する。

キーワードは「起業」「起業戦略」「リーダーシップ」「アントレプレナーシップ」「ベンチャーファイナンス」「所有と執行の分離」「属人性」「テクノロジーと事業」「IT 前提経営®」「マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開」「投資家心理の理解」「株式会社の理解」「上場企業」「非上場企業」「企業会計と税務会計」「中小企業とベンチャー企業」「家族経営」「職人マネジメント」「技術経営」など。

スタートアップストラテジー（２）との関連における違いは、（１）が基礎的理解に重きを置くのに比べ、（２）では現役スタートアップ経営者のゲストスピーカーを招聘したエピソードと文脈の理解を重視するところにある。なお本講義の履修において（２）の履修は必須ではないが、併せて履修することが望ましい。大学院科目であるため講義・座学形式ではなくディスカッション形式を柱に講義展開をしていきたい。高い向学心と好奇心があれば事前の予備知識は不要である。

In a nutshell, the formation of a start-up is quite different depending on its "goal". However, at present, there are many times in which the people involved in it are unhappy via the multiplication of wrong factors because the formation of the goal is not so much factored into the start-up. The faculty in charge of this experience claims that this so-called "uncertainty" can be reduced if the factors that form the start-up's behavior are multiplied "correctly". In this course, we will identify and understand the "interdisciplinary" aspects of each of the factors that support start-up behaviors in-line with real life instances, and construct lectures that contribute to the students' academic paper. Some keywords are "flotation", "flotation strategy", "leadership", "entrepreneurship", "venture finance", "ownership and execution", "personal qualities", "technology and business", "Tech Driven Management®", "development from mass marketing to digital marketing", "understanding of investors", "understanding of joint-stock companies", "listed enterprise", "unlisted enterprise", "enterprise and tax accounting", "minor enterprises", "family-owned", "artisan management", "technology management", "entrepreneur and scammer", etc. The difference in relation to Strategy to Start Up (2) is that (1) emphasizes the confirmation and understanding of the factors, and (2) emphasizes the context and anecdotes with many guest speakers. In addition, taking course (2) is not required for registration of this lecture. Since this is a graduate school discipline, students who are not able to participate actively in classes are not recommended to take this course since it is not a lecture or lecture format but a discussion format. Also, in order to avoid absences due to distance, students are allowed to attend classes via tele-participation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクションと自己紹介（履修者同士の自己紹介）
- 2 回：テキスト輪読による最低限のコンセンサスの構築（但し、履修者数によって座学の変更することがある）
- 3 回：「スタートアップ」の再定義
- 4 回：equity finance と debt finance
- 5 回：所有と執行
- 6 回：時間と M&A
- 7 回：「IT 前提経営®」のスタートアップ文脈における正しい理解
- 8 回：プレーヤーとしてのアントレプレナーとプレーヤーとしての投資家
- 9 回：属人性（≡タレント）と株式会社
- 10 回：ビジネスモデルと調達方法の関係（ゲストスピーカー（1）招聘の可能性あり）

- 11 回：スタートアップの経営に求められる TECH リテラシーの正しい理解  
 12 回：国によって異なるスタートアップの背景（ゲストスピーカー（2）招聘の可能性あり）  
 13 回：マスマーケティング時代の終焉とデジタルマーケティングへの展開（消費社会論的視座を起点にして）  
 14 回：議論と総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、レポートとリアクションペーパーの執筆をお願いします。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レポート数回とリアクションペーパーなど:80% 授業への参加度:20% 最終レポート割合：:0%最終テスト割合：:0%

### テキスト / Textbooks

高柳寛樹 『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』 ハーベスト社 2022 9784863391147 ○

高柳寛樹 『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』 近代科学社 digital 2020 9784764960084 ○

高柳寛樹 『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』 ハーベスト社 2017 9784863390867 ○

### 参考文献 / Readings

講義内において適宜指示をする。

### その他 / Others

担当者プロフィール：

<https://hiroki.st/>

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## スタートアップ・ストラテジー 2

Strategy to Start Up 2

現役のスタートアップ経営者やベンチャーキャピタリストの話を聞く

高柳 寛樹 (TAKAYANAGI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL616

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この約 25 年で 4 社のスタートアップを立ち上げ、その内 2 社はエクイティファイナンスによる資金調達に伴うベンチャー企業の経営を経験した担当者が招聘したゲストスピーカーのスピーチと議論からのアプローチでスタートアップストラテジーを考える。

In the past 25 years, the faculty in charge been actively involved in 4 start-ups, and the faculty in charge, who has experienced the management of venture companies with equity financing of 2 of those 4, invited a guest speaker in order to consider start-up strategies according to the speech and discussion.

### 授業の内容 / Course Contents

主要な要素はスタートアップストラテジー（1）（科目コード：VL611）を参照されたい。

（1）との大きな違いは多数のスタートアップ経営者を招聘し、そのゲストスピーチによるアプローチから「スタートアップストラテジー」を理解することである。

ゲストスピーカーは「debt finance 実践者」「equity finance 実践者」「非上場企業創業者」「上場企業創業者」「ベンチャー企業経営者」「TECH 企業経営者」「100 年以上の同族経営実践者」「非営利団体経営者（社会起業

家)「職人マネジメント実践者」「新設学校法人創業者／学校法人のターンアラウンド実践者」「アドバイザー／コンサルティング企業実践者」「ベンチャーキャピタリスト」などの切り口で招聘する予定（このシラバス執筆時点では未定）。

（２）の履修にあたり（１）の履修は必須ではないが、基礎知識の習得やコンセンサスをつくるため、併せて履修することが望ましい。ゲストスピーチを聞いた後のゲストと担当者を交えた「議論」が大切な要素を締めるため、履修者各位には積極的に議論に参加して頂くことになる。

For main elements we want to refer to Strategy to Start Up 1. The big difference in (1) is that we invite a large number of start-up managers and understand the "start-up strategy" according to the guest's speech. "Debt finance practitioners", "equity finance practitioners", "founders of unlisted companies", "founders of listed companies", "speakers with previous experience in bankruptcy", "family-owned business practitioners", "non-profit organization managers", "artisan management practitioners", "musicians", "sports players", "new educational corporation practitioners", etc., guest speakers are planned to be invited in the future (undecided at the time of this syllabus writing). Taking course (1) is not required for (2), and, in principle, (1) and (2) are considered separate. Since the "discussion" will be important elements after hearing the guest speeches, students who are not able to actively participate in discussions are not encouraged to participate (because they are not able to be evaluated).

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと自己紹介（履修者同士の自己紹介）
- 2回：輪読と発表による「スタートアップ」再定義と最低限のコンセンサスの構築（履修者数によっては座学になる可能性もある）
- 3回：ゲストスピーカー（１）
- 4回：ゲストスピーカー（２）
- 5回：ゲストスピーカー（３）
- 6回：ゲストスピーカー（４）
- 7回：ゲストスピーカー（５）
- 8回：ゲストスピーカー（６）
- 9回：ゲストスピーカー（７）
- 10回：ゲストスピーカー（１）から（７）で行われた議論の整理と理解
- 11回：スタートアップストラテジーの文脈における「IT 前提経営®」の整理と理解
- 12回：学生発表（１）
- 13回：学生発表（２）
- 14回：総括

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

少なくとも毎回のゲストスピーチに対し、一定のルールを守ったレポート又はリアクションペーパーの提出をお願いします。加えて、履修者数によっては発表準備もお願いする可能性があります。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% ゲストスピーチに対するレポートやリアクションペーパーなど:80% 発表を含む授業への参加度:20% 最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

高柳寛樹 『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』 ハーベスト社 2022 9784863391147 ○

高柳寛樹 『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』 近代科学社 digital 2020 9784764960084 ○

高柳寛樹 『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』 ハーベスト社 2017 9784863390867 ○

**参考文献 / Readings**

適宜講義の中で指示する。

**その他 / Others**

担当者プロフィール：

<https://hiroki.st/>

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ベンチャー金融論

Venture Financing

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL621  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ベンチャー金融論では、ベンチャー企業や新規事業などのスタートアップに特徴的な資金調達ニーズに焦点を当て、起業家や財務マネージャーに必要となる基本的なベンチャーファイナンスのスキルを習得することを目的とする。

This course prepares students to be competent in the skills of entrepreneurs and corporate financial managers. The course focuses on the specific needs of entrepreneurial ventures, including start-up and development-phase financial and management problems.

## 授業の内容 / Course Contents

資金調達で成熟企業と異なる特性を有するベンチャー企業の資金調達戦略(スタートアップに関連する問題の範囲および複雑さをカバーしています)を取り上げ実務的に講義する。

This course aims to cover the finance of technological innovation, with a focus on valuation tools useful in the venture capital industry. These tools include the “venture capital method,” discounted cash flow analysis, and contingent-claims. Covers the range, scope, and complexity of issues involved in entrepreneurial startups.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：1.ベンチャー企業のリスク：不確実性と情報の非対称性  
 3回：2.ベンチャー企業の資金調達戦略  
 4回：2-1.段階的投資  
 5回：2-2.ベンチャーキャピタルメソッド(VC法)  
 6回：2-3.プレマナー・バリュエーション  
 7回：2-4.ベンチャー企業の資本政策（資本政策表：キャップテーブル）  
 8回：2-5.ベンチャー企業の資金調達で利用される種類株式  
 9回：2-6.投資契約と株主間契約  
 10回：2-7.新株予約権付社債  
 11回：2-8.ストック・オプション  
 12回：3.エグジット  
 13回：3-1.IPOとM&A(Buyout)  
 14回：4.ベンチャー金融論の総まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート  
割合：:40%

#### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

#### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

#### その他 / Others

ベンチャー企業論のほか、企業財務基礎などのファイナンス系科目を受講していることが望ましい。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# スモールビジネス 1

Small Business 1

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL631  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

イノベーションを起こすのはスタートアップ企業だけではなく、衰退産業といわれる 既存企業や家業にもイノベーションを起こす大きな機会がある。この授業はビジネス・デザインの新たな切り口と思考法を提供する。どんな組織であってもイノベーションを起こすためのベストプラクティスやフレームワークを修得する。

Innovation isn't just for startups. Established organizations and family business in declining industries have even greater opportunities to innovate. This course offers fresh insights and different thinking of business design.

Students will learn best practices and innovative frameworks to revitalize business.

## 授業の内容 / Course Contents

農業・旅館・豆腐製造といった衰退産業から実践的な事例研究をする。人材や資金が限られている衰退産業であっても、イノベーターはビジネスを成長させ事業変革をする道を見つけることを学ぶ。実際のイノベーション事例を理解するために、ゲストスピーカーを招聘する。

We review hands-on cases from the declining industries such as agriculture, ryokan or tofu manufacture.

Although human and financial resources are limited in the declining industries, excellent innovators will find the way to transform the business. We will invite some guest speakers to understand real-world innovation



challenges.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イノベーションの定義  
キーコンセプトの解説
- 2 回：事業承継の可能性
- 3 回：事業承継 デザイン経営 1
- 4 回：事業承継 デザイン経営 2
- 5 回：事業承継 農業の事業変革 1
- 6 回：事業承継 農業の事業変革 2
- 7 回：事業承継 豆腐製造業の経営危機と再生
- 8 回：事業承継 豆腐製造の店舗展開と地域貢献
- 9 回：事業承継 家具卸業の経営危機と事業変革
- 10 回：事業承継 家具卸業の海外製造・販売の展開
- 11 回：第三者事業承継 旅館の事業承継とインバウンド対応
- 12 回：第三者事業承継 旅館の事業展開・地域貢献
- 13 回：第三者事業承継 伝統産業の事業承継
- 14 回：第三者事業承継 伝統産業の海外販売

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指定した事例の研究（ネット検索等）が必要です。

## 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 授業後のリアクションペーパーの提出:50%

## テキスト / Textbooks

藻谷ゆかり 『衰退産業でも稼げます』 新潮社 2019 9784103526414 ○

## 参考文献 / Readings

## その他 / Others

毎回リアクションペーパーを提出するため、単位の取得には毎回の出席が必須です。

## 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## スモールビジネス 2

Small Business 2

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL636  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、地方の中小企業が大企業、または上場企業に成長する戦略について学ぶ。学生は組織が成長するプロセスを修得する。

This course offers a comprehensive view of growth strategies from a small local business to a large or listed company. Students will learn an entire process of growing organization.

### 授業の内容 / Course Contents

この事業では、合理的に考えられた戦略と実際の経営との間にある様々な困難を乗り越えるための洞察力や分析手段を学ぶ。そして企業が成長する段階で、どのように人材を活かしていくかを学ぶ。実際のイノベーション事例を理解するために、ゲストスピーカーを招聘する。

Students will learn the insights and tools to bridge the gap between rationally developed strategies and real-life implementation. Also, students will be offered insights on how to manage people during the growing process. We will invite some guest speakers to understand real-world innovation challenges.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：飽和産業での新規起業と成長戦略 1

- 2回：飽和産業での新規起業と成長戦略2  
 3回：社会的起業で上場を目指す1  
 4回：社会的起業で上場を目指す2  
 5回：ジャム製造から総合食品会社として上場へ1  
 6回：ジャム製造から総合食品会社として上場へ2  
 7回：産業廃棄物処理会社の事業変革1（校外での視察を予定）  
 8回：産業廃棄物処理会社の事業変革2（校外での視察を予定）  
 9回：印刷業のプラットフォーム起業1  
 10回：印刷業のプラットフォーム起業2  
 11回：印刷業のMBOとEXIT戦略1  
 12回：印刷業のMBOとEXIT戦略2  
 13回：地方製造業の多角化戦略1  
 14回：地方製造業の多角化戦略2

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定教科書以外に、事前にネット検索などで事例研究する必要があります。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 授業後のリアクションペーパーの提出:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

毎回リアクションペーパーの提出があるため、毎回の出席が必須です。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# B to Bマーケティング1

B to B Marketing 1

笠原 英一 (KASAHARA EIICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL641  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面で実施する予定  
校地： 池袋  
学期： 春学期1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、産業財メーカーで、マーケター、営業、企画、開発もしくは購買を担当している方はもちろんのこと、消費財メーカー、金融、サービス業等で、法人営業を担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、クラス・ディスカッション及びショートケースを展開することにより、理論の理解を深めながら、B2Bのプロフェッショナルマーケターとしての基本を確立する。

This lecture is considered to be able to offer a useful viewpoint not only for industrial goods manufacturers, who are in charge of marketing, sales, planning, development, or purchasing, but also for consumer goods manufacturers, finance, service industries, etc. who are in charge of corporate sales. The actual lectures will be expanded by developing class discussions and short cases, and establishing the basics of B to B professional marketers, while deepening our understanding of the theory.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、伝統的なマーケティング・マネジメントのフレームワークを踏まえながら、B to B マーケティングの本質である以下の二つの点にスポット当てて、B to B マーケティング独自の理論を組み立てていく。二つの点とは、買い手企業の組織購買行動と売り手と買い手企業間のインタラクティブな関係性である。この特徴

をベースにマーケティング戦略の総論である、ターゲット市場の評価・選択、それに対する提供効用の明確化、および各論であるマーケティング・ミックス、つまり、製品コンセプト開発、価格設定、チャネル設計と運用、プロモーション展開等の活動はどうあるべきかを理論的に論じる。

Based on the framework of traditional Marketing Management, this lecture will focus on the following two points, which are the essence of B to B marketing, and we will build a unique theory of B to B marketing. The two points are the buyer's organization purchasing behavior and the interactive relationship between the seller and the buyer. On the basis of this characteristic, the general remarks of the marketing strategy, the evaluation and selection of the target market, the clarification of the effect of the offer on it, and the marketing mix, which is the details, that is, the activity of the product concept development, the pricing, the channel design and the promotion, etc. will be theoretically discussed.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：産業財マーケティングの環境
  - ・ 産業財マーケティングの特徴
  - ・ 産業財市場～組織購買を基本とする顧客
  - ・ 組織購買行動論
- 2 回：産業財市場における関係性のマネジメント
  - ・ 産業財市場における顧客関係性管理
  - ・ バリューチェーンと関係性 (CRM と SCM)
- 3 回：事業機会の評価と資源配分
  - ・ 経営環境分析、経営資源分析
- 4 回：・ 事業領域 (製品・市場マトリックス)
  - ・ K S F (成功のカギ) と S B U (戦略事業単位)
  - ・ P P M (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント)
- 5 回：競争戦略
  - ・ 効用 vs. コスト
  - ・ 製品、ブランド、サービス、テクノロジー
  - ・ 適応化 vs. 標準化
  - ・ 延期モデル vs. 投機モデル
- 6 回：市場戦略総論 (S T P)
  - ・ セグメンテーション (市場の細分化)
  - ・ 標的市場と購買決定要因の抽出 (マクロ・ターゲティング)
  - ・ ポジショニング (提供する効用の明確化)
- 7 回：・ 製品開発 (製品コンセプト、効用曲線、デザインシンキング)
- 8 回：・ 価格付け (効用、競合、コスト)
- 9 回：・ チャネル (リーチ vs. リッチネス)
- 10 回：・ 販売促進 (広告、展示会、ウェブ)
- 11 回：営業戦略
  - ・ 顧客の選択 (マイクロ・ターゲティング)
  - ・ 関係性のマネジメント (信頼・コミットメント)
- 12 回：営業体制・営業活動評価
  - ・ バリューvs. ナンバー、プロセス vs. アウトプット)

13 回：グローバル市場における産業財マーケティング戦略

14 回：事業性評価

ビジネスモデルキャンバス、売上モデル、費用モデル

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業で実施するプレゼンテーション:30% 最終レポート割合：:30%最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

マイケル・ハット+トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳） 『産業財マーケティング・マネジメントー理論編』 白桃書房 2009 ○

### 参考文献 / Readings

マイケル・ハット+トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳） 『マーケティング・マネジメントーケース編』 白桃書房 2012

笠原英一 戦略的産業財マーケティング 東洋経済 2018

### その他 / Others

<http://www.aprim.jp/>

【双方向による授業割合】

100%

※20年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# B to Bマーケティング2

## B to B Marketing 2

笠原 英一 (KASAHARA EIICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL642  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、産業財メーカーで、マーケター、営業、企画、開発もしくは購買を担当している方はもちろんのこと、消費財メーカー、金融、サービス業等で、法人営業を担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、ケーススタディ（グループディスカッションおよびクラスディスカッション）とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、B2Bのプロフェッショナルマーケターとしての応用力を確立する。

This lecture is considered to be able to offer a useful viewpoint not only for industrial goods manufacturers, who are in charge of marketing, sales, planning, development, or purchasing, but also for consumer goods manufacturers, finance, service industries, etc. who are in charge of corporate sales. The actual lectures will be expanded by developing case studies (group discussions and class discussions) and exercises, and establishing the basics of B to B professional marketers, while deepening our understanding of the theory.

### 授業の内容 / Course Contents

本講義では、伝統的なマーケティング・マネジメントのフレームワークを踏まえながら、B to B マーケティングの本質である以下の二つの点にスポット当てて、B to B マーケティング独自の理論を組み立てていく。二つ

の点とは、買い手企業の組織購買行動と売り手と買い手企業間のインタラクティブな関係性である。この特徴をベースにマーケティング戦略の総論である、ターゲット市場の評価・選択、それに対する提供効用の明確化、および各論であるマーケティング・ミックス、つまり、製品コンセプト開発、価格設定、チャネル設計と運用、プロモーション展開等の活動はどうあるべきかを理論的に論じる。ケーススタディ及びエクササイズに力点を置く。

Based on the framework of traditional Marketing Management, this lecture will focus on the following two points, which are the essence of B to B marketing, and we will build a unique theory of B to B marketing. The two points are the buyer's organization purchasing behavior and the interactive relationship between the seller and the buyer. On the basis of this characteristic, the general remarks of the marketing strategy, the evaluation and selection of the target market, the clarification of the effect of the offer on it, and the marketing mix, which is the details, that is, the activity of the product concept development, the pricing, the channel design and the promotion, etc. will be theoretically discussed. Emphasis will be placed on case studies and exercises.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：・組織購買行動論に関するエクササイズ
  - 2 回：・産業財市場における顧客関係性管理に関するエクササイズ
  - 3 回：事業機会の評価と資源配分に関するエクササイズ
  - 4 回：・事業領域（製品・市場マトリックス）の検討に関するエクササイズ  
・ P P M（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）
  - 5 回：・競争戦略に関するエクササイズ
  - 6 回：S T Pに関するエクササイズ  
・セグメンテーション（市場の細分化）  
・標的市場と購買決定要因の抽出（マクロ・ターゲティング）  
・ポジショニング（提供する効用の明確化）
  - 7 回：・製品開発（製品コンセプト、効用曲線、デザインシンキング）に関するエクササイズ
  - 8 回：・価格付け（効用、競合、コスト）に関するエクササイズ
  - 9 回：・チャネル（リーチ vs. リッチネス）に関するエクササイズ
  - 10 回：・販売促進（広告、展示会、ウエブ）に関するエクササイズ
  - 11 回：営業戦略に関するエクササイズ  
・顧客の選択（マイクロ・ターゲティング）  
・関係性のマネジメント（信頼・コミットメント）
  - 12 回：営業体制・営業活動評価に関するエクササイズ  
・バリューvs. ナンバー、プロセス vs. アウトプット）
  - 13 回：グローバル市場における展開戦略に関するエクササイズ
  - 14 回：事業性評価に関するエクササイズ
- ビジネスモデルキャンバス、売上モデル、費用モデルに関するエクササイズ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				



**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業で実施するプレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :30%最終テスト割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

マイケル・ハット+トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳） 『産業財マーケティング・マネジメンターケース編』 白桃書房 2012 ○

**参考文献 / Readings**

+トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳） 『マーケティング・マネジメンター理論編』 白桃書房 2009

笠原英一 戦略的産業財マーケティング 東洋経済 2018

**その他 / Others**

<http://www.aprim.jp/>

【双方向による授業割合】

100%

※20年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 現代経済論 1

Contemporary Economics1

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL651  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5100  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、世界で顕現化している様々な経済事象を的確に理解し、ビジネスでの意思決定に役立てることができるよう、基礎的な経済理論を概説する。これまで経済学を学んでこなかった学生を想定し、極力平易な解説を行う。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。限られた時間で実効性の高い講義を行うため、教室での積極的な意見交換と、課題に対する成果物の提出も求められます。

This course provides basic economic theories which is necessary to understand the major economic events currently occurring in the world.

Considering various background of students, who are not familiar with economics, basic and essential theory are covered in this course.

In order to achieve efficient session within the limited time frame, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class. They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：マクロ経済学（1）経済学とはー成り立ちと歩み
- 2回：マクロ経済学（2）国民所得の概念とSNAー経済現象を理解するための必須知識
- 3回：マクロ経済学（3）国民所得モデルー経済現象を理解するための必須知識
- 4回：マクロ経済学（4）国民所得モデルー経済現象を理解するための必須知識
- 5回：マクロ経済学（5）総供給・総需要ーマクロモデル構築に向けて
- 6回：マクロ経済学（6）総供給・総需要ーマクロモデル構築に向けて
- 7回：マクロ経済学（7）労働と生産ーマクロモデル構築に向けて
- 8回：マクロ経済学（8）投資理論ーマクロモデル構築に向けて
- 9回：マクロ経済学（9）IS-LMモデルーマクロモデルの統合と完成
- 10回：マクロ経済学（10）IS-LMモデルーマクロモデルの統合と完成
- 11回：ミクロ経済学（1）消費と生産ーミクロモデルの概要と理解
- 12回：ミクロ経済学（2）市場均衡ミーミクロモデルの概要と理解
- 13回：ミクロ経済学（3）不完全競争ーミクロモデルのビジネス的応用
- 14回：ミクロ経済学（4）ゲーム理論ーミクロモデルのビジネス的応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス参加と議論への貢献度:50% 成果物の内容:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

中谷巖 入門マクロ経済学 第5版 日本評論社 2007 9784535555136

奥野正寛 ミクロ経済学 東京大学出版会 2008 9784000266550

中田真佐男 基礎から学ぶ 同額マクロ経済学に必要な数学 日本評論社 2019 9784535556775

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 現代経済論 2

Contemporary Economics2

理論から現実世界へ

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL652

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS5100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

### 授業の内容 / Course Contents

今日、世界で顕現化している様々な経済現象を例にとり、経済理論に即して分析し、評価するための機会を提供する。金融・財政政策の意義と評価、潜在的経済成長力の見方、ESG・SDGs の経済学的考察、決済のメカニズムと課題など、幅広いトピックスをカバーする。経済理論の応用という観点から、現象の分析と、ビジネスや社会への影響にフォーカスして講義を行う。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。限られた時間で実効性の高い講義を行い、学生の理解を深めるため、積極的な意見交換が期待されるほか、課題に対する成果物の提出も求められます。

Based on economic theory, this course provides the opportunity to analyze and evaluate the current economic

events occurring in the world. Sessions cover the evaluation of current financial and monetary policy, potential economic growth, economic study on ESG and SDGs, mechanism of settlement and payment. From the view point of applied economic theory, this course is designed to analyze the background of events, and evaluate the effect of these event to the society.

In order to achieve efficient session within the limited time frame and deepen understanding, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class.

They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：金融システムと中央銀行（1）ー経済社会を支えるインフラとしての金融システム
- 2 回：金融システムと中央銀行（2）ー経済社会を支えるインフラとしての金融システム
- 3 回：超低金利と金融政策（1）ー超低金利政策の効果と限界
- 4 回：超低金利と金融政策（2）ー超低金利政策の効果と限界
- 5 回：財政政策の今日的効果（1）ー財政政策の波及メカニズムと限界
- 6 回：財政政策の今日的効果（2）ー財政政策の波及メカニズムと限界
- 7 回：人口構造の変化と経済成長（1）ー経済成長の要因と政策の限界
- 8 回：人口構造の変化と経済成長（2）ー経済成長の要因と政策の限界
- 9 回：経済成長とグリーンエコノミー（1）ー巨大企業をめぐる光と影
- 10 回：経済成長とグリーンエコノミー（2）ー巨大企業をめぐる光と影
- 11 回：決済システム（1）ー決済の本質と決済手段の多様化
- 12 回：決済システム（2）ー決済の本質と決済手段の多様化
- 13 回：基軸通貨と国際間決済・国際取引（1）ー仕組みとリスクコントロール
- 14 回：基軸通貨と国際間決済・国際取引（2）ー仕組みとリスクコントロール

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス参加と議論への貢献度 (50%)、成果物の内容 (50%) :100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 中島真志、宿輪純一 決済システムのすべて 東洋経済新報社 2013 4492681337  
 白川方明 中央銀行 東洋経済新報社 2918 9784492654859  
 野口悠紀雄 戦後経済史 東洋経済新報社 2015 9784492371183  
 トマ・ピケティ 21世紀の資本 みすず書房 2015 9784622078760  
 石弘光 増税時代 筑摩書房 2012 9784480066930

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# アグリフードシステム論 1

Agri-food System 1

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL654
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および関連産業についてフードシステム学の視点から把握し理解する。そのため、品目ごとの農産物・食品流通の実態、さまざまな付加価値を生み出すフードチェーンおよび関連作業の実態、表示・認証制度等の意義について検証し議論する。

To understand agriculture and related industries from the perspective of food system approach, students will examine and discuss the actual status of agricultural production and food distribution systems by each item, the actual status of food chains and related operations that create various added values, and the labeling and certification systems.

## 授業の内容 / Course Contents

農業では、生産から消費にいたるバリューチェーンの構築が鍵となっている。また関連産業がさまざまに展開することで多くのビジネス機会を生み出している。一方でグローバル化を指向することがあるが、他方でローカル化が強みとなり高い価値を生み出している。本授業では、農業および関連産業の動向をフードシステムの視点でとらえ、課題や論点について検討し議論する。

In agriculture, building a value chain from farm to table is a key to success. In addition, many related food

industries is creating many business opportunities. On the one hand, they are oriented towards globalization, but on the other hand, they are oriented towards localization, which is their strength and creates high value. In this course, students will examine trends in agriculture and related industries from a food system perspective, and understand actual issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農産物市場の特性 (1)  
 2 回：農産物市場の特性 (2)  
 3 回：食品産業とフードシステム (1)  
 農業関連企業によるインテグレーション  
 4 回：食品産業とフードシステム (2)  
 食品産業の発展とフードチェーン  
 5 回：品質とは何か  
 品質属性，付加価値，付加的サービスなど  
 6 回：情報の不完全と表示 (1)  
 食品市場における情報の不完全  
 7 回：情報の不完全と表示 (2)  
 品質・安全をめぐるモラルハザード問題  
 8 回：食のリスク管理 (1)  
 9 回：食のリスク管理 (2)  
 10 回：表示制度と認証 (1)  
 11 回：表示制度と認証 (2)  
 12 回：地理的表示と地域ブランド (1)  
 13 回：地理的表示と地域ブランド (2)  
 14 回：地理的表示と地域ブランド (3)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので，確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# アグリフードシステム論 2

Agri-food System 2

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL655
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

農業は、各地域に特有の立地条件、気候条件の違いにより、多様な経営形態・生産技術が展開している。もっとも一般的な家族経営（自営業、家業として）は歴史的にそれなりの必然と有利点があったが、今日では課題が少なくない。本授業では、農業部門におけるそのような特殊性と一般性を検討するとともに、法人による農業参入の課題、食品産業との関係性構築について議論する。

In agriculture, a variety of farm management and production techniques are developed due to differences in location and climate conditions specific to each region. The most common type of family business (family business) has historically had certain advantages and disadvantages, but today it faces many challenges. In this course, we will examine the particularities and generalities of the agricultural sector, as well as discuss the challenges of corporations entering agriculture and building relationships with the food industry.

## 授業の内容 / Course Contents

農業経営は多様化が進んでいるものの、先進国ではひきつづき家族農業が主流である。その特質と課題は何かを考える。また、農業はさまざまな関連産業とも結びつきやすく多くのビジネス機会を提供しており、その特徴と可能性を考える。とくにローカル化に強みをもつ農業者、事業者が多いのがひきつづき特徴となっている。

が、近年では輸出志向の事業者が増えている。本授業では、企業等による農業参入の実態、経営・マーケティングの課題等について考察する。

Although agricultural management is diversifying, family farming continues to be the mainstream in developed countries. In addition, agriculture is often connected to various related industries and provides many business opportunities. So, we will consider its characteristics and possibilities. In the many of countries, there are many farmers and businesses that have a particular strength in localization, but in recent years there has been an increase in the number of export-oriented businesses. In this course, we will consider the actual state of companies' entry into agriculture, management and marketing issues, etc.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農業経営の特殊性 (1)  
家族経営と法人経営
- 2 回：農業経営の特殊性 (2)  
家族経営と法人経営
- 3 回：農業の外部経済効果 (1)  
農業における多面的機能論
- 4 回：農業の外部経済効果 (2)  
農業と地域活性化
- 5 回：農業の外部経済効果 (3)  
農業の6次産業化とは
- 6 回：異業種からの農業参入 (1)
- 7 回：異業種からの農業参入 (2)
- 8 回：異業種からの農業参入 (3)
- 9 回：農業と食品産業の連携 (1)
- 10 回：農業と食品産業の連携 (2)
- 11 回：農業と食品産業の連携 (3)
- 12 回：マーケティングと情報・表示制度 (1)  
生産情報の重要性
- 13 回：マーケティングと情報・表示制度 (2)  
ラベル表示に関する規制と活用
- 14 回：マーケティングと情報・表示制度 (3)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMSにて随時指示するので、確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

---

**テキスト / Textbooks**

授業時に随時指示する。

---

**参考文献 / Readings**

---

**注意事項**

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# イノベーション・マネジメント

Innovation Management

中村 二郎 (NAKAMURA JIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL666  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では、イノベーションマネジメントを体系的に理解し、イノベーションを経営戦略として活用する際に重要となる要素やツールとしての活用の仕方についての理解を深めていくことを目標とする。

In this lecture, the goal is to deepen the understanding of Innovation Management systematically, and to understand how to use it as an important element and tool in utilizing innovation as a management strategy.

## 授業の内容 / Course Contents

社会のニーズの多様化、市場の成熟化、経済のグローバル化などビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中で、企業の生き残りを左右するのはイノベーションを推進する力である。イノベーションにより事業を日々進化させ、変化する外部環境に対応させることが企業の持続的な成長・発展のためのキーマクションである。まさに、ダーウィンの言葉の通りに、“最も強いものでなく最も環境に適したものが生存機会を保障される。”そのものである。本講義では、イノベーションを経営戦略として活用する際に重要となる要素やツールとしての活用の仕方についての理解を深めていくことを狙いとする。

As the environment surrounding business such as diversification of society's needs, maturation of the market, and globalization of the economy changes greatly, this is about the ability to promote innovation that will determine

the survival of a company. It is key for sustainable growth and development of a company to evolve day to day business through innovation and to respond to changing external environments. Precisely as Darwin had said, “it is not the strongest, but the most suitable for the environment that is guaranteed to survive.” is what it is. In this lecture, the aim is to deepen our understanding of how to use this as an important element and tool in utilizing innovation as a management strategy.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義全体概論
- 2 回：経営戦略とイノベーション戦略
- 3 回：イノベーションとインベンション
- 4 回：イノベーションの種類と歴史
- 5 回：新規事業創出戦略
- 6 回：アライアンス戦略
- 7 回：オープンイノベーション戦略
- 8 回：ブルーオーシャン戦略
- 9 回：イノベーションと標準化戦略と知的財産戦略
- 10 回：中小企業におけるイノベーション戦略
- 11 回：ビジネス分野別イノベーション事例 2 -DX、IoT、人工知能 (AI)、ロボット、Web3.0-
- 12 回：ビジネス分野別イノベーション事例 1 -GX、SX、エネルギー、気候変動、フードテック-
- 13 回：課題発表
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% プレゼンテーション:30% レポート:30%

### テキスト / Textbooks

ハンドアウト配布

### 参考文献 / Readings

講義中に紹介

### その他 / Others

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッション

オンラインなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 企業分析 1

## Business Analysis 1

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL695  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

財務諸表の構造を理解し、経営分析の基礎を修得する。

Understand the structure of financial statements and master the basics of management analysis.

### 授業の内容 / Course Contents

企業がビジネスを展開するには、自社や同業他社の環境を正確に把握することが大切であり、企業分析が必要になる。

本講義の目標は、財務諸表数値を用いて企業の安定性や収益性の基礎を理解することにある。それを踏まえ、企業分析レポートの作成を最終目標とする。

In order to develop the business of the corporation, it is important to accurately understand the environment of the company, and other companies in the same field, and analysis of the corporation is required.

The goal of this lecture is to understand the liquidity and profitability of corporations using financial statement figures. The ultimate goal is to create a corporate analysis report for a corporation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：経営分析とは何か
- 3回：財務データの種類
- 4回：財務データの取得
- 5回：安全性分析（1）
- 6回：安全性分析（2）
- 7回：収益性分析（1）
- 8回：収益性分析（2）
- 9回：収益性分析（3）
- 10回：効率性分析
- 11回：生産性分析（1）
- 12回：生産性分析（2）
- 13回：定性要因の分析
- 14回：授業内試験

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講義は、会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため、講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。

講義内において、1～2回の発表を課すため、資料作りを授業時間外に行う必要がある。

各回の講義に臨むための準備の内容については、講義内で説明する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への参加状況:30% 最終レポート割合：:35%最終テスト割合：:35%

#### テキスト / Textbooks

青木茂男編著 『要説経営分析 六訂版』 森山書店 2022 9784839421946 -

テキスト必携。テキストを履修者で輪読し、ディスカッションを展開する予定である。

#### 参考文献 / Readings

その他、必要に応じて講義内で紹介する。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参することが望ましい。

#### その他 / Others

##### 【双方向による授業】

本科目は、テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 企業分析 2

## Business Analysis 2

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL696
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

企業を取り巻く諸情報を理解し、企業を分析するスキルを身につける。

Acquire the skills for understanding the various information surrounding the corporation and for analyzing the corporation.

### 授業の内容 / Course Contents

企業分析は財務諸表を中心とした定量情報と、非財務情報である定性情報の双方を用いて行われる。本講義の目標は、企業を取り巻く諸情報を用いながら、企業を多角的に分析する手法を身につけることにある。

また、本講義で取り上げた分析内容を「企業分析 1」で作成した企業分析レポートに加え、企業分析レポートの完成を目指す。

Corporate analysis is conducted using both quantitative information, mainly on financial statements, and qualitative information, which is non-financial information. The goal of this lecture is to acquire methods for analyzing corporations from various perspectives through using the various information that surrounds them.

Also, we will add the contents of the analysis taken up in this lecture to the corporate analysis report prepared in "Business Analysis 1", and we will aim for the completion of the corporate analysis report through the team

work.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション
- 2回：利益の質
- 3回：粉飾決算
- 4回：連結財務諸表と個別財務諸表
- 5回：セグメント情報を用いた分析（1）
- 6回：セグメント情報を用いた分析（2）
- 7回：四半期財務諸表を用いた分析（1）
- 8回：四半期財務諸表を用いた分析（2）
- 9回：企業の総合評価（1）
- 10回：企業の総合評価（2）
- 11回：企業価値評価（1）
- 12回：企業価値評価（2）
- 13回：授業内試験
- 14回：授業のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

本講義は、会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため、講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。

講義内において、1～2回の発表を課すため、資料作りを授業時間外に行う必要がある。

各回の講義に臨むための準備の内容については、講義内で説明する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内への参加割合：30% 最終レポート割合：35% 最終テスト割合：35%

**テキスト / Textbooks**

青木茂男編著 『要説経営分析 六訂版』 森山書店 2022 9784839421946 -

テキスト必携。テキストを履修者で輪読し、ディスカッションを展開する予定である。

**参考文献 / Readings**

その他、必要に応じて講義内で紹介する。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PCを持参することが望ましい。

**その他 / Others**

本講義の内容は、「企業分析1」から連続している。そのため、「企業分析1」を履修していることが望ましい。「企業分析1」を履修せず、当科目のみを履修する場合は、財務諸表の構造について基礎的な知識を有していることが必須となる。

**【双方向による授業】**

本科目は、テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 不動産ビジネス論 1

Real Estate Business study 1

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL701  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

一見難解に見える不動産ファンドの仕組みをわかりやすくポイント別に学習する。

「投資家」「不動産」「テナント」「資産運用会社」という4つの主体ごとに「不動産ファンド」の構造にどう関与しているかをみる。

This course provides an easy-to-understand, point-by-point study of the seemingly esoteric structure of real estate funds.

We will look at how each of the four entities - investors, real estate, tenants, and asset management companies - is involved in the structure of a "real estate fund."

## 授業の内容 / Course Contents

不動産ファンドは私たちの日常生活の中に想像以上に組み込まれており、預金や年金、保険料などが不動産ファンドを通じて不動産に投資されています。職場のオフィスビル、生活している賃貸マンション、買い物に行く大型スーパーが不動産ファンドにより投資されていたりするのです。また、不動産ファンドビジネスは世界規模のビジネスです。不動産ビジネスは、不動産分野に限らず、さまざまな分野のビジネスと関わっています。社会に役立つ知識として不動産ファンドビジネスを知ることは大きな意義があります。

不動産ビジネス論は1と2があります。続けて受講することで不動産ビジネスへの理解が深まりますが、1は今回不動産ファンドに特化した内容とします。1だけを履修しても基本的な理解が十分可能です。

Real estate funds are embedded in our daily lives in more ways than we can imagine. Deposits, pensions, insurance premiums, etc. are invested in real estate through real estate funds. The office building where you work, the rental apartment where you live, and the large supermarket where you go shopping are all invested in real estate funds. The real estate fund business is a global business. The real estate business is not limited to the real estate field, but is related to various other fields of business. It is very significant to know about the real estate fund business as useful knowledge for society. Real Estate Business Theory consists of 1 and 2 courses. Although taking both courses in succession will deepen your understanding of real estate funds, a basic understanding of real estate funds can be gained by taking only 1 course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：自己紹介(バックグラウンド・受講動機・修士論文イメージなど)、授業の進め方、輪読担当決め

2回：不動産ファンドの「仕組み」を理解する

実物不動産投資との違い、5つの仕組み、二重課税の回避、倒産隔離・

3回：不動産ファンドの各種スキームを詳しく理解しよう

J-REIT, 私募ファンドの種類、不特法ファンド・

4回：不動産ファンドの関係者を知る

投資家、AM、レンダー、売主買主、信託受託者、各種専門家・

5回：不動産ファンドの法律

金商法、資産流動化法、投信法、不特法・

6回：不動産ファンドの規模

投資規模と出資規模

7回：不動産ファンドの対象不動産別の特徴

オフィスビル、住宅、商業施設、物流施設、ホテル、ヘルスケア施設・

8回：私募ファンドの組成・運用プロセス

9回：マーケティング(顧客ニーズの把握)

10回：ソーシングの各プロセスにおける確認事項

Valuation(価格算定式、収入、支出、将来キャッシュフロー・)

11回：デューデリジェンス

12回：ストラクチャリング

二重課税の回避、倒産隔離、オフバランス、ローンの検討プロセス、LTV、調達金利、ウォーターフォール・

13回：ドキュメンテーション

14回：クロージング(完成・販売)

匿名組合出資の手続き、匿名組合出資のリスク、貸付実行前提条件、各種精算手続き、登記手続き・

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回の予習が必要です。その週が輪読担当であれば、そのプレゼン準備も必要です。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表:60% 授業中の発言、貢献:40%

**テキスト / Textbooks**

脇本和也 最新不動産ファンドがよくわかる本（第3版） 秀和システム 2021 9784798059181 ○

脇本和也 不動産ファンドの教科書 秀和システム 2014 9784798041711 ○

**参考文献 / Readings**

授業中に適宜紹介する

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 不動産ビジネス論2

Real Estate Business study 2

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL703  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

不動産ビジネスの本質に迫るには、不動産とは何かを現実に即した視点から多面的に理解することがまず重要です。授業では、ファイナンスという切り口から不動産の資産価値にアプローチし、不動産を利用したファイナンスに関するさまざまな特徴や、担保価値を把握する手法などについて学習します。

In order to approach the essence of the real estate business, it is first important to understand what real estate is from a multifaceted, reality-based perspective. In the class, students will approach the asset value of real estate from the angle of finance, and learn about various characteristics related to finance using real estate and methods for understanding collateral values.

## 授業の内容 / Course Contents

不動産と金融は切っても切れない関係にあります。個人の住宅ローンも、企業の融資においても、担保には不動産が用いられるのが一般的です。経済活動や社会生活において、不動産はその物理的な機能だけでなく、資金の流れにおいても重要な役割を果たしています。不動産の本質を理解するには、ファイナンスという切り口からみるのが意外な早道で、大変わかりやすいと思います。

特に近年プレゼンスを大きく上げてきた不動産ファンドの理解にもこの講義は有効です

なぜなら、机上の空論のような抽象的な理解ではなく、現実に即した理解が得られるからです。なお、不動産ビジネス論の1と2は独立しており、2だけの受講も可能です。

Real estate and finance are inextricably linked. Real estate is commonly used as collateral for both personal mortgages and corporate loans. In economic activity and social life, real estate plays an important role not only in its physical function but also in the flow of funds.

To understand the nature of this real estate, it is very easy to look at it from the angle of finance. This is because it provides a realistic understanding, rather than an abstract, theoretical understanding.

This lecture is especially useful for understanding real estate funds, which have greatly increased their presence in recent years. Note that Real Estate Business Theory 1 and 2 are independent, and it is possible to take only one of them.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：授業概要の説明、輪読担当決め、自己紹介（バックグラウンド、受講動機、修論イメージなど）

以下のテキスト A は下のテキスト欄 1 金融マンのための不動産ファイナンス講座、

テキスト B は 2 不動産証券化と J-REIT がわかる本

2回：1 不動産の性質を理解しよう（テキスト A）

3回：(テキスト A)

2.1～2.2 リスク・リターン

2.3～2.4 キャップレート・割引率、不動産ファイナンスの種類

4回：(テキスト A)

2.5～2.6 キャッシュフロー、投資不動産の維持管理

2.7～2.8 オフバランス取引、流動化・証券化

5回：(テキスト A)

3.1～3.2 資金使途、レバレッジ

3.3～3.4 ローン返済条件が与える影響、担保・保証

6回：(テキスト A)

3.5～3.6 ノンリコースローン、シンジケートローン

7回：この週よりテキスト変更

不動産証券化全般の理解（テキスト B の 1 章）

8回：不動産証券化の仕組みとうまみ（テキスト B の 2 章）

9回：不動産投資の判断指標を理解する（テキスト B の 9 章）

NOI と NCF、DCF 法、キャップレート、IRR、LTV、DSCR、イールドギャップ

10回：不動産証券化のケーススタディ（テキスト B の 10 章）

11回：(テキスト A) に戻ります

4.1 不動産のエクイティの種類

4.2～4.3 SPC の基本、信託の基本

12回：(テキスト A)

4.4～4.5 匿名組合出資の基本、特定目的会社の基本

4.6～4.7 REIT（不動産投資信託）の基本、不動産特定共同事業法

13回：(テキスト A)

5 不動産の担保価値



14回：(テキストA)

事例演習

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

教科書を輪読します。よって、毎週予習が必要です。また、輪読の担当の週はそのプレゼン準備も必要となります。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表:60% 授業中の発言、貢献:40%

**テキスト / Textbooks**

山下章太 金融マンのための不動産ファイナンス講座 中央経済者 2021 97845024058155 ○

三菱 UFJ 信託銀行 図解不動産証券化と J-REIT がわかる本 東洋経済新報社 2013 9784492093115 ○

**参考文献 / Readings**

授業中に適宜紹介する

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 企業論 1

## Modern Corporation 1

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL711  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

経済活動の重要な主体である企業とは何か、役割、組織、意思決定の仕組み、社会との関係など企業経営のあり方について理解を深めることを目指します。

This class aims to deepen students' understanding of what a corporation is as an important entity in economic activities, its role, organization, decision-making structure, and relationship with society, as well as the nature of corporate management.

### 授業の内容 / Course Contents

現代社会において重要な存在と位置づけられる企業とは何か、役割、組織、意思決定の仕組み、社会との関係、コーポレートガバナンスなどを理解するとともに、外部環境の変化と企業の役割の変容にともなう様々な経営課題を通してサステナブルな企業経営のあり方を考察します。合わせて、ケーススタディや授業内でのディスカッションを通じて創造的な思考力・判断力を養います。

Students will understand what a corporation is, its role, organization, decision-making structure, relationship with society, corporate governance, etc., which are important in today's society, and will examine sustainable corporate management through various management issues that arise from changes in the external environment

and the changing role of the corporation. The course also includes case studies and in-class lectures. Students will also develop creative thinking and decision-making skills through case studies and in-class discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：企業とは、会社（株式会社）とは何か
- 3回：企業経営とは何か
- 4回：企業経営と製品・サービス
- 5回：株式会社制度の理論と現実
- 6回：企業の登場と新しい企業観
- 7回：企業の組織と管理
- 8回：日本的経営の原理・構造と今日的課題
- 9回：ゲストスピーカーによる特別講義
- 10回：ゲストスピーカーによる特別講義（ディスカッション）
- 11回：DX（デジタルトランスフォーメーション）と企業経営
- 12回：経営戦略とマネジメント
- 13回：情報開示と企業価値向上
- 14回：総合的議論とまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（メディアの種類を問わず）新聞、TV、ネット・SNSなど企業関連情報に対して、普段から情報感度を高めて授業に臨んでください。基本的には、復習に重点をおいた学習を心がけてください。また、企業活動のトピックスやビジネスモデルをテーマにディスカッションする場合は事前学習（予習）が必要となります（授業内で指示します）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への貢献（ディスカッション等）：40% ゲストスピーカー特別講義レポート：20% 最終レポート：40%

### テキスト / Textbooks

授業はスライドテキストを中心にを行います。

### 参考文献 / Readings

三戸浩、池内秀己、勝部伸夫 『企業論（第4版）』 有斐閣アルマ 2019 9784641221192

井原久光 『テキスト経営学[第3版]－基礎から最新の理論まで－』 ミネルヴァ書房 2021 9784623051298

入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019 9784478109571

谷本寛治 『企業と社会 サステナビリティ時代の経営学』 中央経済社 2023 9784502331015

片山郁夫 『わが国損害保険産業の発展史－大衆保険にみる競争・協調のダイナミズムとサステナビリティ』

ー』 デザインエッグ 2022 9784815032951

上記参考書籍はいずれも立教大学図書館の蔵書です。

そのほか、講義内で随時紹介します。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に参加する際は PC 持参が必須です。

### **その他/ Others**

「企業論 1」「企業論 2」を併せて履修することが望ましい。

「企業論 1」だけの履修も可。ゲストスピーカーの日程は暫定。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 企業論 2

### Modern Corporation 2

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL713  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

#### 授業の目標 / Course Objectives

経済活動の重要な主体である企業の役割、社会との関係などを理解したうえで、経営環境の変化にともなう経営諸課題に対する企業活動について理解を深めることを目指します。

This course aims to deepen students' understanding of the role of companies as important economic actors and their relationship with society, as well as to deepen their understanding of corporate activities in response to various management issues arising from changes in the business environment.

#### 授業の内容 / Course Contents

ゴーイングコンサーン（業績を上げ利益を出し続ける存在）を目指すための企業経営、外部環境変化への適応はいかなるものかを考察します。現代社会の中で企業の果たすべき役割は大きく変化しており、サステナブルな企業経営のあり方が問われています。企業論 2 では企業経営のサステナビリティに着目して学習します。合わせて、ケーススタディや授業内でのディスカッションを通じて創造的な思考力・判断力を養います。

We will examine what kind of corporate management and adaptation to changes in the external environment are necessary to become a going concern (an entity that continues to perform well and generate profits). The role of companies in today's society is changing dramatically, and sustainable corporate management is being

questioned. In Corporate Theory 2, students will focus on the sustainability of corporate management. In addition, students will develop creative thinking and decision-making skills through case studies and in-class discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション／経営理念 (PMVV) と経営戦略 (1)
- 2 回：経営理念 (PMVV) と経営戦略 (2)
- 3 回：グローバル経済の潮流と変化
- 4 回：企業社会のリコンストラクション
- 5 回：企業経営の最新動向 (ガバナンス：Governance)
- 6 回：企業経営の最新動向 (ガバナンス：Governance)
- 7 回：ゲストスピーカーによる特別講義
- 8 回：ゲストスピーカーによる特別講義 (ディスカッション)
- 9 回：企業経営の最新動向 (環境：Environment)
- 10 回：企業経営の最新動向 (環境：Environment)
- 11 回：企業経営の最新動向 (社会：Social)
- 12 回：企業経営の最新動向 (社会：Social)
- 13 回：価値共創とイノベーション
- 14 回：総合的議論とまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

(メディアの種類を問わず) 新聞、TV、ネット・SNS など企業関連情報に対して、普段から情報感度を高めて授業に臨んでください。基本的には、復習に重点をおいた学習を心がけてください。また、企業活動のトピックスやビジネスモデルをテーマにディスカッションする場合は事前学習 (予習) が必要となります (授業内で指示します)。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への貢献 (ディスカッション等) :40% ゲストスピーカー特別講義レポート:20% 最終レポート:40%

### テキスト / Textbooks

授業はハンドアウトテキストとスライドを中心に行います。

### 参考文献 / Readings

- 三戸浩、池内秀己、勝部伸夫 『企業論 (第4版)』 有斐閣アルマ 2019 9784641221192  
 井原久光 『テキスト経営学[第3版]—基礎から最新の理論まで—』 ミネルヴァ書房 2021  
 9784623051298  
 入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019 9784478109571  
 谷本寛治 『企業と社会 サステナビリティ時代の経営学』 中央経済社 2023 9784502331015

片山郁夫 『わが国損害保険産業の発展史－大衆保険にみる競争・協調のダイナミズムとサステナビリティ－』 デザインエッグ 2022 9784815032951

上記参考書籍はいずれも立教大学図書館の蔵書です。

そのほか、講義内で随時紹介します。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に参加する際は PC 持参が必須です。

### **その他/ Others**

「企業論 1」「企業論 2」を併せて履修することが望ましい。

「企業論 2」だけの履修も可。ゲストスピーカーの日程は暫定。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 流通システム論 1

Sales and Distribution System 1

高岡 美佳 (TAKAOKA MIKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL715  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

流通システムは、これまで数々のイノベーション（革新）を経て現在にいたっている。本授業では、事例の紹介などを交えながら、その革新の実態を考察するとともに新たな芽を探求する。

Distribution systems have been, at present, through various innovations up until now. In this class, while cases are introduced, the actual conditions of innovations are examined, and new opportunities are searched for.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、生産から消費にいたる流通プロセスは多様化している。そこに至るまでにどんな革新があったのか。その革新のキーとなった要素は何であったのか。そこに関わった企業家のモチベーションは何か。各国における流通イノベーションの歴史と進化の実態について、企業事例などを紹介しつつ、今後を探る。

Today, distribution processes, from production to consumption, are diversified. What kind of innovation was there before that? What was the key element of this innovation? What is the motivation of the entrepreneurs involved? With regards to the actual conditions of history and evolution of distribution innovations in each country, the future will be investigated, while business cases are introduced.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1 回：流通の社会的役割
- 2 回：流通の機能
- 3 回：流通革命の背景
- 4 回：メーカー主導の流通システム
- 5 回：「流通革命」とチェーンストアの役割
- 6 回：フランチャイズシステム理論
- 7 回：プライベート・ブランド（PB）の実際
- 8 回：サプライチェーン・マネジメント（SCM）の発展 1
- 9 回：サプライチェーン・マネジメント（SCM）の発展 2
- 10 回：サプライチェーン・マネジメント（SCM）の発展 3
- 11 回：「情報」と流通
- 12 回：取引コストと企業の境界
- 13 回：ショッピングセンター時代の本質
- 14 回：流通業と環境・CSR

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

講義ごとにレジュメ，資料を配布する。

#### 参考文献 / Readings

伊藤元重編 『日本の産業システム6 新流通産業』 NTT 出版 2005 4757121059

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 流通システム論 2

Sales and Distribution System 2

高岡 美佳 (TAKAOKA MIKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL717  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

時代の変遷の中でイノベーター達は、様々な小売業態（ビジネスモデル）を生み出した。本授業では、これらイノベーションの実態と今後の新たな可能性について探求する。

With the changing of the times, innovators have produced various retail business models. In this class, the actual condition of these innovations and new future possibilities are investigated.

### 授業の内容 / Course Contents

これまで先進諸国では、その時代に特徴的な小売業態が流通業をリードし、流通システムを変えてきた。どんな業態がいつ、なぜ登場したのか。誰が革新を担ったのか。そして、その革新性の本質は何であったのか。これらの点を、日本と諸外国の代表企業をケースに取り上げ、明らかにしていきたい。

Up until now, in advanced countries, the characteristic retail type has led the distribution industry, and distribution systems have changed. What kind of business conditions and when and why did they appear? Who took charge of the innovation? And, what was the essence of the innovation? We would like to take up and clarify these points in cases of representative corporations of Japan and overseas countries.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：小売業種・業態の登場とその背景
- 2 回：小売業態 1: 百貨店
- 3 回：小売業態 2: スーパーマーケット (SM)
- 4 回：小売業態 3: 総合スーパー (GMS)
- 5 回：小売業態 4: コンビニエンスストア (CVS)
- 6 回：小売業態 5: ショッピングセンター
- 7 回：小売業態 6: 専門店
- 8 回：チェーン小売業の諸形態
- 9 回：近年の小売ビジネスモデル
- 10 回：SPA とサプライチェーンマネジメント
- 11 回：インターネットの発達と e コマース
- 12 回：小売業とカスタマイゼーション
- 13 回：小売フォーマットの本質と新たな可能性
- 14 回：小売業のグローバル化戦略

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

講義ごとにレジュメ, 資料を配布します

#### 参考文献 / Readings

田村正紀 『業態の盛衰 現代流通の激流』 千倉書房 2008 4805109181

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ホテルマネジメント 1

## Hotel Management 1

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL719  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル経営、運営における主要なテーマ、課題について理解する。
- \* ホテル経営会社の企業、ブランド戦略について学ぶ。
- \* ビジネス上の課題について、仮説思考を用い、解決策を探り、提案力を身につける訓練をする。
- \* Understand major topics of hotel management and operations.
- \* Study hotel companies' corporate and branding strategies.
- \* Study business approaches using assumptions, problem solving, and making proposals.

### 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテルの主要テーマ（セールス&マーケティング、レベニューマネジメント、宿泊、レストラン、バンケット、人材開発、管理会計、ビジネスプランなど）について学ぶ。
- \* ゲストスピーカーや課外実習により現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る。
- \* 予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。
- \* Explain about the hotel business subjects such as sales& marketing, revenue, management, rooms, restaurants,

events, human resources management, finance, business plan.

\* Invite industry experts as guest lecturers and visit hotels order to share their real business cases.

\* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ホテルビジネスとは
- 2 回：ホテルストラクチャー
- 3 回：ブランディング、セールス、マーケティング、レベニューマネジメント
- 4 回：ブランディング、セールス、マーケティング、レベニューマネジメント
- 5 回：ホテル管理会計・ビジネスプラン
- 6 回：ホテル管理会計・ビジネスプラン
- 7 回：デジタルマーケティング
- 8 回：デジタルマーケティング
- 9 回：客室マネジメント
- 10 回：客室マネジメント
- 11 回：料飲マネジメント
- 12 回：料飲マネジメント
- 13 回：ホテルの人材戦略
- 14 回：ホテルの人材戦略

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30% 最終レポート割合 :35%

### テキスト / Textbooks

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016

9784502181412 ○

このテキストはホテルビジネスの基本が書いてあり、予習課題でのリーディングが目的です。ホテルビジネスにすでに携わって、基本がわかる方は不要かもしれません。

### 参考文献 / Readings

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか  
白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\* 授業ではホテルの収益計算を行うので、エクセルの基本的な活用ができることが必要。

### **その他/ Others**

\* ホテルマネジメント 1 と 2 (VL719&VL721) は内容について関係するので両方をセットで履修することが望ましい。

\* ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、特に予習課題（「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」のリーディングを含む）をしっかりとすることで事前に該当テーマの基礎を理解すること。

\* 各テーマのエキスパートであるゲストスピーカーを招くことにより、現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る。

\* 授業では双方向での議論をおこなう。

\* ホテルビジネスの用語について参照するサイト：<https://www.>

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ホテルマネジメント 2

## Hotel Management 2

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL721  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル経営、運営における主要なテーマ、課題について理解する。
- \* ホテル経営会社の企業、ブランド戦略について学ぶ。
- \* ビジネス上の課題について、仮説思考を用い、解決策を探り、提案力をつける訓練をする。
- \* Understand major topics of hotel management and operations.
- \* Study hotel companies' corporate and branding strategies.
- \* Study business approaches using assumptions, problem solving, and making proposals.

### 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテルの主要テーマ（セールス&マーケティング、レベニューマネジメント、宿泊、レストラン、バンケット、人材開発、ファイナンス、ビジネスプランなど）について学ぶ。
- \* ゲストスピーカーや課外実習により現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る。
- \* 予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。

- \* Explain about the hotel business subjects such as sales& marketing, revenue, management, rooms, restaurants, events, human resources management, finance, business plan.
- \* Invite industry experts as guest lecturers and visit hotels order to share their real business cases.
- \* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ホテル運営・経営会社について
- 2回：ホテル運営・経営会社について
- 3回：国内系ホテル会社（1）のブランド・経営戦略
- 4回：国内系ホテル会社（1）のブランド・経営戦略
- 5回：国内系ホテル会社（2）のブランド・経営戦略
- 6回：国内系ホテル会社（2）のブランド・経営戦略
- 7回：国内系ホテル会社（3）のブランド・経営戦略
- 8回：国内系ホテル会社（3）のブランド・経営戦略
- 9回：ホテルケーススタディー
- 10回：ホテルケーススタディー
- 11回：旅館の経営について
- 12回：旅館の経営について
- 13回：最終課題の発表
- 14回：最終課題の発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30% 最終レポート割合：35%

### テキスト / Textbooks

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016  
9784502181412 ○

このテキストはホテルビジネスの基本を理解する目的で、予習課題のリーディングとして利用する。ホテルビジネスに携わっている人にとっては不要の可能性もあるので、その場合はご相談ください。

### 参考文献 / Readings

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか



白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\* 授業ではホテルの収益計算を行うので、エクセルの基本的な活用ができることが必要。

### **その他/ Others**

\* ホテルマネジメント 1 と 2 (VL719&VL721) は内容について関係するので両方をセットで履修することが望ましい。

\* ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、特に予習課題（テキスト「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」のリーディングを含む) をしっかりとすることで事前に該当テーマの基礎を身につけること。

\* 各テーマのエキスパートであるゲストスピーカーを招くことにより、現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る

\* 授業では双方向での議論をおこなう。

\* ホテルビジネスの用語について参照するサイト：<https://>

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ホテルアセットマネジメント 1

## Hotel Asset Management 1

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL723  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ホテルアセットマネジメントの概念、業務領域の基本を理解し、その役割や意義を学ぶ。  
ホテルオペレーター、デベロッパー、投資家の関係を踏まえ、ホテル経営のフレームワークを実践できる素養を身につける。

Understand the concepts of hotel asset management and the basics of business fields, and learn its role and significance.

Based on the relationship between hotel operators, developers, and investors, acquire the ability to practice the framework of hotel management.

### 授業の内容 / Course Contents

ホテルアセットマネジメントの導入環境について学ぶ。  
ホテルアセットマネジメント業務領域を理解する。  
ホテルアセットマネジメントを実行するためのフレームワークを事例研究等を通じて理解する。  
ゲストスピーカーを招聘する場合がある。

Learn about the hotel asset management implementation environment.

Understand the hotel asset management business fields.

Understand the framework for implementing hotel asset management through case studies.

Guest speakers may be invited.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション、ホテルアセットマネジメントについて

2回：ホテル事業における所有・経営・運営の分離

3回：ホテルマネジメントストラクチャー

4回：マネジメントコントラクト契約について

5回：事例研究 1

6回：事例研究 1 の分析と考察

7回：事例研究 2

8回：事例研究 2 の分析と考察

9回：事例研究 3

10回：事例研究 3 の分析と考察

11回：ホテルマネジメントストラクチャーの総括

12回：事例研究 4 (リノベーションとリブランディング)

13回：ホテルアセットマネージャーの位置付けと役割

14回：ホテルの投資価値評価

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784561266860

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ホテルアセットマネジメント 2

## Hotel Asset Management 2

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL725  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

ホテルアセットマネジメントの概念、業務領域の基本を理解し、その役割や意義を学ぶ。  
ホテルオペレーター、デベロッパー、投資家の関係を踏まえ、ホテル経営のフレームワークを実践できる素養を身につける。

Understand the concepts of hotel asset management and the basics of business fields, and learn its role and significance.

Based on the relationship between hotel operators, developers, and investors, acquire the ability to practice the framework of hotel management.

### 授業の内容 / Course Contents

ホテルアセットマネジメントの導入環境について学ぶ。  
ホテルアセットマネジメント業務領域を理解する。  
ホテルアセットマネジメントを実行するためのフレームワークを事例研究等を通じて理解する。  
ゲストスピーカーを招聘する場合がある。

Learn about the hotel asset management implementation environment.

Understand the hotel asset management business fields.

Understand the framework for implementing hotel asset management through case studies.

Guest speakers may be invited.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、ホテルアセットをめぐるケーススタディ
- 2回：アセットマネジメントサイクル（アセットマネジメントプラン）について
- 3回：アクイジション・ディスポジションについて
- 4回：事例研究 1
- 5回：事例研究 1 の振り返り（分析と考察）
- 6回：不動産の維持管理と資本的支出について
- 7回：事例研究 2
- 8回：事例研究 2 の分析と考察
- 9回：事例研究 3
- 10回：事例研究 3 の分析と考察
- 11回：事例研究 4（街づくりとしてのホスピタリティ・アセット）
- 12回：事例研究 4 の分析と考察
- 13回：資産価値向上・プロパティマネジメントについて
- 14回：「ホテルアセットマネジメント」についての議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784561266860

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 新商品開発 1

## Product Development 1

柴田 徹 (SHIBATA TORU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL735  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本『新商品開発 1』は、ある限定的な研究分野における専門性の追及を目的としたもの（＝スペシャリスト研究）ではなく、新商品開発の一連の全工程を広く浅く研究することで総合的かつ俯瞰的な思考の探求を目的とする授業（＝ジェネラリスト研究）である。

This course is designed to explore comprehensive and panoramic thinking by studying the entire process of new product development in a broad and shallow manner, rather than pursuing expertise in a limited research field (= generalist research).

### 授業の内容 / Course Contents

『新商品開発 1』では、その開発工程を 4 つの大工程に区切り、各工程の位置づけやその役割を解説しながら、その工程で使用する分析手法や分析ツールを提示する。提示した分析手法や分析ツールは、ミニ演習を通して実践することで、その意味や使い方を体得していく。

具体的な分析手法や分析ツールとして、SECI モデル、知的資産経営、SWOT、5 フォース等を利用するが、一般的な使用方法に加え、独自視点のカスタマイズを加えることを前提としており、新商品開発のステップを理解すると同時に、各工程で使用する分析手法や分析ツールに対しても新しい知見を加えていく試みを取り入

れている。

なお、本科目は、新商品開発における実務経験の有無は問わず、初心者から学べる内容を想定している。

In this course, you will learn about the four major stages of new product development, their roles, and the analysis methods and tools used in each stage. The analysis methods and tools presented will be practiced through mini-exercises to gain an understanding of their meaning and usage. Specific analysis methods and tools such as the SECI model, intellectual asset management, SWOT, and 5 forces will be used, but with the premise of adding customized perspectives to the general usage methods, incorporating new insights into the analysis methods and tools used in each stage of new product development.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1 回：新商品開発の考え方と基礎知識

- ・ 本授業の狙いと全体構成
- ・ 新商品開発の考え方

#### 2 回：新商品開発の考え方と基礎知識

- ・ ミニ演習と発表

#### 3 回：開発方針と開発主体の確認

- ・ 開発主体の捉え方
- ・ 開発の目的や方針の定め方

#### 4 回：開発方針と開発主体の確認

- ・ ミニ演習と発表

#### 5 回：マーケティングと企画

- ・ 一般的なマーケティングツールの解説 (PEST、3C、4P、SPC、SWOT 等)
- ・ BtoB と BtoC の違い

#### 6 回：マーケティングと企画

- ・ ミニ演習と発表

#### 7 回：SECI モデルと QFD の活用方法

- ・ SECI モデルの捉え方
- ・ QFD の概要と考え方

#### 8 回：SECI モデルと QFD の活用方法

- ・ ミニ演習と発表

#### 9 回：知的財産権とその活用方法

- ・ 知的財産権、産業財産権 概論
- ・ 特許電子図書館 (J-PlatPat) の活用方法

#### 10 回：知的財産権とその活用方法

- ・ ミニ演習と発表

#### 11 回：販売戦略とビジネスモデル

- ・ ビジネスモデルの重要性
- ・ 価格設計、広報、営業の考え方

#### 12 回：販売戦略とビジネスモデル

- ・ ミニ演習と発表

#### 13 回：新商品開発の本質

- ・ 研究投資の必要性

・プロダクトアウトとマーケットインのバランス

14回：新商品開発の本質

・まとめ、全体の振り返り

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

原則なし (但し、課題が出る場合もある)

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分:002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ミニ演習の成果物:40% 発言や授業寄与度:20% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

授業時に必要なテキストを配布する

### 参考文献 / Readings

ジェームス W.ヤング、竹内 均、今井 茂雄 アイデアのつくり方 阪急コミュニケーションズ 1988  
9784484881041

外山 滋比古 思考の整理学 筑摩書房 1986 9784480020475

野中 郁次郎、竹内 弘高 知識創造企業 東洋経済新報社 1996 9784492520819

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、ミニ演習において個人単位のディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は42.9% (14回中6回) である。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 新商品開発 2

## Product Development 2

柴田 徹 (SHIBATA TORU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL737  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

本『新商品開発 2』は、ある限定的な研究分野における専門性の追及を目的としたもの（＝スペシャリスト研究）ではなく、新商品開発の一連の全工程を広く浅く研究することで総合的かつ俯瞰的な思考の探求を目的とするもの（＝ジェネラリスト研究）である。

“New Product Development 2” is not intended to pursue expertise in a limited research field, but rather to explore comprehensive and panoramic thinking by studying the entire process of new product development in a broad and shallow manner (= generalist research). In other words, this course aims to grasp the overall picture of new product development and to think from a comprehensive perspective, rather than to deepen specialized knowledge of new product development.

### 授業の内容 / Course Contents

『新商品開発 2』では、関連する講義『新商品開発 1』でレクチャーした内容に沿って、実際に新商品開発の企画書を作成していく。ただし、実際に試作品や量産品を製造することはできない為、ペーパーワークで可能な範囲に留める。履修生 1 人 1 人が企画者となって新商品開発における一連の工程を体得していく。一部講義も行うが、主に履修生主体の授業となる。なお、本科目は、新商品開発における実務経験の有無は問わず、初

心者から学べる内容を想定している。

In “New Product Development 2”, students will create a product proposal based on the content lectured in the related course “New Product Development 1”. However, since it is not possible to manufacture prototypes or mass-produced products, the scope of the project will be limited to paper work. Each student will become a planner and learn the entire process of new product development. Although some lectures will be given, the course will mainly be student-led. This course is designed for beginners and does not require any practical experience in new product development.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：新商品開発2 の考え方と基礎知識

- ・ 本授業の狙いと全体構成
- ・ 新商品開発2 概論

2 回：新商品の企画①－1

- ・ 企画グループの組成
- ・ グループ単位で新商品の企画を作成する

3 回：新商品の企画①－2

- ・ グループワーク

4 回：新商品の企画①－3

- ・ グループワークの中間報告
- ・ 中間報告へのフィードバック

5 回：新商品の企画①－4

- ・ グループワークの最終報告

6 回：新商品の企画①－5

- ・ 最終報告へのフィードバック
- ・ グループワークのまとめ

7 回：新商品の企画②－1

- ・ 個人単位での新商品の企画
- ・ 個人単位でアイデア発表

8 回：新商品の企画②－2

- ・ 個人ワーク

9 回：新商品の企画②－3

- ・ 個人ワークの中間報告

10 回：新商品の企画②－4

- ・ 中間報告へのフィードバック

11 回：新商品の企画②－5

- ・ 個人ワークの中間報告

12 回：新商品の企画②－6

- ・ 中間報告へのフィードバック

13 回：新商品の企画②－7

- ・ 個人ワークの最終報告

14 回：新商品開発2 のまとめ

- ・ 全体の振り返り

・新商品開発に必要な情報の確認

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外での「新商品のアイデア出し」や「新商品企画書の作成」など適宜課題を課す。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループワークや個人ワークの成果物:40% 受講貢献度や授業協力など:20%

最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

原則として、テキストは配布しない (新商品開発 1 で配布したテキストを利用する)。但し、適宜追加資料は配付する。

### 参考文献 / Readings

ジェームス W.ヤング、竹内 均、今井 茂雄 アイデアのつくり方 阪急コミュニケーションズ 1988 978 4484881041

外山 滋比古 思考の整理学 筑摩書房 1986 978 4480020475

野中 郁次郎、竹内 弘高 知識創造企業 東洋経済新報社 1996 978 4492520819

### その他 / Others

#### 【新商品開発 1 との関連性】

使用するツールや授業の進め方を理解する上で、関連する『新商品開発 1』を履修していることが望ましい。

#### 【グループワーク】

履修者数によりグループ単位で新商品の企画に取り組む場合がある。その場合は、他のグループメンバーに迷惑を掛けないよう授業への出席・議論・資料作成等を協調性をもって取り組まなければならない。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# グローバル経営戦略 1

## Global Business Strategy 1

日置 圭介 (HIOKI KEISUKE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL751  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

グローバル経営の本質を理解する

Understand the essence of global management.

### 授業の内容 / Course Contents

経営学の理論も参考に、グローバルで優れた経営を実践しているワールドクラス企業の経営の型＝思考・行動様式を理解する。その上で、日本企業が進むべき方向性と乗り越えるべき課題を学ぶ。

「グローバル経営戦略 1」では、ワールドクラス企業の経営を、環境面・戦略面・組織面から考察し、統合的に学習する。

Understand the thinking and behavioral styles of world class companies that are practicing excellent management on a global scale, referring to theories of business administration. In addition, students will learn about the direction Japanese companies should take and the challenges they need to overcome.

In "Global Business Strategy 1," students will study the management of world-class companies from environmental, strategic, and organizational perspectives in an integrated manner.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：日本と日本企業の現在地
- 3回：グローバルとは何か
- 4回：ワールドクラス企業の共通的特長
- 5回：戦略論の変遷
- 6回：組織論の変遷
- 7回：メガトレンド①－定量的に見える世界
- 8回：メガトレンド②－定性的に見える世界
- 9回：事業の立地
- 10回：企業の新陳代謝
- 11回：組織デザインの基本思想
- 12回：コーポレートファンクションの実際
- 13回：理念と経営
- 14回：リーダーシップ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義時に指示する

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への参加・発言等の貢献度合い:70% 最終レポート割合 :30%

#### テキスト / Textbooks

橋本勝則/昆政彦/日置圭介 ワールドクラスの経営 ダイヤモンド社 2020 ○

#### 参考文献 / Readings

- 入山章栄 世界標準の経営理論 ダイヤモンド社 2019
- ・ダイヤモンドハーバードビジネスレビューオンライン  
「経営学者×経営コンサルタントの「グローバル経営現論」」  
<https://www.dhbr.net/articles/-/2916>
  - ・ダイヤモンドオンライン  
「ワールドクラスの経営」  
<https://diamond.jp/category/s-worldclass>
  - ・Biz/Zine  
「ネオ・コーポレート経営」  
<https://bizzine.jp/article/corner/226>
  - ・Forbes Japan 「いまこそ欧州企業に学べ」

#### その他 / Others

- ・講義のテーマや順序については調整する可能性がある。
- ・「グローバル経営戦略1」では、ワールドクラス企業の経営を、環境面・戦略面・組織面から考察し、統合的に学習する。「グローバル経営戦略2」では、ワールドクラス企業や日本企業の実務経験者からケーススタディを学ぶ。「理論+実践」の一体的内容としているため、連続して履修することを推奨する。
- ・他大学院の実務家教員との交流会を計画中であり、詳細は講義の中でお知らせする。

#### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# グローバル経営戦略2

## Global Business Strategy 2

日置 圭介 (HIOKI KEISUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL752
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

グローバル経営の本質を理解する

Understand the essence of global management.

### 授業の内容 / Course Contents

経営学の理論も参考に、グローバルで優れた経営を実践しているワールドクラス企業の経営の型＝思考・行動様式を理解する。その上で、日本企業が進むべき方向性と乗り越えるべき課題を学ぶ。

「グローバル経営戦略2」では、ワールドクラス企業や日本企業のエグゼクティブから彼らの経験やケーススタディを学び、議論を通して理解を深める。

On the basis of the theories of business administration, this course will provide an understanding of the thinking and behavioral styles for growth and survival found in world class companies that are active on the global stage.

We will also learn about the direction Japanese companies should take and the challenges they need to overcome.

In "Global Business Strategy 2," students will learn from executives from world-class companies and Japanese companies about their experiences and case studies, and deepen their understanding through discussion.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：イントロダクション  
グローバル経営戦略1のラップアップ
- 2回：ゲスト講師の紹介  
ケーススタディから学ぶべきポイント整理
- 3回：ケーススタディ1
- 4回：ディスカッション
- 5回：ケーススタディ2
- 6回：ディスカッション
- 7回：ケーススタディ3
- 8回：ディスカッション
- 9回：ケーススタディ4
- 10回：ディスカッション
- 11回：ケーススタディ5
- 12回：ディスカッション
- 13回：ケーススタディ6
- 14回：ディスカッション  
ラップアップ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

講義時に指示する

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への参加・貢献度合い:70% 最終レポート割合 :30%

**テキスト / Textbooks**

橋本勝則/昆政彦/日置圭介 ワールドクラスの経営 ダイヤモンド社 2020 ○

**参考文献 / Readings**

- 入山章栄 世界標準の経営理論 ダイヤモンド社 2019
- ・ダイヤモンドハーバードビジネスレビューオンライン  
「経営学者×経営コンサルタントの「グローバル経営現論」」  
<https://www.dhbr.net/articles/-/2916>
  - ・ダイヤモンドオンライン  
「ワールドクラスの経営」  
<https://diamond.jp/category/s-worldclass>
  - ・Biz/Zine  
「ネオ・コーポレート経営」



<https://bizzine.jp/article/corner/226>

・Forbes Japan 「いまこそ欧州企業に学べ」

### その他/ Others

- ・グローバル企業ならびに大手日本企業から、主に取締役、執行役員経験者をゲストスピーカーとして招聘するため、講義のテーマや順序については適宜調整する。
- ・「グローバル経営戦略1」では、ワールドクラス企業の経営を、環境面・戦略面・組織面から考察し、統合的に学習する。「グローバル経営戦略2」では、ワールドクラス企業や日本企業の実務経験者からケーススタディを学ぶ。「理論+実践」の一体的内容としているため、連続して履修することを推奨する。
- ・他大学院の実務家教員との交流会を計画中であり、詳細は講義の中でお知らせする

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 経営者人材開発論

Human Resource Development for Managers

長谷川 徹 (HASEGAWA TOHRU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL761  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、経営者がどのように育つのかを事例から学び、履修者自らが「経営者としての姿」の意識、経営視点はもちろん、理論だけでなく、現場で生じることを想像できる経営者、マネジメント意識を持つことを目標とする。

必ずしも経営者を目指すものだけでなく、組織の中でリーダーシップを発揮し、マネジメントを行うことを目指す履修生の参加も想定している。

In this class, students will learn how managers are developed from case studies, and the goal is for students themselves to have an awareness of what it means to be a manager, a management perspective, and a managerial awareness that allows them to imagine what happens in the field, not only in theory but also in practice. The program is designed not only for those who aim to become managers, but also for those who aim to exercise leadership and management in an organization.

## 授業の内容 / Course Contents

本授業では、経営者の姿、マネジメントスタイルについてディスカッションを通じて検討を進める。

In this class, we will consider the image of a manager and management style through discussion.  
We will learn about management styles through books.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：よき経営者の姿～1章、2章
- 3回：よき経営者の姿～3章、4章
- 4回：よき経営者の姿～5章、6章
- 5回：戦略プロフェッショナル1章～3章
- 6回：戦略プロフェッショナル1章～3章
- 7回：戦略プロフェッショナル4章～5章
- 8回：戦略プロフェッショナル4章～5章
- 9回：戦略プロフェッショナル6章～8章
- 10回：戦略プロフェッショナル6章～8章
- 11回：望郷の道
- 12回：望郷の道
- 13回：望郷の道
- 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：							

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・本授業の参加にあたっては、事前に書籍を熟読することから始まります。
- ・各回授業のレポート課題に”事前”に取り組み、「事前レポート」を作成し事前に提出して頂きます。
- ・「事前レポート」を基にクラス内討論を行います。
- ・授業終了時に各自「授業コメント」を作成し提出頂きます。
- ・幅広い興味と積極性をもって、授業に参加されることを期待しています。

第1回授業は授業当日に自己紹介含め発表していただきます。

事前にメールでの提出は不要ですので、以下について発表できるようにご自身で準備をお願い致します。

「ご自身に

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前レポート:20% 授業コメント:20% クラス討論への貢献:60%

### テキスト / Textbooks

- 伊丹敬之 よき経営者の姿 日本経済新聞出版社 2017 9784532911355 -
- 北方謙三 望郷の道（上） 幻冬舎文庫 2013 9784344420175 ○
- 北方謙三 望郷の道（下） 幻冬舎文庫 2013 9784344420182 ○
- 三枝匡 決定版 戦略プロフェッショナル 戦略独創経営を拓く KADOKAWA 2022 9784041127933 ○

**【テキストについて】**

すべてのテキストについては、電子書籍で準備頂いても問題ありません。

「よき経営者の姿」は品切れが多いようですので電子書籍版で購入準備をお願いいたします。

<https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/2013/9784532197094/>

**参考文献 / Readings**

三枝匡 決定版 V字回復の経営 2年で会社を変えられますか? KADOKAWA 2023 9784041127957

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

- ・自ら考え、実務において実践・行動し、授業でフィードバックし学び続ける姿勢
- ・ Play Fair：皆さんはお互いに RBS で学び、平等、公平な立場で、年齢、性別、所属企業、役職などはお互いに忘れ、ご自身の考え、意見を積極的に発言すること
- ・ 他者の意見を聴き、自らの成長につなげること

授業参加者全員からの意見やフィードバックを快く受け止め、自らの糧にする意識を常に持ってください。

他者と自分の考えの相違点を見つけ出し、ご自身の意識、行動、考え方の特徴を把握すること

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料やテキスト等の閲覧のため、PC またはタブレット端末があると効果的に受講が行えます。

**その他/ Others**

- ・ その他、授業の情報は CanvasLMS にて公開いたしますので、適宜確認をお願いいたします。
- ・ 授業進捗によっては予定している内容が前後する可能性もありますので、ご了承ください。

**【テキストについて】**

すべてのテキストについては、電子書籍で準備頂いても問題ありません。

「よき経営者の姿」は品切れが多いようですので電子書籍版で購入準備をお願いいたします。

<https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/2013/9784532197094/>

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# トップマネジメント論

Top Management

長谷川 徹 (HASEGAWA TOHRU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL764  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本授業では、履修者自らが「トップマネジメントに必要な素養」について、管理会計の視点から検討する。管理会計の書籍を取り扱うが、いわゆる会計としての内容ではなく、トップマネジメントとして“管理（マネジメント）”がどのような影響をあたえるか？ということに着目した授業を予定している。

In this class, the goal for students is to acquire the basic knowledge necessary for "top management".

## 授業の内容 / Course Contents

1. 書籍を熟読後、トップマネジメントの行動、意識に関連する具体的な事例を収集する。
2. 収集した事例を授業内で報告する。
3. 報告された事例を基に議論を行う。

1. After thoroughly reading through the textbook, you will collect concrete cases related to the behavior and consciousness of top management.

2. The collected cases will be reported in the class.

3. Discussions will be held based on reported cases.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：企業の全体像：経営を見る眼 第1章から第11章  
 3回：経営戦略の全体像：経営を見る眼 第12章から第14章  
 4回：経営戦略の全体像：経営を見る眼 第15章から第17章  
 5回：マネジメントの全体像：経営を見る眼 第18章から第19章  
 6回：マネジメントの全体像：経営を見る眼 第20章から第21章  
 7回：利益とキャッシュ：現場が動き出す会計 第1章から第4章  
 8回：業績測定単位：現場が動き出す会計 第1章から第4章  
 9回：原価と利益：現場が動き出す会計 第5章から第7章  
 10回：資産効率管理：現場が動き出す会計 第5章から第7章  
 11回：アメーバ経営：現場が動き出す会計 第8章から第11章  
 12回：研究開発投資と予算管理：現場が動き出す会計 第8章から第11章  
 13回：情報システムと影響システム：現場が動き出す会計 第12章から第14章  
 14回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・本授業の参加にあたっては、事前に書籍を熟読することから始まります。
- ・各回授業のレポート課題に”事前”に取り組み、「事前レポート」を作成し事前に提出して頂きます。
- ・「事前レポート」基にクラス内討論を行います。
- ・授業終了時に各自「授業コメント」を作成し提出していただきます。
- ・幅広い興味と積極性をもって、授業に参加されることを期待しています。

第1回授業は授業当日に自己紹介含め発表していただきます。

事前にメールでの提出は不要ですので、以下について発表できるようにご自身で準備をお願い致します。

「ご

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前レポート:20% 授業コメント:20% クラス討論への貢献:60%

### テキスト / Textbooks

伊丹敬之 経営を見る眼 東洋経済新報社 2007 9784492501740 ○

伊丹敬之 現場が動き出す会計 一人はなぜ測定されると行動を変えるのか 日本経済新聞出版社 2016  
9784532320645 ○

テキストについては、電子書籍でも問題ありません。

### 参考文献 / Readings

伊丹敬之 経営戦略の論理 〈第4版〉—ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム 日本経済新聞出版社

2012 9784532134266

伊丹敬之 ケースブック 経営戦略の論理 〈全面改訂版〉 日本経済新聞出版社 2012 9784532134273

安岡孝司 企業不正の研究 リスクマネジメントがなぜ機能しないのか? 日経 BP 2018 9784822255664

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

- ・自ら考え、実務において実践・行動し、授業でフィードバックし学び続ける姿勢
- ・ Play Fair：皆さんはお互いに RBS で学び、平等、公平な立場で、年齢、性別、所属企業、役職などはお互いに忘れ、ご自身の考え、意見を積極的に発言すること
- ・他者の意見を聴き、自らの成長につなげること

授業参加者全員からの意見やフィードバックを快く受け止め、自らの糧にする意識を常に持ってください。

他者と自分の考えの相違点を見つけ出し、ご自身の意識、行動、考え方の特徴を把握すること

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料やテキスト等の閲覧のため、PC またはタブレット端末があると効果的に受講が行えます。

### **その他/ Others**

- ・その他、授業の情報は CanvasLMS にて公開いたしますので、適宜確認をお願いいたします。
- ・授業進捗によっては予定している内容が前後する可能性もありますので、ご了承ください。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 組織情報論 1

## Organization Information Theory 1

秋庭 孝俊 (AKIBA TAKATOSHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL781  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

経営組織論と組織のコミュニケーションにおける概念について学ぶ。

Learn about management organization theory and concepts in organizational communication.

### 授業の内容 / Course Contents

本科目ではバーナードが論じた組織成立の必要要件である組織の三要素、1.共通目的、2.貢献意欲、3.コミュニケーションの中で特に組織のコミュニケーションに焦点を当て、古典組織論、近代組織論を中心に組織のコミュニケーションの概念がどのように変化をしてきたかを検討する。講義前半は座学形式、後半は講義の中で論じられた課題についてのディスカッション形式で行う。

In this course, Bernard discussed the three elements of organization, which are the necessary requirements for organizational formation: 1. Common purpose, 2. Willingness to contribute, 3. Communication, focusing on organizational communication, classical organization theory, modern organization We will examine how the concept of communication in an organization has changed, focusing on theory. The first half of the lecture will be in a classroom format, and the second half will be in a discussion format about the issues discussed in the lecture.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：イントロダクション
- 2回：古典組織論とコミュニケーション1
- 3回：古典組織論とコミュニケーション2
- 4回：古典組織論とコミュニケーションについてのディスカッション
- 5回：近代組織論の議論1
- 6回：近代組織論1とコミュニケーションについてのディスカッション
- 7回：近代組織論の議論2
- 8回：近代組織論2とコミュニケーションについてのディスカッション
- 9回：コンティンジェンシー理論
- 10回：コンティンジェンシー理論とコミュニケーションについてのディスカッション
- 11回：課題作成
- 12回：課題作成
- 13回：課題報告
- 14回：課題報告

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点:100%

授業の参加度(発言など)(50%)、授業内課題(50%)

#### テキスト / Textbooks

講義の都度紹介する。

#### 参考文献 / Readings

講義の都度、資料を配布する。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 組織情報論 2

### Organization Information Theory 2

秋庭 孝俊 (AKIBA TAKATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL782
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

#### 授業の目標 / Course Objectives

組織情報論 1 に続き、組織のコミュニケーションをコンティンジェンシー理論から発展する情報処理モデル、組織行動学におけるコミュニケーション、情報技術革命以降の組織のコミュニケーションなどの理論を学ぶ。  
Following Organizational Information Theory 1, students will learn theories such as information processing model that develops organizational communication from contingency theory, communication in organizational behavior, and organizational communication after the information technology revolution.

#### 授業の内容 / Course Contents

本科目では近代組織論からの組織が不確実性に対処する行為や情報処理から議論し、比較的新しい分野である組織行動学とコミュニケーション、今日における ICT が組織のコミュニケーションに与える影響など学ぶ。前半は座学形式、後半は講義で学んだテーマに基づくディスカッション形式で行う。

In this course, we will discuss from modern organizational theory the behavior of organizations to deal with uncertainties and information processing, and learn about the relatively new fields of organizational behavior and communication, and the impact of ICT on organizational communication today. The first half will be a classroom lecture, and the second half will be a discussion format based on the themes learned in the lecture.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1 回：組織の不確実性に対処する行為と情報処理
- 2 回：組織の不確実性に対処する行為と情報処理についてのディスカッション
- 3 回：情報プロセッシングパラダイム
- 4 回：情報プロセッシングパラダイムについてのディスカッション
- 5 回：組織行動学とコミュニケーション
- 6 回：組織行動学とコミュニケーションについてのディスカッション
- 7 回：情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 1
- 8 回：情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 1 についてのディスカッション
- 9 回：情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 2
- 10 回：情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 2 についてのディスカッション
- 11 回：課題作成
- 12 回：課題作成
- 13 回：課題報告
- 14 回：課題報告

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

講義中に指示する。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度(発言など):50% 授業内課題:50%

**テキスト / Textbooks**

講義中に紹介する。

**参考文献 / Readings**

講義中に配布する。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 租税論 1

Tax Theory 1

清田 幸弘 (SEITA YUKIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL783  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5100  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 寄附講座 ランドマーク税理士法人

## 授業の目標 / Course Objectives

本講義では各税目の成り立ちや仕組み、特徴を理解することを目的とする。

The purpose of this lecture is to understand the composition, structure, and characteristics of each tax.

## 授業の内容 / Course Contents

租税は企業や個人、多方面に多大な影響を与えており、税制の適切な理解があってこそ実体経済の把握が可能となる。本講義では所得税法を中心に、法人税法、消費税法も扱う。また、各税目の第一線に立っている実務家ならではの経験や最新事例も併せて解説を行う。

Tax has a great impact on corporations, individuals, and various aspects, and it is only with an appropriate understanding of the tax system that it becomes possible to understand the real economy. This lecture will deal mainly with the income tax law as well as the corporate and consumption tax law. Also, we will explain the experiences and latest cases which are unique to practitioners at the forefront of each tax.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：税理士制度について、税理士事務所の経営

- 3回：租税法（1）
- 4回：租税法（2）
- 5回：所得税法（1）
- 6回：所得税法（2）
- 7回：所得税法（3）
- 8回：所得税法（4）
- 9回：法人税法（1）
- 10回：法人税法（2）
- 11回：消費税法（1）
- 12回：消費税法（2）
- 13回：まとめ
- 14回：テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と貢献：60% 最終テスト割合：40%

租税論2(VL784)との連続した授業になるので両科目の履修を推奨

#### テキスト / Textbooks

- 石村耕治 『税金のすべてがわかる 現代税法入門塾(第11版)』 清文社 2022 9784433738525 ○
- 清田幸弘 『都市農家・地主の税金ガイド（令和6年度）』（2024.6刊行予定） 税務研究会出版局 2024 ○

#### 参考文献 / Readings

##### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## 租税論 2

Tax Theory 2

清田 幸弘 (SEITA YUKIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL784  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5100  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 寄附講座 ランドマーク税理士法人

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義では各税目の成り立ちや仕組み、特徴を理解することを目的とする。

The purpose of this lecture is to understand the composition, structure, and characteristics of each tax.

### 授業の内容 / Course Contents

租税は企業や個人、多方面に多大な影響を与えており、税制の適切な理解があってこそ実体経済の把握が可能となる。本講義では相続税法、事業承継税制、さらに国際課税、米国税制も扱う。また、各税目の第一線に立っている実務家ならではの経験や最新事例も併せて解説を行う。

Tax has a great impact on corporations, individuals, and various aspects, and it is only with an appropriate understanding of the tax system that it becomes possible to understand the real economy. This lecture will deal with inheritance tax law, business succession tax system, international taxation, and the U.S. tax system. Also, we will explain the experiences and latest cases which are unique to practitioners at the forefront of each tax.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：相続税法(1)

- 3回：相続税法(2)
- 4回：相続税法(3)
- 5回：事業承継税制(1)
- 6回：事業承継税制(2)
- 7回：国際課税(1)
- 8回：国際課税(2)
- 9回：租税手続法(1)
- 10回：租税手続法(2)
- 11回：米国税制(1)
- 12回：米国税制(2)
- 13回：まとめ
- 14回：テスト

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と貢献：60% 最終テスト割合：40%

租税論1(VL783)との連続した授業になるので両科目の履修を推奨

#### テキスト / Textbooks

- 石村耕治 『税金のすべてがわかる 現代税法入門塾(第11版)』 清文社 2022 9784433738525 ○
- 清田幸弘 『都市農家・地主の税金ガイド（令和6年度）』（2024.6刊行予定） 税務研究会出版局 2024 ○

#### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# IT産業論

IT Industry Theory

前川 徹／日野 和麻呂 (MAEGAWA TORU/ HINO KAZUMARO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL785
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6600
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	寄附講座 （一社）日本データビジネス協会

## 授業の目標 / Course Objectives

情報技術（IT）の進歩と IT 産業の歴史を踏まえて情報化社会と IT ビジネスの現状を理解し、その未来について考察するために必要な基礎知識を修得する。

We will acquire basic knowledge necessary to understand the current state of the information society and IT businesses based on the progress of Information Technology (IT) and the history of the IT industry, and will consider the future as well.

## 授業の内容 / Course Contents

情報技術（IT）は、ビジネスや社会経済に大きな変化をもたらしている。この科目では、IT の進歩がビジネスや社会経済にどのような影響をもたらしているのかを理解するため、デジタル技術の進歩に加えて、20 世紀中盤以降の IT 産業の変遷について考察する。具体的には、IT ビジネスとしてのコンピュータ・ビジネス、ソフトウェア・ビジネス、インターネット・ビジネスの変遷について振り返る。また同時に、IT 産業のパラダイム転換をもたらした基本原理について考え、情報化社会の現在と未来について考察する。

Information technology (IT) has revolutionized business and socio-economics. In this course, we will consider the transition of the IT industry since the middle of the 20th century, in addition to the progress of digital



technology, in order to understand how the progress of IT is affecting business and socio-economy. Specifically, we will look back on the transition of computer business, software business, and Internet business as IT businesses. At the same time, we will consider the basic principles that brought about a paradigm shift in the IT industry, and consider the present and future of the information-oriented society.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1回：第1回：情報技術の進化（担当：前川）

情報技術（IT）がどのように進化／発展したかを、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークにおいて学び、その進化のスピードが他分野に比べて圧倒的に早いことを理解する。

#### 2回：第2回：情報技術の活用と情報社会論（担当：前川）

情報技術（IT）がどのように利用されているのかを、ビジネス、社会、日々の生活の3つの視点から振り返り、情報社会論の歴史と概念、情報革命のもたらしたものについて理解する。

#### 3回：第3回：メインフレーム（担当：前川）

メインフレームが誕生するまでのハードウェア・ビジネスの状況、メインフレーム時代の覇者となったIBMの戦略とその成功要因、ダウンサイジングとオープンシステム化がIBMのビジネスに与えた影響とIBMの対処策について学び、メインフレーム・ビジネスの特徴について理解する。

#### 4回：第4回：パソコン（担当：前川）

パソコンの黎明期からIBM-PC互換機が誕生するまでの歴史とパソコンとそのOSを巡る市場競争について学び、垂直統合型ビジネスと水平分業型ビジネスについて理解する。

#### 5回：第5回：情報財ビジネス（前半）（担当：前川）

ソフトウェアを含む情報財のビジネスの特徴と課題について取り上げる。前半では、情報財の定義、特徴、情報財の価格戦略、スイッチング・コストとロックインについて理解する。

#### 6回：第5回：情報財ビジネス（後半）（担当：前川）

ソフトウェアを含む情報財のビジネスの特徴と課題について取り上げる。後半では、情報財ビジネスにおけるネットワーク効果（ネットワーク外部性）、標準化戦略について理解する。

#### 7回：第7回：インターネットビジネス（前半）（担当：前川）

インターネットの黎明期の歴史、商用インターネットの発展を振り返り、Webブラウザを巡る争いの背景・経緯・結果について理解する。

#### 8回：第8回：インターネット・ビジネス（後半）（担当：前川）

インターネット上でのモノやサービスの販売、インターネット上の仲介業の発展について学び、マッチング・プラットフォーム・ビジネスの仕組みとネットワーク外部性（ネットワーク効果）を活かした競争戦略について理解する。

#### 9回：第9回：(事例) Amazon.com（担当：前川）

事例としてAmazon.comを取り上げ、主にネット上での物販について、その課題と戦略について理解を深める。

#### 10回：第10回：(事例) 楽天市場／メルカリ（担当：前川）

事例として楽天市場、メルカリを取り上げ、2サイド・プラットフォーム・ビジネス（両面市場ビジネス）の課題と戦略について理解を深める。

#### 11回：第11回：(事例) 会計ソフトの進化（前半）（担当：日野）

企業向けビジネスソフトウェアベースとして、9割を超える導入状況にある会計ソフトを取り上げ、どのように進化／発展してきたかを学ぶとともに、企業規模に応じた導入形態の違いや、クラウド化がもたらす業務システムの変化などを理解する。

12回：第12回：(事例) 会計ソフトの進化(前半) (担当：日野)

主要な海外・国内ベンダーを分析するとともに、事例として、国内向けソフトベンダーOBCの奉行シリーズを取り上げ、その発展の転機となったITのイノベーション変化を理解する。また、デジタルインボイスなど、次世代会計の進化について理解する。

13回：第13回：デジタル・トランスフォーメーション(前半) (担当：前川)

デジタル・トランスフォーメーション(DX)とは何か、DXによってビジネスや産業がどのように変化しているのかを把握するとともに、事例を通じてDXの本質を理解する。

14回：第14回：デジタル・トランスフォーメーション(後半) (担当：前川)

デジタル・トランスフォーメーション(DX)によるビジネス変革の特徴を踏まえて、デジタル・ディスラプションとDXがもたらす変化を学ぶとともに、生成AIなどの情報技術の発展・普及と情報社会論と関係を考察する。

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて、別途指示する。

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% デスカッションなど授業への参加度:40% 授業内での口頭試験:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

安延申、前川徹、田中辰雄 ビッグトレンド アспект 2009 9784757216792

### その他 / Others

すべての回をオンライン(Zoom)で実施する。Zoomの接続情報は各回ごとに連絡する。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 経営とデジタル

Management and Digital

田村 英二 (TAMURA EIJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL787  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 寄附講座 （一社）ビジネスプロセス・アーキテクト協会

## 授業の目標 / Course Objectives

デジタル技術が企業・組織にとってより大切な役割を担うようになっていく今こそ、デジタル技術を活用するプロジェクトを真の意味で「成功」に導く、すなわち、経営層がデジタル投資の成果に対して十分納得がいくようにしたい…本協会のメンバーはこうした志を持ち、失敗事例の収集・分析から始め、成功の要素を研究し、コンセプトを形創り本質的アプローチを定義し実践してきた。成功に繋がる鍵は、ビジネス主導でデジタルを戦略的に活用した、マネジメントの洞察性であることを多様な観点から学び、そして考える。

Now that digital technologies have been playing more important roles for organizations, we would like to lead digital projects to success in a real context, that is, to ensure that the management is fully satisfied with results of their digital investments. Under this aspiration, the members of the association for Business Process Architect Professionals have collected and analyzed failure cases, studied the factors for success, and have developed concepts and principal approaches to achieve success in the practical environments. We will see key success factors from various points of view and learn that root elements are all related to management insights leveraged by strategic use of digital technologies with business initiatives.

## 授業の内容 / Course Contents

経営とデジタルにおいて、それぞれ異なる経験を有する複数の識者から、実践に基づく経験と知恵を話してもらおう。講師は実務専門家であり、実践の場でいかなる問題に遭遇したか、それをどのように克服したか、あるいは苦渋を味わったか、何が今後の流れとして知っておくべき考え方なのか、といったトピックを聞く。そして、テーマを設定しケーススタディも取り入れる。経営を基礎としてデジタルの活用方法を新たに学びたい人、およびデジタルに知見があり経営への適用方法を学びたい人のいずれも対象としています。

Business and/or digital experts having different experiences will talk about their knowledge and wisdom based on practices. We will learn from topics including what problems they have encountered in practice, how they have solved issues, or failed, and what lessons they have learned for future success. Assume cases and think ourselves through mini-case studies. Targeted for both business-oriented students who have interest in digital applications, and technology-oriented students who have interest in business applications.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1 回：【経営者視点で知っておくべきデジタルマネジメントのポイント 1】

##### 第 1 回<経営とデジタルの抱える問題点と構想立案の重要性>

現代および将来は、デジタル技術によりビジネスモデルが変わる時代に急激に移っている。その変化の中で、経営者が知っておくべきデジタルマネジメント、とりわけシステム構想立案のポイントについて学ぶ。

(松井担当：Coopers & Lybrand、AT&T、シナジェティックにおいて大企業のマネジメント・コンサルティング案件を数多くこなし、現在 SI 会社でデジタル課題解決に取り組むシニア・プロフェッショナル)

2 回：1 回と 2 回は連続で実施

#### 3 回：【攻めの DX を推進する上で知っておくべきアプローチ】

##### 第 2 回<The Tree Ways for DX：DX への 3 つの道>

DX に最も近い企業と言われるアマゾンやグーグルなどの IT 先進企業が取り組むアジャイルや DevOps の導入、それを可能にした企業文化、経営手法、マネジメントリーダーシップの変革、従来の組織の『何を変え、何を変えなければならないか』を学ぶことで、DX 実現に向けて取り組むべき新しい経営とデジタルのあり方を学ぶ。

(原担当：IBM において大規模情報システム構築を手掛け、現在はアジャイル開発の)

4 回：3 回と 4 回は連続で実施

#### 5 回：【守りの DX を推進する上で知っておくべきアプローチ】

##### 第 3 回<システムティックな業務のマネジメント BPM>

ボトムアップな改善のみならず、トップダウンに経営戦略を実現させるためのビジネスプロセス・マネジメントの考え方を学ぶ。

(田村担当：インテル・ソニーへ技術者として勤務後、Coopers & Lybrand、AT&T においてグローバル IT コンサルティングを実施。現在 M&IT においてデジタル・マネジメント・コンサルティングに従事)

6 回：5 回と 6 回は連続で実施

#### 7 回：【経営者視点で知っておくべきデジタルマネジメントのポイント 2】

##### 第 4 回<グローバル企業のデジタル技術のガバナンス>

デジタル・トランスフォーメーションの実現に向けて、グローバル企業はいかにデジタル技術をマネジメントすべきかを欧米の多国籍企業を例に組織・人・財務・プロセスの観点から学ぶ。

(河合担当：監査法人勤務後、グラクソスミスクライン医薬品会社の IT 本部長としてグローバル企業の IT マネジメントを実践し、現在介護サービスの向上に努めるデジタルプロフェッショナル)

8 回：7 回と 8 回は連続で実施

#### 9 回：【DX 推進に共通して必要なチームコラボレーション】

## 第5回&lt;新規事業開発における《BizDev》と《Team Collabo》&gt;

単発プロジェクトや新規事業立ち上げなど、様々なシーンで社内外の多様な人材と共同チームを組みながらビジネスモデルを組み上げていく機会はますます増加していく。ビジネスモデル構築において必須となるデジタルの活用術、チームの「加速材」としてのデジタル活用の在り方、そして「阻害要因」となってしまうデジタル活用とはどのようなものを学ぶ。

(横越担当：戦略・人材系コンサルティングファームで

10回：9回と10回は連続で実施

11回：【DX企画の実践学習】

## 第6回&lt;新規事業開発/デジタル企画の課題解決&gt;

新規事業を発想し実現する機会は今後も増えるであろう。ビジネスモデルの中にいかにデジタル技術を盛り込むかは必須となる。事例を通じてデジタル技術を活用した事業開発やビジネストラansフォーメーションのポイントをケーススタディとして考えながら学ぶ。

(南担当：マーケティングの実務経験を経て、ICMGグループで新規事業開発、ビジネスコンサルティング、デジタル関連プロジェクトをこなすデジタル・トランスフォーメーション・プロフェッショナル)

12回：11回と12回は連続で実施

13回：【すべてのプロジェクトの基本としての実践プロジェクトマネジメント】

## 第7回&lt;経営者はプロジェクトマネジメントができる人&gt;

能力ある経営者は、良きプロジェクトマネージャーでもある。その共通点を抽出すると同時に、事例を通して考えながら学ぶ。

(田村担当：インテル・ソニーへ技術者として勤務後、Coopers & Lybrand、AT&TにおいてグローバルITコンサルティングを実施。現在M&ITにおいてデジタル・マネジメント・コンサルティングに従事)

14回：13回と14回は連続で実施

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

## 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

設定した課題に関し、レポートを提出する (1回)

## 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート:40% 授業の参加度・発言:60%

## テキスト / Textbooks

配布可能な情報は各回テキストとして配布

## 参考文献 / Readings

随時参照

## 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

携わっている業界・業種におけるビジネス判断能力、ロジカルシンキング、デジタル活用に関する強い興味

## 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Word/Excel/PowerPoint 相当ソフト

**その他/ Others**

本科目は、7年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、資料や運営のまよりの良さよりも、生きた情報を汲み取ってもらうことに主眼を置きます。全授業の20%をディスカッションなど双方向形式の質疑応答によって運営できることを期待します。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

# M&A 1

## Mergers & Acquisitions 1

古川 英一 (FURUKAWA EIICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL788
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプランニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

### 授業の内容 / Course Contents

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかん活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、M&A の役割：歴史的な変遷
- 2 回：経営戦略における M&A：企業経営と M&A
- 3 回：M&A のプロセス①：M & A 戦略立案から決定まで
- 4 回：M&A のプロセス②：基本合意からクロージングまで
- 5 回：M&A のプロセス③：企業価値と企業評価のフレームワーク
- 6 回：企業評価の基礎演習
- 7 回：ゲストスピーカー
- 8 回：M&A のプロセス④：P M I (Post Merger Integration)
- 9 回：企業評価の応用演習
- 10 回：応用演習解説
- 11 回：グループディスカッション
- 12 回：レポート発表
- 13 回：ゲストスピーカー
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ M&A に関する一般的知識
- ・ ファイナンスの基礎（特にバリュエーションに関する分野）
- ・ M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
- ・ エクセルのスプレッドシートの基本操作スキル

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト:30% 最終レポート割合:30%最終テスト割合:40%

### テキスト / Textbooks

スライド資料（配布）

### 参考文献 / Readings

ブリーリー、マイヤーズ コーポレートファイナンス 第10版 上・下 日経BP社 2014

マッキンゼー・アンド・カンパニー 企業価値評価 第7版 上下 ダイアモンド社 2022

デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザー ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集



中央経済社 2021

**その他/ Others**

当授業に続き、M&A2 を履修することが望ましい

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# M&A 2

## Mergers & Acquisitions 2

古川 英一 (FURUKAWA EIICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL789
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプランニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

### 授業の内容 / Course Contents

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかに関活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：成長戦略における M&A：競争戦略と M&A 戦略
- 3回：企業評価の応用演習
- 4回：企業評価の応用演習の解説
- 5回：企業価値経営：企業価値経営と企業評価
- 6回：LBO と MBO
- 7回：ゲストスピーカー：企業再生（ターンアラウンド）
- 8回：企業再生における M&A：破綻企業の M&A のポイントと事例
- 9回：敵対的企業買収と企業防衛：企業防衛をめぐる諸問題
- 10回：敵対的企業買収の事例
- 11回：レポート発表
- 12回：クロスボーダーM&A の概要と事例
- 13回：ゲストスピーカー：M&A と PE（プライベートエクイティファンド）
- 14回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ M&A に関する一般的知識
- ・ ファイナンスの基礎（特にバリュエーションに関する分野）
- ・ M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
- ・ エクセルのスプレッドシートの基本操作スキル

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト:30% 最終レポート割合：:30%最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

スライド資料（配布）

### 参考文献 / Readings

ブリーリー、マイヤーズ コーポレートファイナンス 第10版 上・下 日経BP社 2014

マッキンゼー・アンド・カンパニー 企業価値評価 第7版 上下 ダイアモンド社 2022

デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザー ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集

中央経済社 2021

**その他/ Others**

当授業の前に、M&A1 を履修することが望ましい

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ブランドデザイン

Brand Design

宮澤 正憲／竹内 慶 (MIYAZAWA MASANORI/ TAKEUCHI KEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL790
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	寄附講座 （株）博報堂

## 授業の目標 / Course Objectives

現代のビジネスにおいて「ブランド」の重要性はますます高まっている。ブランドデザインは単なるデザイン作業ではなく、ビジネスマネジメント全領域にわたる重要な概念に変化してきている。

しかしながら、こうしたブランド及びブランドデザインの概念は誤解されやすく、適切に理解されていないことが多い。

本授業においては、ブランドの基本概念とそのつくり方に関連する不可欠な諸要素について体系的に学ぶとともに、演習を通じてブランドデザインのプロセスを体験する。

The concept of 'branding' is increasingly vital in today's business landscape. Yet, there is a common misconception and lack of understanding regarding the essence of a brand and its design. This course offers a systematic approach to understanding the fundamental concepts and key elements crucial for effective branding. Additionally, students will gain practical experience in the process of brand design through a series of exercises.

## 授業の内容 / Course Contents

ビジネス全般に影響を与えるブランドの作り方の基本フロー（ブランドデザイン）を習得することを目的に、オンラインによる講義とワークショップ型の演習を組み合わせる。

The course will blend online lectures with interactive workshop-style exercises. This approach is designed to teach students the foundational steps in brand creation, ensuring a comprehensive understanding of the brand development process. The first session and the last three sessions will be conducted as in-person classes. The second to fourth sessions are scheduled to be online classes.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ブランドとブランドデザインの基礎：ブランド概論（イントロダクション）
- 2 回：ブランドとブランドデザインの基礎：ブランド・トランスフォーメーション（BX）
- 3 回：ブランドデザインの重要要素①：パーパスのトランスフォーメーション
- 4 回：ブランドデザインの重要要素②：ビジネスプロセスのトランスフォーメーション
- 5 回：ブランドデザインの重要要素③：商品・サービスのトランスフォーメーション
- 6 回：ブランドデザインの重要要素④：コミュニケーションのトランスフォーメーション
- 7 回：ブランドデザインの重要要素⑤：コミュニティのトランスフォーメーション
- 8 回：ブランドデザインの重要要素⑥：組織・人材のトランスフォーメーション
- 9 回：まとめと振り返り：各重要要素の有機的連携、ブランドという「エコシステム」
- 10 回：共創型ワーク体験①：ブランドデザイン実習
- 11 回：共創型ワーク体験②：ブランドデザイン実習
- 12 回：共創型ワーク体験③：プレゼンテーション作成
- 13 回：共創型ワーク体験④：最終プレゼンテーション実習
- 14 回：プレゼンテーション講評と全体ラップアップ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・前半ではレポート課題が課されます。
- ・後半では、演習および最終プレゼンテーション実習のためのグループワークや準備を伴います
- ・具体的な内容については、学期中に別途指示します

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業・演習への貢献:40% レポート・課題・リアクションペーパー:40% 最終プレゼンテーション課題:20%

本授業は参加演習型授業のため4回以上の欠席がある場合は単位修得不可となります

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### その他 / Others

オンライン、対面を組み合わせでの実施を想定しています。

本講義全7回（14コマ）の内、1回目（初日）のイントロダクションと最後の3回分（5回目～7回目）の実習ワークは対面、2回目～4回目の座学講義はオンラインを想定。

なお、講義形式が変更になることも想定しておいてください。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# DX経営

Digital Transformation-Management

～デジタル時代の事業変革の進め方～

野中 淳 (NONAKA JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL791

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 寄附講座 （株）NTTデータ経営研究所

## 授業の目標 / Course Objectives

DX（デジタル・トランスフォーメーション）に関する基本的な理解。

実際のビジネスの場で起こっている事例を通じて、DXの本質を理解し、実践的なDX経営を学ぶ。

This courses introduces the basic concept of DX (Digital Transformation) to participants taking this course. At the end of the course, participants are expected to understand the practical DX strategy through the actual business cases.

## 授業の内容 / Course Contents

デジタルトランスフォーメーションを如何に実現していくのか？

特に日本のレガシー企業で、どのようにDXに取り組むべきかを主題に、毎回、実際のビジネスの場で活躍する現役コンサルタントをゲストに迎え、現場視点での事例紹介・討議を通じて、様々なDX経営の手法を探求する。

また、コンサルティング実務で使用しているフレームワークや理論を紹介し、それらを用いてデジタル・ビジネスケースの読み解き方（戦略上の意図や特徴）や事業創出ステップを学ぶ。



本講義はデジタルを活用し、いかに企業を変革するかに焦点を当てており、必ずしもテクノロジーに係わる高度な専門知識は必要としない。企業のDXプロジェクト担当者はもちろん、企画開発に係わる方、事業や組織のマネジメントに従事される方々に対しても有益な視点を提供する。

講義最終回では各自でデジタル・ビジネスプラン作成にチャレンジする。

昨年度までの受講者の声

「仕事でよく”DX”を耳にするし使っていたものの具体的にDXとは何か、DX推進とは何をやるのかがわかっていなかったが講義を通して非常に理解が深まった。変革のタイプや要素に納得感があった。」

「毎回豊富な資料を頂けるのがありがたい。具体的な事例がたくさん載っていて役立った。」

This course focuses on exploring the keys to achieve DX strategy successfully especially in Japanese legacy companies by sharing the actual business cases and discussing with the active consultant as a guest.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：DXとは何か？ -DXの基本を学ぶ
- 3回：テクノロジトレンド
- 4回：テクノロジトレンドリサーチ論
- 5回：ユーザー中心によるニーズ・課題の発掘 -新たな顧客体験を考える【講義】
- 6回：ユーザー中心によるニーズ・課題の発掘 -新たな顧客体験を考える【演習】
- 7回：イノベーションの実現に向けた新規事業
- 8回：イノベーションの実現に向けた新規事業 -実際のコンサルティングテーマを元に考える【演習】
- 9回：経営を変えるデータ活用・データマネジメント①
- 10回：経営を変えるデータ活用・データマネジメント①
- 11回：デジタルを活用した社会課題への取組
- 12回：DXを実現する組織・人材
- 13回：デジタル・ビジネスプラン発表・討議
- 14回：デジタル・ビジネスプラン発表・討議+全体総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:30% 授業への貢献度（討議や発言等）:30% セルフワークと発表:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

ジェラルド・C・ケイン DX経営戦略 NTT出版 2020 9784757123786 0034

マイケル・ウェイド DX 実行戦略 日本経済新聞出版 2019 9784532322922

### その他/ Others

- ・ PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用します
- ・ 授業は講義形式を中心とし、理解を深めるために、必要に応じて実習（調査、発表）を行う予定です
- ・ ゲストスピーカーのスケジュールにより、各回（テーマ）の順番は、多少変更する可能性があります

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# DX戦略論 1

## Digital Transformation Strategy 1

笠原 英一／青淵 正幸 (KASAHARA EIICHI / AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL792
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6600
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	寄附講座 株式会社ユニゾン・ホールディングス

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、企業で、DX プロジェクトを担当している方はもちろんのこと、情報、企画、設計、開発、総務などを担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、ケース・スタディ（グループディスカッションおよびクラスディスカッション）とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、DX を推進する力を確立する。

This course offers a useful viewpoint not only for DX specialists in charge of digitalization but also for other positions in charge of ICT, corporate planning, design, R&D, and general affairs. The actual lectures are expanded by developing case studies (group discussions and class discussions) and exercises by establishing the basics of DX professionals, while deepening understanding of the theory.

### 授業の内容 / Course Contents

本プログラムでは、まず、DX や ICT のプロジェクトが必ずしも成果を上げていないという事実スポット当て、その理由を検討することから、DX の本質について検討する。そのうえで、デジタル技術によって、今後大きく変化することが予想される事業領域として、顧客、競争、情報、革新、価値の5つが挙げられる。デジタル時代に成功裡に適応し、成長していくために、こうした5つの領域において、独自の戦略を形成していく

ための新しいフレームワークが必要である。本講座では上記をカバーしていく。

Firstly, we will start this program by understanding the essence of DX, clarifying why some DX or ICT projects tend to end up without having achieved the expected performance results. We see how digital forces are changing five key domains of strategy: customers, competition, data, innovation, and value to customers. For companies who would like to be successful in the digital era, it is indispensable to have new frameworks to develop appropriate strategies in those five domains. This course aims to cover the five domains and to try to establish new theories and ways of thinking.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1回：総論

- ・DXの本質－技術の活用ではなく、新たな思考の仕方、ビジネスモデルの構築そのもの

#### 2回：総論

- ・デジタルによって変化している5つの事業領域－顧客、競争、情報、革新、価値

#### 3回：ICTのプロジェクトはなぜ失敗するのか

- ・戦略、価値観、風土

#### 4回：ICTのプロジェクトはなぜ失敗するのか

- ・組織、システム、人材、スキル

#### 5回：マーケティング戦略とDX

- ・現状分析、基本方向

#### 6回：マーケティング戦略とDX

- ・マーケティング総論、マーケティング各論

#### 7回：顧客領域

- ・ネットワークとしての顧客、新たな消費者行動論、顧客ネットワーク戦略（接続、参加、適応、結合、協働）

#### 8回：顧客領域

- ・顧客ネットワーク戦略（目的、標的セグメント、ネットワーク戦略の選択、コンセプト創出、影響の推定）

#### 9回：競争領域

- ・プラットフォームによる競争環境（類型、KFS、競争原理）

#### 10回：競争領域

- ・プラットフォーム概念図作成手法、バリューチェーンの構造分析

#### 11回：情報領域

- ・データ類型（業務プロセスデータ、製品・サービスデータ、顧客データ）

#### 12回：情報領域

- ・データ価値の創出（事業範囲の設定、データ活用目的の明確化、データ創出、データ監査、事業遂行、POC）

#### 13回：革新領域

- ・仮説探索調査（課題設定、制約の確認、対象市場選定、観察調査、アイデア探索、プロトタイプ作成、フィールドテスト、決定）

#### 14回：革新領域

- ・仮説検証調査（仮説設定、目的変数と説明変数の設定、対象者選定、質問項目の操作化、調査実施、データ解析と仮説検証）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業で実施するプレゼンテーション:30% 最終レポート割合：:30%最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

D. Rogers 著/笠原訳 『DX 戦略立案書』 白桃書房 2021 ○

笠原英一 『戦略的産業財マーケティング』 東洋経済 2018 ○

### 参考文献 / Readings

根来龍之 『集中講義デジタル戦略 テクノロジーバトルのフレームワーク』 日経 BP 2019

ジョージ・ウェスターマン, ディディエ・ボネ, アンドリュー・マカフィー/グロービス訳 『デジタル・シフト戦略』 ダイヤモンド社 (2018)

### その他 / Others

<http://www.aprim.jp/>

【双方向による授業割合】

100%

※20年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# DX戦略論 2

## Digital Transformation Strategy 2

笠原 英一／青淵 正幸 (KASAHARA EIICHI / AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL793  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 寄附講座 株式会社ユニゾン・ホールディングス

### 授業の目標 / Course Objectives

本講義は、企業で、DX プロジェクトを担当している方はもちろんのこと、情報、企画、設計、開発、総務などを担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、ケース・スタディ（グループディスカッションおよびクラス・ディスカッション）とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、DX を推進する力を確立する。

This course offers a useful viewpoint not only for DX specialists in charge of digitalization but also for other positions in charge of ICT, corporate planning, design, R&D, and general affairs. The actual lectures are expanded by developing case studies (group discussions and class discussions) and exercises by establishing the basics of DX professionals, while deepening understanding of the theory.

### 授業の内容 / Course Contents

デジタル技術によって、新たな価値提案（オフリング）が可能になる。その価値提案の主要な領域として顧客、競争、情報、革新、価値の5つをA日程でカバーする。B日程では、A日程でカバーした新たなオフリングを実現するためのオペレーションをテーマにする。オフリングを具現化するためのオペレーションを、デジタルプラットフォーム（実験環境）、オペレーショナルバックボーン（本番環境）、バリューチェーン（価

値連鎖)、サプライチェーン(供給連鎖)の4つの視点から検討する。そのうえで、オフラインとオペレーションを支えオーガニゼーション(組織開発)に関しても考察する。A日程とB日程を合わせてデジタル技術によって大きく変質するオフライン、オペレーション、オーガニゼーションを有機的な関係として統合していく。

We see how digital forces are changing five key domains of strategy: customers, competition, data, innovation, and value to customers. For companies who would like to be successful in the digital era, it is indispensable to have new frameworks to develop appropriate strategies in those five domains. This course aims to further develop the skills and knowledge by applying them in real cases studies.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

#### 1回：1.オフラインとオペレーション

- ・オフラインを支えるオペレーションの構成要素： デジタルプラットフォーム(実験環境)、オペレーショナルバックボーン(本番環境)、バリューチェーン(価値連鎖)、サプライチェーン(供給連鎖)

#### 2回：2.オペレーションの構成要素1： デジタルプラットフォーム(DP:実験環境)

- ・顧客インサイトに対するデジタル提供物(サービスメニュー)とそれを具現化するコンポーネント(決められたタスクを実施するコード)

#### 3回：3.オペレーションの構成要素2： オペレーショナルバックボーン(OB:本番環境)

- ・業務プロセスに関する標準化の必要性と統合化の必要性の2要素をもとオペレーショナルバックボーンの範囲を明確化

#### 4回：4. DP と OB の背年宅プロセス：

- ・対象顧客に対する価値提案の内容を確認、その価値提案を支えるために必要なデジタル提供物をリストアップ、各活動について、①成果目標、②データ要件、③プロセス要件を整理

#### 5回：バリュー・チェーン(価値連鎖)

- ・定義、顧客提案、業務活動、経営資源、プロセス

#### 6回：バリューチェーンのプロセス

- ・自社のバリューチェーンを図式化、各ステップのプロセスを分析、ステップごとの課題・改善策を検討

#### 7回：サプライチェーン(供給連鎖)

- ・サプライチェーンの定義、目的、基本方向、構成要素

#### 8回：サプライチェーンのプロセス

- ・反応性のレベル確定、生産機能・保管設備の決定、在庫・輸送・情報・調達の決定

#### 9回：DX推進プロジェクトとそれを支える人材

- ・コンピタンス：人材開発

#### 10回：DX推進プロジェクトとそれを支える人材

- ・専門家による講演とクラス・ディスカッション

#### 11回：DX推進プロジェクトとそれを支える組織

- ・情報、KPI、人材、評価基準、報酬： 組織開発

#### 12回：DX推進プロジェクトとそれを支える人材

- ・専門家による講演とクラス・ディスカッション

#### 13回：DX戦略立案に関する総合演習

- ・オフライン、オペレーション、オーガニゼーション

#### 14回：DX戦略立案に関する総合演習

- ・全体レビュー、まとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習 (事前)、グループ討議 (授業時、必要に応じて事前に)、クラス討議 (授業時) という展開で進める

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分:002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業で行うプレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :30%最終テスト割合 :40%

**テキスト / Textbooks**

笠原英一 『デジタル時代における事業開発』 白桃書房 2024(予定) -

ケース・スタディを実施するため各人で事前に指定させていただくケースをケース・センターからオンラインで購入の上授業に参加してください。

**参考文献 / Readings**

根来龍之 『集中講義デジタル戦略 テクノロジーバトルのフレームワーク』 日経 BP 2019

ジョージ・ウェスターマン, ディディエ・ボネ, アンドリュー・マカフィー/グロービス訳 『デジタル・シフト戦略』 ダイヤモンド社 (2018)

**その他 / Others**

<http://www.aprim.jp/>

【双方向による授業割合】

100%

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# デザイン経営

Design Management

デザイン経営

デザインの視点と手法を活用した人間尊重の経営

秋元 淳 (AKIMOTO JUN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL794
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（一部オンライン／最大6回）
校地：	池袋
学期：	春学期2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS5400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	寄附講座 公益財団法人日本デザイン振興会

## 授業の目標 / Course Objectives

新しい経営と事業遂行の思想・手法として提唱されている「デザイン経営」を、「創意的経営」として以下のよう

に定義づける。

- 1) 経営の意思決定と遂行のプロセスにデザインの視点・着想・手法を反映させる
- 2) そのプロセスを司るマネジメント人材の関与が一貫して認められる
- 3) 市場・顧客・ステークホルダーとの間で適切なコミュニケーションが実践される

この授業では、自身のビジネス（事業）においてそれを体現している「実践者」を通じて、「デザイン経営」に相当する実践例を具体的に示すことを主眼とする。「デザイン経営」に相当する事例は、近年のグッドデザイン賞受賞対象の中から、多様な領域での実践を選択し、それぞれの当事者による解説を通じて、経営（事業）の目的性、意義、具体的なアプローチの内容を明らかにする。それにより、受講生がデザインを活かして自ら創造的に経営や事業の構想と推進を担うための素養習得に貢献する。

We define "design management," which has been proposed as a new management and business execution

philosophy and method, as "creative management" as follows

- (1) Design perspectives, ideas, and methods are reflected in the management decision-making and execution process.
- (2) Consistent involvement of management personnel in the process is recognized.
- 3) Appropriate communication is practiced with the market, customers, and stakeholders

The main objective of this class is to provide concrete examples of practices equivalent to "design management" through "practitioners" who embody it in their own business (business). The examples corresponding to "design management" will be selected from among the Good Design Award winners in recent years in a variety of fields, and the purpose, significance, and specific approaches to management (business) will be clarified through explanations by those involved in each case. This will contribute to the acquisition of knowledge that will enable participants to creatively conceive and promote their own management and businesses by making use of design.

### 授業の内容 / Course Contents

はじめにデザインプロモーターである担当講師による今日のデザインをめぐる基礎理解を目的とした講義を実施後、「デザイン経営」の核を成すデザインの思想・方法論に関する解説を、デザインコンサルタントなど外部講師を招いて実施する。その後は、近年グッドデザイン賞を受賞した全国の企業・組織等の経営者や事業当事者をゲストに招き、デザインの意図、商品／サービス等の開発・事業の構想から実践に至るプロセス、当事者としての目的意識や課題意識・ビジョンを解説し、それに対する受講者とのディスカッションを授業展開の中心とする。またデザインが実践される環境として、企業デザイン部門オフィスなどのフィールドリサーチ実施も予定する。

各回ともにデザイン経営に相当する経営・プロジェクト推進の当事者を招くため受講者からの積極的な発言を求めたい。なおゲスト講義は対面出講もしくはリモート出講で構成する。事業当事者の参加が難しい場合は担当講師による講義実施となる。

After a lecture by a design promoter on the basics of today's design, design consultants and other external lecturers will be invited to explain the philosophy and methodology of design that forms the core of "design management". After that, we invite managers of companies and organizations that have won the Good Design Award in recent years, as well as people involved in business, to explain the intention of design, the process from conception to implementation of the development of products/services and business, their sense of purpose, awareness of issues and vision, and discussion with the participants. The class will be centered on discussions with the students on these issues. In addition, field research will be conducted at offices of corporate design departments as environments where design is practiced.

In each session, we will invite people who are involved in management and project promotion, which is equivalent to design management, so we hope that students will actively participate in the discussions. Guest lectures will be delivered in person or remotely. If it is difficult for the parties involved in the project to attend, the lectures will be given by the lecturer in cha

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義／「デザインの基礎理解」
- 2 回：講義／「デザインの現在地」グッドデザイン賞にみる社会とデザインの変化の相関について、今日のデザイン像
- 3 回：講義／「デザイン思考」などデザインの社会への波及について
- 4 回：講義／「デザイン経営をめぐる基礎理解」デザイン経営の定義と意義

- 5回：ケーススタディ 1／経営・事業推進におけるデザイン活用の事例  
 (具体内容は未定だが、民間企業経営と NPO、公共セクターの事業推進などを取り上げる予定)
- 6回：ケーススタディ 2／経営・事業推進におけるデザイン活用の事例 (同)
- 7回：ケーススタディ 3／経営・事業推進におけるデザイン活用の事例 (同)
- 8回：ケーススタディ 4／経営・事業推進におけるデザイン活用の事例 (同)
- 9回：ケーススタディ 5／経営・事業推進におけるデザイン活用の事例 (同)
- 10回：ケーススタディ 6／経営・事業推進におけるデザイン活用の事例 (同)
- 11回：フィールド体験／経営の一翼となるデザイン実践の現場 (校外での実習)
- 12回：フィールド体験／経営の一翼となるデザイン実践の現場 (校外での実習)
- 13回：講義／デザイン経営の課題
- 14回：まとめ／顧客・社会との望ましい関係と未来を築くための「デザイン経営」

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業でケーススタディ題材として取り上げる予定のグッドデザイン賞受賞事例について、グッドデザイン賞公式ウェブサイトの基本情報を閲覧した上で、さらに各社ウェブサイトなども適宜参照し、プロジェクトの全容に関する基礎的な認識を持った上で授業に参加することが望ましい。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 初回レポート:30% 途中回レポート:30% 最終レポート:40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 鷲田祐一 デザイン経営 有斐閣 2022
- 永井一史 これからのデザイン経営 クロスメディア・パブリッシング 2021
- 田中一雄 デザインの本質 ジャパンライフデザイン 2020
- ハーバード・ビジネス・レビュー デザイン思考の教科書 ダイヤモンド社 2020
- AXIS 編集部 未来のデザイン図鑑 2 アクシスパブリッシング 2023
- グッドデザイン賞公式ウェブサイト
- <http://www.g-mark.org>
- 経済産業省「デザイン経営事例集」(2020)
- <https://www.meti.go.jp/press/2019/03/20200323002/20200323002.html>
- 経済産業省・特許庁「デザイン経営宣言」(2018)
- <https://www.meti.go.jp/press/2018/05/20180523002/20180523002-1.pdf>
- 「ものづくり文化」vo.62 (2020)
- 特集論文「グッドデザ

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

デザイン導入の実体験を目的とするワークショップ型の授業形式ではないため、実技やプロセス習得を目的と

しての履修は勧めない。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

基本的に池袋校での対面実施だが回によってオンライン実施を交えるため、オンライン受講の体制は必要となる。またフィールド体験の回は学外への現地訪問形式となるので移動対応が必要（訪問先は23区内を予定）。

### **その他/ Others**

上記、各授業回の内容については今後、外部講師の派遣都合を決定するため、各回の具体的な内容は未定としてある。またやはり外部講師の都合によっては、フィールド体験の時期が現在想定よりも前倒しになることも想定される。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ソーシャルイノベーションデザイン

Social Innovation Design

ソーシャルイノベーションデザイン

谷崎 正明 (TANIZAKI MASA AKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	VL796
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS6600
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	寄附講座（株）日立製作所

## 授業の目標 / Course Objectives

近年、“デザイン“は、お客様の嗜好にあう色や形を作り出す役割だけでなく、潜在的なニーズから新事業の機会を発想する、デザイン思考にも期待が集まっている。本講義では、製品やサービスを通して社会イノベーション事業に取り組む日立製作所のデザイン組織の変遷と事例を通して今後、受講生がビジネスの現場でデザインを事業に有効活用するため観点を理解する。

In recent years, “Design” has extended its role from creating shapes and colors suited for user preference to “Design Thinking”, a method gaining significant attention, which is to explore the business opportunities from the user’s unmet needs.

This course introduces the Hitachi Design -the social innovation design team’s business journey and cases in context to utilize the knowledge in your business practices.

## 授業の内容 / Course Contents

お客様にとって製品やサービスに期待する点が、機能的価値から経験価値にシフトする中で、それを実現するためには、製品の色/形/仕上げ、ユーザー調査、エクスペリエンスデザイン、ビジネスモデルの範囲に至るま

での包括的なデザインの知識と活動が必要になる。本講座では、その目的や方法論について担当講師とゲスト講師による座学と対面演習を通して学習していく。

The user's expectation in the service and product is shifting from its functional value to customer experience. To meet the expectation, holistic knowledge of design practices such as CMF (Color/Material/Finish), user research, experience design, and business modeling is essential. This course provides the focuses and methodology through lectures and in-person trainings by assigned lecturers and guest speakers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：企業におけるデザイン
- 2回：デザインシンキング
- 3回：イメージを伝えるためのプロダクトデザイン
- 4回：だれもが暮らしやすい社会を実現するためのユニバーサルデザイン
- 5回：ユーザーリサーチ：ユーザビリティ・人間中心設計
- 6回：ユーザーリサーチ：調査の方法論
- 7回：サービスデザイン：経験価値をサービスとして顧客に届ける為のデザイン
- 8回：ビジョンデザイン：将来の経験価値を思索し社会を変革する為のデザイン
- 9回：サービスデザイン演習①：経験の物語を傾聴し、カスタマージャーニーマップで表現する
- 10回：サービスデザイン演習②：アイデアを発想し、うれしさを絵にしてみる
- 11回：サービスデザイン演習③：ステークホルダーを洗い出す\*Businesses Origami
- 12回：サービスデザイン演習④：サービスモデルを描く\*Businesses Origami
- 13回：各学生による発表と議論、講評
- 14回：各学生による発表と議論、講評

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・演習に向けた準備が必要になることがあります
- ・最終日は、各学生による発表とその内容に関する議論を行うため、発表の準備が必要となります
- ・具体的な内容については、授業のなかで別途連絡します

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業・演習への貢献:60% 最終発表:20% 最終レポート:20%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- B・J・パインII、J・H・ギルモア [新訳] 経験経済 ダイアモンド社 2005 4478502579
- 久保田麻美 伝わる図解!超入門 宝島社 2021 4299021983
- マーク・スティックドーン、アダム・ローレンス、マーカス・ホームズ、ヤコブ・シュナイダー This is Services Design Doing サービスデザインの実践 BNN 新書 2020 4802511248
- 紺野登 ソーシャルイノベーションデザイン—日立デザインの挑戦 日本経済新聞出版 2007 4532313686

佐宗邦威 デザイン思考の授業 日本経済新聞出版 2020 4532199948

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PC 等

**その他/ Others**

- ・基本的に授業は対面で行うことを想定していますが、状況によってはオンライン型授業に変更することもあります。
- ・後半の演習は、グループワークでアイデアをまとめていきます。学びを深めるために互いに協力して前向きな議論や 作業分担に努めてください。
- ・ Web site① : <https://linkingsociety.hitachi.co.jp/>
- ・ Web site② : <https://www.hitachi.co.jp/rd/research/design/index.html>

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# マーケティングサイエンス

Marketing Science

小木 しのぶ (OGI SHINOBU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL797  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）「対面（一部オンラインでも参加可能ですが、可能な限り対面で）」  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 寄附講座（株）NTTデータ数理システム

## 授業の目標 / Course Objectives

昨今のビジネス領域においては、集められたデータに様々な数理科学の手法を適用して活用することは、当然となっている。

しかし、どのようなデータをどのように活用すればどのような場面でどのようなメリットが得られるのかについて、正しく理解していないと、判断を誤ってしまう。

本授業では、マーケティングの実践に向けて、データサイエンスや AI がマーケティングのどのような場面で活躍し有用なのかを、事例を交えて理解するとともに、その活用方法やステップについてグループワークを行いながら学ぶ。

様々な手法の中身を理解することも必要だが、それよりも、ビジネスの現場において、課題に直面した際に解決するために必要な知識とスキルを身に付けること、そして自分事として考えられる意識を持てるようになることを主眼とする。

データサイエンスや AI そのものの作りを学ぶのではなく、マーケティングで活用する際に必要なデータサイエンスや AI の知識を身に着ける。

最終回では、与えられた課題・または自身が想定した課題に対して、どのように筋道を立てて解決していくか



をレポートにまとめる。

In today's business, it has become natural to apply and utilize various mathematical science methods to the data. However, if you do not have a correct understanding of what kind of data to use, how to use it, and what benefits can be obtained in what situations, you will end up making incorrect decisions.

In this class, we will use case studies to understand in what situations data science and AI are active and useful in marketing, and we will also learn how to utilize them and the steps through group work, in order to put marketing into practice.

It is also necessary to understand the content of the various methods.

However, more than that, our main focus is on acquiring the knowledge and skills necessary to solve problems when faced with business, and on developing the mindset to think about things as one's own business.

On the final day we give presentations on the assignment each other.

### 授業の内容 / Course Contents

マーケティングの基本を振り返りながら、マーケティングの中でデータサイエンスや AI をどこに用いるのか、それによるメリットやデメリットは何かを、実例を交えながら紹介する。

紹介した内容をもとに、毎回グループワークで類似したケースについて議論し、自身であればどのように活用するか、を理解する。

We learn where to use data science and AI in marketing, and what are the advantages and disadvantages of doing so. While looking back at the basics of marketing using actual examples.

Based on what you have learned, discuss similar cases in group work and understand how you would use it yourself each time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：マーケティング・サイエンスとは
- 2 回：知るためにデータを活用する
- 3 回：何を売るか・誰に売るか・いくらで売るか の マーケティングサイエンス
- 4 回：どう売るか・どこで売るか の マーケティングサイエンス
- 5 回：マーケティングサイエンスの数理最適化
- 6 回：マーケティングサイエンスのシミュレーション
- 7 回：演習 データ分析
- 8 回：演習 テキストマイニング
- 9 回：課題を解決するためのステップ
- 10 回：課題を解決するためのステップ
- 11 回：マーケティングに使われる様々な手法のまとめ
- 12 回：マーケティングサイエンス実施のための設計・これまでの質疑応答
- 13 回：マーケティングサイエンスの使い方と、マーケティングサイエンスの仕組化（システム化）
- 14 回：レポート発表とまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

日頃から、身の回りでのデータの存在、マーケティングサイエンスの活用例を見つけ、どのような目的でどのような効果を得るために実施されているのかを意識する。

その他、授業内で適宜指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:30% 貢献度:30% 最終レポート割合 :40%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

庄司 貴行・斎藤 明・平井直樹 [監修] 立教大学ビジネスデザイン研究所 (編集) デジタル&デザイン・トランスフォーメーション-DX とデザイン志向の未来戦略 有斐閣アルマ 2023 4794426119

生田目 崇 マーケティングのための統計分析 オーム社 2017 9784274221016

朝野 熙彦 (著, 編集) マーケティング・サイエンスのトップランナーたち 東京図書 2016  
9784489022344

森下 光之助 機械学習を解釈する技術～予測力と説明力を両立する実践テクニック 技術評論社 2021  
9784297122263

大坪 直樹 (著), 中江 俊博 (著), 深沢 祐太 (著), 豊岡 祥 (著), 坂元 哲平 (著), 佐藤 誠 (著), 五十嵐 健太 (著), &2 その他 XAI(説明可能な AI)--そのとき人工知能はどう考えたのか? リックテレコム 2021  
9784865942927

足立光 他 ハーバードビジネスレビュー 2023年1月号「これからのマーケティング」 ダイヤモンド社  
2023 24323578

清水 隆史, 浅田 晃佑 実践 マーケティングデータサイエンス: ショッパー行動の探索的データ解析と機械学習モデル構築 学術図書出版社 2023 4780610516

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

・ 回帰・相関が分かる程度の統計的知識

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ホテルディベロップメント 1

Hotel development 1

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL798

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル所有、経営、運営におけるストラクチャーと契約形態について学ぶ。
- \* ホテル開発における投資から開業準備までのプロセスと主要なステークホルダー（オーナー、オペレーター、プロジェクトマネージャーなど）の役割について学ぶ。
- \* 国内系、外資系のホテルオペレーターの開発戦略について考える。
- \* Understand hotel ownership, management, and operation structure, and types of hotel contracts.
- \* Study the hotel development process from hotel investment to hotel pre-opening, and key stakeholders such as hotel owners, developers, project managers, and hotel operators)
- \* Study strategies of both national and international hotel operators.

## 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテル開発の各プロセス（ホテルコンセプト開発、ホテルオペレーター選定、ホテル建築、設計、デザイン、ホテル開業準備など）について講義する。
- \* ホテル開発における各プレーヤー（ホテルデベロッパー、不動産投資ファンド、アセットマネージャー、プロジェクトマネージャー、ホテルオペレーター、インテリアデザイナー、コンサルタントなど）の役割について

て説明する。

\*アセットマネジメント、マーケットスタディー、フィージビリティスタディー、ホテルマネジメントコントラクト、リノベーションなどの重要なテーマについて説明する。

\*予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。

\* Explain about the hotel development process: concept development, hotel operator selection, architecture and design, hotel pre-opening.

\* Explain about the key stakeholders: hotel developers, real estate funds, asset managers, project managers, hotel operators, interior designers, and other consultants.

\* Cover the important topics including asset management, market research, feasibility studies, hotel management contracts, and renovations.

\* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ホテルビジネス、開発とは

2回：ホテルストラクチャーについて

3回：ホテルデベロッパーについて

4回：ホテルデベロッパーについて

5回：ホテルアセットマネジメントについて

6回：ホテルアセットマネジメントについて

7回：ホテルプロジェクトマネジメントについて

8回：ホテルプロジェクトマネジメントについて

9回：ホテルコンセプト開発について

10回：ホテルコンセプト開発について

11回：マーケットスタディー・フィージビリティスタディーについて

12回：マーケットスタディー・フィージビリティスタディーについて

13回：ホテルデザインについて

14回：ホテルデザインについて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:		:			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30% 最終レポート割合 :35%

**テキスト/ Textbooks****参考文献 / Readings**

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか  
白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

村上実、池村友浩 ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる クロスメディア・パブリッ  
シング 2019 9784295403852

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016  
9784502181412

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\*ホテルの収益予測や資産価値評価を行うので、ファイナンスの基礎の授業を履修しているかまたは理解して  
いることが望しい。

\*エクセルの基本的な活用ができること。

**その他/ Others**

\*ホテルデベロップメント1と2 (VL798&VL799) は内容について関係するので両方をセットで履修するこ  
とが望ましい。

\*ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、ホテルマネジメント1と2 (VL719&VL721) の授業を履修  
していることが望ましい。もし履修していない場合は、参考文献の「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」を  
授業の開始まで読み理解しておくこと。

\*ホテルビジネスの用語についてわからない場合はこの参照サイトなどで確認しておくこと。

<https://www.amworks.jp/glossar>

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッ  
ションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# ホテルディベロップメント 2

Hotel development 2

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL799  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル所有、経営、運営におけるストラクチャーと契約形態について学ぶ。
- \* ホテル開発における投資から開業準備までのプロセスと主要なステークホルダー（オーナー、オペレーター、プロジェクトマネージャーなど）の役割について学ぶ
- \* 国内系、外資系のホテルオペレーターの開発戦略について学ぶ
- \* Understand hotel ownership, management, and operation structure, and types of hotel contracts.
- \* Study the hotel development process from hotel investment to hotel pre-opening, and key stakeholders such as hotel owners, developers, project managers, and hotel operators)
- \* Study strategies of both national and international hotel operators.

## 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテル開発の各プロセス（ホテルコンセプト開発、ホテルオペレーター選定、ホテル建築、設計、デザイン、ホテル開業準備など）について講義する。
- \* ホテル開発における各プレイヤー（ホテルデベロッパー、不動産投資ファンド、アセットマネージャー、プロジェクトマネージャー、ホテルオペレーター、インテリアデザイナー、コンサルタントなど）の役割について

て説明する。

\*アセットマネジメント、マーケットスタディー、フィージビリティスタディー、ホテルマネジメントコントラクト、リノベーションなどの重要なテーマについて説明する。

\*予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。

\* Explain about the hotel development process: concept development, hotel operator selection, architecture and design, hotel pre-opening.

\* Explain about the key stakeholders: hotel developers, real estate funds, asset managers, project managers, hotel operators, interior designers, and other consultants.

\* Cover the important topics such as asset management, market research, feasibility studies, hotel management contracts, and renovations.

\* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：国内ホテルオペレーター（1）の開発戦略について
- 2回：国内ホテルオペレーター（1）の開発戦略について
- 3回：外資ホテルオペレーターの開発戦略について
- 4回：外資ホテルオペレーターの開発戦略について
- 5回：国内ホテルオペレーター（2）の開発戦略について
- 6回：国内ホテルオペレーター（2）の開発戦略について
- 7回：ホテルリノベーションについて
- 8回：ホテルリノベーションについて
- 9回：ホテル投資について
- 10回：ホテル投資について
- 11回：ホテル開業準備について
- 12回：ホテル開業準備について
- 13回：ホテル開発についてのケーススタディー
- 14回：ホテル開発についてのケーススタディー

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30% 最終レポート割合 :35%

**テキスト/ Textbooks****参考文献 / Readings**

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか  
白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

村上実、池村友浩 ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる クロスメディア・パブリッ  
シング 2019 9784295403852

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016  
9784502181412

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\*ホテルの収益予測や資産価値評価を行うので、ファイナンスの基礎の授業を履修しているかまたは理解して  
いることが望しい。

\*エクセルの基本的な活用ができること。

**その他/ Others**

\*ホテルデベロップメント1と2 (VL798&VL799) は内容について関係するので両方をセットで履修するこ  
とが望ましい。

\*ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、ホテルマネジメント1と2 (VL719&VL721) の授業を履修  
していることが望ましい。もし履修していない場合は、参考文献の「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」を  
授業の開始まで読み理解しておくこと。

\*ホテルビジネスの用語についてわからない場合はこの参照サイトなどで確認しておくこと。

<https://www.amworks.jp/glossar>

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッ  
ションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 街づくりデザイン

Urban Development Design

今中 啓太 (IMANAKA KEITA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL800  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）「対面」  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS6700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考： 寄附講座 NTT アーバンソリューションズ総合研究所

## 授業の目標 / Course Objectives

すべての人は、様々な営みを行いながら日々、「まち」で過ごしている。  
しかし、日本では、その「街づくり」は専門家や行政、不動産開発事業者の限られた人が行うものとの認識が強く、そもそも興味や自らが参加意識を持つ人は少ない。  
当講義では、デザインという視点を中心に「街づくり」に触れることで「街づくり」への興味、自らが関わることへの関心を高めてもらう。

Everyone has been living in a "town" while doing various activities.

However, in Japan, few people are interested or have a sense of participation in "Town planning"

because there is a recognition that "Town planning" is carried out by a limited number of specialists, governments, and real estate developers..

Through this lecture, I would like you to raise your interest and own involvement in "Town planning" focusing on the perspective of design.

## 授業の内容 / Course Contents

「まち」はどのようにデザインされているのか？

様々な人が様々な形で関わる「まち」には、様々な「街づくり」の取り組みがある。

「まち」を構成するハードやソフトの要素、開発の経緯、具体化への手法等について様々な考え方や事例紹介と解説を中心とした講義。

他受講生とのグループでの議論も踏まえ、設定テーマの「まち」のデザインレポートの作成とプレゼンテーションの実施。

What is a "Town design"?

There are various "Town planning" initiatives in which various people are involved in various ways.

This lecture focuses on the explanation of various ideas and case studies about hardware and software elements, development process, and implementation method for towns.

Students will be required to create a report based on group discussions with other students, and give a presentation on the "town" of the set theme.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：0 講：カリキュラム概要説明 - 授業アジェンダ、セルフワーク概要、自己紹介など -
- 1 講：街づくりデザインとは - まち・都市のデザイン要素 -
- 2 回：2 講：街づくりのバリエーション - まちの変化の様々なきっかけ -
- 3 回：3 講：街づくりの実現プロセス - 時代の変化による街づくり手法とビジネス性 -
- 4 回：4 講：まちの安心安全のデザイン - 地域防災から見る街づくりのデザイン -
- 5 回：5 講：センシングデータの活用と街づくり - まちの活性度の見える化指標と手法 -
- 6 回：6 講：地域活性化への取り組み - 国家戦略と地域の活動 -
- 7 回：7 講：グループワーク 1 (7 講・8 講)
- 8 回：8 講：グループワーク 1 (7 講・8 講)
- 9 回：9 講：パブリックスペースから見る街づくり - 緑地・道路・公園広場などの役割 -
- 10 回：10 講：ノンアセット・デジタルな街づくりへの取り組み - ひと中心の地域創生を考える -
- 11 回：11 講：グループワーク 2 (11 講・12 講)
- 12 回：12 講：グループワーク 2 (11 講・12 講)
- 13 回：13 講：セルフワーク発表、討議
- 14 回：14 講：セルフワーク発表、討議、全体総括

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各章についての予習は必須ではありません。計 2 回のグループワークおよび最終の個人ワークのテーマは初回（0 講）にて提示いたします。それらの発表に向けての復習、準備は必要となります。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常点:100%

出席および授業・演習への貢献(40%)、レポート(30%)、最終プレゼンテーション課題(30%)

### テキスト / Textbooks

**参考文献 / Readings**

---

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# アジア経済論 1

Lecture of Asian Economy 1

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL802

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS5100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アジア各国の経済構造の分析を通し、アジア地域が抱えている諸問題の解明とその解決方法について考察する。

Through the analysis of the economic structure of Asian countries, we will consider the elucidation of various problems in the Asian region and their solutions.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストの輪読を通して、アジア地域が抱えている諸問題－所得格差、環境破壊、ジェンダー問題、地域紛争等－の発生の背景、課題などを考える。

授業の進め方は、履修者による報告と議論を通して上記問題を履修者自らの頭で考える力を養う。

Through reading the textbook, we will consider the background and issues of various problems (income disparity, environmental destruction, gender problems, regional conflicts, etc.) that the Asian region has.

As for how to proceed with the lessons, students will develop the ability to think about the above problems by themselves through reports and discussions by the students.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：経済開発の今日的課題
- 3回：萌芽期の経済開発 1
- 4回：萌芽期の経済開発 2
- 5回：物的成長から人間の成長へと転化した開発経済学
- 6回：もう一つの潮流としての開発経済学 1
- 7回：もう一つの潮流としての開発経済学 2
- 8回：OECD レポートと NIC s
- 9回：量から質へと転換する経済開発目標
- 10回：持続可能な経済開発
- 11回：開発経済学の再生に向けて 1
- 12回：開発経済学の再生に向けて 2
- 13回：21 世紀の開発経済学
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中での発表:50% 授業での発言:30% 授業への貢献:20%

#### テキスト / Textbooks

郭洋春 経済開発の過去・現在・未来：開発経済学の果たした役割 文真堂 2023 ○

#### 参考文献 / Readings

郭洋春編著 『開発リスクの政治経済学』 文真堂 2013 483094806

郭洋春著 『国家戦略特区の正体』 集英社 2016

郭洋春 100 均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方 プレジデント社 2022 9784833424653

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

## アジア経済論 2

Lecture of Asian Economy 2

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL803  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5100  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

アジアで起きている諸問題を学ぶことで、21世紀のアジア、日本とアジアとの関係などを理解する。アジアのダイナミズムの理解を通して、日本経済の抱えている課題を振り返る。最終的には世界経済の中で、アジア経済の占める位置・意義について理解する。

By studying various problems occurring in Asia, we will understand Asia in the 21st century and the relationship between Japan and Asia. Through understanding the dynamism of Asia, we will look back on the challenges facing the Japanese economy. Finally, understand the position and significance of the Asian economy in the world economy.

### 授業の内容 / Course Contents

アジアで起きている諸問題を解説しながら、その発生要因、解決方法等を理解する。また、アジアの一員である日本が、今後アジア諸国とどのように付き合っていくのかを解説することで、アジアの中の日本の果たすべき役割について考える契機とする。授業の後半にはバズセッション（グループディスカッション）を行い、受講生自らが上記問題について考える力を養えるようにする。

While explaining various problems that are currently occurring in Asia, understand the causes and solutions. In

addition, by explaining how Japan, which is a member of Asia, will deal with Asian countries in the future, it will be an opportunity to think about the role that Japan should play in Asia. Buzz sessions (group discussions) will be held in the latter half of the class so that students can develop their own ability to think about the above problems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：世界が注目するアジア
- 2 回：なぜアジアは経済成長したのか 1
- 3 回：なぜアジアは経済成長したのか 2
- 4 回：巨大サプライチェーンの拠点・アジア
- 5 回：本物を凌駕する？アジアのコピー商品
- 6 回：成長戦略と化したアジアのエンタメ 1
- 7 回：成長戦略と化したアジアのエンタメ 2
- 8 回：インバウンドこそ日本が生き残る道 1
- 9 回：インバウンドこそ日本が生き残る道 2
- 10 回：増える人口・減る食糧
- 11 回：アジアに広がる領土問題
- 12 回：増える人口・減る食糧
- 13 回：アジアにおける環境問題
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んできて、持参すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での報告:50% 授業中の発言:30% 授業への貢献:20%

### テキスト / Textbooks

第1回授業で提示

### 参考文献 / Readings

郭洋春 『TPP すぐそこに迫る亡国の罟』 三交社 2013 4879197122

郭洋春 『100均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』 プレジデント社 2022  
9784833424653

郭洋春 『国家戦略特区の正体』 集英新書 2016

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 不動産アセットマネジメント 1

Real Estate Asset Management 1

日本における HNWI 不動産ビジネスの始まり / ホスピタリティとブランディング

真田 年幸 (SANADA TOSHIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL804

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 6名の講師が、自分達が関わっている HNWI ビジネスに基づいてレクチャーします。

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本においても、ようやく HNWI(ハイネットワース・インディビデュアル)をターゲットとした不動産ビジネスが注目されています。それらのプロジェクト開発、マネジメント、サービス、そしてブランディングについて、アジア・欧米との比較の中で日本の現在を考え、知見を高めることを目指します。

In Japan, real estate business targeting HNWI (High Net Worth Individuals) is finally attracting attention. We aim to enhance our knowledge of those project development, management, services, and branding by considering Japan's current situation in comparison with Asia, Europe, and the United States.

## 授業の内容 / Course Contents

5名のゲストスピーカーと共に、それぞれのテーマに基づいたビジネスの背景、実情を理解し、受講者自らの関心に照らして議論します。それぞれのゲストスピーカーが携わった実際のプロジェクトをケーススタディとして、具体的な考察が可能です。一名のゲストスピーカーは、香港から Zoom にて加わり、英語でのレクチャーになります。通訳は、真田が行います。

尚、授業計画の講師の順序は変わることがあります。



また、講師によっては、事例視察としてフィールドワークを実施することもあります。

Together with five guest speakers, participants will understand the background and actual situation of each theme-based business and discuss it in light of own interests. Each guest speaker will use an actual project in which he or she has been involved as a case study to provide concrete insights. One guest speaker will join us from Hong Kong via Zoom, and the lecture will be given in English. Sanada will provide interpretation. The order of lecturers in the lesson plans may change. Some lecturers may also conduct fieldwork as case study visits.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：マクロの視点から見たアジアにおける都市開発、富裕層向け不動産開発(1) 真田年幸  
Urban Development and Real Estate Development for High Net Worth Individuals in Asia from a Macro Perspective (1) Toshiyuki Sanada
- 2回：マクロの視点から見たアジアにおける都市開発、富裕層向け不動産開発(2) 真田年幸  
Urban Development and Real Estate Development for High Net Worth Individuals in Asia from a Macro Perspective (2) Toshiyuki Sanada
- 3回：ラグジュアリーブランドの視点から考える世界の不動産開発(1) 山海卓・真田年幸  
Global Real Estate Development from a Luxury Brand Perspective (1) Taku Yamaumi + Toshiyuki Sanada
- 4回：ラグジュアリーブランドの視点から考える世界の不動産開発(2) 山海卓・真田年幸  
Global Real Estate Development from a Luxury Brand Perspective (2) Taku Yamaumi + Toshiyuki Sanada
- 5回：アジアにおける富裕層向け不動産開発のブランディングについて(1) Chris Fjeddahl・真田年幸  
Branding of Real Estate Development for High Net Worth Individuals in Asia (1) Chris Fjeddahl + Toshiyuki Sanada
- 6回：アジアにおける富裕層向け不動産開発のブランディングについて(2) Chris Fjeddahl・真田年幸  
Branding of Real Estate Development for High Net Worth Individuals in Asia (2) Chris Fjeddahl + Toshiyuki Sanada
- 7回：アジアにおけるリテール不動産開発の新世代へのブランディング(1) Theodore Knipfing・真田年幸  
Branding Retail Real Estate Development in Asia for a New Generation (1) Theodore Knipfing + Toshiyuki Sanada
- 8回：アジアにおけるリテール不動産開発の新世代へのブランディング(2) Theodore Knipfing・真田年幸  
Branding Retail Real Estate Development in Asia for a New Generation (2) Theodore Knipfing + Toshiyuki Sanada
- 9回：ライフスタイルコンシェルジェという新しいチャレンジについて(1) マニヤン麻里子・真田年幸  
On the New Challenge of Being a Lifestyle Concierge (1) Mariko Magnan + Toshiyuki Sanada
- 10回：ライフスタイルコンシェルジェという新しいチャレンジについて(2) マニヤン麻里子・真田年幸  
On the New Challenge of Being a Lifestyle Concierge (2) Mariko Magnan + Toshiyuki Sanada
- 11回：富裕層向けのエクスクルーシブな住宅開発について(1) 廣井康士郎・真田年幸  
Exclusive Housing Development for High Net Worth Individuals (1) Kojiro Hiroi + Toshiyuki Sanada
- 12回：富裕層向けのエクスクルーシブな住宅開発について(2) 廣井康士郎・真田年幸  
Exclusive Housing Development for High Net Worth Individuals (2) Kojiro Hiroi + Toshiyuki Sanada
- 13回：全講義を振り返っての総括、レポート発表、講評、議論(1) 真田年幸・他講師  
Review of all lectures, report presentation, review, discussion (1) Toshiyuki Sanada, other lecturer
- 14回：全講義を振り返っての総括、レポート発表、講評、議論(2) 真田年幸・他講師

Review of all lectures, report presentation, review, discussion (2) Toshiyuki Sanada, other lecturer

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

特にありません。

None in particular.

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席率:30% 議論・発言:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

グローバルに不動産開発、ブランディング、建築デザインに興味を持っていること。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# データサイエンス 1

Data Science 1

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL806  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスを研究やビジネスに活用する方法と事例について学ぶ。また定量的なエビデンスをもとにした意思決定を行うための考え方を習得する。

Learn about applications and examples of data science in research and business. Acquire skills to analyze and make decisions based on quantitative evidence.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの手法と活用事例について学ぶとともに、データ分析ツールを用いた実践を行う。データ分析の考え方からデータの収集・前処理・可視化・分析の方法とその実践までを広く扱うことで、研究および修了後の実務に活かせるデータ分析スキルの習得を目指す。本講義では特に構造化データの分析に焦点を当て、分析ツールとして主に Excel と R を使用することを想定している。ただし統計学やプログラミングに馴染みがない場合でも理解しやすいよう、極力数式や複雑なプログラミングを用いず、研究や実務における事例やシンプルな R での処理をもとにデータ分析の要点を解説する。

In this class, students will learn about data science methods and applications, as well as practice using data analysis tools. The objective is to acquire data analysis skills that can be used in research and business by covering

a wide range of topics from the concept of data analysis to methods and practices of data collection, pre-processing, visualisation and analysis. This class focuses particularly on the analysis of structured data and assumes the use of Excel and R as the main analysis tools. However, in order to be accessible to those who are not familiar with statistics or programming, the lecture will explain the essentials of data analysis using examples from research and practice and simple processing in R, avoiding as much as possible the use of formulae or complicated programming.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Excelによるデータサイエンス入門
- 3回：データサイエンスの活用事例
- 4回：Rによるデータサイエンス
- 5回：データの収集
- 6回：データの前処理と利用
- 7回：回帰分析 1
- 8回：回帰分析 2
- 9回：機械学習 1
- 10回：機械学習 2
- 11回：因果推論
- 12回：クラスタリング
- 13回：最終プレゼンテーション
- 14回：フィードバックと講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で解説した内容をもとに分析の設計およびデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、最終プレゼンテーションにて発表する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:40% 授業への貢献:20% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データ分析等に必要となるため PC を準備すること。なお分析には主に Excel、R を用いることを想定している。

### その他 / Others

非構造化データを主に扱うデータサイエンス2もあわせて履修することを推奨する。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# データサイエンス 2

Data Science 2

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL807  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスを研究やビジネスに活用する方法と事例について学ぶ。また定量的なエビデンスをもとにした意思決定を行うための考え方を習得する。

Learn about applications and examples of data science in research and business. Acquire skills to analyze and make decisions based on quantitative evidence.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの手法と活用事例について学ぶとともに、データ分析ツールを用いた実践を行い、研究および修了後の実務に活かせるデータ分析スキルの習得を目指す。本講義では特に非構造化データとしてのテキストデータの分析に焦点を当て、分析ツールとして主に KH コーダー、R、Python を使用することを想定している。ただし統計学やプログラミングに馴染みがない場合でも理解しやすいよう、極力数式や複雑なプログラミングを用いず、研究や実務における事例や KH コーダー、R、Python でのシンプルな処理をもとにデータ分析の要点を解説する。あわせて、自然言語処理の新潮流として ChatGPT などのいわゆる Generative AI についても触れる。

In this class, students will learn about data science methods and applications, as well as practice using data

analysis tools. The objective is to acquire data analysis skills that can be used in research and business. This class focuses particularly on the analysis of textual data as unstructured data and assumes the use of KH Coder, R and Python as the main analysis tools. However, in order to be accessible to those who are not familiar with statistics or programming, the lecture will explain the essentials of data analysis using examples from research and practice and simple processing in KH Coder, R and Python, avoiding as much as possible the use of formulae or complicated programming. This class will also discuss generative AI, such as ChatGPT, as a new trend in natural language processing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：非構造化データ分析入門
- 3 回：KH コーダーによるテキストデータ分析
- 4 回：KH コーダー実践 1
- 5 回：KH コーダーの研究への応用事例
- 6 回：KH コーダー実践 2
- 7 回：RMeCab によるテキストデータ分析
- 8 回：RMeCab 実践
- 9 回：事前学習モデル：BERT によるテキストデータ分析
- 10 回：BERT の活用事例
- 11 回：事前学習モデル：GPT-3.5、GPT-4 (ChatGPT)
- 12 回：ChatGPT の活用事例
- 13 回：最終プレゼンテーション
- 14 回：フィードバックと講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で解説した内容をもとに分析の設計およびデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、最終プレゼンテーションにて発表する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:40% 授業への貢献:20% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データ分析等に必要となるため PC を準備すること。なお分析には主に KH コーダー、R、Python を用いることを想定している。

**その他/ Others**

構造化データを主に扱うデータサイエンス1もあわせて履修することを推奨する。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 統計処理演習

Exercises in Statistical Processing

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL808  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

統計学にもとづくデータの処理・分析の方法を学ぶとともに、実践を通じて修了研究および修了後の業務に活かせるデータ分析スキルを習得する。

Acquire skills in processing and analyzing data using statistical methods. Through practical exercises, develop data analysis skills applicable to a master's academic paper and business.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、修了研究への活用に主眼を置いて、統計学にもとづくデータの処理・分析を行う方法と実例について学び、データ分析ツールを用いた実践を行う。特に修了研究に資することを目的として、実際に各自の研究テーマにあわせてデータの収集から分析までを実践する。あわせて、データ分析の考え方からデータの収集・前処理・可視化・分析の方法とその実践までを広く扱うことで、修了研究だけでなく修了後の実務にも活かせるデータ分析スキルの習得を目指す。分析ツールとしては主に R を想定しているが、統計学やプログラミングに馴染みがない場合でも理解しやすいよう、極力数式や複雑なプログラミングを用いず、研究や実務における事例やシンプルな R での処理をもとにデータ分析の要点を解説する。

In this class, students will learn how to process and analyze data based on statistics and practice using data

analysis tools, with a particular focus on application to a master's academic paper. Specifically, with the aim of contributing to a master's academic paper, students will practice data collection and analysis according to their own research topics. In addition, by covering a wide range of topics from the concept of data analysis to methods and practices of data collection, pre-processing, visualisation and analysis, students aim to acquire data analysis skills that can be used not only in a master's academic paper, but also in business. Although R is the primary analysis tool, the key points of data analysis are explained using examples from research and business, along with simple processing in R. This approach avoids complex formulae or programming to make it easy to understand for those unfamiliar with statistics or programming.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：統計処理を用いた実証研究の事例
- 3回：実証研究の設計
- 4回：データの収集
- 5回：データの理解
- 6回：統計的仮説検定
- 7回：データの前処理
- 8回：多変量解析
- 9回：因果推論
- 10回：クラスタリング
- 11回：非構造化データの分析
- 12回：事前学習モデルの利用
- 13回：最終プレゼンテーション
- 14回：フィードバックと講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で解説した内容をもとに実証研究の設計およびデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、最終プレゼンテーションにて発表する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:40% 授業への貢献:20% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

履修にあたって必ずしも統計学およびプログラミングの能力は必要ではないが、修了研究に統計処理・データ

分析を用いる意欲が求められる。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

データ分析等に必要となるため PC を準備すること。なお定量分析には主に R を用いることを想定している。

### **その他/ Others**

本講義の履修上限は 10 名とし、履修にあたって事前に選考を実施する予定である。選考の詳細については別途周知する。

### **注意事項**

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50% 以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 統計処理演習

Exercises in Statistical Processing

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： VL809  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS5800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 演習・ゼミ  
履修登録方法： その他登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

統計学にもとづくデータの処理・分析の方法を学ぶとともに、実践を通じて修了研究および修了後の業務に活かせるデータ分析スキルを習得する。

Acquire skills in processing and analyzing data using statistical methods. Through practical exercises, develop data analysis skills applicable to a master's academic paper and business.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、修了研究への活用に主眼を置いて、統計学にもとづくデータの処理・分析を行う方法と実例について学び、データ分析ツールを用いた実践を行う。特に修了研究に資することを目的として、実際に各自の研究テーマにあわせてデータの収集から分析までを実践する。あわせて、データ分析の考え方からデータの収集・前処理・可視化・分析の方法とその実践までを広く扱うことで、修了研究だけでなく修了後の実務にも活かせるデータ分析スキルの習得を目指す。分析ツールとしては主に R を想定しているが、統計学やプログラミングに馴染みがない場合でも理解しやすいよう、極力数式や複雑なプログラミングを用いず、研究や実務における事例やシンプルな R での処理をもとにデータ分析の要点を解説する。

In this class, students will learn how to process and analyze data based on statistics and practice using data

analysis tools, with a particular focus on application to a master's academic paper. Specifically, with the aim of contributing to a master's academic paper, students will practice data collection and analysis according to their own research topics. In addition, by covering a wide range of topics from the concept of data analysis to methods and practices of data collection, pre-processing, visualisation and analysis, students aim to acquire data analysis skills that can be used not only in a master's academic paper, but also in business. Although R is the primary analysis tool, the key points of data analysis are explained using examples from research and business, along with simple processing in R. This approach avoids complex formulae or programming to make it easy to understand for those unfamiliar with statistics or programming.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：統計処理を用いた実証研究の事例
- 3回：実証研究の設計
- 4回：データの収集
- 5回：データの理解
- 6回：統計的仮説検定
- 7回：データの前処理
- 8回：多変量解析
- 9回：因果推論
- 10回：クラスタリング
- 11回：非構造化データの分析
- 12回：事前学習モデルの利用
- 13回：最終プレゼンテーション
- 14回：フィードバックと講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で解説した内容をもとに実証研究の設計およびデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、最終プレゼンテーションにて発表する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:40% 授業への貢献:20% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

履修にあたって必ずしも統計学およびプログラミングの能力は必要ではないが、修了研究に統計処理・データ

分析を用いる意欲が求められる。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

データ分析等に必要となるため PC を準備すること。なお定量分析には主に R を用いることを想定している。

### **その他/ Others**

本講義の履修上限は 10 名とし、履修にあたって事前に選考を実施する予定である。選考の詳細については別途周知する。

### **注意事項**

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50% 以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

# 地域イノベーションデザイン

Local Innovation Design

地域イノベーションデザイン/ Regional Innovation Design

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： VL810

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS6700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本各地で起こった革新的な地域再生事例を学び、視野を広げることを授業の目標とする。地域固有の問題をつきとめ、革新的な解決方法を見出すことで日本経済の再生策を探る。

This course will expand one's horizons by reviewing various kinds of regional renovation cases in Japan. Students will be able to identify region-specific problems and find innovative solutions to revitalize Japanese economy.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、日本の田舎から都心まで日本各地で起きている革新的な地域再生事例について学ぶ。授業の前に、指定された本や映画を観てくることで、活発なクラス・ディスカッションを行う。実際のイノベーション事例を理解するために、ゲストスピーカーを招聘する。

This course explores outstanding regional renovation cases from deeply rural areas to the center of Tokyo. Students will be asked to read some books and to view films in advance, and participate in class discussion. We will invite some guest speakers to understand real-world innovation challenges.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：地方経済の発展と衰退

江戸時代（北前船）・明治維新（生糸）・戦後の復興（造船）・バブル経済崩壊後

2回：東御市のワイン産業

ナパバレーとの比較

3回：アートによる地域デザイン 新潟県十日町市

4回：テーマによる地域デザイン 北海道東川町 山梨県小菅村

5回：東京の地域活性化・地域資源活用事例1

6回：東京の地域活性化・地域資源活用事例2

7回：地域資源の活用事例 福島県スパリゾート・ハワイアンズ

8回：スポーツによる地域活性化事例

9回：地域資源の活用事例1 空き家の再生

10回：地域資源の活用事例2

11回：地域資源の活用事例3

12回：IT企業の地域活性化事例

13回：「今治タオル 軌跡の復活」

14回：JAPAN ブランドの可能性

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指定した本を読み、映画を視聴してポイントをまとめる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 課題提出:50%

#### テキスト / Textbooks

藻谷ゆかり 『山奥ビジネス 一流の田舎を創造する』 新潮新書 2022 9784106109713 ○

佐藤可土和 『今治タオル 奇跡の復活』 朝日新聞出版 2014 9784023313392 -

『今治タオル 奇跡の復活』は版元品切れのため、電子書籍で用意すること。

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

クラス・ディスカッションへの参加が重要なため、毎回の出席が必須です。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。



# 経営学特別研究 5

Advanced Topics in Business Administration 5

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG205  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文執筆に必要な知識とスキルを習得し執筆を行う。

Writing a doctoral dissertation while acquiring the necessary knowledge and skills.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士学位論文執筆に向けた研究指導を行う。

The purpose of this class is to provide research guidance for the writing of a doctoral dissertation.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの共有
- 2 回：研究計画の策定報告（含：学会報告・査読論文投稿）
- 3 回：研究の進捗報告と個別指導
- 4 回：研究の進捗報告と個別指導
- 5 回：研究の進捗報告と個別指導
- 6 回：研究の進捗報告と個別指導

- 7回：研究の進捗報告と個別指導  
 8回：研究の進捗報告と個別指導（計画・課題の修正）  
 9回：研究の進捗報告と個別指導  
 10回：研究の進捗報告と個別指導  
 11回：研究の進捗報告と個別指導  
 12回：研究の進捗報告と個別指導  
 13回：研究の進捗報告と個別指導  
 14回：研究の進捗に応じた課題確認と目標設定（含：学会報告・査読論文投稿）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究テーマを中心に多数の学術論文を読むことを推奨します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内での研究報告：100%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない

### 参考文献 / Readings

川崎剛 優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

藤本隆宏他 リサーチ・マインド経営学研究法 有斐閣アルマ 2012 4641122385

上記はいずれも立教大学図書館の蔵書です。その他必要に応じて授業の中で適宜提示します。

# 経営学特別研究 6

Advanced Topics in Business Administration 6

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG206  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文執筆に必要な知識とスキルを習得し執筆を行う。

Writing a doctoral dissertation while acquiring the necessary knowledge and skills.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、経営学特別研究 5 に引き続き、博士学位論文執筆に向けた研究指導を行う。

The purpose of this class is to provide research guidance for the writing of a doctoral dissertation.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究の進捗報告と個別指導
- 2 回：研究の進捗報告と個別指導（含：学会報告・査読論文投稿）
- 3 回：研究の進捗報告と個別指導
- 4 回：研究の進捗報告と個別指導
- 5 回：研究の進捗報告と個別指導
- 6 回：研究の進捗報告と個別指導

- 7回：研究の進捗報告と個別指導  
 8回：研究の進捗報告と個別指導  
 9回：研究の進捗報告と個別指導（計画・課題の修正）  
 10回：研究の進捗報告と個別指導  
 11回：研究の進捗報告と個別指導  
 12回：研究の進捗報告と個別指導  
 13回：研究の進捗報告と個別指導  
 14回：研究成果の確認とまとめ（計画・課題の修正）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究テーマを中心に多数の学術論文を読むことを推奨します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での研究報告：100%

#### テキスト / Textbooks

特に指定しない

#### 参考文献 / Readings

川崎剛 優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

藤本隆宏他 リサーチ・マインド経営学研究法 有斐閣アルマ 2012 4641122385

上記はいずれも立教大学図書館の蔵書です。その他必要に応じて授業の中で適宜提示します。

# 経営学特別研究 7

Advanced Topics in Business Administration 7

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG207  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題意識と「問い」の検討
- 2 回：問題意識と「問い」の検討
- 3 回：問題意識と「問い」の検討
- 4 回：先行研究の検討：理論的背景
- 5 回：先行研究の検討：理論的背景
- 6 回：先行研究の検討：理論的背景
- 7 回：先行研究の検討：実証研究の検討
- 8 回：先行研究の検討：実証研究の検討
- 9 回：先行研究の検討：実証研究の検討

- 10回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 11回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 12回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 13回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 14回：先行研究の批判と Research Question の提起

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

授業の中で適宜指示します。

#### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 8

Advanced Topics in Business Administration 8

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG208  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 2 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 3 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 4 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 5 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 6 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 7 回：実証分析・調査の方法論的検討
- 8 回：実証分析・調査の方法論的検討
- 9 回：実証分析・調査の方法論的検討

- 10回：実証分析・調査の方法論的検討  
 11回：調査結果・分析結果の解釈と考察  
 12回：調査結果・分析結果の解釈と考察  
 13回：調査結果・分析結果の解釈と考察  
 14回：調査結果・分析結果の解釈と考察

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

授業の中で適宜指示します。

#### 参考文献 / Readings



# 経営学特別研究 1 1

Advanced Topics in Business Administration 11

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG211  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
- 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

## 授業の内容 / Course Contents

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。  
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。  
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。  
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（1）
- 2 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（2）
- 3 回：研究方法に関する指導（1）
- 4 回：研究方法に関する指導（2）
- 5 回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（1）

- 6回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（2）  
 7回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（1）  
 8回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（2）  
 9回：仮説検証等データ収集と分析手法の報告（1）  
 10回：仮説検証データ収集と分析手法の報告（2）  
 11回：学会報告や論文投稿等準備（1）  
 12回：学会報告や論文投稿等準備（2）  
 13回：学会報告や論文投稿等準備（3）  
 14回：学会報告や論文投稿等準備（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動（査読論文執筆、学会発表など）を、積極的に行うことを推奨します。

加えて、関連する領域や分野の古典や論文（欧文・和文）を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により1回程度対面実施を検討する。

# 経営学特別研究 1 2

Advanced Topics in Business Administration 12

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG212  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
- 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

## 授業の内容 / Course Contents

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。  
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。  
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。  
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（1）
- 2 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（2）
- 3 回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（1）
- 4 回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（2）
- 5 回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（1）

- 6回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（2）  
 7回：仮説検証等データ収集と分析手法の報告（1）  
 8回：仮説検証データ収集と分析手法の報告（2）  
 9回：学会報告や論文投稿等準備（1）  
 10回：学会報告や論文投稿等準備（2）  
 11回：学会報告や論文投稿等準備（3）  
 12回：学会報告や論文投稿等準備（4）  
 13回：各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有（1）  
 14回：各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動（査読論文執筆、学会発表など）を、積極的に行うことを推奨します。

加えて、関連する領域や分野の古典や論文（欧文・和文）を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により1回程度対面実施を検討する。

# 経営学特別研究 1 3

A エミアトウエ T ナニケウハ クト B マケトオヘヘ A エテケケヘホネアホケナト 13

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG213  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および食品産業との関連性を「フードシステム」の視点で理解し、農産物・食品流通の実態について、また食品安全を含む付加価値情報の流通、表示・認証制度、マーケティングについて理解するスキルを身につける。その上で、高度な論文作成能力を身につける。

Understand the relationship between agriculture and the food industry from a "food system" approach, and understand the actual state of agricultural production and food distribution, as well as the communication of food safety, value-addition, labeling and certification systems, and marketing. And that, students will acquire higher ability for writing thesis.

## 授業の内容 / Course Contents

農業は、さまざまな関連産業と結びついて多くのビジネス機会を提供している。農業および関連産業では、輸出というグローバル化指向の事業者が増えているが、ひきつづきローカル化に強みを発揮する農業者、事業者は多い。関連産業と結びつきやすいのは後者である。本授業では、以上のような実態をフードシステムの視点で把握し、そこに見られる課題や論点について考察する能力を身につけ、高度な論文作成能力を身につける。

Agriculture is connected to various related industries and provides many business opportunities. In agriculture

and related industries, the number of businesses oriented toward globalization through export is increasing, but there are still many farmers and businesses that continue to have their strengths in localization. The latter is more likely to be linked to related industries. In this course, we will understand the above-mentioned actual situation from the food system approach, and consider the issues and points of contention that arise there. And that, students will acquire higher ability for writing thesis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農産物市場の特性 (1)  
 2 回：農産物市場の特性 (2)  
 3 回：食品産業とフードシステム (1)  
 食品産業の発展とフードチェーン  
 4 回：食品産業とフードシステム (2)  
 食品産業の発展とインテグレーション  
 5 回：食品産業とフードシステム (3)  
 食品産業の発展とバリューチェーン  
 6 回：生産情報の付加価値化 (1)  
 品質とは何か，プロダクト属性とプロセス属性  
 7 回：生産情報の付加価値化 (2)  
 情報の不完全とは何か  
 8 回：生産情報の付加価値化 (3)  
 付加価値の実現とは  
 9 回：食のリスク管理 (1)  
 10 回：食のリスク管理 (2)  
 11 回：表示制度と基準・認証 (1)  
 12 回：表示制度と基準・認証 (2)  
 13 回：産地呼称と地域ブランド化 (1)  
 14 回：産地呼称と地域ブランド化 (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので，確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 1 4

A エミアトウエ T ナニケウハ ケト B マヘトオヘ A エテケケヘホニアホケト 14

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG214  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および食品産業との関連性を「フードシステム」の視点で理解する能力を身につけて、論文作成に向けた課題設定と研究計画の立案、調査研究のための高度な能力を身につける。

The aim is to acquire the higher ability to understand the relationship between agriculture and the food industry from a "food system" approach, and acquire advanced skills for setting subject for writing papers, formulating research plans, and conducting research.

## 授業の内容 / Course Contents

履修者は、各自の問題意識にそった先行研究について周到なレビューを行う。その上で、新規性とオリジナリティのある課題設定、論文作成を進める。

Students will conduct an intensive review of previous research in line with their own interests and subjects. Based on this, they will proceed with setting new and original theme and writing thesis.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究の進め方について
- 2 回：テーマの選定、仮説設定について

- 3回：先行研究の収集・分析（1）  
 4回：先行研究の収集・分析（2）  
 5回：実証研究の進め方（1）  
 6回：実証研究の進め方（2）  
 7回：実証研究の進め方（3）  
 8回：論文作法について（1）  
 9回：論文作法について（2）  
 10回：論文作法について（3）  
 11回：論文作成の実際（1）  
 12回：論文作成の実際（2）  
 13回：論文作成の実際（3）  
 14回：論文作成の実際（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので、確認のうえ準備学習すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

#### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

#### 参考文献 / Readings



# 経営学特別研究 17

Advanced Topics in Business Administration 17

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG217  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）「対面（一部オンライン）」  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスと経営の分野における知識と実践への独創的で独立した学術的貢献を反映した博士論文を完成させる  
Candidates are expected to complete a doctoral dissertation that reflects an original and independent scholarly contribution to the knowledge and practice in the fields of business and management.

## 授業の内容 / Course Contents

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

Prepare a scientific and rigorous research proposal.

Critique and evaluate academic literatures and industry reports.

Analyse and discuss research results.

Conclude implications of results.

Plan and execute data collection.

Organise and interpret data with strong analytical skills.

Construct a detailed and comprehensive dissertation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画に関する指導
- 2 回：研究テーマと関連する研究領域の指導
- 3 回：先行研究のレビュー（1）
- 4 回：先行研究のレビュー（2）
- 5 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（1）
- 6 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（2）
- 7 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（1） 学会報告のテーマを決定する。
- 8 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（2） 学会報告のテーマを決定する。
- 9 回：仮説と検証方法に関する指導（1）
- 10 回：仮説と検証方法に関する指導（2）
- 11 回：仮説と検証方法に関する指導（3）
- 12 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（1）
- 13 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（2）
- 14 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（3）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学会誌への投稿:40% 学会での報告:30% クラスディスカッションへの貢献:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

# 経営学特別研究 1 8

Advanced Topics in Business Administration 18

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG218

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： BDS7003

使用言語： その他

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスと経営の分野における知識と実践への独創的で独立した学術的貢献を反映した博士論文を完成させる  
Candidates are expected to complete a doctoral dissertation that reflects an original and independent scholarly contribution to the knowledge and practice in the fields of business and management.

## 授業の内容 / Course Contents

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

Prepare a scientific and rigorous research proposal.

Critique and evaluate academic literatures and industry reports.

Analyse and discuss research results.

Conclude implications of results.

Plan and execute data collection.

Organise and interpret data with strong analytical skills.

Construct a detailed and comprehensive dissertation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画に関する指導
- 2 回：研究テーマと関連する研究領域の指導
- 3 回：先行研究のレビュー（1）
- 4 回：先行研究のレビュー（2）
- 5 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（1）
- 6 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（2）
- 7 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（1） 学会報告のテーマを決定する。
- 8 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（2） 学会報告のテーマを決定する。
- 9 回：仮説と検証方法に関する指導（1）
- 10 回：仮説と検証方法に関する指導（2）
- 11 回：仮説と検証方法に関する指導（3）
- 12 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（1）
- 13 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（2）
- 14 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（3）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学会誌への投稿:40% 学会での報告:30% クラスディスカッションへの貢献:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

# 経営学特別研究 19

Advanced Topics in Business Administration 19

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG219  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文を完成させること。

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画の発表
- 2 回：研究進捗報告と指導
- 3 回：研究進捗報告と指導
- 4 回：研究進捗報告と指導
- 5 回：研究進捗報告と指導
- 6 回：研究進捗報告と指導
- 7 回：研究進捗報告と指導
- 8 回：研究進捗報告と指導

- 9回：研究進捗報告と指導  
 10回：研究進捗報告と指導  
 11回：研究進捗報告と指導  
 12回：研究進捗報告と指導  
 13回：研究進捗報告と指導  
 14回：前半部分のまとめと夏期休暇期間の目標設定

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文を進捗させること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 博士論文の進捗:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

アルヴェッソロン&サンドバーグ 面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方：論文刊行ゲームを超えて 白桃書房 2023 9784561267829

# 経営学特別研究 20

Advanced Topics in Business Administration 20

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG220  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文を完成させること。

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：夏期休業期間中の進捗確認
- 2 回：研究進捗報告と指導
- 3 回：研究進捗報告と指導
- 4 回：研究進捗報告と指導
- 5 回：研究進捗報告と指導
- 6 回：研究進捗報告と指導
- 7 回：研究進捗報告と指導
- 8 回：研究進捗報告と指導

- 9回：研究進捗報告と指導  
 10回：研究進捗報告と指導  
 11回：研究進捗報告と指導  
 12回：研究進捗報告と指導  
 13回：研究進捗報告と指導  
 14回：研究成果のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文を進捗させること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 博士論文の進捗:100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

アルヴェッソロン&サンドバーグ 面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方：論文刊行ゲームを超えて 白桃書房 2023 9784561267829



# 経営学特別研究 2 1

Advanced Topics in Business Administration 21

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG221  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、以下の領域に関心のある学生を指導する。

- 1) ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
- 2) ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
- 3) ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
- 4) 観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
- 5) 企業組織に関する研究
- 6) 組織と社会との関係に関する研究
- 7) 組織と個人との関係に関する研究

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：博士論文とは何か

- 2回：博士論文に求められる研究水準  
 3回：アカデミズムとジャーナリズム  
 4回：相関関係と因果関係  
 5回：「科学的」とはなにか  
 6回：帰納法と演繹法  
 7回：1次データと2次データ  
 8回：データの価値とサンプリング  
 9回：統計ソフトの選択  
 10回：図書館とデータベース  
 11回：先行研究の調査と選別の基準  
 12回：仮説の設定1  
 13回：仮説の設定2  
 14回：仮説の設定3

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

とくに必要としない。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取組み:100%

#### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

#### 参考文献 / Readings

授業において指示する。

# 経営学特別研究 2 2

Advanced Topics in Business Administration 22

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG222  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、以下の領域に関心のある学生を指導する。

- 1) ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
- 2) ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
- 3) ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
- 4) 観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
- 5) 企業組織に関する研究
- 6) 組織と社会との関係に関する研究
- 7) 組織と個人との関係に関する研究

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究対象の検討
- 2 回：研究テーマ・仮説の検討

- 3回：研究意義の検討
- 4回：研究方法の検討
- 5回：仮説とその検定
- 6回：目次の作成
- 7回：先行研究の整理
- 8回：先行研究と注釈
- 9回：論文の体裁と表記
- 10回：論文作成の指導 1
- 11回：論文作成の指導 2
- 12回：論文作成の指導 3
- 13回：プレゼンテーションの指導 1
- 14回：プレゼンテーションの指導 2

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

同一担当者の経営学特別研究 21 を履修していること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取組み:100%

#### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

#### 参考文献 / Readings

## 経営学特別研究 2 3

Advanced Topics in Business Administration 23

高岡 美佳 (TAKAOKA MIKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG223  
授業形態： オンライン（一部対面）  
授業形態（補足事項） オンライン  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

社会科学の研究者として独り立ちする能力を身につけることを目的としています。

The objective is to develop the ability to stand alone as a researcher in the social sciences.

### 授業の内容 / Course Contents

担当教員は流通論やリテイルマーケティング、消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき、研究指導を行います。学位（博士）取得を目指す受講生に対して、研究上のアドバイスの他、学会報告や学术论文の執筆に関するアドバイス等を行います。

I specialize in distribution theory, retail marketing, and branding for consumer goods companies. Based on this knowledge and experience, I provide research guidance. Students who wish to obtain a doctoral degree are given advice on research, conference reports, and writing academic papers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：スケジュールや内容については受講生と相談の上、決定します。
- 2 回：同上
- 3 回：同上

4回：同上  
 5回：同上  
 6回：同上  
 7回：同上  
 8回：同上  
 9回：同上  
 10回：同上  
 11回：同上  
 12回：同上  
 13回：同上  
 14回：同上

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に博士論文を執筆していただきます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 総合評価:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

その他、各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

# 経営学特別研究 2 5

Advanced Topics in Business Administration 25

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG225  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題意識と「問い」の検討
- 2 回：問題意識と「問い」の検討
- 3 回：問題意識と「問い」の検討
- 4 回：先行研究の検討：理論的背景
- 5 回：先行研究の検討：理論的背景
- 6 回：先行研究の検討：理論的背景
- 7 回：先行研究の検討：理論的背景
- 8 回：先行研究の検討：実証研究の検討
- 9 回：先行研究の検討：実証研究の検討

- 10 回：先行研究の検討：実証研究の検討  
 11 回：先行研究の検討：実証研究の検討  
 12 回：Research Question と分析方法の検討  
 13 回：Research Question と分析方法の検討  
 14 回：Research Question と分析方法の検討

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

授業の中で適宜指示する。

#### 参考文献 / Readings



# 経営学特別研究 26

Advanced Topics in Business Administration 26

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG226  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：仮説の構築
- 2 回：仮説の構築
- 3 回：仮説の構築
- 4 回：仮説の構築
- 5 回：実証分析の検討
- 6 回：実証分析の検討
- 7 回：実証分析の検討
- 8 回：実証分析の検討
- 9 回：実証分析の検討

- 10回：実証分析の検討  
11回：分析結果の解釈と考察  
12回：分析結果の解釈と考察  
13回：分析結果の解釈と考察  
14回：分析結果の解釈と考察

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での研究報告:100%

**テキスト / Textbooks**

授業の中で適宜指示します。

**参考文献 / Readings**

# 経営学特別研究 27

Advanced Topics in Business Administration 27

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG227  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

## 授業の内容 / Course Contents

はじめに、選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め、先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に、論文仮説と検証の方向性について討議し、論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち、論文の構成を検討し、博士学位論文の完成へと導く。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献や資料の収集と報告（1）
- 2 回：先行研究のレビューに関する討議（1）
- 3 回：仮説と検証の方向性の検討（1）
- 4 回：論文の執筆指導（1）
- 5 回：追加的な文献や資料の収集と報告（1）
- 6 回：先行研究のレビューに関する討議（2）

- 7回：仮説と検証の方向性の検討（2）  
 8回：論文の執筆指導（2）  
 9回：追加的な文献や資料の収集と報告（2）  
 10回：先行研究のレビューに関する討議（3）  
 11回：仮説と検証の方向性の検討（3）  
 12回：論文の構成の検討  
 13回：論文の執筆指導（3）  
 14回：論文の執筆指導（4）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への取り組み状況:35% 学会報告や機関誌への投稿状況:30% 最終レポート割合：:35%

### テキスト / Textbooks

テキストは指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて、演習内で指示する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参すること。

### その他 / Others

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し、積極的に大会や部会に参加して、学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

# 経営学特別研究 28

Advanced Topics in Business Administration 28

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG228  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

## 授業の内容 / Course Contents

経営学特別研究 27 に引き続き、博士学位論文の完成に向けた一連の指導を行う。

はじめに、選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め、先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に、論文仮説と検証の方向性について討論し、論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち、論文の構成を検討し、博士学位論文の完成へと導く。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献や資料の収集と報告（1）
- 2 回：先行研究のレビューに関する討議（1）
- 3 回：仮説と検証の方向性の検討（1）
- 4 回：論文の執筆指導（1）
- 5 回：追加的な文献や資料の収集と報告（1）

- 6回：先行研究のレビューに関する討議（2）  
 7回：仮説と検証の方向性の検討（2）  
 8回：論文の執筆指導（2）  
 9回：追加的な文献や資料の収集と報告（2）  
 10回：先行研究のレビューに関する討議（3）  
 11回：仮説と検証の方向性の検討（3）  
 12回：論文の構成の検討  
 13回：論文の執筆指導（3）  
 14回：論文の執筆指導（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への取り組み状況:35% 学会報告や機関誌への投稿状況:30% 最終レポート割合：:35%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて、演習内で指示する。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参すること。

#### その他 / Others

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し、積極的に大会や部会に参加して、学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

# 経営学研究法演習 1

Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 1

庄司 貴行／安田 直樹 (SHOJI TAKAYUKI/ YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG229  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくり、より完成度の高い博士論文を作成する。

## 授業の内容 / Course Contents

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスをを行う。学会発表や査読論文を相互に発表し、問題点や改善点を提案する。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマとこれまでの研究実績と実務経験について自己紹介し、2 回目以降の報告者を決定する。
- 2 回：第 1 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（修士論文などの研究報告）
- 3 回：第 2 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（修士論文などの研究報告）
- 4 回：第 3 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（修士論文などの研究報告）
- 5 回：第 4 回研究報告 博士學位申請論文のための研究計画の報告（予備論文の準備）

- 6回：第5回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告（予備論文の準備）  
 7回：第6回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告（予備論文の準備）  
 8回：第7回研究報告 学会報告のための準備報告  
 9回：第8回研究報告 学会報告のための準備報告  
 10回：第9回研究報告 学会報告のための準備報告  
 11回：第10回研究報告 査読論文投稿のための報告  
 12回：第11回研究報告 査読論文投稿のための報告  
 13回：第12回研究報告 査読論文投稿のための報告  
 14回：第13回研究報告 1年間の研究成果の報告

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:50% 説得力ある意見:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings



## 経営学研究法演習 2

Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 2

庄司 貴行／安田 直樹 (SHOJI TAKAYUKI/ YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG230  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくる。

### 授業の内容 / Course Contents

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスを行う。

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの進捗度を報告し、2 回目以降の報告者を決定する。
- 2 回：第 1 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（論文・学会報告などの研究準備報告）
- 3 回：第 2 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（論文・学会報告などの研究準備報告）
- 4 回：第 3 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（論文・学会報告などの研究準備報告）
- 5 回：第 1 回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価（1）
- 6 回：第 2 回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価（2）
- 7 回：第 3 回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価（3）
- 8 回：第 1 回研究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価（1）

- 9回：第2回研究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価（1）  
 10回：第1回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告（1）  
 11回：第2回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告（2）  
 12回：第1回研究報告 学位論文（予備論文）の報告（1）  
 13回：第2回研究報告 学位論文（予備論文）の報告（2）  
 14回：1年間の研究成果の報告と次年度の研究計画

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:50% 発表内容:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 3 3

Advanced Topics in Business Administration 33

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG233  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

## 授業の内容 / Course Contents

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイデアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究のすすめ方について
- 2 回：テーマの選定，仮説の設定について
- 3 回：先行研究の収集・分析（1）
- 4 回：先行研究の収集・分析（2）
- 5 回：実証研究のすすめ方（1）
- 6 回：実証研究のすすめ方（2）
- 7 回：実証研究のすすめ方（3）
- 8 回：論文作法について（1）

- 9回：論文作法について（2）  
10回：論文作法について（3）  
11回：調査研究報告（1）  
12回：調査研究報告（2）  
13回：調査研究報告（3）  
14回：調査研究報告（4）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

必要に応じて指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時の発表:100%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

授業時に随時紹介する。

# 経営学特別研究 3 4

Advanced Topics in Business Administration 34

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG234  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位：  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

## 授業の内容 / Course Contents

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイデアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究のすすめ方について
- 2 回：テーマの選定，仮説の設定について
- 3 回：先行研究の収集・分析（1）
- 4 回：先行研究の収集・分析（2）
- 5 回：実証研究のすすめ方（1）
- 6 回：実証研究のすすめ方（2）
- 7 回：実証研究のすすめ方（3）
- 8 回：論文作法について（1）

- 9回：論文作法について（2）  
 10回：論文作法について（3）  
 11回：調査研究報告（1）  
 12回：調査研究報告（2）  
 13回：調査研究報告（3）  
 14回：調査研究報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時の発表:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に提示する。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC

# 経営学特別研究 5

Advanced Topics in Business Administration 5

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG255  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文執筆に必要な知識とスキルを習得し執筆を行う。

Writing a doctoral dissertation while acquiring the necessary knowledge and skills.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士学位論文執筆に向けた研究指導を行う。

The purpose of this class is to provide research guidance for the writing of a doctoral dissertation.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの共有
- 2 回：研究計画の策定報告（含：学会報告・査読論文投稿）
- 3 回：研究の進捗報告と個別指導
- 4 回：研究の進捗報告と個別指導
- 5 回：研究の進捗報告と個別指導
- 6 回：研究の進捗報告と個別指導

- 7回：研究の進捗報告と個別指導  
 8回：研究の進捗報告と個別指導（計画・課題の修正）  
 9回：研究の進捗報告と個別指導  
 10回：研究の進捗報告と個別指導  
 11回：研究の進捗報告と個別指導  
 12回：研究の進捗報告と個別指導  
 13回：研究の進捗報告と個別指導  
 14回：研究の進捗に応じた課題確認と目標設定（含：学会報告・査読論文投稿）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究テーマを中心に多数の学術論文を読むことを推奨します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内での研究報告：100%

#### テキスト / Textbooks

特に指定しない

#### 参考文献 / Readings

川崎剛 優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

藤本隆宏他 リサーチ・マインド経営学研究法 有斐閣アルマ 2012 4641122385

上記はいずれも立教大学図書館の蔵書です。その他必要に応じて授業の中で適宜提示します。



# 経営学特別研究 6

Advanced Topics in Business Administration 6

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG256  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文執筆に必要な知識とスキルを習得し執筆を行う。

Writing a doctoral dissertation while acquiring the necessary knowledge and skills.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、経営学特別研究 5 に引き続き、博士学位論文執筆に向けた研究指導を行う。

The purpose of this class is to provide research guidance for the writing of a doctoral dissertation.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究の進捗報告と個別指導
- 2 回：研究の進捗報告と個別指導（含：学会報告・査読論文投稿）
- 3 回：研究の進捗報告と個別指導
- 4 回：研究の進捗報告と個別指導
- 5 回：研究の進捗報告と個別指導
- 6 回：研究の進捗報告と個別指導

- 7回：研究の進捗報告と個別指導  
 8回：研究の進捗報告と個別指導  
 9回：研究の進捗報告と個別指導（計画・課題の修正）  
 10回：研究の進捗報告と個別指導  
 11回：研究の進捗報告と個別指導  
 12回：研究の進捗報告と個別指導  
 13回：研究の進捗報告と個別指導  
 14回：研究成果の確認とまとめ（計画・課題の修正）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究テーマを中心に多数の学術論文を読むことを推奨します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での研究報告：100%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない

### 参考文献 / Readings

川崎剛 優秀論文作成術 勁草書房 2015 9784326000340

藤本隆宏他 リサーチ・マインド経営学研究法 有斐閣アルマ 2012 4641122385

上記はいずれも立教大学図書館の蔵書です。その他必要に応じて授業の中で適宜提示します。

# 経営学特別研究 7

Advanced Topics in Business Administration 7

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG257  
授業形態： オンライン（一部対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題意識と「問い」の検討
- 2 回：問題意識と「問い」の検討
- 3 回：問題意識と「問い」の検討
- 4 回：先行研究の検討：理論的背景
- 5 回：先行研究の検討：理論的背景
- 6 回：先行研究の検討：理論的背景
- 7 回：先行研究の検討：実証研究の検討
- 8 回：先行研究の検討：実証研究の検討
- 9 回：先行研究の検討：実証研究の検討

- 10回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 11回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 12回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 13回：先行研究の批判と Research Question の提起  
 14回：先行研究の批判と Research Question の提起

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

授業の中で適宜指示します。

#### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 8

Advanced Topics in Business Administration 8

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG258  
授業形態： オンライン（一部対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 2 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 3 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 4 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 5 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 6 回：理論的枠組みと仮説の構築
- 7 回：実証分析・調査の方法論的検討
- 8 回：実証分析・調査の方法論的検討
- 9 回：実証分析・調査の方法論的検討

- 10回：実証分析・調査の方法論的検討  
 11回：調査結果・分析結果の解釈と考察  
 12回：調査結果・分析結果の解釈と考察  
 13回：調査結果・分析結果の解釈と考察  
 14回：調査結果・分析結果の解釈と考察

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

授業の中で適宜指示します。

#### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 1 1

Advanced Topics in Business Administration 11

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG261  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
- 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

## 授業の内容 / Course Contents

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。  
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。  
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。  
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（1）
- 2 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（2）
- 3 回：研究方法に関する指導（1）
- 4 回：研究方法に関する指導（2）
- 5 回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（1）

- 6回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（2）  
 7回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（1）  
 8回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（2）  
 9回：仮説検証等データ収集と分析手法の報告（1）  
 10回：仮説検証データ収集と分析手法の報告（2）  
 11回：学会報告や論文投稿等準備（1）  
 12回：学会報告や論文投稿等準備（2）  
 13回：学会報告や論文投稿等準備（3）  
 14回：学会報告や論文投稿等準備（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動（査読論文執筆、学会発表など）を、積極的に行うことを推奨します。

加えて、関連する領域や分野の古典や論文（欧文・和文）を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により1回程度対面実施を検討する。



# 経営学特別研究 1 2

Advanced Topics in Business Administration 12

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG262  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
- 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

## 授業の内容 / Course Contents

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。  
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。  
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。  
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（1）
- 2 回：各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有（2）
- 3 回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（1）
- 4 回：各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定（2）
- 5 回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（1）

- 6回：学会報告や論文投稿等の要旨検討（2）  
 7回：仮説検証等データ収集と分析手法の報告（1）  
 8回：仮説検証データ収集と分析手法の報告（2）  
 9回：学会報告や論文投稿等準備（1）  
 10回：学会報告や論文投稿等準備（2）  
 11回：学会報告や論文投稿等準備（3）  
 12回：学会報告や論文投稿等準備（4）  
 13回：各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有（1）  
 14回：各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動（査読論文執筆、学会発表など）を、積極的に行うことを推奨します。

加えて、関連する領域や分野の古典や論文（欧文・和文）を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により1回程度対面実施を検討する。

# 経営学特別研究 1 3

A エミアトウエ T ナニケウハ ケト B マケトオヘヘ A エテケケヘホネアホケナト 13

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG263  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および食品産業との関連性を「フードシステム」の視点で理解し、農産物・食品流通の実態について、また食品安全を含む付加価値情報の流通、表示・認証制度、マーケティングについて理解するスキルを身につける。その上で、高度な論文作成能力を身につける。

Understand the relationship between agriculture and the food industry from a "food system" approach, and understand the actual state of agricultural production and food distribution, as well as the communication of food safety, value-addition, labeling and certification systems, and marketing. And that, students will acquire higher ability for writing thesis.

## 授業の内容 / Course Contents

農業は、さまざまな関連産業と結びついて多くのビジネス機会を提供している。農業および関連産業では、輸出というグローバル化指向の事業者が増えているが、ひきつづきローカル化に強みを発揮する農業者、事業者は多い。関連産業と結びつきやすいのは後者である。本授業では、以上のような実態をフードシステムの視点で把握し、そこに見られる課題や論点について考察する能力を身につけ、高度な論文作成能力を身につける。

Agriculture is connected to various related industries and provides many business opportunities. In agriculture

and related industries, the number of businesses oriented toward globalization through export is increasing, but there are still many farmers and businesses that continue to have their strengths in localization. The latter is more likely to be linked to related industries. In this course, we will understand the above-mentioned actual situation from the food system approach, and consider the issues and points of contention that arise there. And that, students will acquire higher ability for writing thesis.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農産物市場の特性 (1)  
 2 回：農産物市場の特性 (2)  
 3 回：食品産業とフードシステム (1)  
 食品産業の発展とフードチェーン  
 4 回：食品産業とフードシステム (2)  
 食品産業の発展とインテグレーション  
 5 回：食品産業とフードシステム (3)  
 食品産業の発展とバリューチェーン  
 6 回：生産情報の付加価値化 (1)  
 品質とは何か、プロダクト属性とプロセス属性  
 7 回：生産情報の付加価値化 (2)  
 情報の不完全とは何か  
 8 回：生産情報の付加価値化 (3)  
 付加価値の実現とは  
 9 回：食のリスク管理 (1)  
 10 回：食のリスク管理 (2)  
 11 回：表示制度と基準・認証 (1)  
 12 回：表示制度と基準・認証 (2)  
 13 回：産地呼称と地域ブランド化 (1)  
 14 回：産地呼称と地域ブランド化 (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので、確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 1 4

A エミアトウエ T ナケウハ ケト B マケトオヘ A エテケケヘホアホケト 14

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG264  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および食品産業との関連性を「フードシステム」の視点で理解する能力を身につけて、論文作成に向けた課題設定と研究計画の立案、調査研究のための高度な能力を身につける。

The aim is to acquire the higher ability to understand the relationship between agriculture and the food industry from a "food system" approach, and acquire advanced skills for setting subject for writing papers, formulating research plans, and conducting research.

## 授業の内容 / Course Contents

履修者は、各自の問題意識にそった先行研究について周到なレビューを行う。その上で、新規性とオリジナリティのある課題設定、論文作成を進める。

Students will conduct an intensive review of previous research in line with their own interests and subjects. Based on this, they will proceed with setting new and original theme and writing thesis.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究の進め方について
- 2 回：テーマの選定、仮説設定について

- 3回：先行研究の収集・分析（1）
- 4回：先行研究の収集・分析（2）
- 5回：実証研究の進め方（1）
- 6回：実証研究の進め方（2）
- 7回：実証研究の進め方（3）
- 8回：論文作法について（1）
- 9回：論文作法について（2）
- 10回：論文作法について（3）
- 11回：論文作成の実際（1）
- 12回：論文作成の実際（2）
- 13回：論文作成の実際（3）
- 14回：論文作成の実際（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので、確認のうえ準備学習すること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

#### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

#### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 17

Advanced Topics in Business Administration 17

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG267  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）「対面（一部オンライン）」  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスと経営の分野における知識と実践への独創的で独立した学術的貢献を反映した博士論文を完成させる  
Candidates are expected to complete a doctoral dissertation that reflects an original and independent scholarly contribution to the knowledge and practice in the fields of business and management.

## 授業の内容 / Course Contents

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

Prepare a scientific and rigorous research proposal.

Critique and evaluate academic literatures and industry reports.

Analyse and discuss research results.

Conclude implications of results.

Plan and execute data collection.

Organise and interpret data with strong analytical skills.

Construct a detailed and comprehensive dissertation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画に関する指導
- 2 回：研究テーマと関連する研究領域の指導
- 3 回：先行研究のレビュー（1）
- 4 回：先行研究のレビュー（2）
- 5 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（1）
- 6 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（2）
- 7 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（1） 学会報告のテーマを決定する。
- 8 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（2） 学会報告のテーマを決定する。
- 9 回：仮説と検証方法に関する指導（1）
- 10 回：仮説と検証方法に関する指導（2）
- 11 回：仮説と検証方法に関する指導（3）
- 12 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（1）
- 13 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（2）
- 14 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（3）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学会誌への投稿:40% 学会での報告:30% クラスディスカッションへの貢献:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。



# 経営学特別研究 1 8

Advanced Topics in Business Administration 18

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG268  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスと経営の分野における知識と実践への独創的で独立した学術的貢献を反映した博士論文を完成させる  
Candidates are expected to complete a doctoral dissertation that reflects an original and independent scholarly contribution to the knowledge and practice in the fields of business and management.

## 授業の内容 / Course Contents

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

Prepare a scientific and rigorous research proposal.

Critique and evaluate academic literatures and industry reports.

Analyse and discuss research results.

Conclude implications of results.

Plan and execute data collection.

Organise and interpret data with strong analytical skills.

Construct a detailed and comprehensive dissertation.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画に関する指導
- 2 回：研究テーマと関連する研究領域の指導
- 3 回：先行研究のレビュー（1）
- 4 回：先行研究のレビュー（2）
- 5 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（1）
- 6 回：研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認（2）
- 7 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（1） 学会報告のテーマを決定する。
- 8 回：研究テーマの絞り込みに関する指導（2） 学会報告のテーマを決定する。
- 9 回：仮説と検証方法に関する指導（1）
- 10 回：仮説と検証方法に関する指導（2）
- 11 回：仮説と検証方法に関する指導（3）
- 12 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（1）
- 13 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（2）
- 14 回：学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導（3）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学会誌への投稿:40% 学会での報告:30% クラスディスカッションへの貢献:30%

### テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

# 経営学特別研究 19

Advanced Topics in Business Administration 19

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG269  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文を完成させること。

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究計画の発表
- 2 回：研究進捗報告と指導
- 3 回：研究進捗報告と指導
- 4 回：研究進捗報告と指導
- 5 回：研究進捗報告と指導
- 6 回：研究進捗報告と指導
- 7 回：研究進捗報告と指導
- 8 回：研究進捗報告と指導

- 9回：研究進捗報告と指導  
 10回：研究進捗報告と指導  
 11回：研究進捗報告と指導  
 12回：研究進捗報告と指導  
 13回：研究進捗報告と指導  
 14回：前半部分のまとめと夏期休暇期間の目標設定

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文を進捗させること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 博士論文の進捗:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

アルヴェッソロン&サンドバーグ 面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方：論文刊行ゲームを超えて 白桃書房 2023 9784561267829

# 経営学特別研究 20

Advanced Topics in Business Administration 20

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG270  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文を完成させること。

## 授業の内容 / Course Contents

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：夏期休業期間中の進捗確認
- 2 回：研究進捗報告と指導
- 3 回：研究進捗報告と指導
- 4 回：研究進捗報告と指導
- 5 回：研究進捗報告と指導
- 6 回：研究進捗報告と指導
- 7 回：研究進捗報告と指導
- 8 回：研究進捗報告と指導

- 9回：研究進捗報告と指導  
 10回：研究進捗報告と指導  
 11回：研究進捗報告と指導  
 12回：研究進捗報告と指導  
 13回：研究進捗報告と指導  
 14回：研究成果のまとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文を進捗させること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 博士論文の進捗:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

アルヴェッソロン&サンドバーグ 面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスチョンの作り方と育て方：論文刊行ゲームを超えて 白桃書房 2023 9784561267829

# 経営学特別研究 2 1

Advanced Topics in Business Administration 21

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG271  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、以下の領域に関心のある学生を指導する。

- 1) ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
- 2) ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
- 3) ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
- 4) 観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
- 5) 企業組織に関する研究
- 6) 組織と社会との関係に関する研究
- 7) 組織と個人との関係に関する研究

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：博士論文とは何か

- 2回：博士論文に求められる研究水準  
 3回：アカデミズムとジャーナリズム  
 4回：相関関係と因果関係  
 5回：「科学的」とはなにか  
 6回：帰納法と演繹法  
 7回：1次データと2次データ  
 8回：データの価値とサンプリング  
 9回：統計ソフトの選択  
 10回：図書館とデータベース  
 11回：先行研究の調査と選別の基準  
 12回：仮説の設定1  
 13回：仮説の設定2  
 14回：仮説の設定3

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

とくに必要としない。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取組み:100%

#### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

#### 参考文献 / Readings

授業において指示する。



# 経営学特別研究 2 2

Advanced Topics in Business Administration 22

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG272  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、以下の領域に関心のある学生を指導する。

- 1) ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
- 2) ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
- 3) ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
- 4) 観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
- 5) 企業組織に関する研究
- 6) 組織と社会との関係に関する研究
- 7) 組織と個人との関係に関する研究

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究対象の検討
- 2 回：研究テーマ・仮説の検討

- 3回：研究意義の検討
- 4回：研究方法の検討
- 5回：仮説とその検定
- 6回：目次の作成
- 7回：先行研究の整理
- 8回：先行研究と注釈
- 9回：論文の体裁と表記
- 10回：論文作成の指導 1
- 11回：論文作成の指導 2
- 12回：論文作成の指導 3
- 13回：プレゼンテーションの指導 1
- 14回：プレゼンテーションの指導 2

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

同一担当者の経営学特別研究 21 を履修していること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取組み:100%

#### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

#### 参考文献 / Readings

## 経営学特別研究 2 3

Advanced Topics in Business Administration 23

高岡 美佳 (TAKAOKA MIKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG273  
授業形態： オンライン（一部対面）  
授業形態（補足事項） オンライン  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

社会科学の研究者として独り立ちする能力を身につけることを目的としています。

The objective is to develop the ability to stand alone as a researcher in the social sciences.

### 授業の内容 / Course Contents

担当教員は流通論やリテイルマーケティング、消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき、研究指導を行います。学位（博士）取得を目指す受講生に対して、研究上のアドバイスの他、学会報告や学术论文の執筆に関するアドバイス等を行います。

I specialize in distribution theory, retail marketing, and branding for consumer goods companies. Based on this knowledge and experience, I provide research guidance. Students who wish to obtain a doctoral degree are given advice on research, conference reports, and writing academic papers.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：スケジュールや内容については受講生と相談の上、決定します。
- 2 回：同上
- 3 回：同上

4回：同上  
 5回：同上  
 6回：同上  
 7回：同上  
 8回：同上  
 9回：同上  
 10回：同上  
 11回：同上  
 12回：同上  
 13回：同上  
 14回：同上

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に博士論文を執筆していただきます。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 総合評価:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

その他、各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

# 経営学特別研究 2 5

Advanced Topics in Business Administration 25

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG275  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：問題意識と「問い」の検討
- 2 回：問題意識と「問い」の検討
- 3 回：問題意識と「問い」の検討
- 4 回：先行研究の検討：理論的背景
- 5 回：先行研究の検討：理論的背景
- 6 回：先行研究の検討：理論的背景
- 7 回：先行研究の検討：理論的背景
- 8 回：先行研究の検討：実証研究の検討
- 9 回：先行研究の検討：実証研究の検討

- 10 回：先行研究の検討：実証研究の検討  
 11 回：先行研究の検討：実証研究の検討  
 12 回：Research Question と分析方法の検討  
 13 回：Research Question と分析方法の検討  
 14 回：Research Question と分析方法の検討

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での研究報告:100%

#### テキスト / Textbooks

授業の中で適宜指示する。

#### 参考文献 / Readings

# 経営学特別研究 26

Advanced Topics in Business Administration 26

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG276  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文研究指導

## 授業の内容 / Course Contents

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：仮説の構築
- 2 回：仮説の構築
- 3 回：仮説の構築
- 4 回：仮説の構築
- 5 回：実証分析の検討
- 6 回：実証分析の検討
- 7 回：実証分析の検討
- 8 回：実証分析の検討
- 9 回：実証分析の検討

- 10回：実証分析の検討  
11回：分析結果の解釈と考察  
12回：分析結果の解釈と考察  
13回：分析結果の解釈と考察  
14回：分析結果の解釈と考察

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での研究報告:100%

**テキスト / Textbooks**

授業の中で適宜指示します。

**参考文献 / Readings**



# 経営学特別研究 27

Advanced Topics in Business Administration 27

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG277  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

## 授業の内容 / Course Contents

はじめに、選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め、先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に、論文仮説と検証の方向性について討議し、論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち、論文の構成を検討し、博士学位論文の完成へと導く。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献や資料の収集と報告（1）
- 2 回：先行研究のレビューに関する討議（1）
- 3 回：仮説と検証の方向性の検討（1）
- 4 回：論文の執筆指導（1）
- 5 回：追加的な文献や資料の収集と報告（1）
- 6 回：先行研究のレビューに関する討議（2）

- 7回：仮説と検証の方向性の検討（2）  
 8回：論文の執筆指導（2）  
 9回：追加的な文献や資料の収集と報告（2）  
 10回：先行研究のレビューに関する討議（3）  
 11回：仮説と検証の方向性の検討（3）  
 12回：論文の構成の検討  
 13回：論文の執筆指導（3）  
 14回：論文の執筆指導（4）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への取り組み状況:35% 学会報告や機関誌への投稿状況:30% 最終レポート割合：:35%

### テキスト / Textbooks

テキストは指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて、演習内で指示する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参すること。

### その他 / Others

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し、積極的に大会や部会に参加して、学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

# 経営学特別研究 28

Advanced Topics in Business Administration 28

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG278  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

## 授業の内容 / Course Contents

経営学特別研究 27 に引き続き、博士学位論文の完成に向けた一連の指導を行う。

はじめに、選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め、先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に、論文仮説と検証の方向性について討論し、論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち、論文の構成を検討し、博士学位論文の完成へと導く。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献や資料の収集と報告（1）
- 2 回：先行研究のレビューに関する討議（1）
- 3 回：仮説と検証の方向性の検討（1）
- 4 回：論文の執筆指導（1）
- 5 回：追加的な文献や資料の収集と報告（1）

- 6回：先行研究のレビューに関する討議（2）  
 7回：仮説と検証の方向性の検討（2）  
 8回：論文の執筆指導（2）  
 9回：追加的な文献や資料の収集と報告（2）  
 10回：先行研究のレビューに関する討議（3）  
 11回：仮説と検証の方向性の検討（3）  
 12回：論文の構成の検討  
 13回：論文の執筆指導（3）  
 14回：論文の執筆指導（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前準備の内容は、演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への取り組み状況:35% 学会報告や機関誌への投稿状況:30% 最終レポート割合：:35%

#### テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて、演習内で指示する。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参すること。

#### その他 / Others

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し、積極的に大会や部会に参加して、学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

# 経営学研究法演習 1

Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 1

庄司 貴行／安田 直樹 (SHOJI TAKAYUKI/ YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG279  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくり、より完成度の高い博士論文を作成する。

## 授業の内容 / Course Contents

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスをを行う。学会発表や査読論文を相互に発表し、問題点や改善点を提案する。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマとこれまでの研究実績と実務経験について自己紹介し、2 回目以降の報告者を決定する。
- 2 回：第 1 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（修士論文などの研究報告）
- 3 回：第 2 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（修士論文などの研究報告）
- 4 回：第 3 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（修士論文などの研究報告）
- 5 回：第 4 回研究報告 博士學位申請論文のための研究計画の報告（予備論文の準備）

- 6回：第5回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告（予備論文の準備）  
 7回：第6回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告（予備論文の準備）  
 8回：第7回研究報告 学会報告のための準備報告  
 9回：第8回研究報告 学会報告のための準備報告  
 10回：第9回研究報告 学会報告のための準備報告  
 11回：第10回研究報告 査読論文投稿のための報告  
 12回：第11回研究報告 査読論文投稿のための報告  
 13回：第12回研究報告 査読論文投稿のための報告  
 14回：第13回研究報告 1年間の研究成果の報告

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度:50% 説得力ある意見:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

# 経営学研究法演習 2

Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 2

庄司 貴行／安田 直樹 (SHOJI TAKAYUKI/ YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG280  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくる。

## 授業の内容 / Course Contents

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスを行う。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各自の研究テーマの進捗度を報告し、2 回目以降の報告者を決定する。
- 2 回：第 1 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（論文・学会報告などの研究準備報告）
- 3 回：第 2 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（論文・学会報告などの研究準備報告）
- 4 回：第 3 回研究報告 1 名ないし 2 名の報告（論文・学会報告などの研究準備報告）
- 5 回：第 1 回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価（1）
- 6 回：第 2 回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価（2）
- 7 回：第 3 回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価（3）
- 8 回：第 1 回研究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価（1）

- 9回：第2回研究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価（1）  
 10回：第1回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告（1）  
 11回：第2回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告（2）  
 12回：第1回研究報告 学位論文（予備論文）の報告（1）  
 13回：第2回研究報告 学位論文（予備論文）の報告（2）  
 14回：1年間の研究成果の報告と次年度の研究計画

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度:50% 発表内容:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings



# 経営学特別研究 3 3

Advanced Topics in Business Administration 33

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG283

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7003

使用言語： その他

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

## 授業の内容 / Course Contents

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイデアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究のすすめ方について

2 回：テーマの選定，仮説の設定について

3 回：先行研究の収集・分析（1）

4 回：先行研究の収集・分析（2）

5 回：実証研究のすすめ方（1）

6 回：実証研究のすすめ方（2）

7 回：実証研究のすすめ方（3）

8 回：論文作法について（1）

- 9回：論文作法について（2）  
10回：論文作法について（3）  
11回：調査研究報告（1）  
12回：調査研究報告（2）  
13回：調査研究報告（3）  
14回：調査研究報告（4）

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

必要に応じて指示する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時の発表:100%

**テキスト / Textbooks****参考文献 / Readings**

授業時に随時紹介する。

# 経営学特別研究 3 4

Advanced Topics in Business Administration 34

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG284  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期他  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7003  
使用言語： その他  
授業形式： その他  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

## 授業の内容 / Course Contents

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイデアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究のすすめ方について
- 2 回：テーマの選定，仮説の設定について
- 3 回：先行研究の収集・分析（1）
- 4 回：先行研究の収集・分析（2）
- 5 回：実証研究のすすめ方（1）
- 6 回：実証研究のすすめ方（2）
- 7 回：実証研究のすすめ方（3）
- 8 回：論文作法について（1）

- 9回：論文作法について（2）  
 10回：論文作法について（3）  
 11回：調査研究報告（1）  
 12回：調査研究報告（2）  
 13回：調査研究報告（3）  
 14回：調査研究報告（4）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時の発表:100%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に提示する。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC

# 現代経済論 1 (D)

Contemporary Economics1(D)

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG301  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7100  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、世界で顕現化している様々な経済事象を的確に理解し、ビジネスでの意思決定に役立てることができるよう、基礎的な経済理論を概説する。これまで経済学を学んでこなかった学生を想定し、極力平易な解説を行う。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。限られた時間で実効性の高い講義を行うため、教室での積極的な意見交換と、課題に対する成果物の提出も求められます。

This course provides basic economic theories which is necessary to understand the major economic events currently occurring in the world.

Considering various background of students, who are not familiar with economics, basic and essential theory are covered in this course.

In order to achieve efficient session within the limited time frame, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class. They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：マクロ経済学（1）経済学とはー成り立ちと歩み
- 2回：マクロ経済学（2）国民所得の概念とSNAー経済現象を理解するための必須知識
- 3回：マクロ経済学（3）国民所得モデルー経済現象を理解するための必須知識
- 4回：マクロ経済学（4）国民所得モデルー経済現象を理解するための必須知識
- 5回：マクロ経済学（5）総供給・総需要ーマクロモデル構築に向けて
- 6回：マクロ経済学（6）総供給・総需要ーマクロモデル構築に向けて
- 7回：マクロ経済学（7）労働と生産ーマクロモデル構築に向けて
- 8回：マクロ経済学（8）投資理論ーマクロモデル構築に向けて
- 9回：マクロ経済学（9）IS-LMモデルーマクロモデルの統合と完成
- 10回：マクロ経済学（10）IS-LMモデルーマクロモデルの統合と完成
- 11回：ミクロ経済学（1）消費と生産ーミクロモデルの概要と理解
- 12回：ミクロ経済学（2）市場均衡ミーミクロモデルの概要と理解
- 13回：ミクロ経済学（3）不完全競争ーミクロモデルのビジネス的応用
- 14回：ミクロ経済学（4）ゲーム理論ーミクロモデルのビジネス的応用

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス参加と議論への貢献度:50% 成果物の内容:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

中谷巖 入門マクロ経済学 第5版 日本評論社 2007 9784535555136

奥野正寛 ミクロ経済学 東京大学出版会 2008 9784000266550

中田真佐男 基礎から学ぶ 同額マクロ経済学に必要な数学 日本評論社 2019 9784535556775

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

## 現代経済論 2 (D)

Contemporary Economics2(D)

理論から現実世界へ

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

### 授業の内容 / Course Contents

今日、世界で顕現化している様々な経済現象を例にとり、経済理論に即して分析し、評価するための機会を提供する。金融・財政政策の意義と評価、潜在的経済成長力の見方、ESG・SDGs の経済学的考察、決済のメカニズムと課題など、幅広いトピックスをカバーする。経済理論の応用という観点から、現象の分析と、ビジネスや社会への影響にフォーカスして講義を行う。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。限られた時間で実効性の高い講義を行い、学生の理解を深めるため、積極的な意見交換が期待されるほか、課題に対する成果物の提出も求められます。

Based on economic theory, this course provides the opportunity to analyze and evaluate the current economic

events occurring in the world. Sessions cover the evaluation of current financial and monetary policy, potential economic growth, economic study on ESG and SDGs, mechanism of settlement and payment. From the view point of applied economic theory, this course is designed to analyze the background of events, and evaluate the effect of these event to the society.

In order to achieve efficient session within the limited time frame and deepen understanding, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class.

They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：金融システムと中央銀行（1）ー経済社会を支えるインフラとしての金融システム
- 2回：金融システムと中央銀行（2）ー経済社会を支えるインフラとしての金融システム
- 3回：超低金利と金融政策（1）ー超低金利政策の効果と限界
- 4回：超低金利と金融政策（2）ー超低金利政策の効果と限界
- 5回：財政政策の今日的効果（1）ー財政政策の波及メカニズムと限界
- 6回：財政政策の今日的効果（2）ー財政政策の波及メカニズムと限界
- 7回：人口構造の変化と経済成長（1）ー経済成長の要因と政策の限界
- 8回：人口構造の変化と経済成長（2）ー経済成長の要因と政策の限界
- 9回：経済成長とグリーンエコノミー（1）ー巨大企業をめぐる光と影
- 10回：経済成長とグリーンエコノミー（2）ー巨大企業をめぐる光と影
- 11回：決済システム（1）ー決済の本質と決済手段の多様化
- 12回：決済システム（2）ー決済の本質と決済手段の多様化
- 13回：基軸通貨と国際間決済・国際取引（1）ー仕組みとリスクコントロール
- 14回：基軸通貨と国際間決済・国際取引（2）ー仕組みとリスクコントロール

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス参加と議論への貢献度（50%）、成果物の内容（50%）:100%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

- 中島真志、宿輪純一 決済システムのすべて 東洋経済新報社 2013 4492681337  
 白川方明 中央銀行 東洋経済新報社 2918 9784492654859  
 野口悠紀雄 戦後経済史 東洋経済新報社 2015 9784492371183  
 トマ・ピケティ 21世紀の資本 みすず書房 2015 9784622078760  
 石弘光 増税時代 筑摩書房 2012 9784480066930



**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# アグリフードシステム論 1 (D)

Agri-food System 1(D)

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG311  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7100  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

農業および関連産業についてフードシステム学の視点から把握し理解する。そのため、品目ごとの農産物・食品流通の実態、さまざまな付加価値を生み出すフードチェーンおよび関連作業の実態、表示・認証制度等の意義について検証し議論する。

To understand agriculture and related industries from the perspective of food system approach, students will examine and discuss the actual status of agricultural production and food distribution systems by each item, the actual status of food chains and related operations that create various added values, and the labeling and certification systems.

## 授業の内容 / Course Contents

農業では、生産から消費にいたるバリューチェーンの構築が鍵となっている。また関連産業がさまざまに展開することで多くのビジネス機会を生み出している。一方でグローバル化を指向することがあるが、他方でローカル化が強みとなり高い価値を生み出している。本授業では、農業および関連産業の動向をフードシステムの視点でとらえ、課題や論点について検討し議論する。

In agriculture, building a value chain from farm to table is a key to success. In addition, many related food

industries is creating many business opportunities. On the one hand, they are oriented towards globalization, but on the other hand, they are oriented towards localization, which is their strength and creates high value. In this course, students will examine trends in agriculture and related industries from a food system perspective, and understand actual issues.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農産物市場の特性 (1)  
 2 回：農産物市場の特性 (2)  
 3 回：食品産業とフードシステム (1)  
 農業関連企業によるインテグレーション  
 4 回：食品産業とフードシステム (2)  
 食品産業の発展とフードチェーン  
 5 回：品質とは何か  
 品質属性，付加価値，付加的サービスなど  
 6 回：情報の不完全と表示 (1)  
 食品市場における情報の不完全  
 7 回：情報の不完全と表示 (2)  
 品質・安全をめぐるモラルハザード問題  
 8 回：食のリスク管理 (1)  
 9 回：食のリスク管理 (2)  
 10 回：表示制度と認証 (1)  
 11 回：表示制度と認証 (2)  
 12 回：地理的表示と地域ブランド (1)  
 13 回：地理的表示と地域ブランド (2)  
 14 回：地理的表示と地域ブランド (3)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にて随時指示するので，確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

### テキスト / Textbooks

授業時に随時指示する。

### 参考文献 / Readings

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法

で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# アグリフードシステム論2 (D)

Agri-food System 2(D)

大山 利男 (OYAMA TOSHIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	WG312
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS7100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

農業は、各地域に特有の立地条件、気候条件の違いにより、多様な経営形態・生産技術が展開している。もっとも一般的な家族経営（自営業、家業として）は歴史的にそれなりの必然と有利点があったが、今日では課題が少なくない。本授業では、農業部門におけるそのような特殊性と一般性を検討するとともに、法人による農業参入の課題、食品産業との関係性構築について議論する。

In agriculture, a variety of farm management and production techniques are developed due to differences in location and climate conditions specific to each region. The most common type of family business (family business) has historically had certain advantages and disadvantages, but today it faces many challenges. In this course, we will examine the particularities and generalities of the agricultural sector, as well as discuss the challenges of corporations entering agriculture and building relationships with the food industry.

## 授業の内容 / Course Contents

農業経営は多様化が進んでいるものの、先進国ではひきつづき家族農業が主流である。その特質と課題は何かを考える。また、農業はさまざまな関連産業とも結びつきやすく多くのビジネス機会を提供しており、その特徴と可能性を考える。とくにローカル化に強みをもつ農業者、事業者が多いのがひきつづき特徴となっている。

が、近年では輸出志向の事業者が増えている。本授業では、企業等による農業参入の実態、経営・マーケティングの課題等について考察する。

Although agricultural management is diversifying, family farming continues to be the mainstream in developed countries. In addition, agriculture is often connected to various related industries and provides many business opportunities. So, we will consider its characteristics and possibilities. In the many of countries, there are many farmers and businesses that have a particular strength in localization, but in recent years there has been an increase in the number of export-oriented businesses. In this course, we will consider the actual state of companies' entry into agriculture, management and marketing issues, etc.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：農業経営の特殊性 (1)  
家族経営と法人経営
- 2 回：農業経営の特殊性 (2)  
家族経営と法人経営
- 3 回：農業の外部経済効果 (1)  
農業における多面的機能論
- 4 回：農業の外部経済効果 (2)  
農業と地域活性化
- 5 回：農業の外部経済効果 (3)  
農業の6次産業化とは
- 6 回：異業種からの農業参入 (1)
- 7 回：異業種からの農業参入 (2)
- 8 回：異業種からの農業参入 (3)
- 9 回：農業と食品産業の連携 (1)
- 10 回：農業と食品産業の連携 (2)
- 11 回：農業と食品産業の連携 (3)
- 12 回：マーケティングと情報・表示制度 (1)  
生産情報の重要性
- 13 回：マーケティングと情報・表示制度 (2)  
ラベル表示に関する規制と活用
- 14 回：マーケティングと情報・表示制度 (3)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMSにて随時指示するので、確認のうえ準備学習すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業時の発表:30% 授業時のレポート:30%

### **テキスト / Textbooks**

---

授業時に随時指示する。

### **参考文献 / Readings**

---

### **注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# クリティカル・シンキング (D)

Critical Thinking(D)

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG331  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ビジネスにおける問題解決能力を高めていくことのみならず、自らが意義の大きい問題設定や課題設定ができるようになることや、それらの問題解決の実行が実際にできるようになることを目的とする

The purpose of this course is not only to improve problem solving skills regarding business, but also to enable you to set up and solve problems that are of great significance to yourself, and to actually be able to solve these problems.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義においては、クリティカル・シンキングを、論理的に思考するためのツールや能力という狭義の捉え方はもとより、「分析力×洞察力×構想力」を高め、問題解決能力を高めていくツールや能力であると広義に捉えてクラスを実践的に進めていく。さらには、与えられた問題を解決していただくだけではなく、自ら合理性の高い問題設定や課題設定を行い、それらの解決策を見出すことができるようになることを目指していく。本講義においては、「定量分析×定性分析」や「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」を融合させ、企業の現場でいかに合理性の高い戦略を策定し、なおかつ、いかにそれを効果的に実行して成果を上げていくかという点にも注力していく。そのために最も重要なことは、クリティカル・シンキングで導き出した「正しいロジック



ク」を相手に振りかざすのではなく、相手の立場や感情にも心を配り、相手の「共感」や周りとの「調和」を実現していくことである。現実のビジネスシーンにおいては、「正しいロジック」にいかにか「共感」してもらえ  
 るかの方が重要である。したがって、講義では人系フレームワークも活用して、想定顧客との信頼関係構築  
 のためのロープレ演習やチームワーク演習なども多用し、実践的にクラスを進めていく。本講義で学んでいく  
 MECE や 3W1H 等の基礎的なツールは、ビジネススクールで学んでいく専門的なフレームワークに対して  
 「OS」や「CPU」のように機能するものであるが、同時に企業の現場においては最も多用されるものでもあ  
 る。各種科目の履修初期の段階はもとより、修了前の段階においてこそ立ち返るべき内容である。

したがって、本講義の後半においては、実際にクリティカル・シンキングのツールを使って、企業の現場にお  
 ける売上・利益・業績等を向上していく手法についても事例を用いて実践的に学んでいく。

In this lecture, in addition to the narrow view of tools and abilities to think logically about critical thinking, this class will interpret, in a broad sense, critical thinking as a tool and ability to enhance the problem solving ability through enhancing "analytical power × insight × imagination". Further, we will not only solve the problems that are given to us, but we will also setup problems that are highly rational and aim to be able to find solutions to those. In this lecture, we will discuss how to formulate a strategy that is highly rational at the scene of companies by fusing "quantitative analysis × qualitative analysis" and "strategy system framework × human system framework", and in addition, we will focus on how to effectively implement these measures and achieve results. For this purpose, the most important thing is not to show the other party the "correct logic" derived by critical thinking, but also to be mindful of the position and feelings of the other party and to realize "sympathy" of the other party and "harmony" with the surroundings. In real business, it is more important to get "sympathy" as a way for "correct logic". Therefore, in this lecture we will utilize human system frameworks as well as many other exercises such as role play seminars and team work seminars to build trust with our supposed customers. The basic tools learned in this lecture, such as MECE and 3W1H, are those that function much like an "OS" and "CPU" for the specialized framework learned in business school, but at the same time, it is one of the most frequently used in the field of business. Not only in just the early stages of taking a course in each discipline, it is the content that should be returned to before completion.

Therefore, in the second half of this lecture, students will learn how to improve the sales, profit, and performance of companies by using the actual tools of critical thinking.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クリティカル・シンキングの前提知識（1）
- 2 回：クリティカル・シンキングの前提知識（2）
- 3 回：クリティカル・シンキングの基礎知識（1）
- 4 回：クリティカル・シンキングの基礎知識（2）
- 5 回：クリティカル・シンキングのフレームワーク（1）
- 6 回：クリティカル・シンキングのフレームワーク（2）
- 7 回：問題解決の手法（1）
- 8 回：問題解決の手法（2）
- 9 回：PDCA の理論と実際（1）
- 10 回：PDCA の理論と実際（2）
- 11 回：売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（1）
- 12 回：売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（2）
- 13 回：「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング

(1)

14回：「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング

(2)

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

問題解決、課題や仮説設定などに普段から高い問題意識をもっておくこと

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合：:20%

**テキスト / Textbooks**

高田貴久+岩澤智之 『問題解決』 英治出版 2014 9784862761248 -

安宅和人 『イシューからはじめよ』 英治出版 2010 9784862760852 -

田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -

田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656 -

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

**参考文献 / Readings**

竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482

泉田良輔 『Google vs. トヨタ—自動運転車は始まりにすぎない』 角川 2014 9784040800233

日経デザイン 『アップルのデザイン戦略』 日経 BP 社 2014 9784822264888

板倉俊之 『ことわざドリル—笑いこみあげる92題』 リトルモア 2010 9784898152904

**その他 / Others****【双方向による授業】**

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

**【実務家教員による授業】**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# コーポレート・ストラテジー 1 (D)

Corporate Strategy 1(D)

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 授業形態の詳細については初回講義にて説明する（基本的にはオンラインでも受講で可能な運営を想定している）。

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講は経営戦略の歴史的発展経緯を把握したうえで、今日的経営戦略の全体像について、現象およびその現象の背景にある理論の理解を深めることを目的としている。

The purpose of this course is to understand the historical development of strategy, and then to deepen the understanding of the phenomenon and the theory about the overall view of strategy.

## 授業の内容 / Course Contents

経営戦略の歴史的変遷を理解したうえで、経営戦略の全体構造を構成する各テーマについて議論する。具体的には、現象としての事業戦略、企業戦略、市場戦略、新規事業戦略について、理論的背景を含めて議論する。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

After understanding the historical transition of business strategy, each theme that constitutes the overall structure of strategy will be discussed. Specifically, business strategy, corporate strategy, market strategy, and new business strategy will be discussed, including theoretical background. For each theme, we will use case study

analysis and deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：経営戦略論の発展
- 3 回：経営理念
- 4 回：企業と外部環境
- 5 回：業界環境と SCP ロジック
- 6 回：リソース・ベスト・ビューと活動システム図
- 7 回：コストリーダーシップと差別化
- 8 回：競争戦略とレッドクイーン理論
- 9 回：企業戦略（垂直統合と取引コスト）
- 10 回：戦略の転換
- 11 回：製品と事業のライフサイクルと新規事業戦略
- 12 回：イノベーションの正当化
- 13 回：ビジネスモデル
- 14 回：プレゼンテーション

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業コミットメント:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

### 参考文献 / Readings

三谷宏治 『経営戦略全史』 ディスカバリー・トゥエンティワン 2013

入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019

その他資料は随時配布する。

### その他 / Others

本講とコーポレート・ストラテジー2 はセットになっているため、本講から受講することが望ましい。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法

で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# コーポレート・ストラテジー 2 (D)

Corporate Strategy 2(D)

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 授業形態の詳細については初回講義にて説明する（基本的にはオンラインでも受講で可能な運営を想定している）。

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

本講は「コーポレート・ストラテジー1」を踏まえ、経営戦略に関する代表的な理論だけではなく、意思決定や戦略の実行にも焦点を当てながら、経営戦略についてより深く理解することを目的としている。

Based on "Corporate Strategy 1", this course aims to provide a deeper understanding of strategy, focusing not only on the typical theories of strategy but also on decision-making and strategic implementation.

## 授業の内容 / Course Contents

経営戦略は、戦略策定だけではなくそれが円滑に実行されてはじめて価値を持つ。本講では戦略の実行にも焦点を当て、その理論的背景を含めて議論を行う。また、意思決定を含めた組織の個人に焦点を当て、その背景にある理論に関する議論を行うことで、より幅広い視点から経営戦略を捉える。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

Strategies have value not only when they are formulated but also when they are smoothly implemented. In this lecture, we will focus on strategic implementation, including the theoretical background. In addition, this lecture

focuses on individuals in the organization, including decision-making, and discussion of the theory behind it to capture business strategy from a broader perspective. In each theme, the case analysis will be used to deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経営戦略の全体像①
- 2 回：経営戦略の全体像②
- 3 回：組織の原理
- 4 回：上層部理論（理論とは何かを含む）
- 5 回：制度理論と資源依存理論
- 6 回：意思決定の理論
- 7 回：戦略と組織：戦略の実行①
- 8 回：戦略と組織：戦略の実行②
- 9 回：社会ネットワーク理論
- 10 回：ナレッジ・ベースト・ビュー
- 11 回：知の探索、知の深耕（両利き）①
- 12 回：知の探索、知の深耕（両利き）②
- 13 回：企業と経営者①
- 14 回：企業と経営者②

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業コミットメント:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合:40%

### テキスト / Textbooks

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

### 参考文献 / Readings

入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイアモンド社 2019

その他資料は随時配布する。

### その他 / Others

コーポレート・ストラテジー1を受講していることが望ましい。

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目

は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。



# ヒューマン・リソース・マネジメント 1D

Human Resource Management 1(D)

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG381

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ヒューマン・リソース・マネジメントで取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
- 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
- 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

The goals this course are to

- Be able to understand the outline and issues of the main themes discussed with in human resource management.
- Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
- Be able to read research papers and discover the implications for business.

## 授業の内容 / Course Contents

ビジネスを成り立たせる資源（リソース）には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感

情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。

この講義では、経営戦略の実現に向けてヒューマン・リソース・マネジメントの中核的機能である、格付け、賃金、評価、報酬、採用、配置、人材開発などについて実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound. This course introduces the core functions of human resource management, such as grading, wages, evaluation, compensation, recruitment, placement, and human resource development, in order to activate the business strategy by combining practice and theory.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：人事の課題整理
- 2 回：ヒューマン・リソース・マネジメントの鳥観図と概論
- 3 回：経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (1)
- 4 回：経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (2)
- 5 回：社員格付け制度と賃金 (1)
- 6 回：社員格付け制度と賃金 (2)
- 7 回：人事評価と報酬 (1)
- 8 回：人事評価と報酬 (2)
- 9 回：採用、配置、退出 (1)
- 10 回：採用、配置、退出 (2)
- 11 回：人材開発とキャリア開発 (1)
- 12 回：人材開発とキャリア開発 (2)
- 13 回：人的資本経営 (1)
- 14 回：人的資本経営 (2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:60% 授業姿勢（出席、発言、発表）:40%

### テキスト / Textbooks

平野光俊・江夏幾多郎 人事管理 人と企業、ともに生きるために 有斐閣 2018 9784641150478 -

### 参考文献 / Readings

江夏幾多郎 新・マテリアル人事労務管理 有斐閣 2023 9784641166196

授業内で紹介します。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ヒューマン・リソース・マネジメント 2D

Human Resource Management 2(D)

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG382

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域となる組織行動、労働政策、労働法等で取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
- 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
- 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

The goals this course are to

- Be able to understand the outline and issues of the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc.
- Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
- Be able to read research papers and discover the implications for business.

## 授業の内容 / Course Contents

ビジネスを成り立たせる資源（リソース）には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感

情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。

この講義では、ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域で議論される組織行動、労働政策、労働法等における主要テーマについて、実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound. This course introduces the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc. by combining practice and theory to students taking this course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：組織行動論：モチベーション(1)
- 2 回：組織行動論：モチベーション(2)
- 3 回：組織行動論：個人と組織の関係性(1)
- 4 回：組織行動論：個人と組織の関係性(2)
- 5 回：組織行動論：リーダーシップ(1)
- 6 回：組織行動論：リーダーシップ(2)
- 7 回：組織行動論：コンフリクト(1)
- 8 回：組織行動論：コンフリクト(2)
- 9 回：組織行動論：組織文化(1)
- 10 回：組織行動論：組織文化(2)
- 11 回：労働政策：外部労働市場と内部労働市場(1)
- 12 回：労働政策：外部労働市場と内部労働市場(2)
- 13 回：労働法：労働法制と就業管理(1)
- 14 回：労働法：労働法制と就業管理(2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート：60% 授業姿勢（出席、発言、発表）：40%

### テキスト / Textbooks

鈴木竜太・服部泰宏 組織行動 組織の中の人間行動を探る 有斐閣 2019 9784641150669 -

### 参考文献 / Readings

服部泰宏 組織行動論の考え方・使い方 有斐閣 2020 9784641165663

山崎京子 個人と組織不適合のダイナミクス：適合と不適合が牽引する外部環境適応 白桃書房 2023  
9784561267768

授業内で紹介します。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# キャリアデザイン1 (D)

Career Design 1(D)

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG401  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7500  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- キャリア・デザインにおける心理学的側面の主要理論が理解できるようになること。
- 理論を用いた先行研究を調べ、研究の概要説明ができるようになること。
- 理論を自分自身のキャリア形成に活かし、キャリア・コンサルティングに適用する方法を理解できるようになること。

The goals this course are to

- Be able to understand the main theories of psychological aspects in career design.
- Be able to investigate previous theoretical research and explain the outline of the research.
- Be able to understand how to apply the theory to own career-development and how to apply it to career-consulting.

## 授業の内容 / Course Contents

キャリアに関する議論は、個人（心理学的な側面）、組織（人材開発的な側面）、そして社会（労働政策的な側面）といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。

この講義ではミクロに焦点を絞り、個人のキャリアの捉え方に関する理論を研究者ごとに学び、自分自身のキ

キャリアの内省やキャリア・コンサルティングへの適用を検討する。  
グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).

This course focuses on the micro, studying the individual's career theory by each academic researcher, and then reflecting into oneself and considering and considering the application to career-consulting.

Each group will investigate previous research and make a presentation in the lecture every time.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：キャリア心理学概論
- 2回：スーパー 「ライフキャリア・レインボー」
- 3回：ホランド 「VPI 職業興味検査」
- 4回：シャイン 「キャリア・アンカー」
- 5回：シュロスバーグ 「トランジション」
- 6回：デシ&ライアン 「自己決定理論」
- 7回：バンデュエラ 「自己効力感」
- 8回：克蘭ボルツ 「計画された偶発性」
- 9回：ホール 「プロティアン・キャリア」
- 10回：サビカス 「キャリア・アダプタビリティ」
- 11回：ハンセン 「統合的キャリア発達」
- 12回：リンダ・グラットン 「ライフ・シフト」
- 13回：キャリア・コンサルティングの理論と実践(1)
- 14回：キャリア・コンサルティングの理論と実践(2)

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:60% 授業姿勢（出席、発言、発表）:40%

### テキスト / Textbooks

渡辺三枝子 新版キャリアの心理学 ナカニシヤ出版 2018 9784779512940 -

### 参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

### 注意事項



本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# キャリアデザイン2 (D)

Career Design 2(D)

山崎 京子 (YAMAZAKI KYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG402

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1. テーマや対象者に応じたキャリア研究の進め方が理解できるようになること。
2. 論文に示された研究成果を、自社や自分自身に適用するにはどうすべきかを検討できるようになること。

The goals this course are to

1. Be able to understand how to proceed with career research.
2. Be able to consider how to apply the research results shown on the paper to your company or yourself.

## 授業の内容 / Course Contents

キャリアに関する議論は、個人（心理学的な側面）、組織（人材開発的な側面）、そして社会（労働政策的な側面）といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。

さらに、学生やシニアといった発達段階や、非正規労働者や外国人労働者といった労働条件などの違いによって課題が異なることから、研究対象ごとの議論が行われる。

この講義では対象に焦点を絞り、どのような研究が実際に行われているのかを学び、キャリア研究の進め方と実務適用について検討する。

グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).

Furthermore, since the career issues differ depending on the developmental stage such as students or seniors, or the working conditions such as non-proper workers, foreign workers; the discussions will be held for each research target and subject.

This course focuses on the target and subject; understanding what kind of research is actually being conducted, and considering how to proceed with career research and practical application.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：キャリア研究概論
- 2回：キャリア研究：大学生
- 3回：キャリア研究：新入社員
- 4回：キャリア研究：ミドル
- 5回：キャリア研究：中間管理職
- 6回：キャリア研究：経営者
- 7回：キャリア研究：シニア
- 8回：キャリア研究：女性
- 9回：キャリア研究：非正規労働者
- 10回：キャリア研究：外国人労働者
- 11回：キャリア研究：技術職・専門職
- 12回：キャリア研究：グローバル
- 13回：キャリア研究：ワークライフ・バランス
- 14回：キャリア研究：組織によるキャリア支援

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート：60% 授業姿勢（出席、発言、発表）：40%

### テキスト / Textbooks

必要に応じてレジュメを配布します。

### 参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# マーケティング・エッセンシャルズ 1 (D)

Marketing Essentials 1(D)

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG411

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1. マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
2. 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立
1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

## 授業の内容 / Course Contents

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス（製造業、流通業、サービス業等）だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit

organizations.

This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：マーケティングとは
- 2回：発展の歴史／マーケティング・マネジメントの基本的な考え方
- 3回：マーケティング環境：各市場の特徴／：標的市場の設定
- 4回：マーケティング・ミックスとは
- 5回：製品政策（1）：製品概説（製品分類／製品ミックス概念）
- 6回：製品政策（2）：プロダクトライフサイクルとマーケティングミックス
- 7回：価格政策（1）：価格概説
- 8回：価格政策（2）：上澄価格と浸透価格
- 9回：流通政策（1）：流通チャネル概説
- 10回：流通政策（2）：流通諸理論
- 11回：マーケティング・コミュニケーション政策（1）：マーケティング・コミュニケーション概説
- 12回：マーケティング・コミュニケーション政策（2）：広告・PR・SP・人的販売
- 13回：最終課題報告
- 14回：最終課題報告

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学修（予習）：前回までの復習を実施し、授業に参加する。

事後学修（復習）：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。

上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

### テキスト / Textbooks

講義資料は、ブラックボード等で、配布する。

テキストについては、講義時に紹介する。

### 参考文献 / Readings

和田 充夫（編集），日本マーケティング協会（編集） マーケティング用語辞典（日経文庫） 日本経済新聞社  
2005 4532110742

有馬 賢治（著），岡本 純（著），斎藤 明（著），長崎 秀俊（著），宮下 雄治（著） マーケティング・オン・ビジネス—基礎からわかるマーケティングと経営 新世社 2016 4883842347

### その他 / Others

※全授業回をオンラインでの実施予定。

※適宜、関連する実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。

本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目（B2B、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等）が開講されています。

実務に関連した業務（営業系業務）経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経

#### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# マーケティング・エッセンシャルズ 2 (D)

Marketing Essentials 2(D)

斎藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG413  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

1. マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
2. 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立
1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

## 授業の内容 / Course Contents

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス（製造業、流通業、サービス業等）だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit



organizations.

This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション／サービスマーケティング（1）：サービス概説
- 2回：サービスマーケティング（2）：SD ロジック・価値共創
- 3回：ブランド（1）：諸概念
- 4回：ブランド（2）：ブランディング
- 5回：消費者行動（1）：消費者行動概説（意思決定プロセス）（影響要因）
- 6回：消費者行動（2）：消費者行動諸概念（態度・関与）
- 7回：消費者行動（3）：消費者行動諸概念（流行、クチコミ他）
- 8回：ソーシャルマーケティング／非営利組織のマーケティング
- 9回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（A）
- 10回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（A）
- 11回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（B）
- 12回：ゲスト・スピーカーによる実践報告（B）
- 13回：最終課題報告
- 14回：最終課題報告

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学修（予習）：前回までの復習を実施し、授業に参加する。

事後学修（復習）：授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。

上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

### テキスト / Textbooks

講義資料については、ブラックボード等で配布する。

テキストについては、授業内に紹介する。

### 参考文献 / Readings

和田 充夫（編集），日本マーケティング協会（編集） マーケティング用語辞典（日経文庫） 日本経済新聞社  
2005 4532110742

有馬 賢治（著），岡本 純（著），斎藤 明（著），長崎 秀俊（著），宮下 雄治（著） マーケティング・オン・ビジネス—基礎からわかるマーケティングと経営 新世社 2016 4883842347

### その他 / Others

※全授業回をオンラインでの実施予定。

※適宜、実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。

本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目（B2B、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等）が開講されています。

実務に関連した業務（営業系業務）経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経験のあ

#### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# サービス・マーケティング1 (D)

Services Marketing 1(D)

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG421

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

サービス産業全般に対するサービス経営学の中核としてのサービス・マーケティング、サービス産業全般に対するマーケティングとしてのサービス・マーケティング（広義のサービスに関するマーケティング、政治マーケティング等も含む）を実践的に学ぶ

In this course, we will learn practically about service marketing as a core area of Service Business Management, and service marketing as a marketing strategy for the service industry in general (including service marketing and political marketing in a broad sense).

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域と捉えてサービス・マーケティングを学んでいく。

サービス産業の特徴やその重要性をカバーした後で、サービス経営学全般を鳥瞰し、サービス・マーケティングの基礎知識をカバー、そしてその詳細について学んでいく。

カバーする業種には、医療・介護、ホテル・旅行、アミューズメント・エンターテイメント、飲食、IT、生命保険、銀行・証券、その他サービス業等を含むものとする。選挙戦及び政権運営を対象とする政治マーケティ

ングも対象とする。

このような位置付けと問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 7P とサービスミックス、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでサービス・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。

特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーしていく。またサービスにおける顧客心理と購買心理過程においては、実際に想定顧客とのロールプレ演習等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, we will learn about service marketing, consider service marketing as a core area of Service Business Management Studies for the service industry as a whole.

After covering the characteristics of the service industry and its importance, we will cover all aspects of Service Business Management, covering basic knowledge of service marketing, and deepen our knowledge about it.

The business categories covered include medical and nursing care, hotel and travel, amusement and entertainment, food and beverage, IT, life insurance, banking and securities, and other services. It also covers political marketing for election campaigns and government operations.

Based on the position and awareness of the problem, we will learn how to develop and implement service marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactics such as 7P and service mix, and branding, which is the positioning of a company.

In particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers. Also, in terms of customer psychology and purchasing psychology in service, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：サービス産業の特徴とサービス経営学（1）
- 2 回：サービス産業の特徴とサービス経営学（2）
- 3 回：サービス・マーケティングの基礎知識（1）
- 4 回：サービス・マーケティングの基礎知識（2）
- 5 回：サービス・マーケティングにおける STP 戦略（1）
- 6 回：サービス・マーケティングにおける STP 戦略（2）
- 7 回：サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス（1）
- 8 回：サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス（2）
- 9 回：サービスブランディング（1）
- 10 回：サービスブランディング（2）
- 11 回：選挙及び政権運営（統治）を対象とする政治マーケティング（1）
- 12 回：選挙及び政権運営（統治）を対象とする政治マーケティング（2）
- 13 回：サービスにおける顧客心理と購買心理過程（1）
- 14 回：サービスにおける顧客心理と購買心理過程（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨するが、これらの履修がなくても理解できるような授業運営を行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合 :20%

### テキスト / Textbooks

田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクエージ 2012 9784799101643 -

田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクエージ 2013 9784799102367 -

フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』

ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575 -

田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -

田中道昭 GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656 -

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482

フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング3.0』 朝日新聞出版 2010 9784023308398

ロバート・スコープル/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経BP社 2014 9784822250478

ケビン・レーン・ケラー 『戦略的ブランド・マネジメント』 東急エージェンシー 2010 9784884971120

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# サービス・マーケティング2 (D)

Services Marketing 2(D)

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG422  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

すべての産業に対するホスピタリティーや顧客満足向上におけるマーケティング手法を最新のサービス工学等も交えて実践的に学んでいく

We will learn about hospitality and marketing methods for improving customer satisfaction in all industries, including the latest service engineering

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域であると捉えることに加えて、すべての産業におけるホスピタリティーや顧客満足向上に対するマーケティング手法と捉えて、サービス・マーケティングを学んでいく。具体的には、サービスの質と価値、ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動、CRM とサービス・マーケティング等のサービス・マーケティングの領域のみならず、サービス工学やサービスに関連する数理マーケティング等の先端分野も学んでいく。サービス・マーケティング1と同様に、特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーし、最終的にはコーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービ

ス・マーケティングを実践していく。またホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動においては、実際に想定顧客とのロープレ演習等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, in addition to thinking of service marketing as a core area of Service Business Management in the service industry in general, service marketing is studied as a marketing method for hospitality and customer satisfaction improvement in all industries. To be specific, we will learn not only the quality and value of services, hospitality, customer value, customer satisfaction, impression, CRM and service marketing, but also the cutting edge fields of service engineering and service related mathematical marketing. As with Service Marketing 1, in particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers and in the end, we will practice service marketing to improve the companies corporate value and brand value. Also, in terms of hospitality, customer value, customer satisfaction, and inspiration, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：サービス工学とサービス・マーケティング（1）
- 2回：サービス工学とサービス・マーケティング（2）
- 3回：数理マーケティングとサービス・マーケティング（1）
- 4回：数理マーケティングとサービス・マーケティング（2）
- 5回：マネジメントシステムとサービス・マーケティング（1）
- 6回：マネジメントシステムとサービス・マーケティング（2）
- 7回：サービスの質と価値（1）
- 8回：サービスの質と価値（2）
- 9回：ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動（1）
- 10回：ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動（2）
- 11回：CRMとサービス・マーケティング（1）
- 12回：CRMとサービス・マーケティング（2）
- 13回：コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング（1）
- 14回：コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合：:20%

#### テキスト / Textbooks

田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクエージ 2012 9784799101643 -

田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクエージ 2013 9784799102367 -

窪山哲雄 『ホスピタリティ・マーケティングの教科書』 実業之日本社 2014 9784408594002 -  
田中道昭 『アマゾンが描く 2022 年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

ティム・ブラウン 『デザイン思考が世界を変える』 早川書房 2014 9784150504076  
ロバート・スコובר/シェル・イスラエル 『コンテキストの時代』 日経 BP 社 2014 9784822250478  
本村陽一 『サービス工学の技術』 東京電機大学出版局 2012 9784501551001  
泉田良輔 『Google vs. トヨタ—自動運転車は始まりにすぎない』 角川 2014 9784040800233  
田中道昭 GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2029 9784532322656

### その他 / Others

系統的履修

サービス・マーケティング 1 を履修しておくこと。

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。



# 流通システム論 1 (D)

Sales and Distribution System 1(D)

高岡 美佳 (TAKAOKA MIKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG431  
授業形態： オンライン (全回オンライン)  
授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

流通システムは、これまで数々のイノベーション (革新) を経て現在にいたっている。本授業では、事例の紹介などを交えながら、その革新の実態を考察するとともに新たな芽を探求する。

Distribution systems have been, at present, through various innovations up until now. In this class, while cases are introduced, the actual conditions of innovations are examined, and new opportunities are searched for.

## 授業の内容 / Course Contents

今日、生産から消費にいたる流通プロセスは多様化している。そこに至るまでにどんな革新があったのか。その革新のキーとなった要素は何であったのか。そこに関わった企業家のモチベーションは何か。各国における流通イノベーションの歴史と進化の実態について、企業事例などを紹介しつつ、今後を探る。

Today, distribution processes, from production to consumption, are diversified. What kind of innovation was there before that? What was the key element of this innovation? What is the motivation of the entrepreneurs involved? With regards to the actual conditions of history and evolution of distribution innovations in each country, the future will be investigated, while business cases are introduced.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：流通の社会的役割
- 2 回：流通の機能
- 3 回：流通革命の背景
- 4 回：メーカー主導の流通システム
- 5 回：「流通革命」とチェーンストアの役割
- 6 回：フランチャイズシステム理論
- 7 回：プライベート・ブランド（PB）の実際
- 8 回：サプライチェーン・マネジメント（SCM）の発展 1
- 9 回：サプライチェーン・マネジメント（SCM）の発展 2
- 10 回：サプライチェーン・マネジメント（SCM）の発展 3
- 11 回：「情報」と流通
- 12 回：取引コストと企業の境界
- 13 回：ショッピングセンター時代の本質
- 14 回：流通業と環境・CSR

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

講義ごとにレジュメ，資料を配布する。

#### 参考文献 / Readings

伊藤元重編 『日本の産業システム6 新流通産業』 NTT 出版 2005 4757121059

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 流通システム論 2 (D)

Sales and Distribution System 2(D)

高岡 美佳 (TAKAOKA MIKA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG432  
授業形態： オンライン (全回オンライン)  
授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

時代の変遷の中でイノベーター達は、様々な小売業態 (ビジネスモデル) を生み出した。本授業では、これらイノベーションの実態と今後の新たな可能性について探求する。

With the changing of the times, innovators have produced various retail business models. In this class, the actual condition of these innovations and new future possibilities are investigated.

## 授業の内容 / Course Contents

これまで先進諸国では、その時代に特徴的な小売業態が流通業をリードし、流通システムを変えてきた。どんな業態がいつ、なぜ登場したのか。誰が革新を担ったのか。そして、その革新性の本質は何であったのか。これらの点を、日本と諸外国の代表企業をケースに取り上げ、明らかにしていきたい。

Up until now, in advanced countries, the characteristic retail type has led the distribution industry, and distribution systems have changed. What kind of business conditions and when and why did they appear? Who took charge of the innovation? And, what was the essence of the innovation? We would like to take up and clarify these points in cases of representative corporations of Japan and overseas countries.

## 授業計画 (授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：小売業種・業態の登場とその背景
- 2 回：小売業態 1: 百貨店
- 3 回：小売業態 2: スーパーマーケット (SM)
- 4 回：小売業態 3: 総合スーパー (GMS)
- 5 回：小売業態 4: コンビニエンスストア (CVS)
- 6 回：小売業態 5: ショッピングセンター
- 7 回：小売業態 6: 専門店
- 8 回：チェーン小売業の諸形態
- 9 回：近年の小売ビジネスモデル
- 10 回：SPA とサプライチェーンマネジメント
- 11 回：インターネットの発達と e コマース
- 12 回：小売業とカスタマイゼーション
- 13 回：小売フォーマットの本質と新たな可能性
- 14 回：小売業のグローバル化戦略

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

#### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言:60% 最終レポート割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

講義ごとにレジュメ, 資料を配布します

#### 参考文献 / Readings

田村正紀 『業態の盛衰 現代流通の激流』 千倉書房 2008 4805109181

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# コーポレート・マーケティング (D)

Corporate Marketing(D)

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG441  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業全体を商品・サービス戦略などの主要なマーケティング戦略と高い融合性をもたせながら社内外にマーケティングしていく手法やミッションブランディングに代表される企業全体のブランディング手法を学んでいく。政治マーケティングにおけるブランディング等もカバーする。

We will learn how to market the whole company both internally and externally, and how to brand the whole company, such as mission branding, while having a high fusion with the main marketing strategy, such as product and service strategy, etc. We will also cover branding and other aspects of political marketing.

## 授業の内容 / Course Contents

コーポレート・マーケティングとは、企業などの組織全体を社内外にマーケティングしていく手法である。その中核はミッションブランディングにある一方で、実際に顧客に提供する商品・サービスはもとより、店舗戦略や経営戦略等に至るまで、企業の戦略ピラミッドのすべての階層との整合性が不可欠な分野でもある。商品・サービスの背景には、コーポレートブランドが存在し、商品・サービスブランドと一体化している。優れたブランド企業の商品・サービスは、単に商品・サービスだけが優れているのではなく、一流の品質を維持するための企業活動やその背景としてのブランドプロミスに支えられているのである。

本講義においては、このような問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 4P、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでコーポレート・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。

企業におけるミッション・ビジョン・バリュー、そしてストラテジーを、実際の商品・サービスと連携して強化していく手法をカバーしていく。特にコーポレート・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、コーポレートブランディングのみならず、商品ブランディング、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディングについてもカバーしていく。

そのなかでも、グランドデザインの構築というコーポレート・マーケティングの領域もカバーし、ブランド理念やブランドビジョンから始まって、ブランドストラテジー、さらには商品・サービスのみならず、実際のデザインに至るまで、全体像と構成要素を構築し、ブランドの理想像やミッションブランディングを提示していく手法を学んでいく。

さらには、コーポレート・マーケティングとしての企業 PR やコーポレートアイデンティティ、そして上場企業の IR（インベスターズリレーションズ）の実務もカバーし、最終的にはコーポレートバリューやブランドバリュー、株価などを高めていく手法についても学んでいく。

政治マーケティング（特に選挙マーケティング）におけるブランディングも対象とする。

Corporate Marketing is a method of marketing an entire organization, such as a company, internally and externally.

While the core of this is mission branding, consistency with all classes of the strategic pyramid of the business is indispensable, not only products and services that are actually provided to customers, but also store strategies, management strategies, etc.

In the background of products and services, there is a corporate brand, and it is integrated together with the brand of products and services. The products and services of businesses with excellent brands are not only superior products and services, but are supported by corporate activities to maintain first class quality and brand promise as their background.

In this lecture, based on the awareness of the problem, we will learn how to develop and implement Corporate Marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactic 4P, and branding, which is the positioning of a company and the essence of marketing.

We will cover techniques to enhance the mission, vision, value, and strategy of a business in cooperation with actual products and services. In particular, we will focus on company branding, which is the core of Corporate Marketing, and will cover not only corporate branding, but also product branding, store branding, and self-branding for managers and developers.

Among them, we cover the area of Corporate Marketing, which is the construction of grand design, and create the entire picture and constitutes, starting from the brand philosophy and brand vision, not only from the brand strategy, but also from the products and services, to the actual design and we will learn how to present the ideal image of the brand and mission branding.

Further, we will cover the practice of corporate PR, corporate identity, and investor relations (IR) of listed companies as Corporate Marketing, and finally, we will also teach how to raise corporate value, brand value, and stock price.

We will also cover branding in political marketing (especially in electoral marketing).

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略（1）

- 2回：コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略（2）  
 3回：コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（1）  
 4回：コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（2）  
 5回：コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（1）  
 6回：コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（2）  
 7回：マーケティング 3.0 とミッションブランディング（1）  
 8回：マーケティング 3.0 とミッションブランディング（2）  
 9回：企業 PR とコーポレートアイデンティティ（1）  
 10回：企業 PR とコーポレートアイデンティティ（2）  
 11回：政治マーケティングにおけるブランディング（1）  
 12回：政治マーケティングにおけるブランディング（2）  
 13回：コーポレートバリューとブランドバリュー（1）  
 14回：コーポレートバリューとブランドバリュー（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド* (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨する

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合 : :20%

### テキスト / Textbooks

- 田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクエージ 2012 9784799101643 -  
 田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクエージ 2013 9784799102367 -  
 ケビン・レーン・ケラー 『戦略的ブランド・マネジメント』 東急エージェンシー 2010 9784884971120 -  
 高橋恭介+田中道昭 『あしたの履歴書』 ダイヤモンド社 2017 9784478103937 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く 2022 年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

- フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』  
 ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575  
 竹内一正 『イーロン・マスクの挑戦』 宝島社 2014 9784800228482  
 ロバート・スコובר/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経 BP 社 2014 9784822250478  
 ティム・ブラウン 『デザイン思考が世界を変える』 早川書房 2014 9784150504076  
 田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656

### その他 / Others

**【双方向による授業】**

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

**【実務家教員による授業】**

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

**注意事項**

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。



# ラグジュアリーブランド・マネジメント 1D

Luxury Brand Management 1(D)

外村 彩 (TONOMURA AYA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG451  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） ゲストスピーカーの都合によりオンラインとなる場合あり。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということ考察し明らかにする。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

## 授業の内容 / Course Contents

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家です。ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。（マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定）担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling

in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ラグジュアリーブランド・マネジメント概論（本科目の目的と概要）
- 2 回：ゲストスピーカー講義 1
- 3 回：ゲストスピーカー講義 2
- 4 回：ゲストスピーカー講義 3
- 5 回：ゲストスピーカー講義 4
- 6 回：ゲストスピーカー講義 5
- 7 回：ゲストスピーカー講義 6
- 8 回：ゲストスピーカー講義 7
- 9 回：ゲストスピーカー講義 8
- 10 回：ゲストスピーカー講義 9
- 11 回：ゲストスピーカー講義 1 0
- 12 回：ゲストスピーカー講義 1 1
- 13 回：ゲストスピーカー講義 1 2
- 14 回：総括講義

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題（＝各セメスター期末レポート）について授業外でも各自探究いただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの貢献:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

JN カプフェレ+V バスティアン The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略 東洋経済新報社 2017  
9784492556825

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ラグジュアリーブランド・マネジメント 2D

Luxury Brand Management 2(D)

外村 彩 (TONOMURA AYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	WG452
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	ゲストスピーカーの都合によりオンラインとなる場合あり。
校地：	池袋
学期：	秋学期 2
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS7400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということ考察し明らかにする。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

## 授業の内容 / Course Contents

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家と予定され、ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。（マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定）担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling

in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ラグジュアリーブランド・マネジメント概論（本科目の目的と概要）
- 2 回：ゲストスピーカー講義 1
- 3 回：ゲストスピーカー講義 2
- 4 回：ゲストスピーカー講義 3
- 5 回：ゲストスピーカー講義 4
- 6 回：ゲストスピーカー講義 5
- 7 回：ゲストスピーカー講義 6
- 8 回：ゲストスピーカー講義 7
- 9 回：ゲストスピーカー講義 8
- 10 回：ゲストスピーカー講義 9
- 11 回：ゲストスピーカー講義 1 0
- 12 回：ゲストスピーカー講義 1 1
- 13 回：ゲストスピーカー講義 1 2
- 14 回：総括講義

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題（＝各セメスター期末レポート）について授業外でも各自探究いただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの貢献:60% 最終レポート割合 :40%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

JN カプフェレ+V バスティアン The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略 東洋経済新報社 2017  
9784492556825

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# インダストリアルマネジメント 1 (D)

Industrial Management 1(D)

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG481  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

イノベーションに関連する基本文献を読み、イノベーション論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。今年度は、今日のイノベーションを理解するうえでも示唆に富むクレイトン・クリステンセンの『イノベーションのジレンマ』を読解する。

The aim is to read basic literature related to innovation, to learn the basic contents of innovation theory, and to develop the ability to read academic research. This year, we will read Clayton Christensen's Innovation Dilemma, which is inspiring to understand today's innovation.

## 授業の内容 / Course Contents

講義にあたっては、テキストの各章を受講者相互の議論を通じて読解していく。

受講者は、毎回の講義に先だて、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で参加者全員が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、また適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。

本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。

なお講義の進め方は最初の講義（オンラインで実施予定）で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する場合がありますので、最初の講義に参加をすること。

In the lecture, each chapter of the text will be read through discussions among the students.

Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issues and questions, and participate. After that, all the participants explain, present, and report the contents of each sentence and paragraph, and summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.

In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.

How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture, but attendance to the first lecture

(Online lecture) is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：序章の輪読（1）
- 3 回：序章の輪読（2）
- 4 回：序章の輪読（3）
- 5 回：なぜ優良企業が失敗する理由（1）
- 6 回：なぜ優良企業が失敗する理由（2）
- 7 回：なぜ優良企業が失敗する理由（3）
- 8 回：バリュー・ネットワークとイノベーション（1）
- 9 回：バリュー・ネットワークとイノベーション（2）
- 10 回：バリュー・ネットワークとイノベーション（3）
- 11 回：掘削機業界における破壊的イノベーション（1）
- 12 回：掘削機業界における破壊的イノベーション（2）
- 13 回：掘削機業界における破壊的イノベーション（3）
- 14 回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ・レポート:40% 提出物:35% 出席・発言等:25%

**テキスト / Textbooks**

クレイトン・クリステンセン 『イノベーションのジレンマ』 翔泳社 4798100234 ○

**参考文献 / Readings**

必要に応じて適宜、講義において指示する。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# インダストリアルマネジメント 2 (D)

Industrial Management 2(D)

秋野 晶二 (AKINO SHOJI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG482  
授業形態： オンライン (全回オンライン)  
授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7600  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

プラットフォームビジネスに関連する基本文献を読み、プラットフォームビジネス論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。プラットフォームビジネスを理解するうえで基本となるマイケル・クスmanoらの『プラットフォームビジネス』を読解する。

The aim is to read basic literature related to platform business, to learn the basic contents of platform business theory, and to develop the ability to read academic research. We read Michael A. Cusumano et al. 's "The Business of Platforms", which is basic in understanding platform business.

## 授業の内容 / Course Contents

講義にあたっては、テキストの各章を輪読と報告、および受講者相互の議論を通じて読解していく。受講者は、毎回の講義に先だって、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で報告者が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、そして参加者全員が適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。



本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。

なお本講義の進め方は最初の講義（オンラインで実施予定）で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する可能性があるため、最初の講義に参加をすること。

In the lecture, each chapter of the text will be read and reported in turns, and learned through discussions among the students. Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issues and questions, and participate. After that, a reporter explains, presents, and reports the contents of each sentence and paragraph, and all the participants summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.

In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.

How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture (Online lecture), but attendance to the first lecture is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：本講義の目的・方法などについて
- 2回：プラットフォーム思考
- 3回：覇者が全てもしくは大半を獲得する（1）
- 4回：覇者が全てもしくは大半を獲得する（2）
- 5回：戦略とビジネスモデル（1）
- 6回：戦略とビジネスモデル（2）
- 7回：共通する失敗（1）
- 8回：共通する失敗（2）
- 9回：既存企業は新たな世界に適応できるか（1）
- 10回：既存企業は新たな世界に適応できるか（2）
- 11回：諸刃の剣（1）
- 12回：諸刃の剣（2）
- 13回：プラットフォームとその将来
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。なお報告担当者は輪読のためのレジメを作成し、質問等に回答できるよう準備すること。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告・発言・出席等:40% 提出物:30% レジメ・レポート:30%

**テキスト / Textbooks**

マイケル・クスマノ、アナベル・ガワー、デヴィッド・ヨッフイー 『プラットフォームビジネス』 有斐閣  
2020年 4641165688 ○

**参考文献 / Readings**

必要に応じて適宜、講義において指示する。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ベンチャー企業論 (D)

Entrepreneurship(D)

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG491  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、スタートアップ企業特有のマネジメント理論について学習する。優れた起業家たちの行動要素を用いて、アントレプレナーがスタートアップの成功確率を高める可能性がある論理を特定していく。

The course studies the creation and management of start-up businesses. Uses elements of entrepreneurial expertise to analyze the success of start-up businesses, identifying general logic that might increase the probability that an entrepreneurial venture will succeed.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義は、不確実で複雑なビジネス環境において、合理的な経営判断に効果的な対処法や、ダイナミックで複雑な行動領域における革新的なツールを探求していく。優れた起業家たちの科学的・実践的に証明された最新の知識を習得し、不確実性下での適切な意思決定と、主体的な行動力が発揮できるようになります。

The course will effectively address the need to exercise rational managerial judgment in an uncertain and complex business landscape, and explore innovative tools in dynamic and complex fields of action.

You will acquire up-to-date scientifically and practically proven knowledge on entrepreneurial expertise, gain sovereignty in decision-making and acting under uncertainty.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：1. イントロダクション
- 2回： 1-1. 事業機会の認識と不確実性
- 3回：2. マーケティング
- 4回： 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング① エフェクチュエーション
- 5回： 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング② 優れた起業家に共通する5つの原則
- 6回：3. ストラテジー
- 7回： 3-1. ベンチャー企業における経営戦略① 不確実性下での戦略思考
- 8回： 3-2. ベンチャー企業における経営戦略② 多様な戦略アプローチの適用
- 9回： 3-3. ベンチャー企業における経営戦略③ 理論と実務の統合
- 10回：4. 競争優位性
- 11回： 4-1. 伝統的な競争優位の源泉
- 12回： 4-2. 新たな競争優位の源泉(変化対応・再構築・エコシステム)とビジネスモデル
- 13回：5. リーガル
- 14回：6. ベンチャー企業論のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

**授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class**

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

**成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート  
割合 :40%

**テキスト/ Textbooks**

テキストは立教時間を通じて配布します。

**参考文献 / Readings**

参考文献は適時指示します。

**その他/ Others**

経営学基礎、ストラテジーやマーケティング関連科目を受講していることが望ましい。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ベンチャー金融論 (D)

Venture Financing(D)

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG501  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ベンチャー金融論では、ベンチャー企業や新規事業などのスタートアップに特徴的な資金調達ニーズに焦点を当て、起業家や財務マネージャーに必要となる基本的なベンチャーファイナンスのスキルを習得することを目的とする。

This course prepares students to be competent in the skills of entrepreneurs and corporate financial managers. The course focuses on the specific needs of entrepreneurial ventures, including start-up and development-phase financial and management problems.

## 授業の内容 / Course Contents

資金調達で成熟企業と異なる特性を有するベンチャー企業の資金調達戦略(スタートアップに関連する問題の範囲および複雑さをカバーしています)を取り上げ実務的に講義する。

This course aims to cover the finance of technological innovation, with a focus on valuation tools useful in the venture capital industry. These tools include the “venture capital method,” discounted cash flow analysis, and contingent-claims. Covers the range, scope, and complexity of issues involved in entrepreneurial startups.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：1.ベンチャー企業のリスク：不確実性と情報の非対称性  
 3回：2.ベンチャー企業の資金調達戦略  
 4回：2-1.段階的投資  
 5回：2-2.ベンチャーキャピタルメソッド(VC法)  
 6回：2-3.プレマナー・バリュエーション  
 7回：2-4.ベンチャー企業の資本政策（資本政策表：キャップテーブル）  
 8回：2-5.ベンチャー企業の資金調達で利用される種類株式  
 9回：2-6.投資契約と株主間契約  
 10回：2-7.新株予約権付社債  
 11回：2-8.ストック・オプション  
 12回：3.エグジット  
 13回：3-1.IPOとM&A(Buyout)  
 14回：4.ベンチャー金融論の総まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート  
割合：:40%

#### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

#### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

#### その他 / Others

ベンチャー企業論のほか、企業財務基礎などのファイナンス系科目を受講していることが望ましい。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# アントレプレナーシップ (D)

Entrepreneurship(D)

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG511

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日米の起業事例研究や実践的なワークショップから、起業に必要な心構えや 実践的なスキルセットを修得する。

This course leads students on the entrepreneurial journey from small companies to technology start-ups in America and Japan. Through the case studies and practical workshops, students will learn entrepreneurial mind-set and hand-on skill-set.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業ではマクドナルド社とアップル社・マイクロソフト社の事例に焦点を当て、彼らがどのようにビジネスを立ち上げ、どのように世界に広げたかを学ぶ。また様々な日本の起業家の事例についても紹介する。この授業では、ロゴの作成やビジョン・ミッション・バリュープロポジションの表現方法について演習をし、最後にビジネスプランを作成して提出する。

This course first focuses on McDonald's case and Apple-Microsoft cases; how they started their businesses and how they developed their businesses worldwide. Later, it introduces a wide-varieties of Japanese entrepreneur cases.

Workshop sessions provide a broad skill set: how to design logos and express vision, mission, and value proposition. Students will be asked to submit a business plan toward the end of the course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：アントレプレナーシップとは？ 様々なビジネスのかたちを学ぶ
- 2回：アントレプレナーシップとは？  
社内起業や事業承継にもアントレプレナーシップが必要
- 3回：マクドナルド社の創業1  
起業のスキルセット1(ロゴの歴史・デザインのポイント)
- 4回：マクドナルド社の創業2  
起業のスキルセット2(ストーリー・ビジョン・ミッション・バリュープロポジションの作成ポイント)
- 5回：マクドナルド社の創業3  
起業のスキルセット3(新4Pについて)
- 6回：マクドナルド社の創業4  
起業について、ここまでのまとめ
- 7回：日本の社会的起業・地域起業  
六方よし経営の各事例のKSF
- 8回：日本の起業家ユニクロとブックオフ
- 9回：日本の新規起業事例 ゲストスピーカーを招聘予定
- 10回：日本の新規起業事例 ゲストスピーカーを招聘予定
- 11回：アップルとマイクロソフト1  
シェアリング・エコノミーと airbnb
- 12回：アップルとマイクロソフト2  
ビジネスモデルの形成(コストコとアマゾン)
- 13回：アップルとマイクロソフト3  
テクノロジーベンチャーのまとめ
- 14回：優秀ビジネスプランの発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定教科書を読んで、事前に課題を提出する(3回程度を予定)

指定したフォーマット・枚数で、ビジネスプランを作成する

### 成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 課題提出:30% 最終レポート割合 :20%

### テキスト/ Textbooks

藻谷ゆかり 『六方よし経営 日本を元気にする新しいビジネスのかたち』 日経 BP 2021



9784296110025 ○

レイ・クロック 『成功はゴミ箱の中に』 プレジデント社 2007 9784833418454 ○

**参考文献 / Readings****その他/ Others**

提出課題等について授業中に説明するため、毎回の出席が必須です。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# キャッシュフロー・マネジメント 1 (D)

Cash Flow Management 1(D)

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG591  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

この講義では、損益計算書・貸借対照表とキャッシュフロー計算書の関係を理解し、会計（アカウンティング）における利益の計算だけでなく、財務（ファイナンス）におけるキャッシュのマネジメント方法を理解する。

This course provides financial terminology and general financial principles, interpret financial statements, make the distinction between net income and cash flow.

In this course, you will gain exposure to diverse financial approaches, including methods of valuation.

## 授業の内容 / Course Contents

この講義では、会計（アカウンティング）と財務（ファイナンス）の違いを理解するとともに、戦略的視点から経営幹部がどのように利益をマネジメントするのか、どうすればキャッシュをマネジメントできるのかについての基本を講義する。

Finance and Accounting for the Non-Financial Manager allows non-financial business executives to become better users of financial information so they can be more strategic contributors to their organization.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション  
 2回：会計（アカウンティング）と財務（ファイナンス）の違い  
 3回：1. 利益のマネジメント  
 4回： 1-1. 利益とキャッシュは何が違うのか  
 5回： 1-2. 利益調整とキャッシュフロー  
 6回： 1-3. 損益計算書と貸借対照表の構造と分析  
 7回： 1-4. キャッシュフロー計算書の構造  
 8回： 1-5. キャッシュフロー分析  
 9回：2. キャッシュのマネジメント  
 10回： 2-1. キャッシュをどのようにコントロールするのか  
 11回： 2-2. 運転資本のコントロール  
 12回： 2-3. キャッシュ・コンバージョン・サイクル  
 13回：3. 会計(アカウンティング)と財務(ファイナンス)の有機的關係  
 14回：キャッシュフローマネジメント1の総まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は講義内で説明します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート  
割合 :40%

#### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

#### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

#### その他 / Others

- ・会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。
- ・講義では表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いた演習を行うことがあります。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# キャッシュフロー・マネジメント 2 (D)

Cash Flow Management 2(D)

下川 智広 (SHIMOKAWA TOMOHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG592  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業価値というテーマは、経営や財務部門に携わる方でなくても、社会人の基礎知識として学ぶ必要性を感じている方は多いのではないのでしょうか。本講義は企業価値評価（バリュエーション）の基礎を理解し、企業価値向上のための経営意思決定ができるようになることを目標とする。

In this course, you will learn how to analyze and evaluate the financial implications of strategic and operating decisions. You will learn the correct way to do financial modeling and how to identify and avoid potential pitfalls and common mistakes.

## 授業の内容 / Course Contents

企業価値評価において、マネジメントは様々な情報を詳細に分析し、将来の業績動向について予測をしなければならない。これまで企業価値を算定しようとする様々な評価方法や企業価値評価モデルが考案されてきた。本講義では、ディスカウント・キャッシュフロー(DCF)法を中心に、キャッシュフローを用いて企業価値評価がどのように行われ、マネジメントとして企業価値向上のために何を行っていけばよいのかについて、アカウントティングとファイナンスの観点から講義する。

The focus of this course is on the valuation of companies. The course covers current conceptual and theoretical

valuation frameworks and translates those frameworks into practical approaches for valuing companies. The relevant accounting topics and the appropriate finance theory are integrated to show how to implement the valuation frameworks discussed on a step-by-step basis. The course teaches how to develop the required information for valuing companies from financial statements and other information sources in a real-world setting.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：アカウンティングからファイナンスへの橋渡し
- 2回：1. マネジメント視点から見たキャッシュフローと投資意思決定
- 3回：1-1. 投資意思決定の判断基準① 時間価値と割引計算
- 4回：2. 企業価値評価論
- 5回：2-1. ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法総論
- 6回：2-2. フリーキャッシュフロー(FCF)の算定①
- 7回：2-3. フリーキャッシュフロー(FCF)の算定②
- 8回：2-4. 加重平均資本コスト(WACC)の算定①
- 9回：2-5. 加重平均資本コスト(WACC)の算定②
- 10回：2-6. ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法による企業価値評価演習
- 11回：3. 企業価値評価とマネジメント
- 12回：3-1. 企業価値評価が必要となる理由
- 13回：3-2. 企業価値向上のためのマネジメント
- 14回：キャッシュフローマネジメント2のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席したうえで積極的な討論への参加:40% 中間レポート:20% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

テキストは立教時間を通じて配布します。

### 参考文献 / Readings

参考文献は適時指示します。

### その他 / Others

- ・キャッシュフロー・マネジメント 1、会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。
- ・講義では表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いた演習を行うことがあります。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 企業分析 1 (D)

Business Analysis 1(D)

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG601  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

財務諸表の構造を理解し、経営分析の基礎を修得する。

Understand the structure of financial statements and master the basics of management analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

企業がビジネスを展開するには、自社や同業他社の環境を正確に把握することが大切であり、企業分析が必要になる。

本講義の目標は、財務諸表数値を用いて企業の安定性や収益性の基礎を理解することにある。それを踏まえ、企業分析レポートの作成を最終目標とする。

In order to develop the business of the corporation, it is important to accurately understand the environment of the company, and other companies in the same field, and analysis of the corporation is required.

The goal of this lecture is to understand the liquidity and profitability of corporations using financial statement figures. The ultimate goal is to create a corporate analysis report for a corporation.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：経営分析とは何か
- 3回：財務データの種類
- 4回：財務データの取得
- 5回：安全性分析（1）
- 6回：安全性分析（2）
- 7回：収益性分析（1）
- 8回：収益性分析（2）
- 9回：収益性分析（3）
- 10回：効率性分析
- 11回：生産性分析（1）
- 12回：生産性分析（2）
- 13回：定性要因の分析
- 14回：授業内試験

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講義は、会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため、講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。

講義内において、1～2回の発表を課すため、資料作りを授業時間外に行う必要がある。

各回の講義に臨むための準備の内容については、講義内で説明する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への参加状況:30% 最終レポート割合：:35%最終テスト割合：:35%

#### テキスト / Textbooks

青木茂男編著 『要説経営分析 六訂版』 森山書店 2022 9784839421946 -

テキスト必携。テキストを履修者で輪読し、ディスカッションを展開する予定である。

#### 参考文献 / Readings

その他、必要に応じて講義内で紹介する。

#### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参することが望ましい。

#### その他 / Others

##### 【双方向による授業】

本科目は、テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法



で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 企業分析 2 (D)

Business Analysis 2(D)

青淵 正幸 (AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG602  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7200  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

企業を取り巻く諸情報を理解し、企業を分析するスキルを身につける。

Acquire the skills for understanding the various information surrounding the corporation and for analyzing the corporation.

## 授業の内容 / Course Contents

企業分析は財務諸表を中心とした定量情報と、非財務情報である定性情報の双方を用いて行われる。本講義の目標は、企業を取り巻く諸情報を用いながら、企業を多角的に分析する手法を身につけることにある。

また、本講義で取り上げた分析内容を「企業分析 1」で作成した企業分析レポートに加え、企業分析レポートの完成を目指す。

Corporate analysis is conducted using both quantitative information, mainly on financial statements, and qualitative information, which is non-financial information. The goal of this lecture is to acquire methods for analyzing corporations from various perspectives through using the various information that surrounds them.

Also, we will add the contents of the analysis taken up in this lecture to the corporate analysis report prepared in "Business Analysis 1", and we will aim for the completion of the corporate analysis report through the team

work.

**授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule**

- 1回：オリエンテーション
- 2回：利益の質
- 3回：粉飾決算
- 4回：連結財務諸表と個別財務諸表
- 5回：セグメント情報を用いた分析（1）
- 6回：セグメント情報を用いた分析（2）
- 7回：四半期財務諸表を用いた分析（1）
- 8回：四半期財務諸表を用いた分析（2）
- 9回：企業の総合評価（1）
- 10回：企業の総合評価（2）
- 11回：企業価値評価（1）
- 12回：企業価値評価（2）
- 13回：授業内試験
- 14回：授業のまとめ

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

本講義は、会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため、講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。

講義内において、1～2回の発表を課すため、資料作りを授業時間外に行う必要がある。

各回の講義に臨むための準備の内容については、講義内で説明する。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内への参加割合：30% 最終レポート割合：35% 最終テスト割合：35%

**テキスト / Textbooks**

青木茂男編著 『要説経営分析 六訂版』 森山書店 2022 9784839421946 -

テキスト必携。テキストを履修者で輪読し、ディスカッションを展開する予定である。

**参考文献 / Readings**

その他、必要に応じて講義内で紹介する。

**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

PCを持参することが望ましい。

**その他 / Others**

本講義の内容は、「企業分析1」から連続している。そのため、「企業分析1」を履修していることが望ましい。「企業分析1」を履修せず、当科目のみを履修する場合は、財務諸表の構造について基礎的な知識を有していることが必須となる。

**【双方向による授業】**

本科目は、テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

**注意事項**

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# テクノロジーマネジメント 1 (D)

Technology Management 1(D)

技術と人間社会の境界を巡って

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG611

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

## 授業の内容 / Course Contents

主に経済誌や報道を賑わす今日的な IT 関連のトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢、IT 関連の論点を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者の直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、議論する。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。

This course focuses on the IT related current topics circulated in media, investigate the social trend and IT

factors in the background, and then enhances the understanding of students.

Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future. They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：情報のデジタル化とデータサプライチェーン（1）ー デジタルとは何か、なぜ求められるのか
- 2 回：情報のデジタル化とデータサプライチェーン（2）ー デジタルとは何か、なぜ求められるのか
- 3 回：財務情報と非財務情報の位置づけと活用（1）--- データの特性とデジタル化による活用方法
- 4 回：財務情報と非財務情報の位置づけと活用（2）--- データの特性とデジタル化による活用方法
- 5 回：持続的社会を巡る課題（1）--- デジタル時代と ESG と SDG s
- 6 回：持続的社会を巡る課題（2）--- デジタル時代と ESG と SDG s
- 7 回：社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント（1）--- なぜ不祥事は起こるのか、デジタル化によるマネジメントの可能性
- 8 回：社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント（2）--- デジタルの有効性と避けられるリスク、軽減できるリスク、避けられないリスク
- 9 回：Regtech、Suptech を巡る議論（1）--- デジタル時代における規制と社会的コスト
- 10 回：Regtech、Suptech を巡る議論（2）--- デジタル時代における経営責任と監督責任
- 11 回：規制と社会--- インターネットと規制（1）ー 自由と規制の狭間を巡って
- 12 回：規制と社会--- インターネットと規制（2）ー 自由と規制の狭間を巡って
- 13 回：EC ビジネスと決済（1）--- 拡大する E コマースの世界と多様化する決済
- 14 回：EC ビジネスと決済（2）--- 電子マネーとブロックチェーンをめぐる可能性と課題

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス参加と議論への貢献度:50% 成果物の内容:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

野口悠紀雄 データ資本主義 日本経済新聞出版社 2019 9784532358310

赤羽喜治・愛敬真生 ブロックチェーン 仕組みと理論 リックテレコム 2019 9784865941630

野口悠紀雄 データエコノミー入門 PHP 研究所 2021 9784569850528

野口悠紀雄 CBDC 中央銀行デジタル通貨の衝撃 新潮社 2021 9784104329076

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッション

ヨシノなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

## テクノロジーマネジメント 2 (D)

Technology Management 2(D)

今日のデジタル技術を構成する主要な要素技術を学ぶ

和田 芳明 (WADA YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG612

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

### 授業の内容 / Course Contents

今後、利用が本格化する最先端の IT 関連トピックス (AI, Block Chain, VR/AR, Cloud Computing, Start-up 論等) を取り上げる。各分野の第一線で活躍するスペシャリストもゲストに招きつつ、その概要と背景にある社会情勢を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者が今後直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、議論する。毎回、課題を提示するので、自分なりの考察を行い、その結果をグループで議論し、理解を深め、気づきを促すインタラクティブな講義を目指します。



Focuses on the emerging IT related topics which will come to the society in the near future, the course investigates the outline of underlying technologies, social trend, and then enhances the students' understanding. AI, Block Chain, AR/VR, Cloud Computing and Start-up theory are expected to be covered in the session. Specialist are invited as guest speakers to deliver the latest updates in these topics. Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future. They are also required to study the indicated topics in advance and exchange each view during the interactive session.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：AI・ロボティクス（1）ー基本的理解から生成 AI まで
- 2回：AI・ロボティクス（2）ー基本的理解から生成 AI まで
- 3回：自然言語解析と画像解析（1）ー技術の基礎と応用への理解
- 4回：自然言語解析と画像解析（2）ー技術の基礎と応用への理解
- 5回：クラウドとコンピュータ基盤（1）ー技術の概要と応用上の課題
- 6回：クラウドとコンピュータ基盤（2）ー技術の概要と応用上の課題
- 7回：仮想現実と拡張世界（1）ー基礎から最先端まで
- 8回：仮想現実と拡張世界（2）ー基礎から最先端まで
- 9回：ビッグデータ技術の世界（1）ー技術の概要と応用上の課題
- 10回：ビッグデータ技術の世界（2）ー技術の概要と応用上の課題
- 11回：ブロックチェーンとビットコイン（1）ー技術の概要と応用上の課題、自立分散社会への道
- 12回：ブロックチェーンとビットコイン（2）ー技術の概要と応用上の課題、自立分散社会への道
- 13回：インターネットとサイバーセキュリティ（1）ーITの光と影
- 14回：インターネットとサイバーセキュリティ（2）ーITの光と影

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% クラスへの参加と議論への貢献度:50% 成果物の内容:50%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

澤田純 IOWN 構想ーインターネットの先へ NTT 出版 2019 4757103913

赤羽喜治・愛敬真生 ブロックチェーン 仕組みと理論 リックテレコム 2019 9784865941630

畑村洋太郎 3現で学んだ危険学 畑村創造工学研究所 2020

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッション形式で行われます。

ヨンなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# メディカル・ビジネス論 (D)

Medical Business(D)

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG631  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

医療・メディカル産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in medical and medical industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

## 授業の内容 / Course Contents

\* MBA×医療・介護ビジネス

MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用

\* ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント

MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・介護ビジネスに応用

\* 戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成

PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図

\* 医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応

徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供

\* 実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー

シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行

医療・介護事業従事者のみならず、広く MBA でのスキルセットの活用方法を実践的に学びたい受講生も歓迎する。介護ビジネス論と併せての受講を推奨。

\* MBA x medical and nursing care business

Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.

\* Mission, vision, value x strategy x leadership x management

MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc. and apply them to medical and nursing care businesses.

\* Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation

We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.

\* Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture

By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.

\* Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.

We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

We welcome not only medical and nursing care workers, but also students who want to learn how to use the skill set of MBA in a wide range of practical ways.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：医療・メディカル産業全般（1）

2 回：医療・メディカル産業全般（2）

3 回：医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営（1）

4 回：医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営（2）

5 回：医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）

6 回：医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）

7 回：医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）

8 回：医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）

9 回：医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）

10 回：医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）

- 11回：国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（1）  
 12回：国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（2）  
 13回：医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（1）  
 14回：医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

医療・メディカル産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

- 田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンクエージ 2012 9784799101643 -  
 田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンクエージ 2013 9784799102367 -  
 田中道昭 『歯科医院経営改善プログラム』 クインテッセンス出版 2014 9784781204031 -  
 フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』  
 ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く2022年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

- フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング3.0』 朝日新聞出版 2010 9784023308398  
 ロバート・スコובר/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経BP社 2014 9784822250478  
 真野俊樹 『医療が日本の主力商品となる』 ディスカヴァー21 2012 9784799312230  
 齋藤勝裕 『ニュースがよくわかる生命科学超入門』 ディスカヴァー21 2014 9784799314906  
 田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は100%（14回中14回）である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 介護ビジネス論（D）

Nursing Care Business(D)

田中 道昭 (TANAKA MICHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG641

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

介護産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in nursing care industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

## 授業の内容 / Course Contents

\* MBA×医療・介護ビジネス

MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用

\* ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント

MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・介護ビジネスに応用

\* 戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成

PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図

\* 医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応

徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供

実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー

シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行

この授業では、介護ビジネス論を広くシニア向けマーケティングや高齢者向けマーケティングとも捉え、このような視点からも授業展開していく。したがって、医療・介護従事者のみならず、広くこれらのマーケティングに興味をもつ学生の受講も推奨する。メディカルビジネス論と連携してのクラス展開が行われるため、同講座からの履修を強く推奨。

\* MBA x medical and nursing care business

Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.

\* Mission, vision, value x strategy x leadership x management

MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc. and apply them to medical and nursing care businesses.

\* Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation

We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.

\* Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture

By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.

Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.

We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

In this class, we will consider nursing care business theory as marketing for seniors and marketing for the elderly, and develop lessons from this perspective as well. Therefore, we encourage not only medical and nursing care workers, but also students who are interested in these marketing activities to participate.

#### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：介護ビジネス産業全般（1）

2 回：介護ビジネス産業全般（2）

3 回：介護ビジネスにおけるミッション経営（1）

4 回：介護ビジネスにおけるミッション経営（2）

5 回：介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）

6 回：介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）

7 回：介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）

8 回：介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）

9 回：介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）

- 10 回：介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）  
 11 回：国内外における介護ビジネスの最先端事例（1）  
 12 回：国内外における介護ビジネスの最先端事例（2）  
 13 回：介護ビジネスにおける成長戦略（1）  
 14 回：介護ビジネスにおける成長戦略（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

介護産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 期中レポート:20% クラス貢献:20% 他の受講生への貢献:20% プレゼンテーション:20% 最終レポート割合：:20%

### テキスト / Textbooks

田中道昭 『ミッションの経営学』 すばる舎リンケージ 2012 9784799101643 -  
 田中道昭 『人と組織 リーダーシップの経営学』 すばる舎リンケージ 2013 9784799102367 -  
 フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』  
 ピアソン・エデュケーション 2008 9784894716575 -  
 ミルトン・メイヤーロフ 『ケアの本質—生きることの意味』 ゆみる出版 1987 9784946509117 -  
 田中道昭 『アマゾンが描く 2022 年の世界』 PHP 研究所 2017 9784569837338 -  
 テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

### 参考文献 / Readings

フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング 3.0』 朝日新聞出版 2010 9784023308398  
 ロバート・スコープル/シェル・イスラエル 『コンテクストの時代』 日経 BP 社 2014 9784822250478  
 A.H.マズロー 『人間性の心理学』 産業能率大学出版部 1987 9784382049246  
 ティム・ブラウン 『デザイン思考が世界を変える』 早川書房 2014 9784150504076  
 田中道昭 GAFAXBATH 米中メガテックの競争戦略 日本経済新聞出版社 2019 9784532322656

### その他 / Others

#### 【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

#### 【実務家教員による授業】

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

### 注意事項

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業



となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ホテルマネジメント 1 (D)

Hotel Management 1(D)

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG651  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル経営、運営における主要なテーマ、課題について理解する。
- \* ホテル経営会社の企業、ブランド戦略について学ぶ。
- \* ビジネス上の課題について、仮説思考を用い、解決策を探り、提案力を身につける訓練をする。
- \* Understand major topics of hotel management and operations.
- \* Study hotel companies' corporate and branding strategies.
- \* Study business approaches using assumptions, problem solving, and making proposals.

## 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテルの主要テーマ（セールス&マーケティング、レベニューマネジメント、宿泊、レストラン、バンケット、人材開発、管理会計、ビジネスプランなど）について学ぶ。
- \* ゲストスピーカーや課外実習により現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る。
- \* 予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。
- \* Explain about the hotel business subjects such as sales& marketing, revenue, management, rooms, restaurants,

events, human resources management, finance, business plan.

\* Invite industry experts as guest lecturers and visit hotels order to share their real business cases.

\* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ホテルビジネスとは
- 2 回：ホテルストラクチャー
- 3 回：ブランディング、セールス、マーケティング、レベニューマネジメント
- 4 回：ブランディング、セールス、マーケティング、レベニューマネジメント
- 5 回：ホテル管理会計・ビジネスプラン
- 6 回：ホテル管理会計・ビジネスプラン
- 7 回：デジタルマーケティング
- 8 回：デジタルマーケティング
- 9 回：客室マネジメント
- 10 回：客室マネジメント
- 11 回：料飲マネジメント
- 12 回：料飲マネジメント
- 13 回：ホテルの人材戦略
- 14 回：ホテルの人材戦略

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30% 最終レポート割合 :35%

### テキスト / Textbooks

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016

9784502181412 ○

このテキストはホテルビジネスの基本が書いてあり、予習課題でのリーディングが目的です。ホテルビジネスにすでに携わって、基本がわかる方は不要かもしれません。

### 参考文献 / Readings

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか  
白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\* 授業ではホテルの収益計算を行うので、エクセルの基本的な活用ができることが必要。

### **その他/ Others**

\* ホテルマネジメント 1 と 2 (VL719&VL721) は内容について関係するので両方をセットで履修することが望ましい。

\* ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、特に予習課題（「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」のリーディングを含む）をしっかりとすることで事前に該当テーマの基礎を理解すること。

\* 各テーマのエキスパートであるゲストスピーカーを招くことにより、現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る。

\* 授業では双方向での議論をおこなう。

\* ホテルビジネスの用語について参照するサイト：<https://www.>

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ホテルマネジメント 2 (D)

Hotel Management 2(D)

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG652  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル経営、運営における主要なテーマ、課題について理解する。
- \* ホテル経営会社の企業、ブランド戦略について学ぶ。
- \* ビジネス上の課題について、仮説思考を用い、解決策を探り、提案力をつける訓練をする。
- \* Understand major topics of hotel management and operations.
- \* Study hotel companies' corporate and branding strategies.
- \* Study business approaches using assumptions, problem solving, and making proposals.

## 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテルの主要テーマ（セールス&マーケティング、レベニューマネジメント、宿泊、レストラン、バンケット、人材開発、ファイナンス、ビジネスプランなど）について学ぶ。
- \* ゲストスピーカーや課外実習により現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る。
- \* 予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。

\* Explain about the hotel business subjects such as sales& marketing, revenue, management, rooms, restaurants, events, human resources management, finance, business plan.

\* Invite industry experts as guest lecturers and visit hotels order to share their real business cases.

\* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ホテル運営・経営会社について
- 2回：ホテル運営・経営会社について
- 3回：国内系ホテル会社（1）のブランド・経営戦略
- 4回：国内系ホテル会社（1）のブランド・経営戦略
- 5回：国内系ホテル会社（2）のブランド・経営戦略
- 6回：国内系ホテル会社（2）のブランド・経営戦略
- 7回：国内系ホテル会社（3）のブランド・経営戦略
- 8回：国内系ホテル会社（3）のブランド・経営戦略
- 9回：ホテルケーススタディー
- 10回：ホテルケーススタディー
- 11回：旅館の経営について
- 12回：旅館の経営について
- 13回：最終課題の発表
- 14回：最終課題の発表

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30% 最終レポート割合：35%

### テキスト / Textbooks

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016  
9784502181412 ○

このテキストはホテルビジネスの基本を理解する目的で、予習課題のリーディングとして利用する。ホテルビジネスに携わっている人にとっては不要の可能性もあるので、その場合はご相談ください。

### 参考文献 / Readings

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか

白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

### **履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\* 授業ではホテルの収益計算を行うので、エクセルの基本的な活用ができることが必要。

### **その他/ Others**

\* ホテルマネジメント 1 と 2 (VL719&VL721) は内容について関係するので両方をセットで履修することが望ましい。

\* ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、特に予習課題(テキスト「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」のリーディングを含む)をしっかりとすることで事前に該当テーマの基礎を身につけること。

\* 各テーマのエキスパートであるゲストスピーカーを招くことにより、現実のホテルビジネスを学ぶ機会を得る

\* 授業では双方向での議論をおこなう。

\* ホテルビジネスの用語について参照するサイト：<https://>

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ホテルアセットマネジメント 1 (D)

Hotel Asset Management 1(D)

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG661

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ホテルアセットマネジメントの概念、業務領域の基本を理解し、その役割や意義を学ぶ。

ホテルオペレーター、デベロッパー、投資家の関係を踏まえ、ホテル経営のフレームワークを実践できる素養を身につける。

Understand the concepts of hotel asset management and the basics of business fields, and learn its role and significance.

Based on the relationship between hotel operators, developers, and investors, acquire the ability to practice the framework of hotel management.

## 授業の内容 / Course Contents

ホテルアセットマネジメントの導入環境について学ぶ。

ホテルアセットマネジメント業務領域を理解する。

ホテルアセットマネジメントを実行するためのフレームワークを事例研究等を通じて理解する。

ゲストスピーカーを招聘する場合がある。



Learn about the hotel asset management implementation environment.

Understand the hotel asset management business fields.

Understand the framework for implementing hotel asset management through case studies.

Guest speakers may be invited.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション、ホテルアセットマネジメントについて

2回：ホテル事業における所有・経営・運営の分離

3回：ホテルマネジメントストラクチャー

4回：マネジメントコントラクト契約について

5回：事例研究 1

6回：事例研究 1 の分析と考察

7回：事例研究 2

8回：事例研究 2 の分析と考察

9回：事例研究 3

10回：事例研究 3 の分析と考察

11回：ホテルマネジメントストラクチャーの総括

12回：事例研究 4 (リノベーションとリブランディング)

13回：ホテルアセットマネージャーの位置付けと役割

14回：ホテルの投資価値評価

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784561266860

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ホテルアセットマネジメント 2 (D)

Hotel Asset Management 2(D)

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG662  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ホテルアセットマネジメントの概念、業務領域の基本を理解し、その役割や意義を学ぶ。  
ホテルオペレーター、デベロッパー、投資家の関係を踏まえ、ホテル経営のフレームワークを実践できる素養を身につける。

Understand the concepts of hotel asset management and the basics of business fields, and learn its role and significance.

Based on the relationship between hotel operators, developers, and investors, acquire the ability to practice the framework of hotel management.

## 授業の内容 / Course Contents

ホテルアセットマネジメントの導入環境について学ぶ。  
ホテルアセットマネジメント業務領域を理解する。  
ホテルアセットマネジメントを実行するためのフレームワークを事例研究等を通じて理解する。  
ゲストスピーカーを招聘する場合がある。

Learn about the hotel asset management implementation environment.

Understand the hotel asset management business fields.

Understand the framework for implementing hotel asset management through case studies.

Guest speakers may be invited.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、ホテルアセットをめぐるケーススタディ
- 2回：アセットマネジメントサイクル（アセットマネジメントプラン）について
- 3回：アクイジション・ディスポジションについて
- 4回：事例研究 1
- 5回：事例研究 1 の振り返り（分析と考察）
- 6回：不動産の維持管理と資本的支出について
- 7回：事例研究 2
- 8回：事例研究 2 の分析と考察
- 9回：事例研究 3
- 10回：事例研究 3 の分析と考察
- 11回：事例研究 4（街づくりとしてのホスピタリティ・アセット）
- 12回：事例研究 4 の分析と考察
- 13回：資産価値向上・プロパティマネジメントについて
- 14回：「ホテルアセットマネジメント」についての議論

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784561266860

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 都市マネジメント 1 (D)

Urban Management design 1(D)

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG681  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

都市の成長、衰退という問題は多世紀にわたり多くの関心が各方面から寄せられてきた。そして、そのメカニズムに対しての常識も時代とともに変化してきた。

それを舞台として人生を営む人々にとっても、地方自治体などの「官」の側にとっても、また何らかの論理性を見出したいアカデミアに属するものにとっても、これからの都市はどうなっていくのか、どうあるべきか、は永遠の問いである。

都市マネジメント 1 では、都市の成長、衰退のメカニズムについてのアカデミックな論理を学習し、過去から現在、そして未来の都市のあり方についての視座の獲得を目的とする。

The issue of urban growth and decline has attracted a great deal of attention from various quarters over the centuries. The common sense about the mechanism has also changed over time.

For those who live their lives in cities, for those on the "government" side such as local governments, and for those in academia who wish to find some kind of logic, the question of what cities will be like in the future and what they should be like is an eternal question.

In Urban Management 1, students will study the academic logic of the mechanisms of urban growth and decline,

with the aim of acquiring a perspective on the past, present, and future of cities.

## 授業の内容 / Course Contents

都市マネジメント 1 と 2 は独立しているので、一方のみを履修することも可能である。

授業では、まず最初に都市づくりがこの半世紀の間にどう変容してきたかの概略を理解し、次に、押さえておくべきいくつかの「キーワード」ごとにその用語が唱えられてきた時代の都市づくりの関心とポイントについて学習する。

キーワードの1つ目は「多様性」であり、2つ目は「創造性」である。

「多様性」はジェイン・ジェイコブスの唱えた、ほとんどの人が気が付いていなかった都市の多様性の重要性のことである。2つ目の「創造性」はクリエイティブクラスという、リチャード・フロリダが新しい都市成長のキーワードとして提唱した概念であり、その実証分析により世界の都市づくりに大きな影響を与えた。授業では3冊のテキストを輪読し、発表担当者のプレゼンの後に全員で内容について議論する。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them. The class will first provide an overview of how urban development has transformed over the past half century, and then learn about the urban development interests and points of view of the era in which the terms were advocated for each of several "key words" that should be kept in mind.

The first keyword is "diversity" and the second is "creativity."

Diversity" refers to the importance of urban diversity that most people were not aware of, as advocated by Jayne Jacobs, and "creativity" refers to the concept of the creative class, which was proposed by Richard Florida as a new keyword for urban growth, and whose empirical analysis has had a major impact on urban development worldwide. It has had a major impact on urban development around the world through its empirical analysis. In class, the three texts will be read in rotation, and after the presentations by the presenters, the contents will be discussed by all participants.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：

自己紹介(バックグラウンド・受講動機・修士論文イメージなど)、  
授業の進め方、輪読担当決め

2回：ポスト 2020 の都市づくり 序から 2 章

3回：ポスト 2020 の都市づくり 3 章から 5 章

4回：ポスト 2020 の都市づくり 6 章から 7 章

5回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 1 部

6回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 2 部

7回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 3 部

8回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 4 部

9回：ジェイン・ジェイコブズ「アメリカ大都市の生と死」第 5 部

10回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 1 部

11回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 2 部

12回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 3 部

13回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 4 部

14回：リチャード・フロリダ「新クリエイティブ資本論」第 5 部から結論

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

授業の予習は必須でありその準備が必要である。また、輪読担当者は発表準備も必要となる。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス内の発表内容:60% 授業への貢献度:40% 最終レポート割合 :0%

**テキスト / Textbooks**

井口典夫ほか ポスト 2020 の都市づくり 学芸出版社 2017 9784761526498 ○

ジェイン・ジェイコブズ 新版アメリカ大都市の生と死 鹿島出版会 2011 9784306072749 ○

リチャード・フロリダ 新クリエイティブ資本論 ダイヤモンド社 2014 9784478024805 ○

**参考文献 / Readings**

必要に応じて授業中に適宜紹介する

**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

テキストをあらかじめ発表担当者を決めて、毎週発表してもらうので、発表にあたり、パワーポイントなどの発表用資料の作成が求められる。また、オンラインによる授業が原則なので、自宅やオフィスなど大学内でない場所からのアクセスには Wi-Fi など良好な速度を保てるツールや環境が必要となる。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 都市マネジメント 2 (D)

Urban Management design 2(D)

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG682  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

都市づくり、まちづくりを取り囲む状況は過去のそれとは大きく変容している。人口減少や縮退がこれからのデフォルトになる時代、都市の在り方が当然変わってくるはずであり、また変わるべきであろう。

この授業では、これまでとは異なるまちづくりのアプローチという視点から、世界のさまざまな衰退傾向にあったまちのチャレンジの実態を詳しく調べ、その成功要因を分析し、日本の将来のまちづくりへのヒントを探る。

The circumstances surrounding city development have changed dramatically from those of the past. In an era where population decline and shrinkage will be the default, the way cities should and will change. In this class, from the perspective of a different approach to urban development, we will examine in detail the challenges faced by various declining cities around the world, analyze their success factors, and look for hints for future city development in Japan.

## 授業の内容 / Course Contents

都市マネジメント 1 と 2 は独立しているので、一方のみを履修することも可能である。

多くの都市が従来型の成長をもちや見込めず、新しいありかたを模索している。産業衰退のあとに何が待つ

か、経済の縮小や災害などの苦難をどう乗り越えるか、財政収縮のなかどうやってまちづくりをすすめるべきか、それらの切実な問いへの答えが、世界のあちこちに、それも決して有名でない村や街の実践のなかにあった。

授業では、世界各地の様々な街における衰退からの脱出をどうチャレンジしたかについて詳細に書かれたテキストを輪読、分担者が発表し、その後に全員で内容や示唆について議論する。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them.

Many cities are no longer expected to grow in the conventional way and are searching for a new way of life. What awaits us after industrial decline, how to overcome hardships such as economic contraction and disasters, and how to promote city development in the midst of financial contraction? In the class, we will read the text in turn, and the assigned person will make a presentation, followed by a discussion of the contents and suggestions by all participants.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：自己紹介、授業の進め方、輪読割当、興味の視点の確認など

2回：イタリア：アルベルゴ・ディフーズ（出典2つ）

3回：ドイツ・ライプツィヒ：ハウスプロジェクト

ドイツ・ベルリン：アーバンガーデン

4回：ドイツ・ラオジッツ：インダストリアル・ランドスケープ

アメリカ・デトロイト：エリア再生（スタートアップ0）

5回：イギリス・リバプール&グラスゴー：コミュニティ・アーキテクチャ

グラスゴー：アートとビジネスの融合（出典2つ）

6回：チリ：建築家の社会構造的アプローチ

イタリア：アグリツーリズム

7回：「スタートアップは辺境に生まれる」

スタートアップを集める木造建築最前線

8回：ピレネー南山麓地方：ガストロのみーからの地域創生

9回：小さな民間事業と公の取り組み：リスボン、ポルト、山賊村

10回：ガストロのみーとラーニングツーリズム：ダブリンとグルメ漁港

11回：森林資源の徹底活用：フィンランドの小都市

12回：衰退市街地で光る極小予算のエリア再生：台北、台中、嘉義

13回：2つの序章と日本への示唆

日本の試みとしての新しい方向性：(例として) 関係人口、商店街を地域の持続可能性の核に、空き家は資源

14回：独自調査プレゼン発表会

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の予習は必須でありその準備が必要である。また、輪読担当者は発表準備も必要となる。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation



平常点のみ

平常点割合 :100% クラス内の発表内容:60% 授業への貢献度:40%

最終レポート割合 :0%

**テキスト/Textbooks**

馬場正尊 CREATIVE LOCAL エリアリノベーション海外編 学芸出版社 22017 9784761526665 ○

松永安光 世界の地方創生 学芸出版社 2018 9784761526450 ○

**参考文献 / Readings**

必要に応じて授業中に適宜紹介する

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 観光地域経済論 1 (D)

Regional Economics for Tourism 1(D)

ホテル開発と都市マネジメント

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG691

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

都市部における都市型ホテルのエリア戦略と地域経済との関連を考察することから都市マネジメントにおける観光の在り方を明らかにしていく。

都市部におけるホテルを中心とした宿泊産業のビジネス構造や特性について理解する。

By examining the relationship between the area strategy of urban hotels and the local economy in urban areas, we will clarify the ideal state of tourism in area management.

Understand the business structure and characteristics of the lodging industry centered on hotels in urban areas.

## 授業の内容 / Course Contents

都市型ホテル（主に宿泊主体型カテゴリー）のビジネスモデルを踏まえたうえで、都市部における都市型ホテルのエリア戦略と地域経済との関連を事例研究をもとに考察する。

ゲストスピーカーを招聘する場合がある。

Based on the business model of urban hotels (mainly lodging-oriented categories), we will consider the

relationship between the area strategy of urban hotels and the regional economy in urban areas based on case studies.

Guest speakers may be invited.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと自己紹介（履修者の問題意識の共有）
- 2回：観光の概念について
- 3回：ホテルビジネス、ホテル開発についての概要について(1)
- 4回：ホテルビジネス、ホテル開発についての概要について(2)
- 5回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究1）
- 6回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究1）
- 7回：ホテルの滞在価値について（事例研究2）
- 8回：ホテルの滞在価値について（事例研究2）
- 9回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究3）
- 10回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究3）
- 11回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 12回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 13回：都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究5）
- 14回：地域観光におけるホテルの再定義、サステナビリティ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合 :30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

## 観光地域経済論 2 (D)

Regional Economics for Tourism 2(D)

ホテル開発と都市マネジメント

足立 充 (ADACHI MITSURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG692

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

地方都市を含む都市部におけるホテルのエリア戦略と地域経済との関連を考察することから都市マネジメントにおける観光の在り方を明らかにしていく。

都市部におけるホテルを中心とした宿泊産業のビジネス構造や特性について理解する。

We will clarify the ideal form of tourism in area management by considering the relationship between hotel area strategy and regional economy in urban areas including regional cities.

Understand the business structure and characteristics of the lodging industry centered on hotels in urban areas.

### 授業の内容 / Course Contents

都市型ホテル（主に宿泊主体型カテゴリー）のビジネスモデルを踏まえたうえで、都市部における都市型ホテルのエリア戦略と地域経済との関連を事例研究をもとに考察する。

ゲストスピーカーを招聘する場合がある。

Based on the business model of urban hotels (mainly lodging-oriented categories), we will consider the

relationship between the area strategy of urban hotels and the regional economy in urban areas based on case studies.

Guest speakers may be invited

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、観光と地域経済（観光政策を概観する）
- 2回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究1）
- 3回：事例研究1分析・振り返り
- 4回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究2）
- 5回：事例研究2分析・振り返り
- 6回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究3）
- 7回：事例研究3分析・振り返り
- 8回：「観光地域経済論」の議論（DMOと観光DX）
- 9回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 10回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究4）
- 11回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究5）
- 12回：地方都市型ホテルのエリア戦略と地域経済への波及（事例研究5）
- 13回：地域観光・観光政策（1）
- 14回：地域観光・観光政策（2）

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への貢献度:50% 予習・復習状況:20% 最終レポート割合：:30%

### テキスト / Textbooks

### 参考文献 / Readings

授業時に適時提示する。

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# M&A 1 (D)

Mergers & Acquisitions 1(D)

古川 英一 (FURUKAWA EIICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG701  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプランニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

## 授業の内容 / Course Contents

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかに関活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、M&A の役割：歴史的な変遷
- 2 回：経営戦略における M&A：企業経営と M&A
- 3 回：M&A のプロセス①：M & A 戦略立案から決定まで
- 4 回：M&A のプロセス②：基本合意からクロージングまで
- 5 回：M&A のプロセス③：企業価値と企業評価のフレームワーク
- 6 回：企業評価の基礎演習
- 7 回：ゲストスピーカー
- 8 回：M&A のプロセス④：P M I (Post Merger Integration)
- 9 回：企業評価の応用演習
- 10 回：応用演習解説
- 11 回：グループディスカッション
- 12 回：レポート発表
- 13 回：ゲストスピーカー
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ M&A に関する一般的知識
- ・ ファイナンスの基礎（特にバリュエーションに関する分野）
- ・ M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
- ・ エクセルのスプレッドシートの基本操作スキル

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト:30% 最終レポート割合:30% 最終テスト割合:40%

### テキスト / Textbooks

スライド資料（配布）

### 参考文献 / Readings

ブリーリー、マイヤーズ コーポレートファイナンス 第10版 上・下 日経BP社 2014

マッキンゼー・アンド・カンパニー 企業価値評価 第7版 上下 ダイヤモンド社 2022

デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザー ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集

中央経済社 2021

## その他/ Others

当授業に続き、M&A2 を履修することが望ましい

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。



# M&A 2 (D)

## Mergers & Acquisitions 2(D)

古川 英一 (FURUKAWA EIICHI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG702  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7300  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプランニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

### 授業の内容 / Course Contents

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかん活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：成長戦略における M&A：競争戦略と M&A 戦略
- 3 回：企業評価の応用演習
- 4 回：企業評価の応用演習の解説
- 5 回：企業価値経営：企業価値経営と企業評価
- 6 回：LBO と MBO
- 7 回：ゲストスピーカー：企業再生（ターンアラウンド）
- 8 回：企業再生における M&A：破綻企業の M&A のポイントと事例
- 9 回：敵対的企業買収と企業防衛：企業防衛をめぐる諸問題
- 10 回：敵対的企業買収の事例
- 11 回：レポート発表
- 12 回：クロスボーダーM&A の概要と事例
- 13 回：ゲストスピーカー：M&A と PE（プライベートエクイティファンド）
- 14 回：最終テスト

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ M&A に関する一般的知識
- ・ ファイナンスの基礎（特にバリュエーションに関する分野）
- ・ M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
- ・ エクセルのスプレッドシートの基本操作スキル

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テスト:30% 最終レポート割合：:30%最終テスト割合：:40%

### テキスト / Textbooks

スライド資料（配布）

### 参考文献 / Readings

ブリーリー、マイヤーズ コーポレートファイナンス 第10版 上・下 日経BP社 2014

マッキンゼー・アンド・カンパニー 企業価値評価 第7版 上下 ダイアモンド社 2022

デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザー ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集

中央経済社 2021

## その他/ Others

当授業の前に、M&A1 を履修することが望ましい

### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# マーケティング・リサーチ 1 (D)

Marketing Research 1(D)

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG731  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

## 授業の内容 / Course Contents

マーケティング・リサーチとは、マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし、マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。

本講義では、マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定性調査の理解を目的とし、マーケティング・リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.

In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially qualitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：消費者理解とマーケティングリサーチ

- 2回：マーケティング課題とリサーチ  
 3回：定性調査と定量調査  
 4回：学術調査と実務的調査  
 5回：定性調査（1）：インタビュー調査  
 6回：定性調査（2）：インタビュー調査  
 7回：定性調査（3）：観察法調査  
 8回：定性調査（4）観察法調査  
 9回：実務家による実践報告（A）  
 10回：実務家による実践報告（A）  
 11回：実務家による実践報告（B）  
 12回：実務家による実践報告（B）  
 13回：期末課題報告（A）  
 14回：期末課題報告（B）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜講義内にて、指示します。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

#### テキスト / Textbooks

適宜講義内にて、紹介する

#### 参考文献 / Readings

関連テーマに応じて適宜講義内にて、参考文献等を紹介します。

#### その他 / Others

- （1）全授業回をオンラインでの実施予定。
- （2）大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点について留意すること。
- （3）実務家ゲストスピーカーの招聘を予定する。
- （4）各回の講義内容は前後する場合がある。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# マーケティング・リサーチ 2 (D)

Marketing Research 2(D)

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG732  
授業形態： オンライン（全回オンライン）  
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7400  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する。

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

## 授業の内容 / Course Contents

マーケティング・リサーチとは、マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし、マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。

本講義では、マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定量調査の理解を目的とし、マーケティング・リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.

In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially quantitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：定量調査

- 2回：マーケティング課題とリサーチ課題  
 3回：リサーチプロセス  
 4回：母集団とサンプリング  
 5回：マーケティング分析（1）：回帰分析  
 6回：マーケティング分析（2）：回帰分析  
 7回：マーケティング分析（3）：検定  
 8回：マーケティング分析（4）：検定  
 9回：実務家による実践報告（A）  
 10回：実務家による実践報告（A）  
 11回：実務家による実践報告（B）  
 12回：実務家による実践報告（B）  
 13回：期末課題報告（1）  
 14回：期末課題報告（2）

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜講義内にて、適宜指示する。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題プレゼンテーション:60% 授業内ディスカッションへの貢献度:40%

#### テキスト / Textbooks

適宜講義内にて、適宜紹介する。

#### 参考文献 / Readings

関連テーマに応じて適宜講義内にて、参考文献等を紹介する。

#### その他 / Others

- （1）全授業回をオンラインでの実施予定。
- （2）大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点について留意すること。
- （3）実務家ゲストスピーカーの招聘を予定する。
- （4）各回の講義内容は前後する場合がある。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ビジネスケースメソッド 1 (D)

Business Case Method 1(D)

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG741  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ケース分析によって、企業行動や戦略およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。

本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and organization of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and



students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no "one right answer" to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.

The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ショートケース
- 3回：マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
- 4回：マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
- 5回：企業戦略： ワタベウェディング
- 6回：企業戦略： ワタベウェディング
- 7回：競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
- 8回：競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
- 9回：イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
- 10回：イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
- 11回：成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
- 12回：成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
- 13回：戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社
- 14回：戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発言などのクラスへの貢献:30% ケース課題:30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ビジネスケースメソッド2 (D)

Business Case Method 2(D)

安田 直樹 (YASUDA NAOKI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG742  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

ケース分析によって、戦略や意思決定およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of strategy, decision making and related theories through case analysis.

## 授業の内容 / Course Contents

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。

本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

ビジネスケースメソッド2では、ビジネスケースメソッド1とは異なり個人に焦点を当てたケースも扱う。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and

organization of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no "one right answer" to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.

The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.

Unlike Business Case Method 1, Business Case Method 2 will include cases that focus on the individual.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ネットフリックス
- 3回：ビジネスモデル： 再春館製菓所
- 4回：ビジネスモデル： 再春館製菓所
- 5回：マネジメント： GEの過去20年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
- 6回：マネジメント： GEの過去20年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
- 7回：イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
- 8回：イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
- 9回：リーダーシップ： 日産自動車2002年
- 10回：リーダーシップ： 日産自動車2002年
- 11回：組織文化： グーグルを「グーグルらしく」保つ
- 12回：組織改革： 組織改革の危険性と落とし穴：若きマネージャーの経営再建の旅
- 13回：意思決定： チャレンジャー打ち上げ決定のグループプロセス
- 14回：意思決定： チャレンジャー打ち上げ決定のグループプロセス

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発言などのクラスへの貢献：30% ケース課題：30% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

### 参考文献 / Readings

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# ホテルディベロップメント 1 (D)

Hotel development 1(D)

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG751  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル所有、経営、運営におけるストラクチャーと契約形態について学ぶ。
- \* ホテル開発における投資から開業準備までのプロセスと主要なステークホルダー（オーナー、オペレーター、プロジェクトマネージャーなど）の役割について学ぶ。
- \* 国内系、外資系のホテルオペレーターの開発戦略について考える。
- \* Understand hotel ownership, management, and operation structure, and types of hotel contracts.
- \* Study the hotel development process from hotel investment to hotel pre-opening, and key stakeholders such as hotel owners, developers, project managers, and hotel operators)
- \* Study strategies of both national and international hotel operators.

## 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテル開発の各プロセス（ホテルコンセプト開発、ホテルオペレーター選定、ホテル建築、設計、デザイン、ホテル開業準備など）について講義する。
- \* ホテル開発における各プレーヤー（ホテルデベロッパー、不動産投資ファンド、アセットマネージャー、プロジェクトマネージャー、ホテルオペレーター、インテリアデザイナー、コンサルタントなど）の役割について

て説明する。

\*アセットマネジメント、マーケットスタディー、フィージビリティスタディー、ホテルマネジメントコントラクト、リノベーションなどの重要なテーマについて説明する。

\*予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。

\* Explain about the hotel development process: concept development, hotel operator selection, architecture and design, hotel pre-opening.

\* Explain about the key stakeholders: hotel developers, real estate funds, asset managers, project managers, hotel operators, interior designers, and other consultants.

\* Cover the important topics including asset management, market research, feasibility studies, hotel management contracts, and renovations.

\* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ホテルビジネス、開発とは

2回：ホテルストラクチャーについて

3回：ホテルデベロッパーについて

4回：ホテルデベロッパーについて

5回：ホテルアセットマネジメントについて

6回：ホテルアセットマネジメントについて

7回：ホテルプロジェクトマネジメントについて

8回：ホテルプロジェクトマネジメントについて

9回：ホテルコンセプト開発について

10回：ホテルコンセプト開発について

11回：マーケットスタディー・フィージビリティスタディーについて

12回：マーケットスタディー・フィージビリティスタディーについて

13回：ホテルデザインについて

14回：ホテルデザインについて

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:		:			

### 授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する

- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している

### 成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30%

最終レポート割

合 : :35%

**テキスト/ Textbooks****参考文献 / Readings**

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか  
白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

村上実、池村友浩 ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる クロスメディア・パブリッ  
シング 2019 9784295403852

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016  
9784502181412

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\*ホテルの収益予測や資産価値評価を行うので、ファイナンスの基礎の授業を履修しているかまたは理解して  
いることが望しい。

\*エクセルの基本的な活用ができること。

**その他/ Others**

\*ホテルデベロップメント1と2 (VL798&VL799) は内容について関係するので両方をセットで履修するこ  
とが望ましい。

\*ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、ホテルマネジメント1と2 (VL719&VL721) の授業を履修  
していることが望ましい。もし履修していない場合は、参考文献の「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」を  
授業の開始まで読み理解しておくこと。

\*ホテルビジネスの用語についてわからない場合はこの参照サイトなどで確認しておくこと。

<https://www.amworks.jp/glossar>

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッ  
ションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業  
となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

## ホテルディベロップメント 2 (D)

Hotel development 2(D)

阿部 博秀 (ABE HIROHIDE)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG752  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項） 対面  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7700  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

- \* ホテル所有、経営、運営におけるストラクチャーと契約形態について学ぶ。
- \* ホテル開発における投資から開業準備までのプロセスと主要なステークホルダー（オーナー、オペレーター、プロジェクトマネージャーなど）の役割について学ぶ
- \* 国内系、外資系のホテルオペレーターの開発戦略について学ぶ
- \* Understand hotel ownership, management, and operation structure, and types of hotel contracts.
- \* Study the hotel development process from hotel investment to hotel pre-opening, and key stakeholders such as hotel owners, developers, project managers, and hotel operators)
- \* Study strategies of both national and international hotel operators.

### 授業の内容 / Course Contents

- \* ホテル開発の各プロセス（ホテルコンセプト開発、ホテルオペレーター選定、ホテル建築、設計、デザイン、ホテル開業準備など）について講義する。
- \* ホテル開発における各プレーヤー（ホテルデベロッパー、不動産投資ファンド、アセットマネージャー、プロジェクトマネージャー、ホテルオペレーター、インテリアデザイナー、コンサルタントなど）の役割について

て説明する。

\*アセットマネジメント、マーケットスタディー、フィージビリティスタディー、ホテルマネジメントコントラクト、リノベーションなどの重要なテーマについて説明する。

\*予習課題とレビューセッションを通じて、ビジネス上の課題を分析し、解決策を考え、自分のアイデアを提案する。

\* Explain about the hotel development process: concept development, hotel operator selection, architecture and design, hotel pre-opening.

\* Explain about the key stakeholders: hotel developers, real estate funds, asset managers, project managers, hotel operators, interior designers, and other consultants.

\* Cover the important topics such as asset management, market research, feasibility studies, hotel management contracts, and renovations.

\* Through pre-assignments and review sessions, analyze critical issues, consider solutions, and propose your own ideas.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：国内ホテルオペレーター（1）の開発戦略について

2回：国内ホテルオペレーター（1）の開発戦略について

3回：外資ホテルオペレーターの開発戦略について

4回：外資ホテルオペレーターの開発戦略について

5回：国内ホテルオペレーター（2）の開発戦略について

6回：国内ホテルオペレーター（2）の開発戦略について

7回：ホテルリノベーションについて

8回：ホテルリノベーションについて

9回：ホテル投資について

10回：ホテル投資について

11回：ホテル開業準備について

12回：ホテル開業準備について

13回：ホテル開発についてのケーススタディー

14回：ホテル開発についてのケーススタディー

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:		:			

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 原則毎週、予習課題を提出する
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なうことも予定している

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問・発言など講義への貢献度:35% 予習・復習状況:30% 最終レポート割合 :35%



**テキスト/ Textbooks****参考文献 / Readings**

田尾桂子 グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか  
白桃書房 2016 9784561266860

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えないーホテル経営学の本質と実践 オータパブリケーションズ 2021  
9784903721910

村上実、池村友浩 ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる クロスメディア・パブリッ  
シング 2019 9784295403852

内田 和成 仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想法 東洋経済新報社 2006 9784492555552

仲谷 秀一, テイラー雅子, 中村 光信 ホテル・ビジネス・ブック(第2版) 中央経済社 2016  
9784502181412

**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

\*ホテルの収益予測や資産価値評価を行うので、ファイナンスの基礎の授業を履修しているかまたは理解して  
いることが望しい。

\*エクセルの基本的な活用ができること。

**その他/ Others**

\*ホテルデベロップメント1と2 (VL798&VL799) は内容について関係するので両方をセットで履修するこ  
とが望ましい。

\*ホテルビジネスに携わったことのない生徒は、ホテルマネジメント1と2 (VL719&VL721) の授業を履修  
していることが望ましい。もし履修していない場合は、参考文献の「ホテル・ビジネス・ブック(第2版)」を  
授業の開始まで読み理解しておくこと。

\*ホテルビジネスの用語についてわからない場合はこの参照サイトなどで確認しておくこと。

<https://www.amworks.jp/glossar>

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッ  
ションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業  
となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 不動産ビジネス論 1 (D)

Real Estate Business study 1(D)

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG761  
授業形態： オンライン (全回オンライン)  
授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

一見難解に見える不動産ファンドの仕組みをわかりやすくポイント別に学習する。

「投資家」「不動産」「テナント」「資産運用会社」という4つの主体ごとに「不動産ファンド」の構造にどう関与しているかをみる。

This course provides an easy-to-understand, point-by-point study of the seemingly esoteric structure of real estate funds.

We will look at how each of the four entities - investors, real estate, tenants, and asset management companies - is involved in the structure of a "real estate fund."

## 授業の内容 / Course Contents

不動産ファンドは私たちの日常生活の中に想像以上に組み込まれており、預金や年金、保険料などが不動産ファンドを通じて不動産に投資されています。職場のオフィスビル、生活している賃貸マンション、買い物に行く大型スーパーが不動産ファンドにより投資されていたりするのです。また、不動産ファンドビジネスは世界規模のビジネスです。不動産ビジネスは、不動産分野に限らず、さまざまな分野のビジネスと関わっています。社会に役立つ知識として不動産ファンドビジネスを知ることは大きな意義があります。

不動産ビジネス論は1と2があります。続けて受講することで不動産ビジネスへの理解が深まりますが、1は今回不動産ファンドに特化した内容とします。1だけを履修しても基本的な理解が十分可能です。

Real estate funds are embedded in our daily lives in more ways than we can imagine. Deposits, pensions, insurance premiums, etc. are invested in real estate through real estate funds. The office building where you work, the rental apartment where you live, and the large supermarket where you go shopping are all invested in real estate funds. The real estate fund business is a global business. The real estate business is not limited to the real estate field, but is related to various other fields of business. It is very significant to know about the real estate fund business as useful knowledge for society. Real Estate Business Theory consists of 1 and 2 courses. Although taking both courses in succession will deepen your understanding of real estate funds, a basic understanding of real estate funds can be gained by taking only 1 course.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：自己紹介(バックグラウンド・受講動機・修士論文イメージなど)、授業の進め方、輪読担当決め

2回：不動産ファンドの「仕組み」を理解する

実物不動産投資との違い、5つの仕組み、二重課税の回避、倒産隔離・

3回：不動産ファンドの各種スキームを詳しく理解しよう

J-REIT, 私募ファンドの種類、不特法ファンド・

4回：不動産ファンドの関係者を知る

投資家、AM、レンダー、売主買主、信託受託者、各種専門家・

5回：不動産ファンドの法律

金商法、資産流動化法、投信法、不特法・

6回：不動産ファンドの規模

投資規模と出資規模

7回：不動産ファンドの対象不動産別の特徴

オフィスビル、住宅、商業施設、物流施設、ホテル、ヘルスケア施設・

8回：私募ファンドの組成・運用プロセス

9回：マーケティング(顧客ニーズの把握)

10回：ソーシングの各プロセスにおける確認事項

Valuation(価格算定式、収入、支出、将来キャッシュフロー・)

11回：デューデリジェンス

12回：ストラクチャリング

二重課税の回避、倒産隔離、オフバランス、ローンの検討プロセス、LTV、調達金利、ウォーターフォール・

13回：ドキュメンテーション

14回：クロージング(完成・販売)

匿名組合出資の手続き、匿名組合出資のリスク、貸付実行前提条件、各種精算手続き、登記手続き・

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

**授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class**

毎回の予習が必要です。その週が輪読担当であれば、そのプレゼン準備も必要です。

**成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表:60% 授業中の発言、貢献:40%

**テキスト / Textbooks**

脇本和也 最新不動産ファンドがよくわかる本（第3版） 秀和システム 2021 9784798059181 ○

脇本和也 不動産ファンドの教科書 秀和システム 2014 9784798041711 ○

**参考文献 / Readings**

授業中に適宜紹介する

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 不動産ビジネス論 2 (D)

Real Estate Business study 2(D)

福井 康子 (FUKUI YASUKO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG762  
授業形態： オンライン (全回オンライン)  
授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 の利用可。  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

不動産ビジネスの本質に迫るには、不動産とは何かを現実に即した視点から多面的に理解することがまず重要です。授業では、ファイナンスという切り口から不動産の資産価値にアプローチし、不動産を利用したファイナンスに関するさまざまな特徴や、担保価値を把握する手法などについて学習します。

In order to approach the essence of the real estate business, it is first important to understand what real estate is from a multifaceted, reality-based perspective. In the class, students will approach the asset value of real estate from the angle of finance, and learn about various characteristics related to finance using real estate and methods for understanding collateral values.

## 授業の内容 / Course Contents

不動産と金融は切っても切れない関係にあります。個人の住宅ローンも、企業の融資においても、担保には不動産が用いられるのが一般的です。経済活動や社会生活において、不動産はその物理的な機能だけでなく、資金の流れにおいても重要な役割を果たしています。不動産の本質を理解するには、ファイナンスという切り口からみるのが意外な早道で、大変わかりやすいと思います。

特に近年プレゼンスを大きく上げてきた不動産ファンドの理解にもこの講義は有効です

なぜなら、机上の空論のような抽象的な理解ではなく、現実に即した理解が得られるからです。なお、不動産ビジネス論の1と2は独立しており、2だけの受講も可能です。

Real estate and finance are inextricably linked. Real estate is commonly used as collateral for both personal mortgages and corporate loans. In economic activity and social life, real estate plays an important role not only in its physical function but also in the flow of funds.

To understand the nature of this real estate, it is very easy to look at it from the angle of finance. This is because it provides a realistic understanding, rather than an abstract, theoretical understanding.

This lecture is especially useful for understanding real estate funds, which have greatly increased their presence in recent years. Note that Real Estate Business Theory 1 and 2 are independent, and it is possible to take only one of them.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：授業概要の説明、輪読担当決め、自己紹介（バックグラウンド、受講動機、修論イメージなど）

以下のテキスト A は下のテキスト欄 1 金融マンのための不動産ファイナンス講座、

テキスト B は 2 不動産証券化と J-REIT がわかる本

2回：1 不動産の性質を理解しよう（テキスト A）

3回：(テキスト A)

2.1～2.2 リスク・リターン

2.3～2.4 キャップレート・割引率、不動産ファイナンスの種類

4回：(テキスト A)

2.5～2.6 キャッシュフロー、投資不動産の維持管理

2.7～2.8 オフバランス取引、流動化・証券化

5回：(テキスト A)

3.1～3.2 資金使途、レバレッジ

3.3～3.4 ローン返済条件が与える影響、担保・保証

6回：(テキスト A)

3.5～3.6 ノンリコースローン、シンジケートローン

7回：この週よりテキスト変更

不動産証券化全般の理解（テキスト B の 1 章）

8回：不動産証券化の仕組みとうまみ（テキスト B の 2 章）

9回：不動産投資の判断指標を理解する（テキスト B の 9 章）

NOI と NCF、DCF 法、キャップレート、IRR、LTV、DSCR、イールドギャップ

10回：不動産証券化のケーススタディ（テキスト B の 10 章）

11回：(テキスト A) に戻ります

4.1 不動産のエクイティの種類

4.2～4.3 SPC の基本、信託の基本

12回：(テキスト A)

4.4～4.5 匿名組合出資の基本、特定目的会社の基本

4.6～4.7 REIT（不動産投資信託）の基本、不動産特定共同事業法

13回：(テキスト A)

5 不動産の担保価値

14回：(テキストA)

事例演習

**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

**授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class**

教科書を輪読します。よって、毎週予習が必要です。また、輪読の担当の週はそのプレゼン準備も必要となります。

**成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation**

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表:60% 授業中の発言、貢献:40%

**テキスト / Textbooks**

山下章太 金融マンのための不動産ファイナンス講座 中央経済者 2021 97845024058155 ○

三菱 UFJ 信託銀行 図解不動産証券化と J-REIT がわかる本 東洋経済新報社 2013 9784492093115 ○

**参考文献 / Readings**

授業中に適宜紹介する

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# アジア経済論 1 (D)

Lecture of Asian Economy1(D)

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG771

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

アジア各国の経済構造の分析を通し、アジア地域が抱えている諸問題の解明とその解決方法について考察する。

Through the analysis of the economic structure of Asian countries, we will consider the elucidation of various problems in the Asian region and their solutions.

## 授業の内容 / Course Contents

テキストの輪読を通して、アジア地域が抱えている諸問題－所得格差、環境破壊、ジェンダー問題、地域紛争等－の発生の背景、課題などを考える。

授業の進め方は、履修者による報告と議論を通して上記問題を履修者自らの頭で考える力を養う。

Through reading the textbook, we will consider the background and issues of various problems (income disparity, environmental destruction, gender problems, regional conflicts, etc.) that the Asian region has.

As for how to proceed with the lessons, students will develop the ability to think about the above problems by themselves through reports and discussions by the students.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule



- 1回：ガイダンス
- 2回：経済開発の今日的課題
- 3回：萌芽期の経済開発 1
- 4回：萌芽期の経済開発 2
- 5回：物的成長から人間の成長へと転化した開発経済学
- 6回：もう一つの潮流としての開発経済学 1
- 7回：もう一つの潮流としての開発経済学 2
- 8回：OECD レポートと NIC s
- 9回：量から質へと転換する経済開発目標
- 10回：持続可能な経済開発
- 11回：開発経済学の再生に向けて 1
- 12回：開発経済学の再生に向けて 2
- 13回：21 世紀の開発経済学
- 14回：まとめ

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んでくること。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中での発表:50% 授業での発言:30% 授業への貢献:20%

#### テキスト / Textbooks

郭洋春 経済開発の過去・現在・未来：開発経済学の果たした役割 文真堂 2023 ○

#### 参考文献 / Readings

郭洋春編著 『開発リスクの政治経済学』 文真堂 2013 483094806

郭洋春著 『国家戦略特区の正体』 集英社 2016

郭洋春 100 均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方 プレジデント社 2022 9784833424653

#### 注意事項

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# アジア経済論 2 (D)

Lecture of Asian Economy 2(D)

郭 洋春 (KWAK YANGCHOON)

開講年度：	2024
科目設置学部：	ビジネスデザイン研究科
科目コード等：	WG772
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	BDS7100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

## 授業の目標 / Course Objectives

アジアで起きている諸問題を学ぶことで、21世紀のアジア、日本とアジアとの関係などを理解する。アジアのダイナミズムの理解を通して、日本経済の抱えている課題を振り返る。最終的には世界経済の中で、アジア経済の占める位置・意義について理解する。

By studying various problems occurring in Asia, we will understand Asia in the 21st century and the relationship between Japan and Asia. Through understanding the dynamism of Asia, we will look back on the challenges facing the Japanese economy. Finally, understand the position and significance of the Asian economy in the world economy.

## 授業の内容 / Course Contents

アジアで起きている諸問題を解説しながら、その発生要因、解決方法等を理解する。また、アジアの一員である日本が、今後アジア諸国とどのように付き合っていくのかを解説することで、アジアの中の日本の果たすべき役割について考える契機とする。授業の後半にはバズセッション（グループディスカッション）を行い、受講生自らが上記問題について考える力を養えるようにする。

While explaining various problems that are currently occurring in Asia, understand the causes and solutions. In

addition, by explaining how Japan, which is a member of Asia, will deal with Asian countries in the future, it will be an opportunity to think about the role that Japan should play in Asia. Buzz sessions (group discussions) will be held in the latter half of the class so that students can develop their own ability to think about the above problems.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：世界が注目するアジア
- 2 回：なぜアジアは経済成長したのか 1
- 3 回：なぜアジアは経済成長したのか 2
- 4 回：巨大サプライチェーンの拠点・アジア
- 5 回：本物を凌駕する？アジアのコピー商品
- 6 回：成長戦略と化したアジアのエンタメ 1
- 7 回：成長戦略と化したアジアのエンタメ 2
- 8 回：インバウンドこそ日本が生き残る道 1
- 9 回：インバウンドこそ日本が生き残る道 2
- 10 回：増える人口・減る食糧
- 11 回：アジアに広がる領土問題
- 12 回：増える人口・減る食糧
- 13 回：アジアにおける環境問題
- 14 回：まとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは事前に読んできて、持参すること。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での報告:50% 授業中の発言:30% 授業への貢献:20%

### テキスト / Textbooks

第1回授業で提示

### 参考文献 / Readings

郭洋春 『TPP すぐそこに迫る亡国の罟』 三交社 2013 4879197122

郭洋春 『100均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』 プレジデント社 2022  
9784833424653

郭洋春 『国家戦略特区の正体』 集英新書 2016

### 注意事項

本科目では、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 企業論 1 (D)

Modern Corporation 1(D)

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG781  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

経済活動の重要な主体である企業とは何か、役割、組織、意思決定の仕組み、社会との関係など企業経営のあり方について理解を深めることを目指します。

This class aims to deepen students' understanding of what a corporation is as an important entity in economic activities, its role, organization, decision-making structure, and relationship with society, as well as the nature of corporate management.

## 授業の内容 / Course Contents

現代社会において重要な存在と位置づけられる企業とは何か、役割、組織、意思決定の仕組み、社会との関係、コーポレートガバナンスなどを理解するとともに、外部環境の変化と企業の役割の変容にともなう様々な経営課題を通してサステナブルな企業経営のあり方を考察します。合わせて、ケーススタディや授業内でのディスカッションを通じて創造的な思考力・判断力を養います。

Students will understand what a corporation is, its role, organization, decision-making structure, relationship with society, corporate governance, etc., which are important in today's society, and will examine sustainable corporate management through various management issues that arise from changes in the external environment

and the changing role of the corporation. The course also includes case studies and in-class lectures. Students will also develop creative thinking and decision-making skills through case studies and in-class discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：企業とは、会社（株式会社）とは何か
- 3回：企業経営とは何か
- 4回：企業経営と製品・サービス
- 5回：株式会社制度の理論と現実
- 6回：企業の登場と新しい企業観
- 7回：企業の組織と管理
- 8回：日本的経営の原理・構造と今日的課題
- 9回：ゲストスピーカーによる特別講義
- 10回：ゲストスピーカーによる特別講義（ディスカッション）
- 11回：DX（デジタルトランスフォーメーション）と企業経営
- 12回：経営戦略とマネジメント
- 13回：情報開示と企業価値向上
- 14回：総合的議論とまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（メディアの種類を問わず）新聞、TV、ネット・SNSなど企業関連情報に対して、普段から情報感度を高めて授業に臨んでください。基本的には、復習に重点をおいた学習を心がけてください。また、企業活動のトピックスやビジネスモデルをテーマにディスカッションする場合は事前学習（予習）が必要となります（授業内で指示します）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への貢献（ディスカッション等）：40% ゲストスピーカー特別講義レポート：20% 最終レポート：40%

### テキスト / Textbooks

授業はスライドテキストを中心にを行います。

### 参考文献 / Readings

- 三戸浩、池内秀己、勝部伸夫 『企業論（第4版）』 有斐閣アルマ 2019 9784641221192  
 井原久光 『テキスト経営学[第3版]－基礎から最新の理論まで－』 ミネルヴァ書房 2021 9784623051298  
 入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019 9784478109571  
 谷本寛治 『企業と社会 サステナビリティ時代の経営学』 中央経済社 2023 9784502331015  
 片山郁夫 『わが国損害保険産業の発展史－大衆保険にみる競争・協調のダイナミズムとサステナビリティ』

ー』 デザインエッグ 2022 9784815032951

上記参考書籍はいずれも立教大学図書館の蔵書です。

そのほか、講義内で随時紹介します。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に参加する際は PC 持参が必須です。

### **その他/ Others**

「企業論 1」「企業論 2」を併せて履修することが望ましい。

「企業論 1」だけの履修も可。ゲストスピーカーの日程は暫定。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

## 企業論 2 (D)

Modern Corporation 2(D)

片山 郁夫 (KATAYAMA IKUO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG782  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

経済活動の重要な主体である企業の役割、社会との関係などを理解したうえで、経営環境の変化にともなう経営諸課題に対する企業活動について理解を深めることを目指します。

This course aims to deepen students' understanding of the role of companies as important economic actors and their relationship with society, as well as to deepen their understanding of corporate activities in response to various management issues arising from changes in the business environment.

### 授業の内容 / Course Contents

ゴーイングコンサーン（業績を上げ利益を出し続ける存在）を目指すための企業経営、外部環境変化への適応はいかなるものかを考察します。現代社会の中で企業の果たすべき役割は大きく変化しており、サステナブルな企業経営のあり方が問われています。企業論 2 では企業経営のサステナビリティに着目して学習します。合わせて、ケーススタディや授業内でのディスカッションを通じて創造的な思考力・判断力を養います。

We will examine what kind of corporate management and adaptation to changes in the external environment are necessary to become a going concern (an entity that continues to perform well and generate profits). The role of companies in today's society is changing dramatically, and sustainable corporate management is being

questioned. In Corporate Theory 2, students will focus on the sustainability of corporate management. In addition, students will develop creative thinking and decision-making skills through case studies and in-class discussions.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション／経営理念（PMVV）と経営戦略（1）
- 2回：経営理念（PMVV）と経営戦略（2）
- 3回：グローバル経済の潮流と変化
- 4回：企業社会のリコンストラクション
- 5回：企業経営の最新動向（ガバナンス：Governance）
- 6回：企業経営の最新動向（ガバナンス：Governance）
- 7回：ゲストスピーカーによる特別講義
- 8回：ゲストスピーカーによる特別講義（ディスカッション）
- 9回：企業経営の最新動向（環境：Environment）
- 10回：企業経営の最新動向（環境：Environment）
- 11回：企業経営の最新動向（社会：Social）
- 12回：企業経営の最新動向（社会：Social）
- 13回：価値共創とイノベーション
- 14回：総合的議論とまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（メディアの種類を問わず）新聞、TV、ネット・SNSなど企業関連情報に対して、普段から情報感度を高めて授業に臨んでください。基本的には、復習に重点をおいた学習を心がけてください。また、企業活動のトピックスやビジネスモデルをテーマにディスカッションする場合は事前学習（予習）が必要となります（授業内で指示します）。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への貢献（ディスカッション等）：40% ゲストスピーカー特別講義レポート：20% 最終レポート：40%

### テキスト / Textbooks

授業はハンドアウトテキストとスライドを中心に行います。

### 参考文献 / Readings

- 三戸浩、池内秀己、勝部伸夫 『企業論（第4版）』 有斐閣アルマ 2019 9784641221192  
 井原久光 『テキスト経営学[第3版]－基礎から最新の理論まで－』 ミネルヴァ書房 2021  
 9784623051298  
 入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019 9784478109571  
 谷本寛治 『企業と社会 サステナビリティ時代の経営学』 中央経済社 2023 9784502331015



片山郁夫 『わが国損害保険産業の発展史－大衆保険にみる競争・協調のダイナミズムとサステナビリティ－』 デザインエッグ 2022 9784815032951

上記参考書籍はいずれも立教大学図書館の蔵書です。

そのほか、講義内で随時紹介します。

### **学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業に参加する際は PC 持参が必須です。

### **その他/ Others**

「企業論 1」「企業論 2」を併せて履修することが望ましい。

「企業論 2」だけの履修も可。ゲストスピーカーの日程は暫定。

### **注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# データサイエンス 1 (D)

Data Science 1(D)

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG791  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスを研究やビジネスに活用する方法と事例について学ぶ。また定量的なエビデンスをもとにした意思決定を行うための考え方を習得する。

Learn about applications and examples of data science in research and business. Acquire skills to analyze and make decisions based on quantitative evidence.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの手法と活用事例について学ぶとともに、データ分析ツールを用いた実践を行う。データ分析の考え方からデータの収集・前処理・可視化・分析の方法とその実践までを広く扱うことで、研究および修了後の実務に活かせるデータ分析スキルの習得を目指す。本講義では特に構造化データの分析に焦点を当て、分析ツールとして主に Excel と R を使用することを想定している。ただし統計学やプログラミングに馴染みがない場合でも理解しやすいよう、極力数式や複雑なプログラミングを用いず、研究や実務における事例やシンプルな R での処理をもとにデータ分析の要点を解説する。

In this class, students will learn about data science methods and applications, as well as practice using data analysis tools. The objective is to acquire data analysis skills that can be used in research and business by covering

a wide range of topics from the concept of data analysis to methods and practices of data collection, pre-processing, visualisation and analysis. This class focuses particularly on the analysis of structured data and assumes the use of Excel and R as the main analysis tools. However, in order to be accessible to those who are not familiar with statistics or programming, the lecture will explain the essentials of data analysis using examples from research and practice and simple processing in R, avoiding as much as possible the use of formulae or complicated programming.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Excelによるデータサイエンス入門
- 3回：データサイエンスの活用事例
- 4回：Rによるデータサイエンス
- 5回：データの収集
- 6回：データの前処理と利用
- 7回：回帰分析 1
- 8回：回帰分析 2
- 9回：機械学習 1
- 10回：機械学習 2
- 11回：因果推論
- 12回：クラスタリング
- 13回：最終プレゼンテーション
- 14回：フィードバックと講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で解説した内容をもとに分析の設計およびデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、最終プレゼンテーションにて発表する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:40% 授業への貢献:20% 最終レポート割合：40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データ分析等に必要となるためPCを準備すること。なお分析には主にExcel、Rを用いることを想定している。

### その他 / Others

非構造化データを主に扱うデータサイエンス2もあわせて履修することを推奨する。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# データサイエンス 2 (D)

Data Science 2(D)

内田 彬浩 (UCHIDA YOSHIHIRO)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG792  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7800  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスを研究やビジネスに活用する方法と実例について学ぶ。また定量的なエビデンスをもとにした意思決定を行うための考え方を習得する。

Learn about applications and examples of data science in research and business. Acquire skills to analyze and make decisions based on quantitative evidence.

## 授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの手法と活用事例について学ぶとともに、データ分析ツールを用いた実践を行い、研究および修了後の実務に活かせるデータ分析スキルの習得を目指す。本講義では特に非構造化データとしてのテキストデータの分析に焦点を当て、分析ツールとして主に KH コーダー、R、Python を使用することを想定している。ただし統計学やプログラミングに馴染みがない場合でも理解しやすいよう、極力数式や複雑なプログラミングを用いず、研究や実務における事例や KH コーダー、R、Python でのシンプルな処理をもとにデータ分析の要点を解説する。あわせて、自然言語処理の新潮流として ChatGPT などのいわゆる Generative AI についても触れる。

In this class, students will learn about data science methods and applications, as well as practice using data

analysis tools. The objective is to acquire data analysis skills that can be used in research and business. This class focuses particularly on the analysis of textual data as unstructured data and assumes the use of KH Coder, R and Python as the main analysis tools. However, in order to be accessible to those who are not familiar with statistics or programming, the lecture will explain the essentials of data analysis using examples from research and practice and simple processing in KH Coder, R and Python, avoiding as much as possible the use of formulae or complicated programming. This class will also discuss generative AI, such as ChatGPT, as a new trend in natural language processing.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：非構造化データ分析入門
- 3 回：KH コーダーによるテキストデータ分析
- 4 回：KH コーダー実践 1
- 5 回：KH コーダーの研究への応用事例
- 6 回：KH コーダー実践 2
- 7 回：RMeCab によるテキストデータ分析
- 8 回：RMeCab 実践
- 9 回：事前学習モデル：BERT によるテキストデータ分析
- 10 回：BERT の活用事例
- 11 回：事前学習モデル：GPT-3.5、GPT-4 (ChatGPT)
- 12 回：ChatGPT の活用事例
- 13 回：最終プレゼンテーション
- 14 回：フィードバックと講義のまとめ

### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で解説した内容をもとに分析の設計およびデータの収集・前処理・可視化・分析を行い、最終プレゼンテーションにて発表する。

### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終プレゼンテーション:40% 授業への貢献:20% 最終レポート割合：:40%

### テキスト / Textbooks

特に指定しない。

### 参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

### 学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データ分析等に必要となるため PC を準備すること。なお分析には主に KH コーダー、R、Python を用いることを想定している。

**その他/ Others**

構造化データを主に扱うデータサイエンス1もあわせて履修することを推奨する。

**注意事項**

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# スモールビジネス 1 (D)

Small Business 1(D)

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG801  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 春学期 2  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

イノベーションを起こすのはスタートアップ企業だけではなく、衰退産業といわれる 既存企業や家業にもイノベーションを起こす大きな機会がある。この授業はビジネス・デザインの新たな切り口と思考法を提供する。どんな組織であってもイノベーションを起こすためのベストプラクティスやフレームワークを修得する。

Innovation isn't just for startups. Established organizations and family business in declining industries have even greater opportunities to innovate. This course offers fresh insights and different thinking of business design.

Students will learn best practices and innovative frameworks to revitalize business.

## 授業の内容 / Course Contents

農業・旅館・豆腐製造といった衰退産業から実践的な事例研究をする。人材や資金が限られている衰退産業であっても、イノベーターはビジネスを成長させ事業変革をする道を見つけることを学ぶ。実際のイノベーション事例を理解するために、ゲストスピーカーを招聘する。

We review hands-on cases from the declining industries such as agriculture, ryokan or tofu manufacture.

Although human and financial resources are limited in the declining industries, excellent innovators will find the way to transform the business. We will invite some guest speakers to understand real-world innovation



challenges.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イノベーションの定義  
キーコンセプトの解説
- 2 回：事業承継の可能性
- 3 回：事業承継 デザイン経営 1
- 4 回：事業承継 デザイン経営 2
- 5 回：事業承継 農業の事業変革 1
- 6 回：事業承継 農業の事業変革 2
- 7 回：事業承継 豆腐製造業の経営危機と再生
- 8 回：事業承継 豆腐製造の店舗展開と地域貢献
- 9 回：事業承継 家具卸業の経営危機と事業変革
- 10 回：事業承継 家具卸業の海外製造・販売の展開
- 11 回：第三者事業承継 旅館の事業承継とインバウンド対応
- 12 回：第三者事業承継 旅館の事業展開・地域貢献
- 13 回：第三者事業承継 伝統産業の事業承継
- 14 回：第三者事業承継 伝統産業の海外販売

## 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

## 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指定した事例の研究（ネット検索等）が必要です。

## 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 授業後のリアクションペーパーの提出:50%

## テキスト / Textbooks

藻谷ゆかり 『衰退産業でも稼げます』 新潮社 2019 9784103526414 ○

## 参考文献 / Readings

## その他 / Others

毎回リアクションペーパーを提出するため、単位の取得には毎回の出席が必須です。

## 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

## スモールビジネス2 (D)

Small Business 2(D)

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024  
科目設置学部： ビジネスデザイン研究科  
科目コード等： WG802  
授業形態： 対面（全回対面）  
授業形態（補足事項）  
校地： 池袋  
学期： 秋学期1  
単位： 2  
科目ナンバリング： BDS7000  
使用言語： 日本語  
授業形式： 講義  
履修登録方法： 科目コード登録  
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。  
先修規定：  
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。  
履修中止可否：  
オンライン授業 60 単位制限対象科目：  
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。  
備考：

### 授業の目標 / Course Objectives

この授業では、地方の中小企業が大企業、または上場企業に成長する戦略について学ぶ。学生は組織が成長するプロセスを修得する。

This course offers a comprehensive view of growth strategies from a small local business to a large or listed company. Students will learn an entire process of growing organization.

### 授業の内容 / Course Contents

この事業では、合理的に考えられた戦略と実際の経営との間にある様々な困難を乗り越えるための洞察力や分析手段を学ぶ。そして企業が成長する段階で、どのように人材を活かしていくかを学ぶ。実際のイノベーション事例を理解するために、ゲストスピーカーを招聘する。

Students will learn the insights and tools to bridge the gap between rationally developed strategies and real-life implementation. Also, students will be offered insights on how to manage people during the growing process. We will invite some guest speakers to understand real-world innovation challenges.

### 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：飽和産業での新規起業と成長戦略 1

- 2回：飽和産業での新規起業と成長戦略2  
 3回：社会的起業で上場を目指す1  
 4回：社会的起業で上場を目指す2  
 5回：ジャム製造から総合食品会社として上場へ1  
 6回：ジャム製造から総合食品会社として上場へ2  
 7回：産業廃棄物処理会社の事業変革1（校外での視察を予定）  
 8回：産業廃棄物処理会社の事業変革2（校外での視察を予定）  
 9回：印刷業のプラットフォーム起業1  
 10回：印刷業のプラットフォーム起業2  
 11回：印刷業のMBOとEXIT戦略1  
 12回：印刷業のMBOとEXIT戦略2  
 13回：地方製造業の多角化戦略1  
 14回：地方製造業の多角化戦略2

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定教科書以外に、事前にネット検索などで事例研究する必要があります。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 授業後のリアクションペーパーの提出:50%

#### テキスト / Textbooks

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

毎回リアクションペーパーの提出があるため、毎回の出席が必須です。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。

# 地域イノベーションデザイン (D)

Local Innovation Design (D)

地域イノベーションデザイン/ Regional Innovation Design

藻谷 ゆかり (MOTANI YUKARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： ビジネスデザイン研究科

科目コード等： WG811

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： BDS7700

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

## 授業の目標 / Course Objectives

日本各地で起こった革新的な地域再生事例を学び、視野を広げることを授業の目標とする。地域固有の問題をつきとめ、革新的な解決方法を見出すことで日本経済の再生策を探る。

This course will expand one's horizons by reviewing various kinds of regional renovation cases in Japan. Students will be able to identify region-specific problems and find innovative solutions to revitalize Japanese economy.

## 授業の内容 / Course Contents

この授業では、日本の田舎から都心まで日本各地で起きている革新的な地域再生事例について学ぶ。授業の前に、指定された本や映画を観てくることで、活発なクラス・ディスカッションを行う。実際のイノベーション事例を理解するために、ゲストスピーカーを招聘する。

This course explores outstanding regional renovation cases from deeply rural areas to the center of Tokyo. Students will be asked to read some books and to view films in advance, and participate in class discussion. We will invite some guest speakers to understand real-world innovation challenges.

## 授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：地方経済の発展と衰退  
江戸時代（北前船）・明治維新（生糸）・戦後の復興（造船）・バブル経済崩壊後
- 2 回：東御市のワイン産業  
ナパバレーとの比較
- 3 回：アートによる地域デザイン 新潟県十日町市
- 4 回：テーマによる地域デザイン 北海道東川町 山梨県小菅村
- 5 回：東京の地域活性化・地域資源活用事例 1
- 6 回：東京の地域活性化・地域資源活用事例 2
- 7 回：地域資源の活用事例 福島県スパリゾート・ハワイアンズ
- 8 回：スポーツによる地域活性化事例
- 9 回：地域資源の活用事例 1 空き家の再生
- 10 回：地域資源の活用事例 2
- 11 回：地域資源の活用事例 3
- 12 回：IT 企業の地域活性化事例
- 13 回：「今治タオル 軌跡の復活」
- 14 回：JAPAN ブランドの可能性

#### 活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

#### 授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指定した本を読み、映画を視聴してポイントをまとめる。

#### 成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 課題提出:50%

#### テキスト / Textbooks

藻谷ゆかり 『山奥ビジネス 一流の田舎を創造する』 新潮新書 2022 9784106109713 ○

佐藤可土和 『今治タオル 奇跡の復活』 朝日新聞出版 2014 9784023313392 -

『今治タオル 奇跡の復活』は版元品切れのため、電子書籍で用意すること。

#### 参考文献 / Readings

#### その他 / Others

クラス・ディスカッションへの参加が重要なため、毎回の出席が必須です。

#### 注意事項

本科目は、5年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが、後期課程の受講者においては、全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求します。